

## 第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

令和2年2月13日  
市長公室

少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことをねらいとして制定された「まち・ひと・しごと創生法」（平成26年法律第136号）に基づき、平成27年度に取りまとめた「盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の取組期間が、令和元年度をもって終了することから、現行総合戦略の成果と課題の検証を踏まえ、第2期総合戦略を策定しようとするものである。

### 記

#### 1 盛岡市人口ビジョン（令和2年3月改訂版）（案）

盛岡市における人口の現状と将来を展望するために策定した「盛岡市人口ビジョン」（平成27年10月策定）について、最新の数値や状況の変化を踏まえた上で必要な見直しを行うもの。

#### 2 第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）

人口ビジョンや現行盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の成果と課題の検証を踏まえ、今後5か年の人口対策に係る戦略や具体的な取組を取りまとめるもの。

#### 3 策定の経過及び今後の予定

令和元年9月 盛岡市人口対策本部会議

10月 盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

12月 盛岡市人口対策本部会議

盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

令和2年1月 盛岡市人口対策本部会議

2月 盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

市議会全員協議会

（以下予定）

パブリックコメント

3月 市長決裁

#### 資料一覧

資料1 盛岡市人口ビジョン（令和2年3月改訂版）概要版（案）

資料2 第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略概要版（案）

資料3-1～3-4 盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の成果と課題、取組の方向性ほか

資料4 盛岡市人口ビジョン（令和2年3月改訂版）（案）

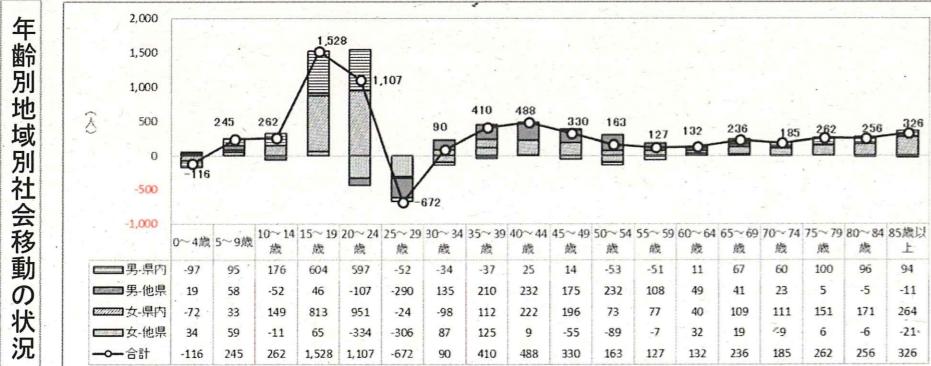
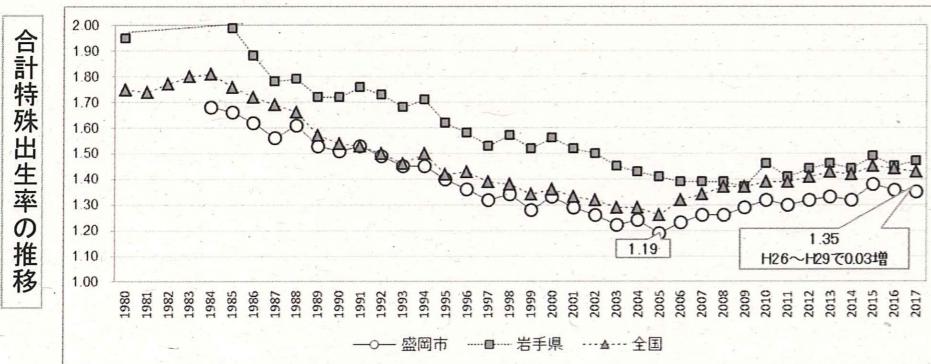
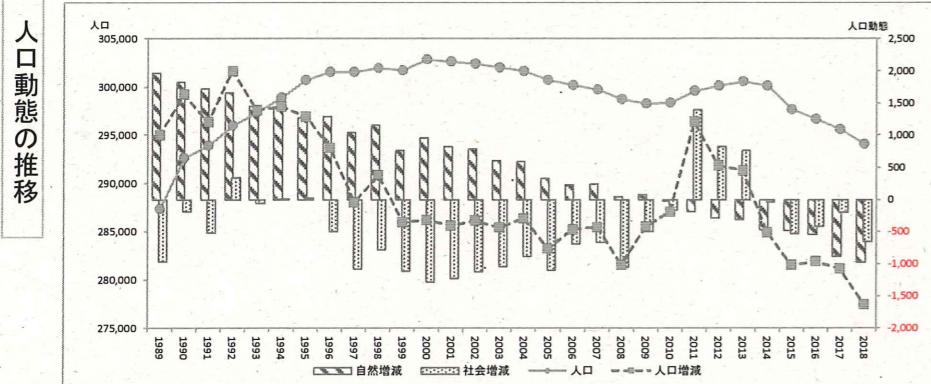
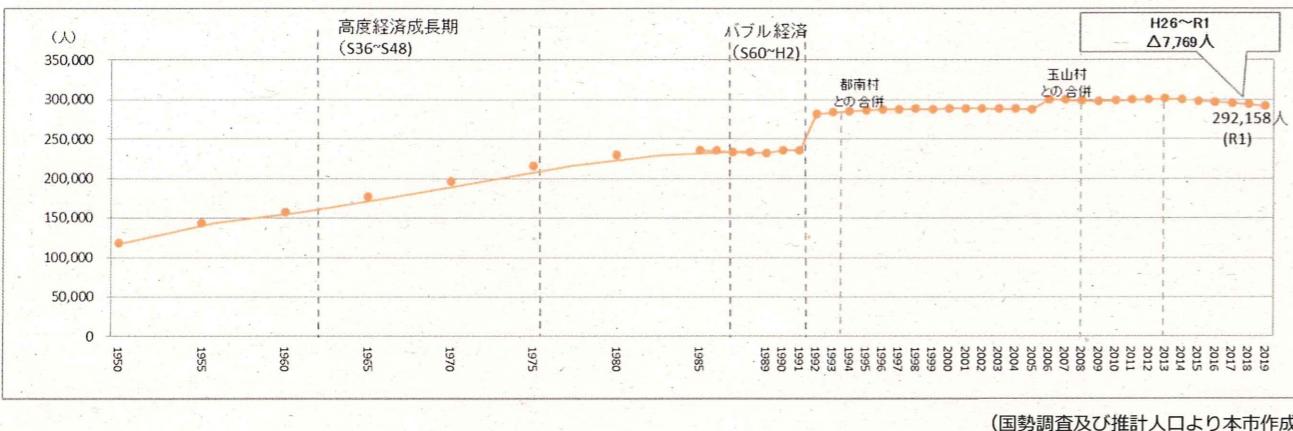
資料5 第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）

# 盛岡市人口ビジョン概要版（令和2年3月改訂版）（案）

資料1

## 盛岡市の人口の現状

本市の人口は、バブル経済期の昭和61(1986)年から平成元(1989)年に一時的に減少に転じたものの、長期的には、都南村や玉山村との合併を経て増加を続けてきました。平成18(2006)年から減少に転じ、東日本大震災が発生した平成23(2011)年以降は一時的に増加しましたが、長期的には減少傾向が続いています。平成26(2014)年から令和元(2019)年にかけて7,769人減少しました。



人口動態の推移

合計特殊出生率の推移

年齢別地域別社会移動の状況

## 人口動態の特徴

### 人口動態の特徴

- 自然動態では出生数の減少が続いている。その大きな要因は出生数の母体となる女性など若者の減少にあり、社会動態においても、若者の東京圏等への転出が続いている。

### 自然動態の特徴

- 死亡者数の増加と出生者数の減少があいまって自然減が生じており、出生数減少の要因としては、若年の女性人口の減少、未婚化、晩婚化などが挙げられる。

### 社会動態の特徴

- 15歳から19歳までの世代で県内の他地域を中心に転入があるものの、進学・就職する世代で東京圏等に転出している。
- 東京圏等への転出の要因としては、若者が望む職種や賃金等の格差が挙げられる。

移動地域別社会移動	男女計	男	女
盛岡広域圏内	△212	△200	△12
県内（広域除く）	5,105	1,815	3,290
青森県・秋田県	2,128	1,017	1,111
宮城県	△255	93	△348
1都3県	△1,246	△199	△1,047
その他の都道府県	△160	△43	△117

平成27年国勢調査より作成  
注) 移動状況不詳を除いている

## 人口対策の基本的視点

- 結婚・出産・子育て等に係る市民の願いに応え、出生数の維持・増加を図る必要があります。

今後、出生数の減少が見込まれますが、現状では、結婚・出産・子育て等への市民の願いが十分にかなえられていない状況にあります。

- 盛岡広域圏等への就職の願いに応え、若年・成年（20～39歳）の首都圏等への転出者の減少を図る必要があります。

本市の人口の社会減は、高校・大学等卒業後の就職・結婚期に顕著ですが、現状では、若年・成年層の市民の、地元定着やUターンの願いが十分にかなえられていない状況にあります。

- 本市に「住みたい」「住み続けたい」と思う者の願いに応え、移住・定住者の増加を図る必要があります。

現在、東京圏に在住していて、本市へのUターンの意向がある者が一定数いますが、諸条件が整わずにその願いが実現できていない状況にあります。

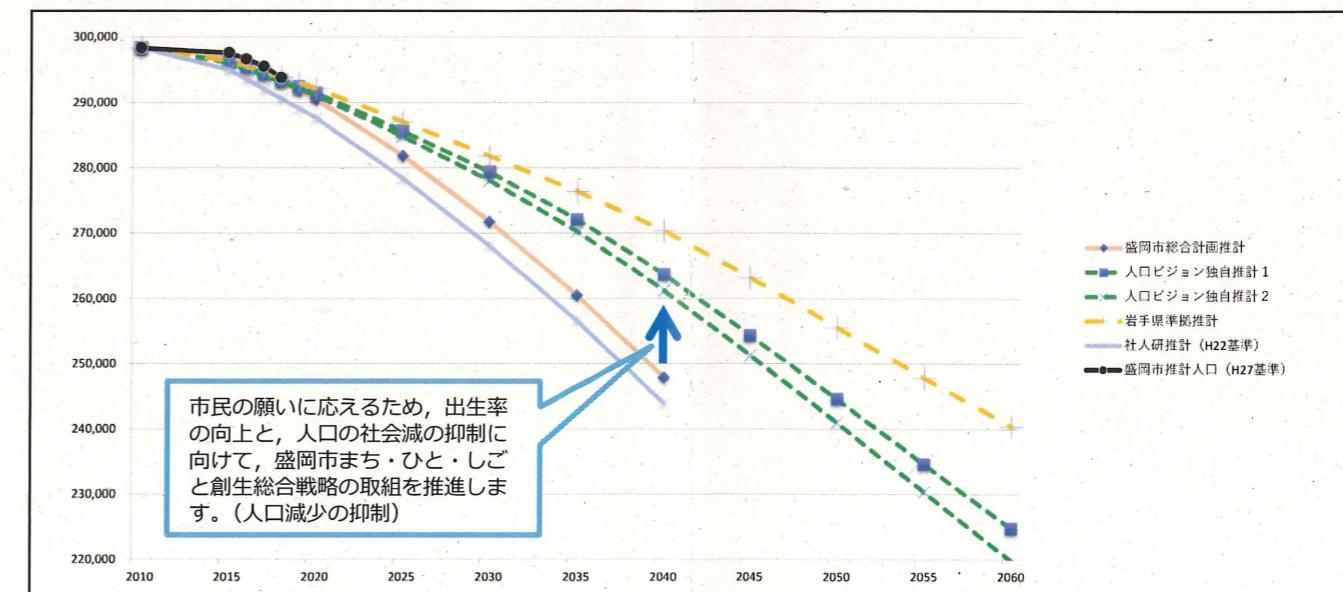
結婚・出産等に関する意識調査結果から得られた本市の希望出生率は、1.75。結婚の望みをかなえられない理由の1位は「出会いの場がない」。

U I Jターンに関する意識調査では、卒業年次の高校生・大学生等のうち、36.5%が、希望する進学先・就職先がなく、県外等へ転出。

U I Jターンに関する意識調査では、転出者のうち43.5%が、Uターンの意向あり。

## 将来人口の推計

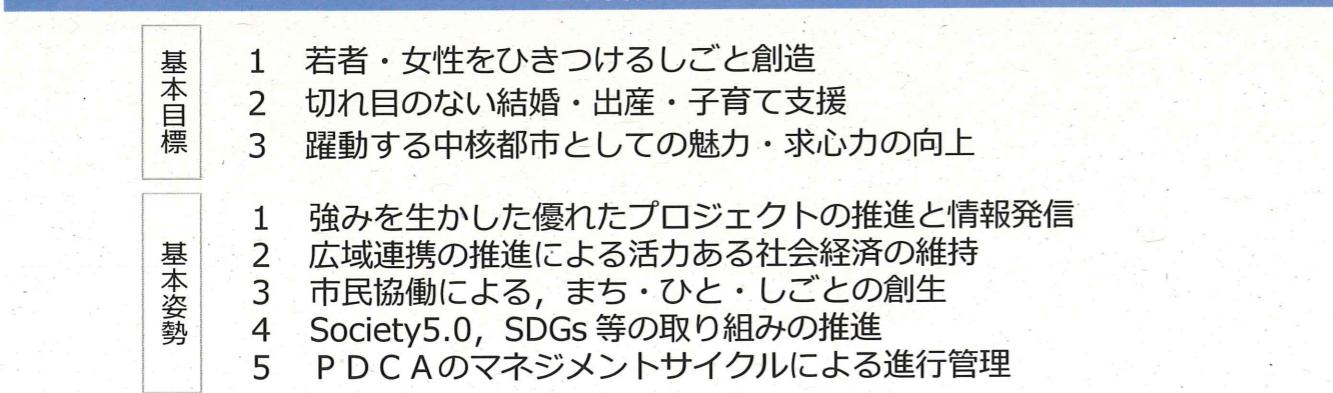
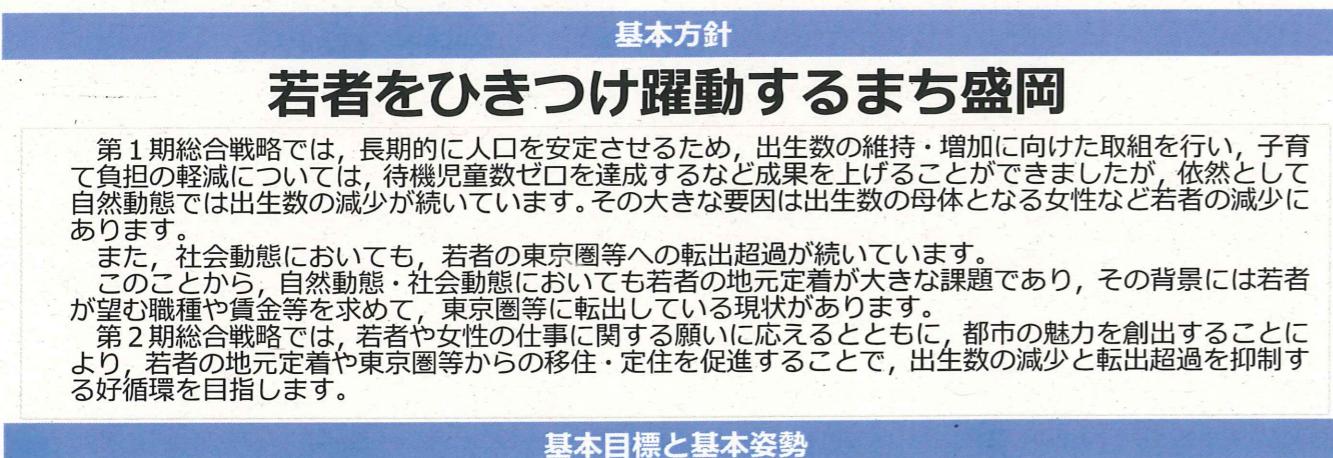
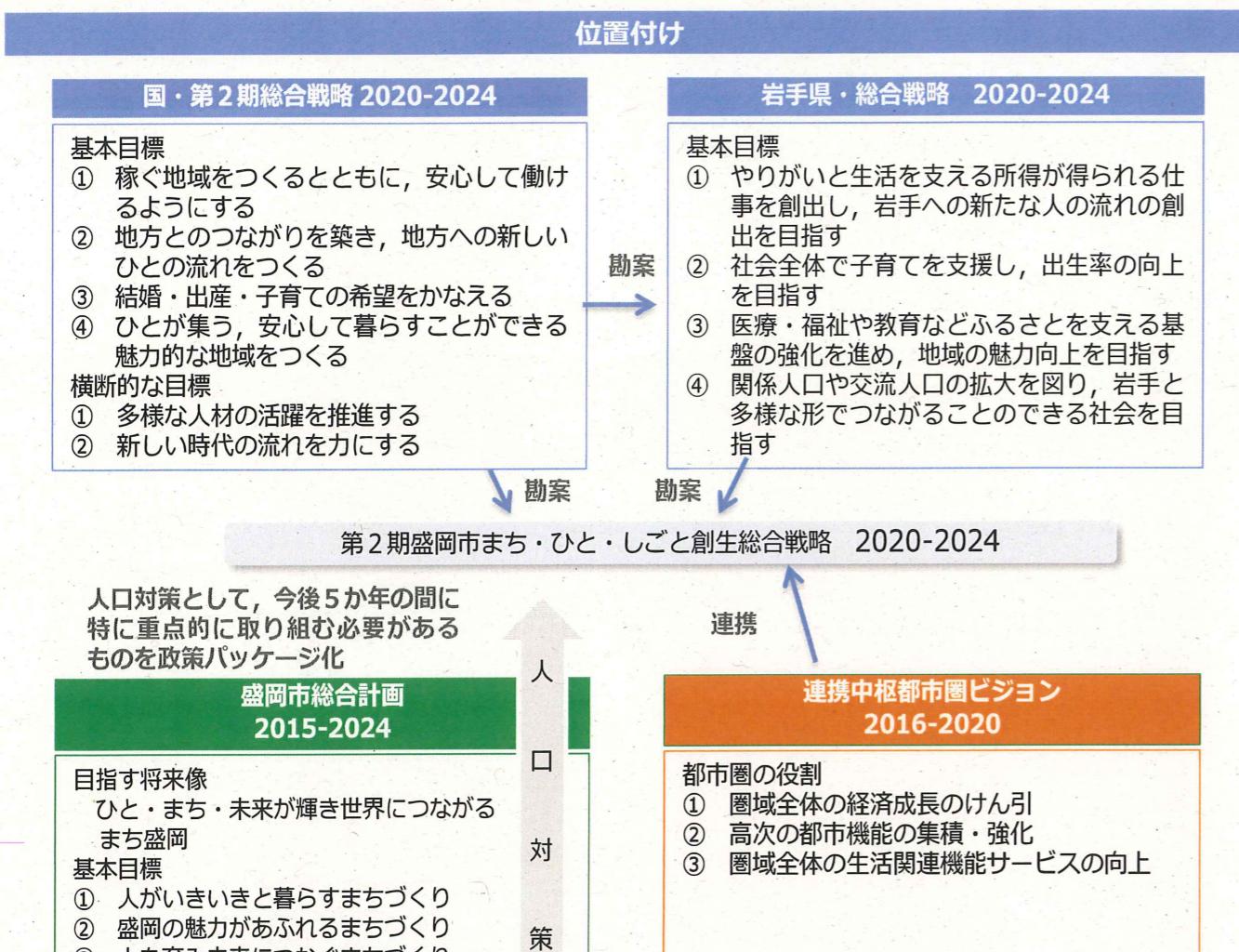
盛岡市総合計画推計では、下図のとおり本市の人口は2040年に25万人を下回ると予想されていますが、市民の願いに応えると仮定した場合、26～27万人程度となります。



※本市独自推計1：合計特殊出生率→2030年に1.75+2020年以降20歳から39歳までの社会減の割合を社人研推計の36.5%減  
※本市独自推計2：合計特殊出生率→2030年に1.68+2020年以降20歳から39歳までの社会減の割合を社人研推計の36.5%減  
※岩手県準拠推計：合計特殊出生率→2030年に1.8/2040年に2.07/2080年に2.3+2020年以降社会減ゼロ

# 第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要版（案）

資料2



## 盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 27 年度～令和元年度）の成果と課題、取組の方向性

	数値目標の達成状況	KPI の達成状況	主な取組内容と成果、評価結果と今後に向けた課題	今後の取組の方向性																						
【基本目標のない結婚・出産・子育て支援】	<p>■出生数（各年 1月 1日現在） 【目標値】令 1：2,476 人 【実績値】単位：人 平 26 平 27 平 28 平 29 平 30 2,476 2,401 2,379 2,289 2,245</p> <p>■婚姻件数（各年 1月 1日現在） 【目標値】令 1：1,527 人 【実績値】単位：人 平 26 平 27 平 28 平 29 平 30 1,527 1,588 1,506 1,358 1,382</p>	<p>「◎達成」「○順調に推移」の割合 86%</p> <table border="1"> <tr><td>【◎】 1指標 86%</td><td>【○】 2指標 14%</td><td>【△】 4指標 0%</td><td>【×】 4指標 0%</td></tr> </table> <p>【達成度】（以下同様）  <input checked="" type="radio"/> 目標値に達している  <input type="radio"/> 順調に推移  <input type="radio"/> 停滞  <input type="radio"/> 後退</p>	【◎】 1指標 86%	【○】 2指標 14%	【△】 4指標 0%	【×】 4指標 0%	<p>【主な取組内容と成果】            安心して子どもを産み育てられる環境整備のため、待機児童解消強化事業や私立児童福祉施設等整備助成事業、医療費給付事業、新生児聴覚検査事業、保育士確保対策事業等のほか、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んだ。            結婚の希望に応える支援のため、いきいき岩手結婚サポートセンターの運営への参画に取り組んだ。            これらの取組によって保育所待機児童数（翌年度当初数値）は 0 を達成したほか、市民アンケートで「盛岡市の子育て支援活動が充実している」と答えた市民の割合の向上、子育て支援サービス利用者数、ワーク・ライフ・バランス推進事業参加企業数が増加した。</p> <p>【評価結果と今後に向けた課題】            KPI は、「達成」「順調に推移」が 86% となっており、一定の成果を上げているものの、数値目標の値を押し上げるには至っていないため、適切な数値目標や KPI の設定を検討する必要がある。            数値目標である「出生数」は、平成 26 年時点の出生数の維持を目標としていたが、平成 26 年から平成 30 年までの 4 年間で 231 人（△9.33%）減少しており、より詳細な分析を行い、取組を進める必要がある。            数値目標である「婚姻件数」は、平成 26 年時点の婚姻件数の維持を目標としていたが、平成 26 年から平成 30 年までの 4 年間で 145 件（△9.50%）減少しており、より詳細な分析を行い、取組を進める必要がある。            初婚の平均年齢は、同期間で夫は 0.1 歳（30.2 歳→30.3 歳）上昇し、妻は 0.2 歳（28.8 歳→29.0 歳）上昇している。            同期間内において、市の人口は 4,962 人（△1.65%，300,592 人→295,630 人）減少している。うち、15-49 歳の男性は 3,235 人（△5.13%，63,039 人→59,804 人）減少し、15-49 歳の女性は 3,846 人（△5.90%，65,220 人→61,374 人）減少しており、人口減少より速いペースで出生数の減少が進んでいる。            岩手県人口動態統計によれば、取組期間内の盛岡市の合計特殊出生率は横ばい傾向にあることから、出生数の減少は母体となる女性人口の減少の影響が大きいと考えられる。</p> <table border="1"> <tr><td>平 26</td><td>平 27</td><td>平 28</td><td>平 29</td><td>平 30</td></tr> <tr><td>1.32</td><td>1.38</td><td>1.36</td><td>1.35</td><td></td></tr> </table> <p>出生数（率）を維持・上昇させるため、有配偶率の向上に取り組むとともに、安心して子どもを産み育てられる環境整備及びワーク・ライフ・バランスの推進に継続して取り組む必要がある。</p>	平 26	平 27	平 28	平 29	平 30	1.32	1.38	1.36	1.35		<ul style="list-style-type: none"> <li>・出生数、婚姻件数ともに減少していることから、結婚・出産の希望を実現するための支援を継続する。</li> <li>・結婚・出産・子育てのライフステージにおいて、仕事と家庭の調和を図ること（ワーク・ライフ・バランスの推進）や子育ての不安を軽減するなどニーズに応じた支援を引き続き推進する。</li> </ul>								
【◎】 1指標 86%	【○】 2指標 14%	【△】 4指標 0%	【×】 4指標 0%																							
平 26	平 27	平 28	平 29	平 30																						
1.32	1.38	1.36	1.35																							
【創出若者基本目標性2】 がやりがいと魅力を感じられる仕事の	<p>■就職を希望する高校 3 年生のうち県内就職を希望する者の割合 【目標値】令 1：70.0% 【実績値】単位：% 平 26 平 27 平 28 平 29 平 30 66.3 67.3 65.0 63.9 67.6</p> <p>■大学生の地元就職率 【目標値】令 1：55% 【実績値】単位：% 平 26 平 27 平 28 平 29 平 30 45 45 45 43 44</p> <p>■新規学卒者を除く管内就職率 【目標値】令 1：40.0% 【実績値】単位：% 平 26 平 27 平 28 平 29 平 30 38.0 37.6 38.1 39.1 38.3</p> <p>■管内雇用保険適用事業所数 【目標値】令 1：8,700 社 【実績値】単位：社 平 26 平 27 平 28 平 29 平 30 8,356 8,369 8,365 8,370 8,426</p>	<p>「◎達成」「○順調に推移」の割合 100%</p> <table border="1"> <tr><td>【◎】 6指標 100%</td></tr> </table>	【◎】 6指標 100%	<p>【主な取組内容と成果】            地域経済の好循環の促進のため、木材需要拡大推進事業や盛岡の食材プロモーション事業、新産業用地整備事業、道の駅設置事業等に取り組んだ。            地域経済を担う人材・企業の育成のため、中小企業事業承継支援事業や中小企業生産性向上支援事業、中小企業支援に係る金融機関との協定の締結、成長分野拠点形成支援事業等に取り組んだほか、地元企業への就職の促進のため、若者等地元定着強化支援事業やものづくり人材育成支援事業、盛岡テクノミュージアム設置事業、移住・就労マッチング支援事業等に取り組んだ。            これらの取組によって、卸・小売の年間販売額や 1 企業当たりの商業サービス業の企業売上高、製造品出荷額等、農畜産物加工品販売額の増加が図られたほか、市インキュベーション施設の稼働率が上昇、ジョブカフェいわての利用者数が増加した。</p> <p>【評価結果と今後に向けた課題】            KPI は、「達成」「順調に推移」が 100% となっており、一定の成果を上げているものの、数値目標の値を押し上げるには至っていない。            数値目標である「就職を希望する高校 3 年生のうち県内就職を希望する者の割合」は、人手不足が深刻化する県内企業の旺盛な採用意欲等により改善傾向にある。            県内の高校生のうち就職者は、平成 26 年から平成 30 年までの 4 年間で 393 人減少した（△10.9%，3,595 人→3,202 人）。同期間に内、県外就職者は 187 人減少し（△14.7%，1,268 人→1,081 人）、県内就職者の比率は高まっている。県外就職の比率が増加傾向にある産業は、建設業（+8.6%，36.5%→45.1%）、情報通信業（+18%，50%→68%）、宿泊業、飲食サービス業（+6.7%，38%→44.7%）、サービス業（+10.7%，47.0%→57.7%）が上げられる。            数値目標である「大学生の地元就職率」は、45% 前後で横ばいを続けている。            数値目標である「新規学卒者を除く管内就職率」は、35% 前後で横ばいを続けている。            管内の雇用保険適用事業所は、微増傾向にある。            アンケート調査によれば、東京圏や宮城県に転出した 18 歳以上 40 歳未満の者の 36.6% が、盛岡市以外の地域に希望する就職先があったために県外に転出している。また、国勢調査によれば、若年男性では製造業や情報通信業に従事する者を中心に、若年女性では医療・福祉に従事する者を中心東京圏への転出が見られる。            大都市における仕事の多様性や良好な待遇（給与、福利厚生、勤務時間、休暇等）がもたらす巨大な雇用吸収力や、多種多様に展開される採用活動により若者の県外流出は依然として続いていると考えられることから、若者や女性がやりがいと魅力を感じられる仕事の創出に継続して取り組む必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が職種や待遇などにおいて希望する就職先がないため若者の地元定着が進まないことが課題であることから、若者や女性にやりがいと魅力がある仕事の創出を推進する。</li> <li>・起業支援や企業誘致、新事業拡大などにより多様な仕事を創出する。</li> <li>・付加価値の高い産業の推進や労働生産性の向上を図り、働きがいのある仕事を創出する。</li> <li>・ワーク・ライフ・バランスや働き方改革を推進する。</li> <li>・地域経済を担う人材の確保や育成の支援を引き続き推進する。</li> </ul>																					
【◎】 6指標 100%																										
【東北の中核都市としての魅力・求心力の向上】	<p>■20 歳から 39 歳までの人口移動数 【目標値】令 1：0 人 【実績値】単位：人 平 26 平 27 平 28 平 29 平 30 △107 △315 △521 △427 △395</p> <p>■観光客入込数 【目標値】令 1：500 万人回 【実績値】単位：万人回 平 26 平 27 平 28 平 29 平 30 497 509 500 500 508</p>	<p>「◎達成」「○順調に推移」の割合 66%</p> <table border="1"> <tr><td>【×】 1指標 17%</td><td>【△】 1指標 17%</td><td>【○】 1指標 16%</td><td>【◎】 3指標 50%</td></tr> </table>	【×】 1指標 17%	【△】 1指標 17%	【○】 1指標 16%	【◎】 3指標 50%	<p>【主な取組内容と成果】            盛岡ファン・交流人口の増加のため、スポーツ・ツーリズムの推進や外国人客誘致推進事業、盛岡ファン・コミュニティの活動支援等に取り組んだ。            地元への愛着の形成、移住・定住の促進、都市機能の強化のため、関係人口を機軸とする移住・定住の促進に係るプロモーションや東京圏における UI ターン相談、高校生等を中心とした地域課題解決プログラム等に取り組んだ。            これらの取組によって、外国人観光客入込数、ふるさと納税件数、UI ターン相談件数、高校生による地域福祉課題解決プログラム構築事業・地域福祉人材育成事業参加者数が増加した。</p> <p>【評価結果と今後に向けた課題】            KPI は、「達成」「順調に推移」が 66% となっており、おおむね順調に推移している。            数値目標である「20 歳から 39 歳までの社会移動」は、0 を目標としていたが、300 人程度の転出超過が続いている。            岩手長期時系列データによれば、県内については転入が超過しており、県外については転出が超過していることから、東京圏や宮城県への転出超過が継続しているものと考えられる。</p> <table border="1"> <tr><td></td><td>平 26</td><td>平 27</td><td>平 28</td><td>平 29</td><td>平 30</td></tr> <tr><td>県内移動収支</td><td>856</td><td>768</td><td>904</td><td>929</td><td>818</td></tr> <tr><td>県外移動収支</td><td>△891</td><td>△1,302</td><td>△1,368</td><td>△1,150</td><td>△1,491</td></tr> </table> <p>「観光客入込数」は、概ね目標値の 500 万人回前後で推移しており、中でも外国人観光客入込数は、台湾やタイにおけるプロモーション活動の成果などにより増加している。            若者の社会移動について、転出超過が継続していることから、転入者の増加を図るために、若者の主たる転出先である東京圏において UI ターン者向けイベントに出展するほか、相談員を設置するなど移住・定住施策に取り組むほか、関係人口の取組を継続して行う必要がある。            交流人口増加の観点から、観光客の誘致に努めるほか、各種イベント、教育旅行、MICE、スポーツ・ツーリズム等を通じて継続して盛岡の魅力を発信する必要がある。</p>		平 26	平 27	平 28	平 29	平 30	県内移動収支	856	768	904	929	818	県外移動収支	△891	△1,302	△1,368	△1,150	△1,491	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少が進む中で、交流人口を増加させることが課題であることから、引き続きスポーツ・ツーリズムの推進や外国人観光客などの誘致などを推進する。</li> <li>・盛岡ファン・コミュニティの活動を支援するなど、関係人口の増加を基軸としながら、交流人口が移住・定住につながる仕組みづくりを推進する。</li> <li>・UI ターンの希望を叶えるため、その支援に取り組む。</li> <li>・盛岡への愛着の形成や魅力の発信により、関係人口の増加や移住・定住を促進する。</li> </ul>
【×】 1指標 17%	【△】 1指標 17%	【○】 1指標 16%	【◎】 3指標 50%																							
	平 26	平 27	平 28	平 29	平 30																					
県内移動収支	856	768	904	929	818																					
県外移動収支	△891	△1,302	△1,368	△1,150	△1,491																					

盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年度～令和元年度）の指標の推移

資料3-2

基本目標	指標名	単位	H26	H27	H28	H29	H30	H31 目標値	達成度
数値目標	出生数(各年1月1日現在)	人	2,476	2,401	2,379	2,289	2,245	2,476	△
	婚姻件数(各年1月1日現在)	件	1,527	1,588	1,506	1,358	1,382	1,527	△
	KPI(戦略1) いきいき岩手結婚サポートセンターの成婚実績数(県内実績)	組	一	0	10	35	58	50	◎
	保育所待機児童数(翌年度当初数値)	人	9 (H27.4.1)	0 (H28.4.1)	0 (H29.4.1)	0 (H30.4.1)	0 (H31.4.1)	0	◎
	保育所待機児童数(各年度1月1日現在)	人	259 (H27.1.1)	285 (H28.1.1)	218 (H29.1.1)	180 (H30.1.1)	84 (H31.1.1)	0	○
	市民アンケートで「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実している」と答えた市民の割合	%	15.5	13.3	15.2	16.0	19.9	40.0	○
	KPI(戦略2) 市民アンケートで「子育てをつらいと感じている」と答えた子どものいる親の割合	%	19.3	22.0	24.0	30.0	24.8	14.5	×
	「楽しい」と「つらい」が同じくらい	%	17.4	18.1	17.0	20.7	19.5		
	どちらかといえば「つらい」と感じることが多い	%	1.9	2.9	5.0	7.4	4.2		
	「つらい」と感じることが多い	%	0.0	1.0	2.0	2.0	1.1		
KPI(戦略3)	子育て支援サービス利用者数	人	69,276	76,691	80,233	79,779	81,586	74,000	◎
	ワーク・ライフ・バランス推進事業参加企業数	社	一	35	78	174	223	120	◎
切れ目のない結婚・出産・子育て支援	盛岡公共職業安定所管内の就職を希望する高校3年生のうち県内就職を希望する者の割合	%	66.3	67.3	65.0	63.9	67.6	70.0	○
	大学卒業生の地元就職率	%	45	45	45	43	44	55	△
	盛岡公共職業安定所管内の就職率(新規学卒者を除く。)	%	38.0	37.6	38.1	39.1	38.3	40.0	△
	盛岡公共職業安定所管内の雇用保険適用事業所数	社	8,356	8,369	8,365	8,370	8,426	8,700	○
	KPI(戦略4) 卸・小売の年間販売額	億円	10,724	-	12,664	-	-	11,300	◎
	1企業あたりの商業サービス業の企業売上高	千円	185,175	-	199,022	-	-	185,175	◎
	KPI(戦略5) 製造品出荷額等	千万円	9,848	10,107	15,018	11,929	11,962	10,511	◎
	KPI(戦略6) 農畜産物加工品販売額	百万円	16	18	22	21	39	27	◎
	KPI(戦略5) 市インキュベーション施設の稼働率	%	75.9	77.2	77.7	88.8	85.2	75.9	◎
	KPI(戦略6) ジョブカフェいわての利用者数	人	30,080	32,310	31,938	42,851	51,501	31,000	◎
3 東北の中核都市としての魅力・求心力の向上	20歳から39歳までの人口移動数	人	△107	△315	△521	△427	△395	0	×
	数値目標 転入	人	6,439	6,464	6,099	6,029	6,086		
	転出	人	6,546	6,779	6,620	6,456	6,481		
	観光客入込数	万人回	497	509	500	500	508	500	◎
	KPI(戦略7) 宿泊観光客数	万人回	98	97	98	93	99	110	△
	外国人観光客入込数	万人回	1	1.4	2.4	3.4	5	4.5	◎
	ふるさと納税件数	件	36	42	2,585	2,061	1,797	2,700	○
	KPI(戦略8) UIターン相談件数	件	4	8	8	65	164	120	◎
	官民連携による移住・交流促進拠点利用者数(宿泊者数)	人	-	-	-	-	-	1,000	×
	高校生による地域福祉課題解決プログラム構築事業・地域福祉中核人材育成事業参加者数	人	0	152	702	944	1,048	800	◎

数値目標：行政活動により住民にもたらされた便益に関する数値目標

KPI：施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標「-」は当該年度の数値なし

達成度：目標値に達している⇒○、順調に推移…○、停滞…△、後退…×

# 盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）構成の比較

資料 3-3

## (現行) 盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の構成

### 第1章 はじめに

- 1 この戦略の位置付け 2 計画期間 3 国及び岩手県の総合戦略との関係
- 4 盛岡市総合計画との関係 5 連携中枢都市圏ビジョンとの関係

## 第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）の構成

### 第1章 はじめに

- 1 この戦略の位置付け 2 計画期間 3 国及び岩手県の総合戦略との関係
- 4 盛岡市総合計画との関係 5 連携中枢都市圏ビジョンとの関係

### 第2章 第2期総合戦略で重視する視点

- 1 第1期総合戦略の取組の成果と課題を踏まえた取組の方向性
- 2 社会環境の変化から見た取組の方向性

### 第2章 基本方針等

#### 1 基本方針

「共につくる「子どもと子育てに優しいまち盛岡」」

#### 2 基本目標

- (1) 切れ目のない結婚・出産・子育て支援
- (2) 若者・女性がやりがいと魅力を感じられるしごとの創出
- (3) 東北の中核都市としての魅力・求心力の向上

#### 3 基本姿勢

- (1) 強みを生かした優れたプロジェクトの推進と情報発信
- (2) 広域連携の推進による活力ある社会経済の維持
- (3) 市民協働によるまち・ひと・しごとの創生
- (4) P D C Aのマネジメントサイクルによる進行管理

### 第3章 基本方針等

#### 1 基本方針

「若者をひきつけ躍動するまち盛岡」

#### 2 基本目標

- (1) 若者・女性をひきつけるしごと創造
- (2) 切れ目のない結婚・出産・子育て支援
- (3) 躍動する中核都市としての魅力・求心力の向上

#### 3 基本姿勢

- (1) 強みを生かした優れたプロジェクトの推進と情報発信
- (2) 広域連携の推進による活力ある社会経済の維持
- (3) 市民協働によるまち・ひと・しごとの創生
- (4) Society5.0, SDGs 等の取組の推進
- (5) P D C Aのマネジメントサイクルによる進行管理

### 第3章 基本目標1 切れ目のない結婚・出産・子育て支援

- 戦略1 結婚の希望に応える支援
- 戦略2 安心して子どもを産み育てられる環境整備
- 戦略3 ワーク・ライフ・バランスの推進

### 第4章 基本目標1 若者・女性をひきつけるしごと創造

- 戦略1 多様な仕事の創出
- 戦略2 仕事の魅力の向上
- 戦略3 ワーク・ライフ・バランスの推進
- 戦略4 地域経済を担う人材の育成・確保

### 第4章 基本目標2 若者・女性がやりがいと魅力を感じられる仕事の創出

- 戦略4 地域経済の好循環の促進
- 戦略5 地域経済を担う人材・企業の育成
- 戦略6 地元企業への就職の促進

### 第5章 基本目標2 切れ目のない結婚・出産・子育て支援

- 戦略5 結婚の希望に応える支援
- 戦略6 安心して子どもを産み育てられる環境整備

### 第5章 基本目標3 東北の中核都市としての魅力・求心力の向上

- 戦略7 盛岡ファン・交流人口の増加
- 戦略8 地元への愛着の形成、移住・定住の促進、都市機能の強化

### 第6章 基本目標3 躍動する中核都市としての魅力・求心力の向上

- 戦略7 関係人口・交流人口の増加
- 戦略8 地元への愛着の形成、移住・定住の促進
- 戦略9 都市機能の強化

### 第6章 推進体制

### 第7章 推進体制

### 国及び岩手県の総合戦略との関係

目項	国の「まち・ひと・しごと創生基本方針 2019」 (第2期総合戦略)	県の次期ふるさと振興総合戦略(案)における対応	市の次期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略における対応
ビ 人 ジ ロ ヨ ン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の長期ビジョンは時点修正</li> <li>・地方人口ビジョンは、中長期的には自然増が需要である点を重視しつつ、最新の数値等に見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時点修正による改訂</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時点修正による改訂</li> </ul>
基 本 目 標	<p>[4つの基本目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働くようにする。</li> <li>地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる</li> <li>結婚・出産・子育ての希望をかなえる</li> <li>ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる</li> </ol> <p>[横断的な目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>多様な人材の活躍を推進する</li> <li>新しい時代の流れを力にする</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行の「岩手で働く」「岩手で育てる」「岩手で暮らす」の3本の柱に、国の新たな視点のひとつである関係人口の創出・拡大等を踏まえ、新たに4本目の柱として「岩手とつながる」を追加</li> <li>・4つの分野横断戦略を追加           <ul style="list-style-type: none"> <li>①国際研究・交流拠点地域形成戦略</li> <li>②北上川流域産業・生活高度化戦略</li> <li>③新しい三陸創造戦略</li> <li>④北いわて産業・社会革新戦略</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行の3つの基本目標を維持するが、若者をひきつけ躍動するまち盛岡の実現にむけ、基本目標「若者・女性がやりがいと魅力を感じられる仕事の創出」「東北の中核都市としての魅力・求心力の向上」を強化</li> </ul>
各 戰 略	<p>[第2期における新たな視点]</p> <p>①関係人口の創出・拡大 地方移住の裾野拡大に向けて、特定の地域に継続的に多様な形でかかわる関係人口の創出拡大に取り組む。</p> <p>②Society5.0の実現に向けた技術の活用 地域におけるSociety5.0の推進に向けて、地域における情報通信基盤等の環境整備を進めた上で、未来技術の活用による地域課題の解決、地域の魅力向上を図る。</p> <p>③SDGsを原動力とした地方創生 政策全体の全体最適化、地域課題の加速化につなげ、地方創生の取組の一層の充実・深化につなげるため、SDGsを原動力とした地方創生を推進する。</p> <p>④地方創生の基盤をなす人材の掘り起こし、育成 地域に関わる一人ひとりが地域の担い手として自ら積極的に参画し、地域資源を活用しながら、地域の実情に応じた内発的な発展につなげる。</p> <p>⑤民間との協働 地域の住民のみならず、地域内外の個人、NPO、企業、金融機関、教育機関などの多様な主体を地域にかかわる担い手としてとらえ、地方創生の当事者の拡大につなげる。</p> <p>⑥誰もが活躍できる地域社会の構築 複雑化する地域の課題の解決に向けて、企業、NPO、住民など地域にかかわる一人ひとりが地域の担い手として自ら積極的に参画できる環境づくりを進める。 また、女性、高齢者、障がい者、外国人など誰もが活躍し、多様性に富む豊かな地域社会を作る。</p> <p>⑦地域経営の視点で取り組む 都市機能を維持するため、広域連携や経済圏レベルでの連携など地域の実情に応じた地域間の連携・協働の深化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな4本目の柱である「岩手とつながる」に関係人口に係る戦略を追加</li> <li>・戦略全体に関わることから「ふるさと振興を進める上で重視する視点」に整理</li> <li>・加えて、県民計画のILC+3ゾーンプロジェクトを主体とした新たな4つの分野横断戦略を中心に具体的な取組を記載</li> <li>・戦略全体に関わることから「ふるさと振興を進める上で重視する視点」にSDGsの理念等を記載</li> <li>・加えて、各戦略及び取組に17の持続可能な開発目標を紐付け</li> <li>・既存の「ふるさとの未来を担うひとづくり戦略」の取組として追加</li> <li>・戦略全体に関わることから、「総合戦略の推進と市町村等との協働」に「多様な主体の参画・協働の推進」の項目を追加し記載</li> <li>・戦略全体に関わることから、上記SDGsの理念等と併せて記載</li> <li>・具体的な取組については、既存の「若者・女性活躍支援戦略」における取組に加え、「保健・医療・福祉充実戦略」に高齢者、障がい者の活躍支援の取組を追加</li> <li>・戦略全体に関わることから「ふるさと振興を進める上で重視する視点」として整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すでに関係人口の取組を進めていることから、基本目標3に組み込まれているものと整理しながら、取組を強化</li> <li>・戦略全体に関わることから、「第3章 基本姿勢」に新たに追加・加えて、「戦略9 都市機能の強化」に取組を追加</li> <li>・戦略全体に関わることから、「第3章 基本姿勢」にSDGsの理念を新たに追加</li> <li>・加えて、取組に17の持続可能な開発目標を紐付け</li> <li>・「戦略4 地域経済を担う人材の育成・確保」「戦略8 地元への愛着の形成、移住・定住の促進」に取組を追加</li> <li>・戦略全体に関わることから、「第3章 基本姿勢 (3)市民協働による、まち・ひと・しごと創生」に、NPO等地域づくりを担う組織について記載を追加</li> <li>・戦略全体に関わることから、「第3章 基本姿勢」に上記SDGsの理念と併せて記載</li> <li>・加えて、「戦略4 地域経済を担う人材の育成・確保」に取組を追加</li> <li>・戦略全体に関わることから「第3章 基本姿勢 (2)広域連携の推進による活力ある社会経済の維持」に追記し、「みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン」と連携した取組を強化</li> <li>・加えて、「戦略9 都市機能の強化」に取組を追加</li> </ul>
戰 略 期 間	令和2～6年度（5年間）	令和2～6年度（5年間）	令和2～6年度（5年間）

# 盛岡市人口ビジョン（案）

## （令和 2 年 3 月改訂版）



盛 岡 市

# 目 次

はじめに	1
<b>第1章 盛岡市の人口の現状</b>	
1 本市の人口の長期的推移	2
2 国勢調査結果による人口の概況	3
3 人口動態の推移	4
4 年齢3区分別人口の推移	5
5 世帯数の推移	6
6 地区別の人口増減	7
7 東北の主要都市との比較	8
8 自然動態	9
9 社会動態	19
<b>第2章 人口の変化が地域の将来に与える影響</b>	
1 経済・産業への影響	28
2 医療・介護・福祉への影響	32
3 都市機能への影響	33
4 地域コミュニティへの影響	33
5 空き家問題	33
6 教育・地域文化への影響	34
7 財政への影響	35
<b>第3章 人口の将来展望</b>	
1 本市の人口動態の特徴	38
2 人口対策の基本的視点	39
3 人口の展望	40
4 将来人口の推計	40
<b>資料編</b>	
1 U I J ターンに係る意識調査結果	46
2 結婚・出産等に係る意識調査結果	64
3 新しい総合計画策定に向けたアンケート調査（抜粋）	77
4 町丁字別の人ロ増減の変化（変化率の高い順）	81

## はじめに

本市の人口は、昭和 61（1986）年から平成元（1989）年にかけて一時的に減少が見られたものの、平成 12（2000）年（302,857 人（国勢調査：合併前の玉山村を含む））まで長期的に増加を続けてきました。一転して平成 12（2000）年以降は減少に転じ、東日本大震災が発生した平成 23（2011）年以降数年間微増傾向が見られたものの、現在に至るまで減少が続いています。

総合計画策定時（平成 26（2014）年）の人口推計では、本市の将来人口は、平成 52（2040）年には、247,898 人となり、平成 22（2010）年から比べると約 16.9% の減少が見込まれています。

また、年齢 3 区別の内訳では、15 歳未満の年少人口及び 15～64 歳の生産年齢人口が減少しつづける一方で、65 歳以上の老人人口は今後も増加し、少子高齢化が更に進行することが見込まれています。

こうした人口減少及び人口構造の変化により、地域経済の縮小や都市機能の低下、財政の硬直化など、私たちの生活のあらゆる面に影響が及ぶことが懸念されています。

人口減少及び人口構造の変化は避けられませんが、適切な対策を講じることで、影響を最小限に食い止め、地域の活力や必要な公共サービスを維持していくことは可能です。

本市は、豊富な地域資源や、高等教育機関、救急医療機関、大規模集客施設などの都市機能の集積、交通の結節など、人口減少社会を見据えた地域の活性化を図る上で多くの強みを有しています。

これらのこと踏まえ、本市は平成 27（2015）年に、第 1 期となる「盛岡市人口ビジョン」及び「盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口対策に取組み、一定の成果を上げましたが、未だ人口減少の流れをゆるやかにするまでには至っていません。

本市では、引き続き人口減少に立ち向かうため、第 2 期「盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定することとしていますが、盛岡市人口ビジョン（2020 年改訂版）では、当該総合戦略を策定するにあたり、第 1 期「盛岡市人口ビジョン」を踏まえながら、本市の人口の現状を分析し、将来の展望を示すものとして策定するものです。

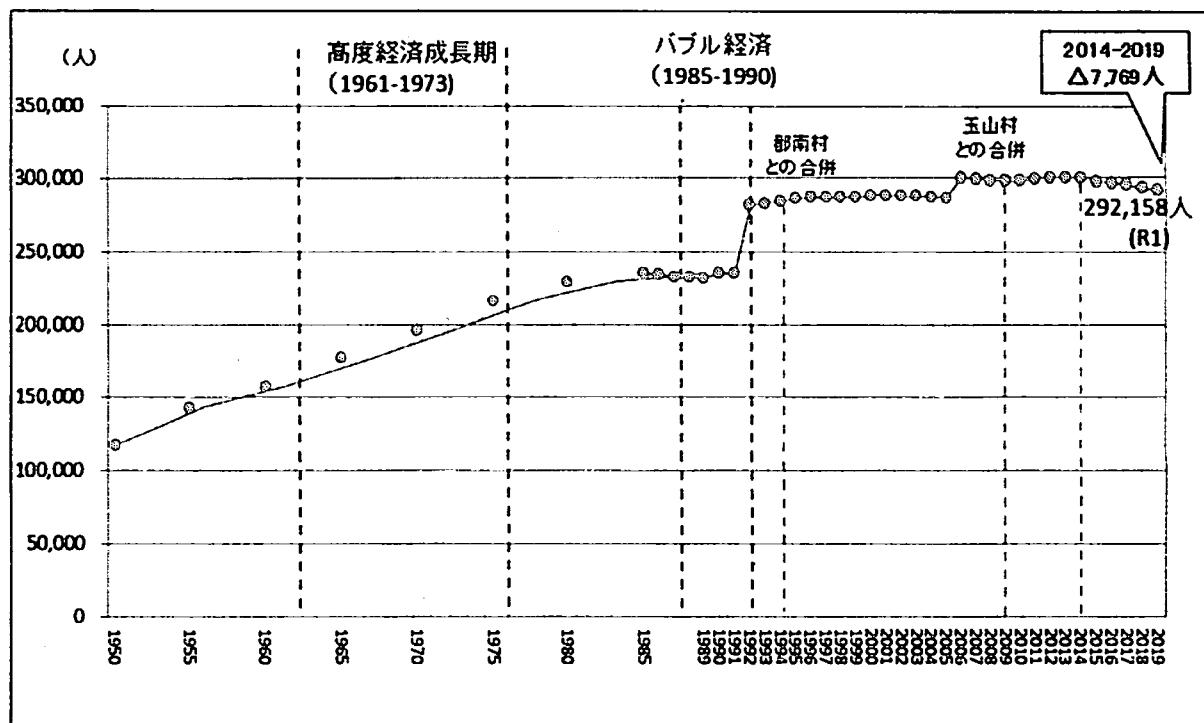
## 1 本市の人口の長期的推移

本市の人口は、バブル経済期の昭和 61（1986）年から平成元（1989）年に一時的に減少したものの、長期的には都南村との合併（平成 4（1992）年）、玉山村との合併（平成 18（2006）年）を経て増加を続けてきました。平成 18（2006）年以降は、東日本大震災が発生した平成 23（2011）年以降一時的に微増傾向を見せましたが、長期的には減少傾向が続いています。

なお、第1期「盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間である平成 26（2014）年から令和元（2019）年にかけては 7,769 人減少しています。

後述するように、合併前の旧都南村及び旧玉山村を含んだ数値では、平成 12（2000）年が人口のピークでした。

図-1 盛岡市の総人口の長期的推移



出所：国勢調査及び推計人口より本市作成

## 2 国勢調査結果による人口の概況

平成 27（2015）年国勢調査における盛岡市の人口は 297,631 人で、前回の平成 22（2010）年から 717 人減少しました。人口の推移をみると、平成 12（2000）年をピークに減少に転じています。

昭和 60（1985）年から平成 12（2000）年にかけての人口の増加率を見ると、盛岡市では 5.1%，盛岡広域では 7.0% 増加していますが、岩手県全体では 1.2% 減少しています。また、平成 12 年（2000）年から平成 27（2015）年にかけての人口の増加率は、盛岡市では 1.8%，盛岡広域では 1.6% 減少していますが、岩手県全体では 10.7% 減少しています。岩手県全体の盛岡市の人口に占める割合は、平成 27（2015）年では 23.3% で、平成 2（1990）年と比較して 2.1 ポイント上昇しており、岩手県の急激な人口減少と、岩手県においては盛岡市へ人口が集中している傾向が見られます。

表－1－1－1 国勢調査結果による人口の推移

区分	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	1985→2000 増加率	2000→2015 増加率	1985→2015 増加率
盛岡市	287,312	292,632	300,723	302,857	300,746	298,348	297,631	5.1%	-1.8%	3.5%
盛岡広域	450,664	455,068	471,200	484,346	489,492	481,699	476,758	7.0%	-1.6%	5.5%
岩手県	1,433,611	1,416,928	1,419,505	1,416,180	1,385,041	1,330,147	1,279,594	-1.2%	-10.7%	-12.0%
盛岡市/県 (%)	20.0	20.7	21.2	21.4	21.7	22.4	23.3	/	/	/

注) 合併前の旧都南村及び旧玉山村の数値を含む。

出所：国勢調査より本市作成

### 3 人口動態の推移

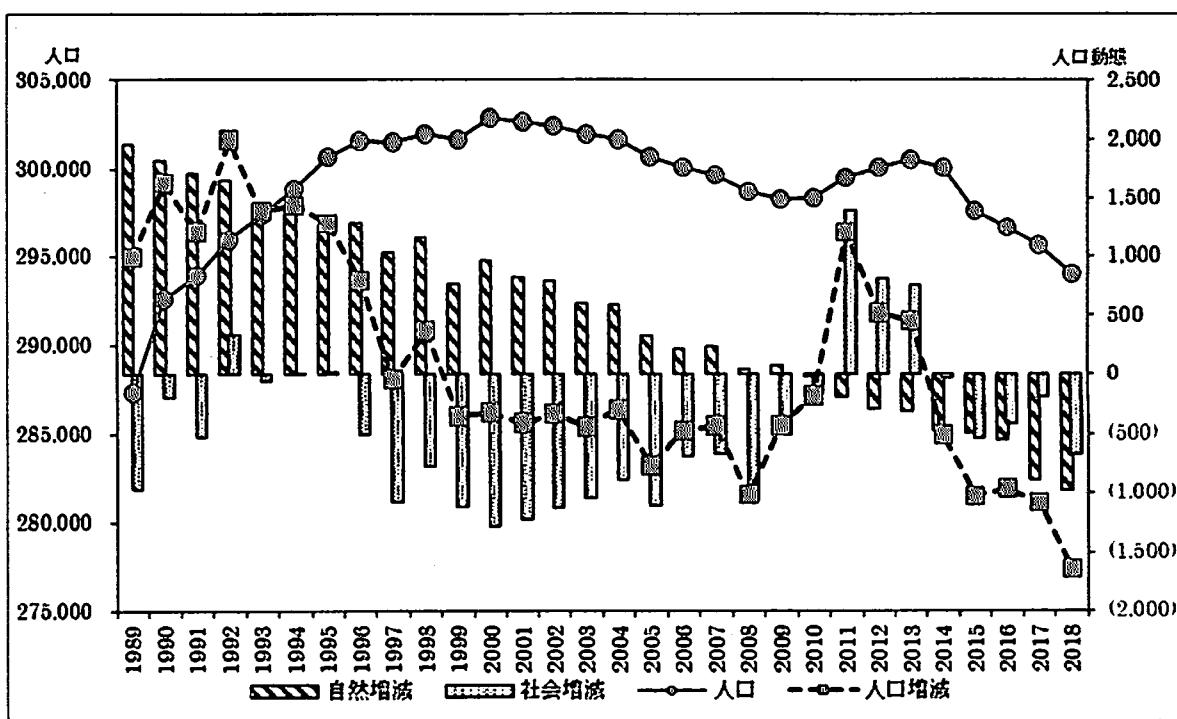
盛岡市の人口は、平成 12 (2000) 年の 302,857 人まで堅調に増加した後、減少に転じ、平成 30 (2018) 年には 294,047 人まで 8,810 人減少しました。

自然動態は、平成の 30 年間で長期的に減少しています。平成元 (1989) 年には 1,963 人の自然増がありましたが、そのプラス幅は減少を続け、平成 22 (2010) 年にはマイナスに転じ、平成 30 (2018) 年には 979 人の自然減となっています。

一方、社会動態については、同期間内で転出超過と転入超過の変動の波が見られます。平成 4 (1992) 年から平成 7 (1995) 年ごろまでと、平成 23 (2011) 年から平成 25 (2013) 年までは転入超過していますが、それ以外の期間には転出超過しており、平成の 30 年間を通算すると、13,461 人 (448.7 人/年) の転出超過となっています。

平成 30 (2018) 年は、979 人の自然減、662 人の社会減となっています。

図-2 盛岡市の人口の推移（各年 10月1日現在）



注) 人口は平成 2 (1990) 年、平成 7 (1995) 年、平成 12 (2000) 年、平成 17 (2005) 年、平成 22 (2010) 年は国勢調査結果。その他の年は、岩手県人口移動報告年報による推計人口（盛岡市の推計値と相違する。）

注) 人口動態：岩手県人口移動報告年報による報告値（盛岡市の集計値と相違する。）

出所：岩手県人口移動報告年報より本市作成

#### 4 年齢3区分別人口の推移

本市の年齢3区分別の人口は、年少人口（15歳未満）及び生産年齢人口（15歳から64歳まで）が減少する一方で、老人人口（65歳以上）が増加しています。平成2（1990）年の人口構成は、年少人口が19.4%，生産年齢人口が70.1%，老人人口が10.5%でしたが、平成27（2015）年には年少人口が12.5%，生産年齢人口が62.3%，老人人口が25.1%となっています。また、平成12（2000）年以降は、老人人口割合が年少人口割合を上回っています。

表-2 盛岡市の年齢3区分別人口の推移

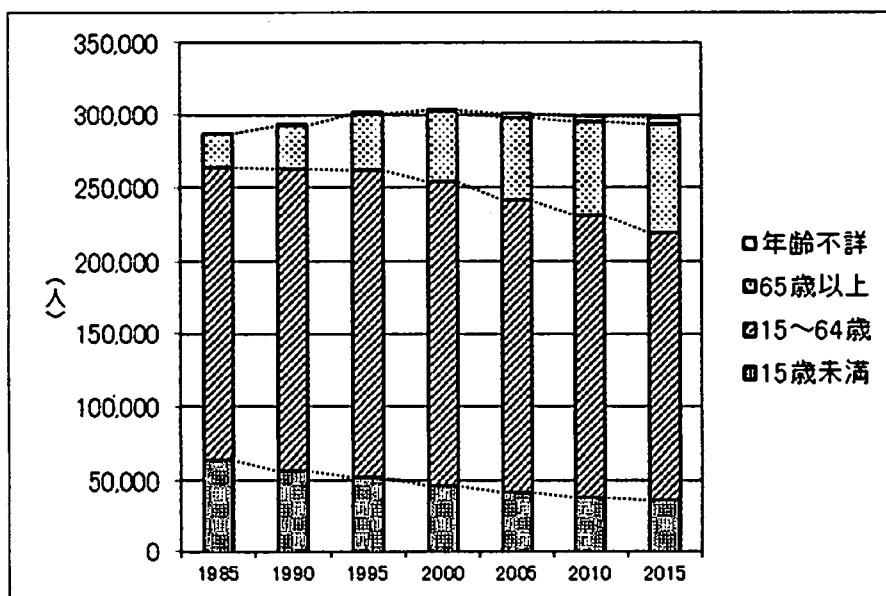
区分	1990	1995	2000	2005	2010	2015
15歳未満(人)	56,718	52,092	46,159	41,928	38,771	36,828
15～64歳(人)	204,943	209,262	208,171	199,632	192,664	182,979
65歳以上(人)	30,826	39,341	48,469	56,177	63,721	73,729
年齢不詳(人)	145	28	58	3,009	3,192	4,068
構成	15歳未満(%)	19.4%	17.3%	15.2%	14.1%	13.1%
	15～64歳(%)	70.1%	69.6%	68.7%	67.0%	65.3%
	65歳以上(%)	10.5%	13.1%	16.0%	18.9%	21.6%

注) 合併前の旧都南村及び旧玉山村の数値を含む。

構成割合では年齢不詳は除いている。

出所：国勢調査より本市作成

図-3 盛岡市の年齢3区分別人口の推移



注) 合併前の旧都南村及び旧玉山村の数値を含む。

出所：国勢調査より本市作成

## 5 世帯数の推移

国勢調査結果によると、一般世帯数は増加傾向にあり、平成 27（2015）年には 129,420 世帯となっています。平成 27（2015）年の一般世帯のうち、高齢単独世帯は 12,490 世帯で、平成 2 年（1990）と比較して約 3 倍に増加しています。

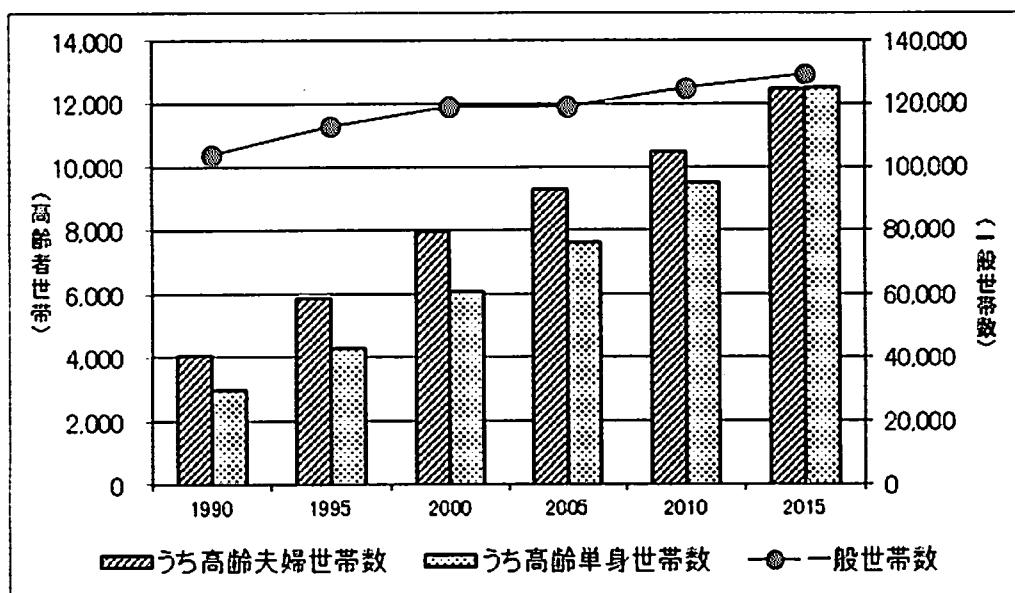
表－3 盛岡市の一般世帯数の推移

区分	1990	1995	2000	2005	2010	2015
一般世帯数	103,919	112,913	119,040	118,989	124,839	129,420
うち高齢夫婦世帯数	4,058	5,907	7,929	9,292	10,484	12,431
うち高齢単独世帯数	2,966	4,298	6,109	7,609	9,479	12,490

注) 合併前の旧都南村及び旧玉山村の数値を含む。

出所：国勢調査より本市作成

図－4 盛岡市の一般世帯数の推移



注) 合併前の旧都南村及び旧玉山村の数値を含む。

出所：国勢調査より本市作成

## 6 地区別の人口増減

本市の地区別の人口は、土淵地区や本宮地区などで増加数、増加率とも高い伸びを示していますが、全体としては減少している地域が多くなっています。

表－4 地区別の人口増減の変化（変化率の高い順）

	地区名	2006	2016	2017	2006-2017		2016-2017	
					増減数	変化率	増減数	変化率
1	土淵	2,968	4,585	4,576	1,608	154.2%	△ 9	99.8%
2	本宮	13,485	18,516	18,806	5,321	139.5%	290	101.6%
3	見前	23,344	25,025	25,059	1,715	107.3%	34	100.1%
4	飯岡	16,541	17,557	17,619	1,078	106.5%	62	100.4%
5	桜城	11,668	12,164	12,083	415	103.6%	△ 81	99.3%
6	みたけ	7,792	7,835	7,940	148	101.9%	105	101.3%
7	城南	10,697	10,895	10,813	116	101.1%	△ 82	99.2%
8	仙北	14,104	14,347	14,210	106	100.8%	△ 137	99.0%
9	山岸	12,629	12,541	12,588	△ 41	99.7%	47	100.4%
10	太田	8,241	8,167	8,167	△ 74	99.1%	0	100.0%
11	緑が丘	13,528	13,476	13,378	△ 150	98.9%	△ 98	99.3%
12	東厨川	11,414	11,280	11,270	△ 144	98.7%	△ 10	99.9%
13	仁王	11,786	11,540	11,590	△ 196	98.3%	50	100.4%
14	杜陵	5,241	5,095	5,138	△ 103	98.0%	43	100.8%
15	中野	12,816	12,635	12,344	△ 472	96.3%	△ 291	97.7%
16	西厨川	12,196	11,627	11,599	△ 597	95.1%	△ 28	99.8%
17	渋民	5,892	5,602	5,583	△ 309	94.8%	△ 19	99.7%
18	上田	15,507	14,393	14,440	△ 1,067	93.1%	47	100.3%
19	青山	23,006	21,458	21,298	△ 1,708	92.6%	△ 160	99.3%
20	好摩	4,316	3,985	3,937	△ 379	91.2%	△ 48	98.8%
21	加賀野	5,828	5,247	5,284	△ 544	90.7%	37	100.7%
22	大慈寺	5,374	4,850	4,817	△ 557	89.6%	△ 33	99.3%
23	乙部	8,737	7,926	7,829	△ 908	89.6%	△ 97	98.8%
24	繁	902	819	792	△ 110	87.8%	△ 27	96.7%
25	上米内	6,064	5,377	5,320	△ 744	87.7%	△ 57	98.9%
26	松園	18,939	16,587	16,324	△ 2,615	86.2%	△ 263	98.4%
27	築川	1,631	1,351	1,313	△ 318	80.5%	△ 38	97.2%
28	巻堀・姫神	1,429	1,148	1,113	△ 316	77.9%	△ 35	97.0%
29	北厨川	6,776	5,383	5,264	△ 1,512	77.7%	△ 119	97.8%
30	玉山・薮川	2,067	1,569	1,520	△ 547	73.5%	△ 49	96.9%
	合計	294,918	292,980	292,014	△ 2,904	99.0%	△ 966	99.7%

注) データ上の制約から、各地区に含まれる町丁・字は、コミュニティ推進地区と、完全には一致しない。

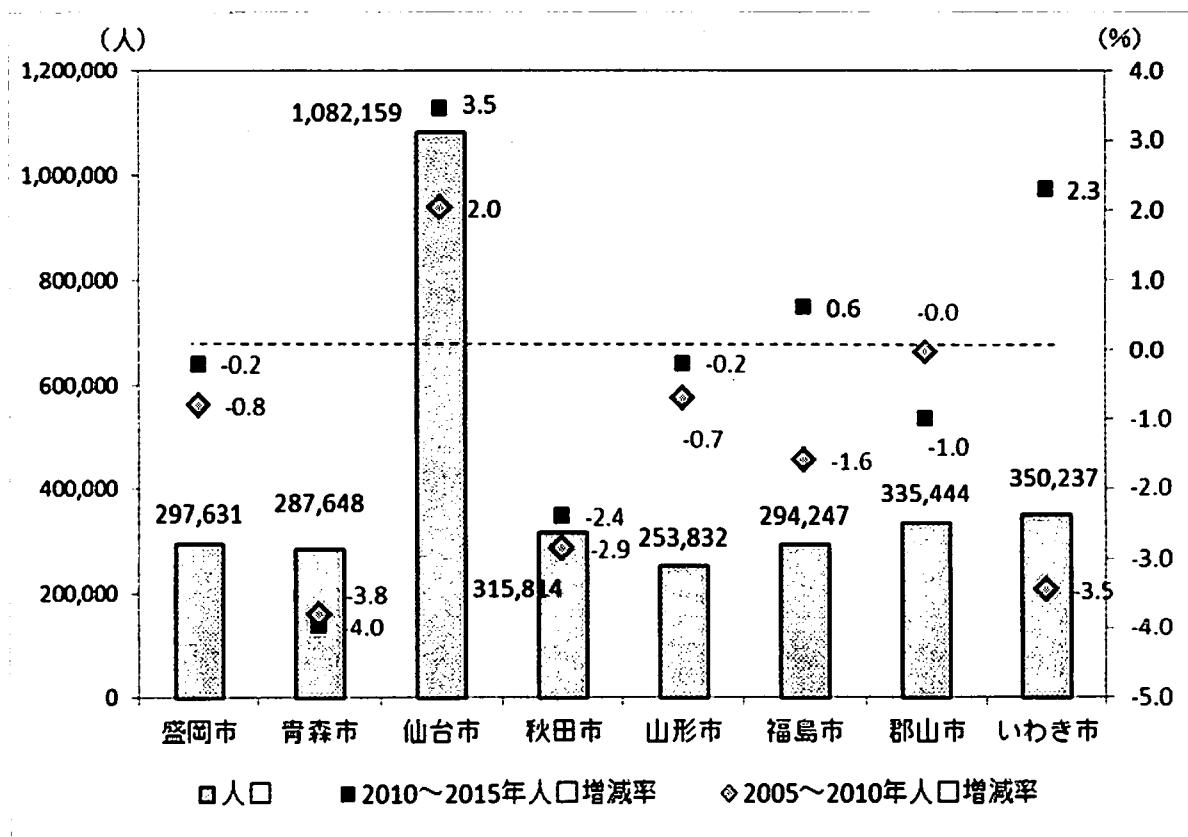
出所：住民基本台帳より本市作成

## 7 東北の主要都市との比較

国勢調査により平成 22 (2010) 年から平成 27 (2015) 年にかけての東北の主要都市の人口の推移を比較すると、仙台市、福島市、いわき市で人口が増加し、盛岡市、青森市、秋田市、山形市、郡山市では人口が減少しています。盛岡市の増減率は△0.2%で、青森市、秋田市、郡山市に比較すると、減少幅は少なくなっています。

平成 17 (2005) 年から平成 22 (2010) 年にかけてと比較すると、いわき市で 5.8 ポイント、福島市で 2.2 ポイント、仙台市で 1.4 ポイント、盛岡市で 0.6 ポイント上昇しており、震災後の人口の変化の影響に留意する必要があります。

図－5 東北主要都市との人口及び人口の増減率の比較



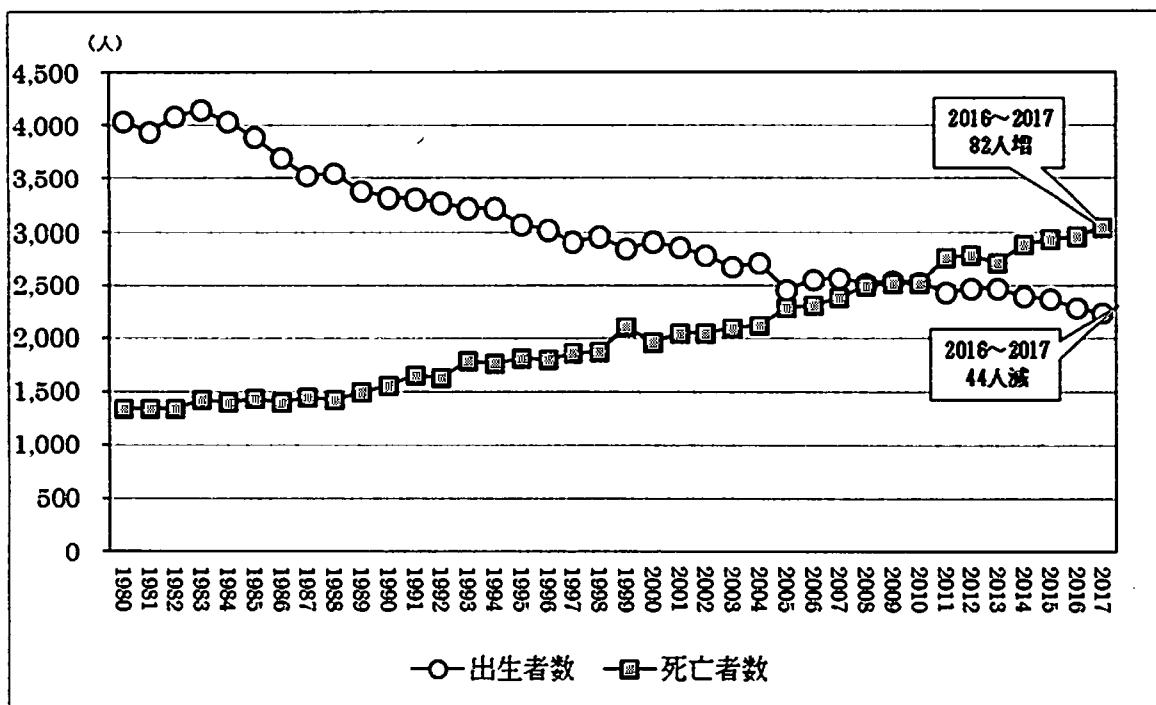
出所：国勢調査より本市作成

## 8 自然動態

本市の自然動態は、長期に渡って出生者数の減少と死亡者数の増加が同時に進行し、平成 23（2011）年以降マイナス幅は拡大を続けています。

なお、本統計は、各年 1月 1日から 12月 31日までを調査期間としており、10月 1日を基準日とする統計（図－2 参照）とは相違があります。

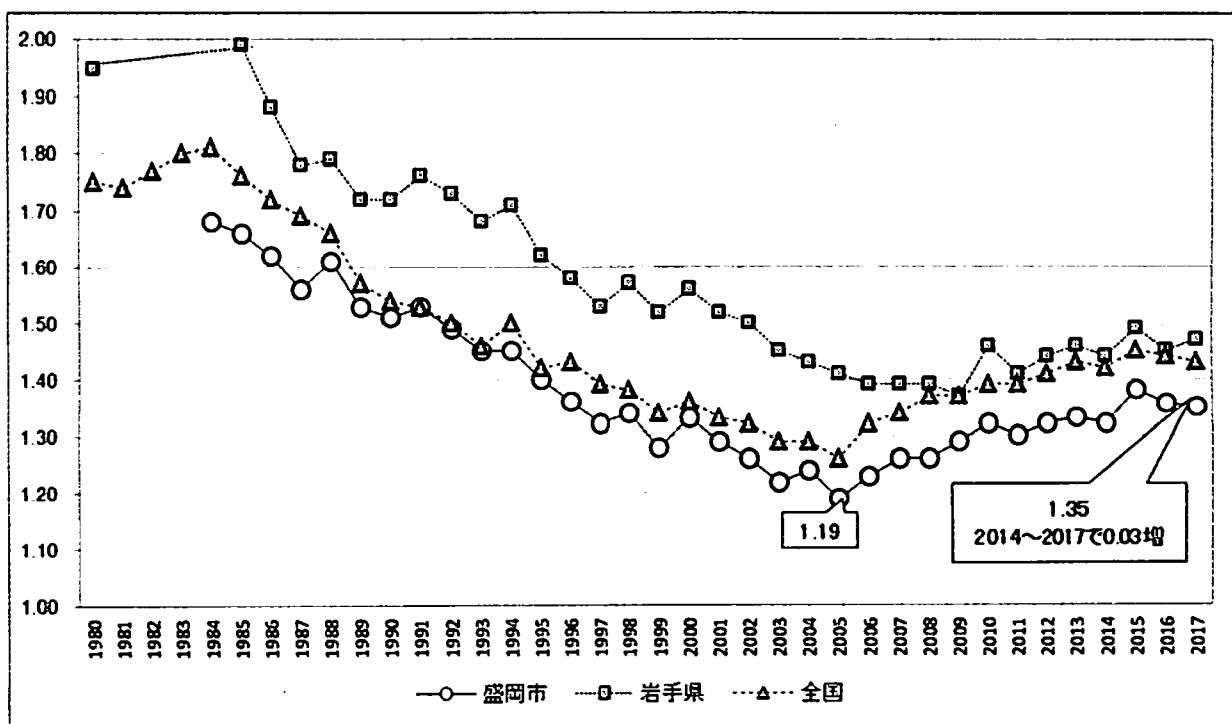
図－6 盛岡市の出生者数と死亡者数



出所：岩手県人口動態統計より本市作成

合計特殊出生率（15～49歳の女性の年齢別出生率を合計したもの）は、長期に渡って減少傾向にありました。平成 18（2006）年から上昇に転じ、平成 29（2017）年には 1.35 まで上昇しています。ただし、全国（1.43）及び岩手県（1.47）の値を下回っています。今後、合計特殊出生率の対象となる 15歳から 49歳までの女性の人数の減少が見込まれることや晩婚化、未婚率の上昇などを背景に、出生数は減少していくものと見込まれます。

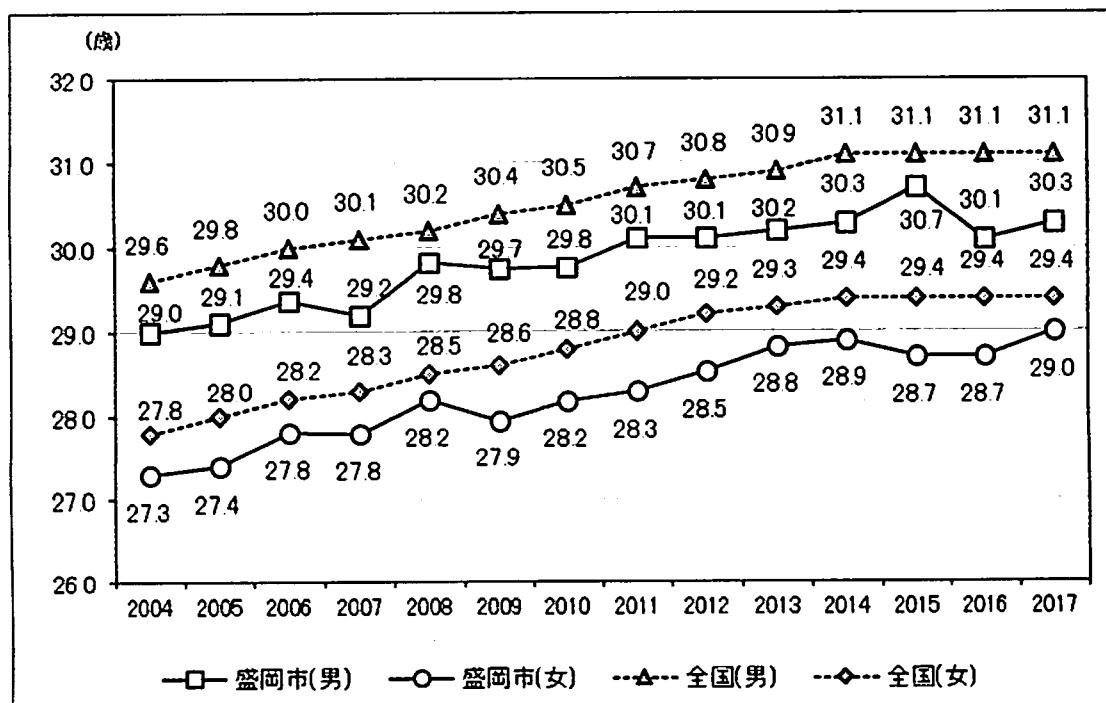
図－7 合計特殊出生率の推移



出所：岩手県人口動態統計より本市作成

盛岡市における初婚年齢は、男女とも全国を下回って推移していますが、徐々に晩婚化が進行し、平成 29（2017）年には、男性で 30.3 歳、女性では過去最高の 29.0 歳となりました。

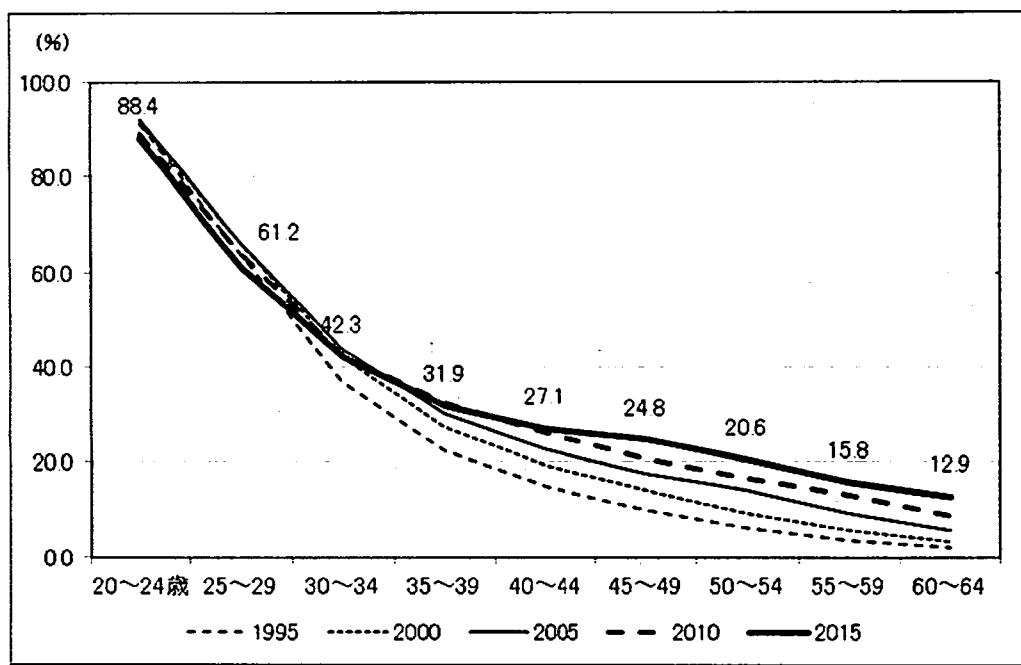
図－8 初婚年齢の推移



出所：岩手県保健福祉年報より本市作成

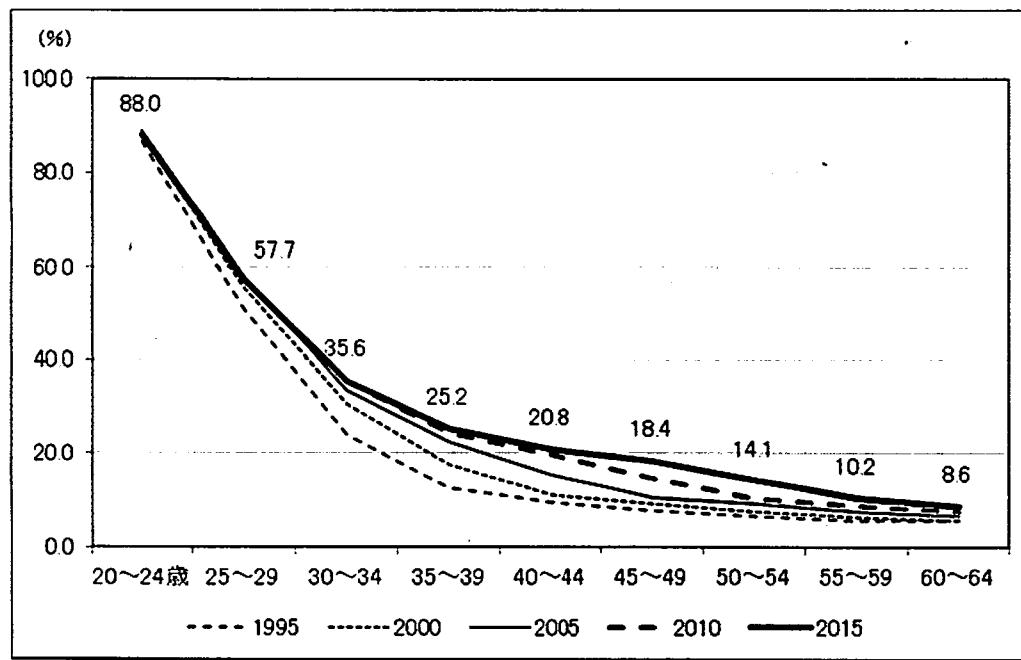
本市における平成 7（1995）年から平成 27（2015）年までの 20 年間の年代別未婚率は、男女で傾向が異なっています。男性は、20～24 歳及び 25 歳～29 歳の区分で未婚率が低下し、30 歳以上の区分で未婚率が上昇しています。女性は、20 歳以上の全ての区分で未婚率が上昇しており、婚姻していない女性の比率が増加傾向にあります。

図－9－1 盛岡市の年代別未婚率（男性）



出所：国勢調査より本市作成

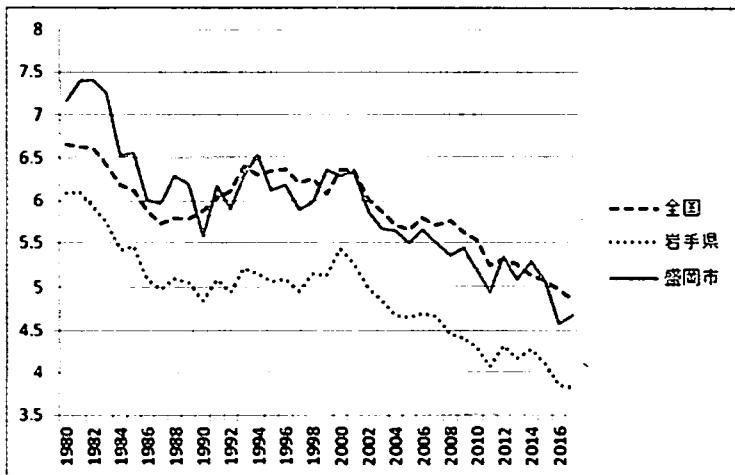
図－9－2 盛岡市の年代別未婚率（女性）



出所：国勢調査より本市作成

本市における昭和 55 (1980) 年から平成 29 (2017) 年までの婚姻率（人口千人対の婚姻件数）は、7.1 から 4.7 まで長期的に減少しています。

図－9－3 盛岡市の婚姻率（千人対）

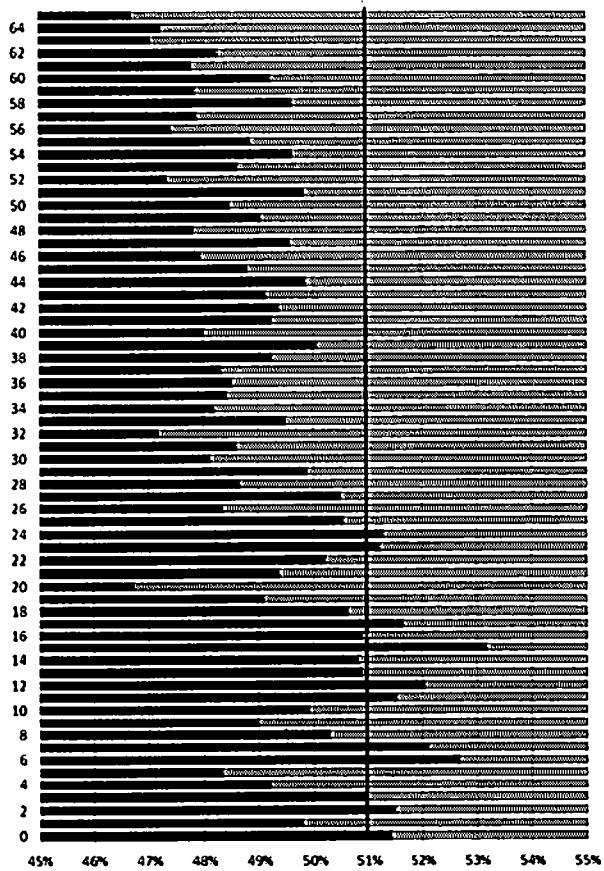


出所：岩手県人口動態統計より本市作成

全国の生産年齢人口の男女構成比は 50.3 : 49.7 で男性の人口が多いのに對し、本市の生産年齢人口の男女構成比は 49.0 : 51.0 で女性の人口が多く、婚姻していない女性の比率の増加に影響を与えているものと考えられます。

図－9－3 盛岡市の年齢別男女比（0-65 歳まで）

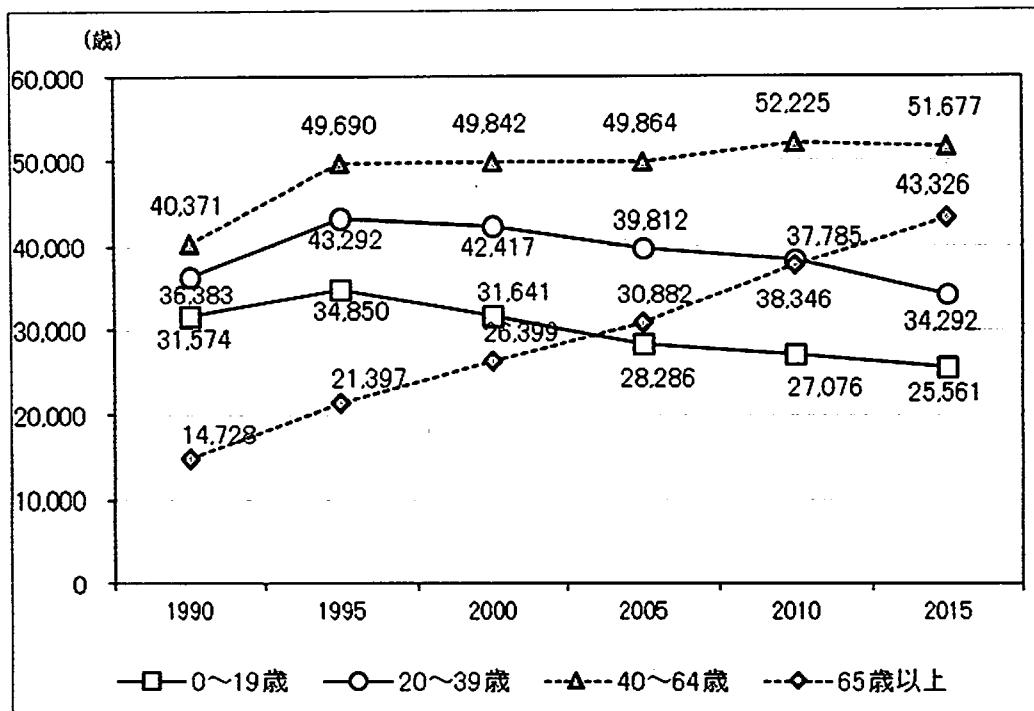
男女人口比、実人口2015年盛岡



出所：国勢調査により盛岡市まちづくり研究所作成

本市の女性人口は、結婚・妊娠・出産の中心となる20～39歳の年代と、それに続く0歳～19歳の年代で減少傾向にあります。

図-10 盛岡市の女性人口の推移

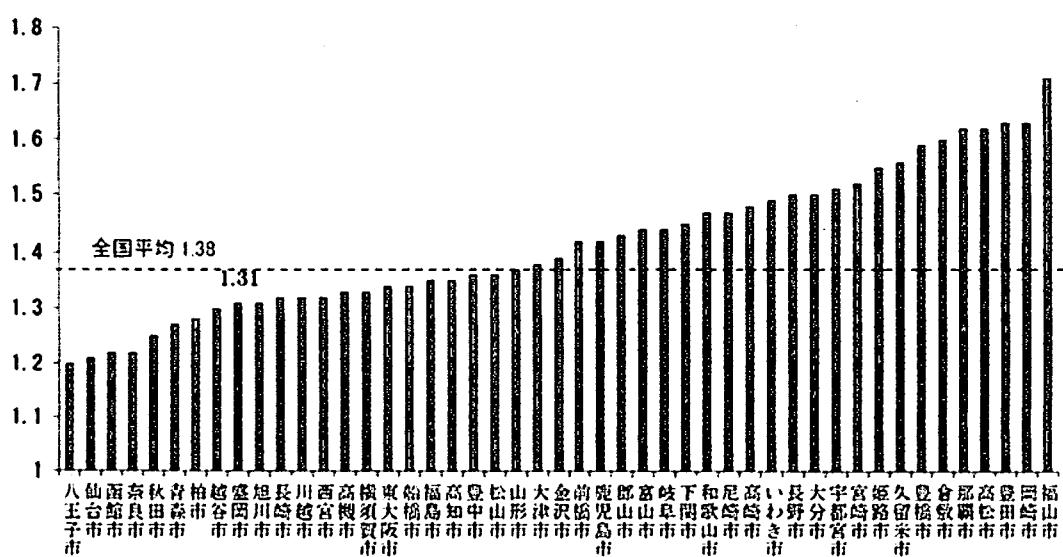


注)「年齢不詳」は除いています。

出所：国勢調査より本市作成

東北の主要都市及び中核市（47市）との合計特殊出生率の比較では、本市は、38番目の低い水準です。

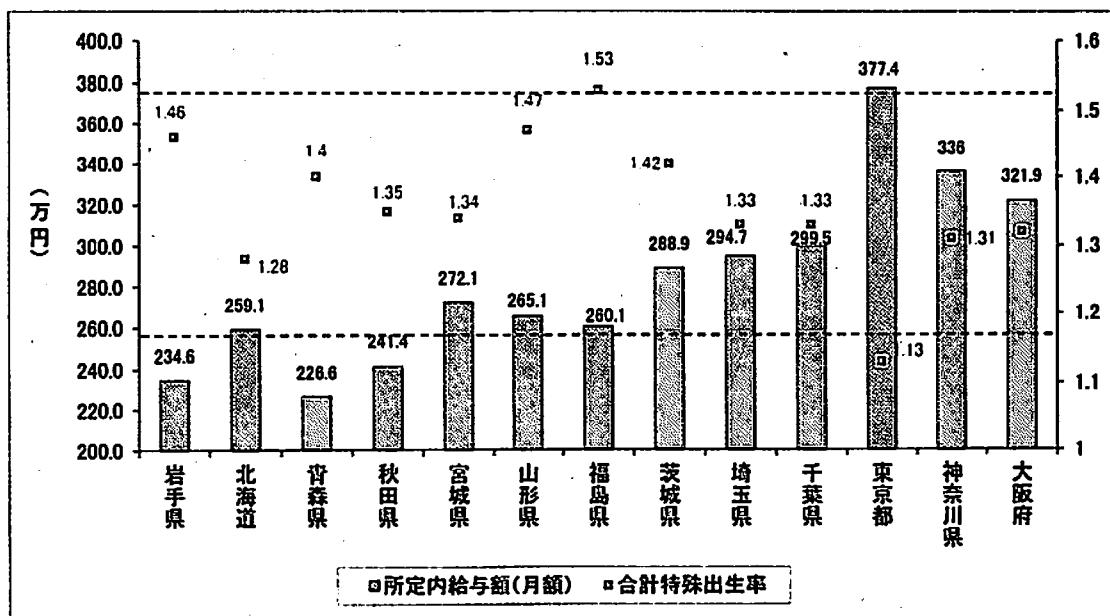
図-11 東北の主要都市及び中核市との合計特殊出生率の比較



出所：平成20～24年人口動態保健所・市町村別統計より本市作成

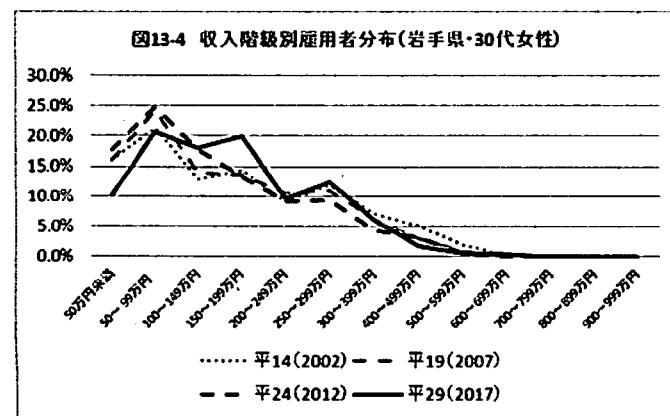
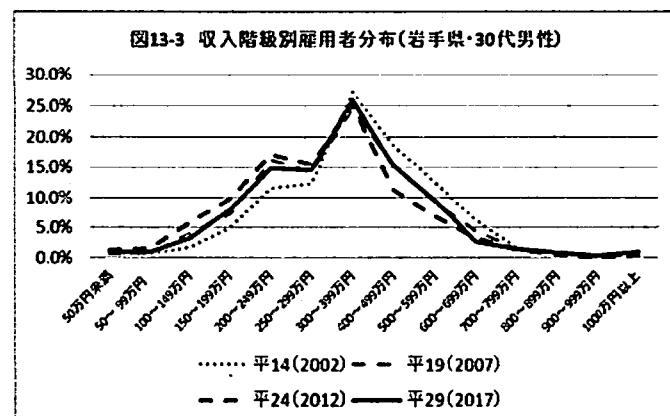
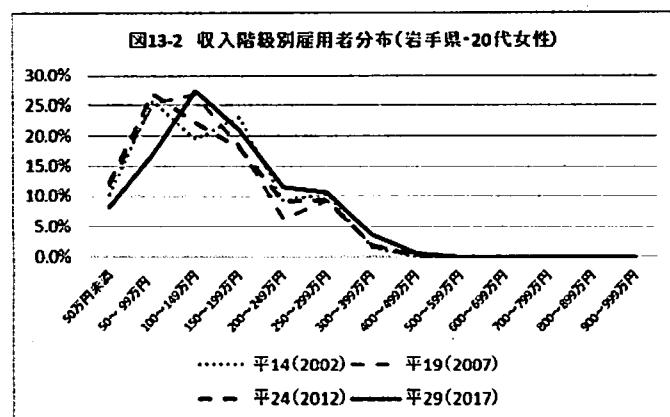
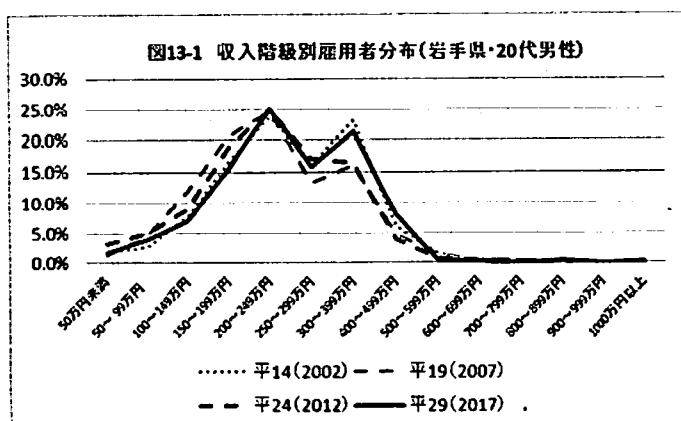
本市からの主な転出先（100人以上転出している都道府県）は、岩手県より給与額（月額）が高い地域が多く、また、岩手県より合計特殊出生率が低い地域が多くなっています。

図-12 盛岡市からの主な転出先の給与額（月額）と合計特殊出生率



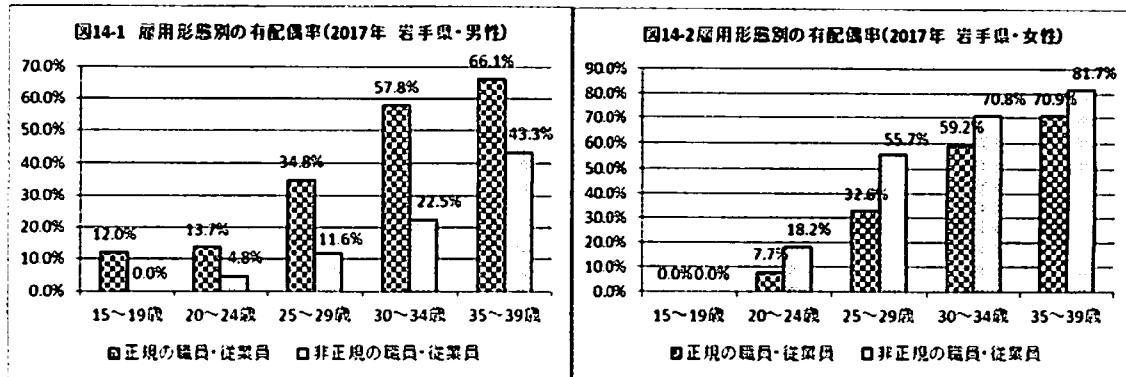
出所：平成 26（2014）年厚生労働省「賃金構造基本調査」、国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」及び厚生労働省「人口動態統計」より本市作成

岩手県の子育て世代の所得の分布は、平成14(2002)年から平成24(2012)年にかけて、より低い所得階層の比率が高くなっていますが、平成29(2017)年には改善傾向が見られます。



出所：いずれも「就業構造基本調査」より盛岡市作成

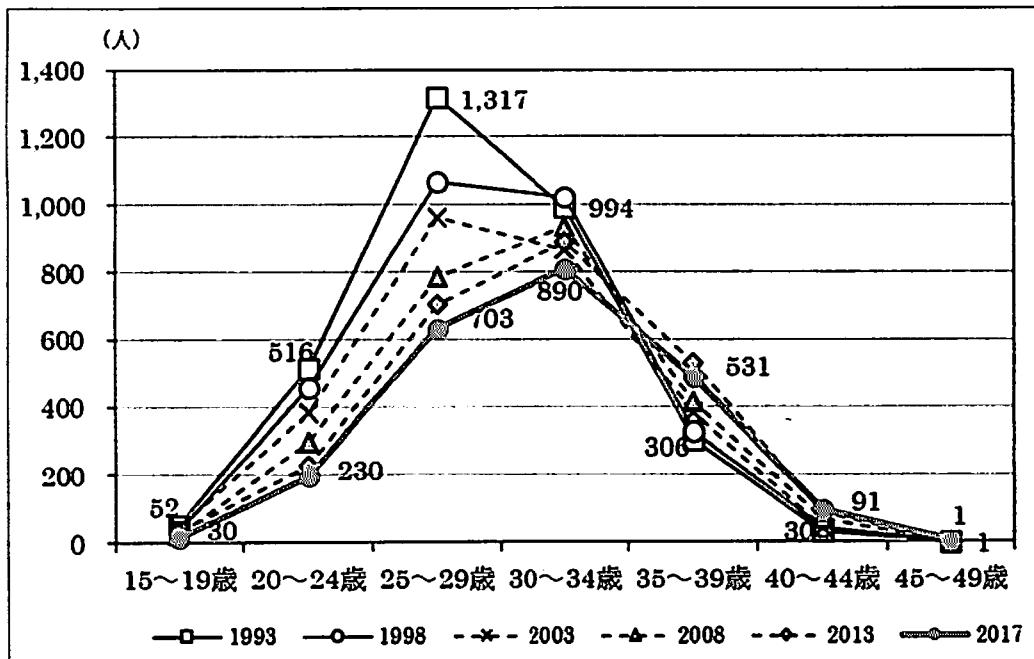
岩手県の男性の非正規の職員・従業員は、全国の傾向と同様に、正規の職員・従業員より有配偶率が低くなっています。



出所：いざれも「就業構造基本調査」より盛岡市作成

本市の年齢別出生数は、15歳から34歳までの年代で減少傾向にあり、35歳から44歳までの年代で増加傾向にありました。昭和46（1971）年から49（1974）年生まれのいわゆる団塊ジュニア世代による結婚・出産数の増加が背景にあるものと考えられます。平成29（2017）年には、35～39歳の出生数は減少しています。

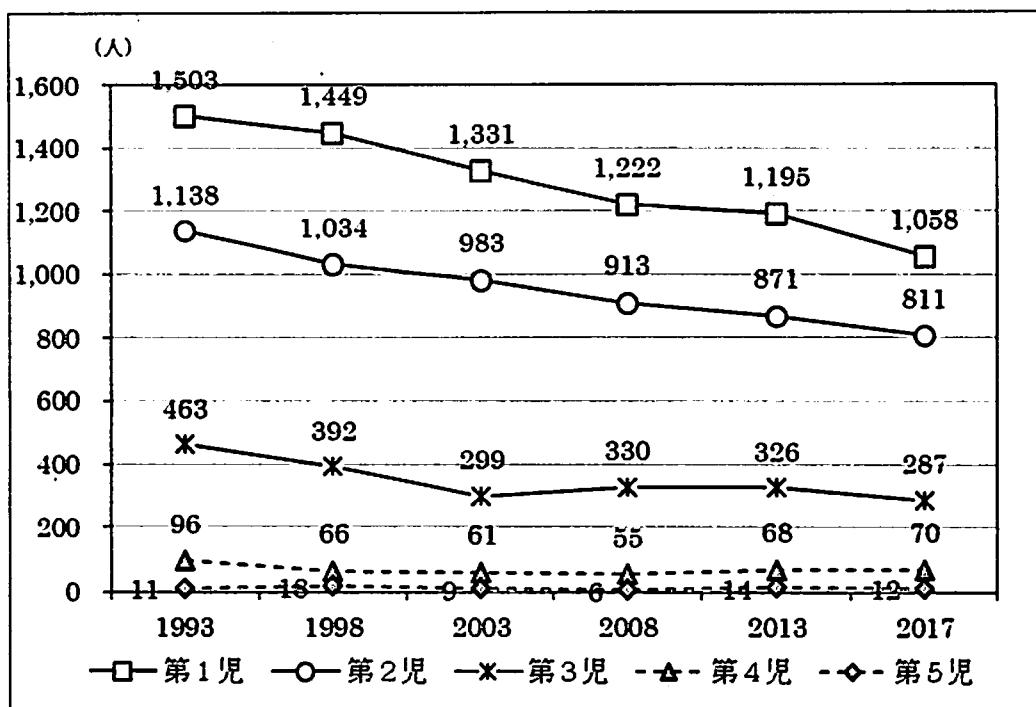
図-15 盛岡市の年齢別出生数



出所：岩手県保健福祉年報より本市作成

本市の出産順位別出生数は、第3児以降で横ばい傾向が見られますが、全体としては、減少傾向にあります。

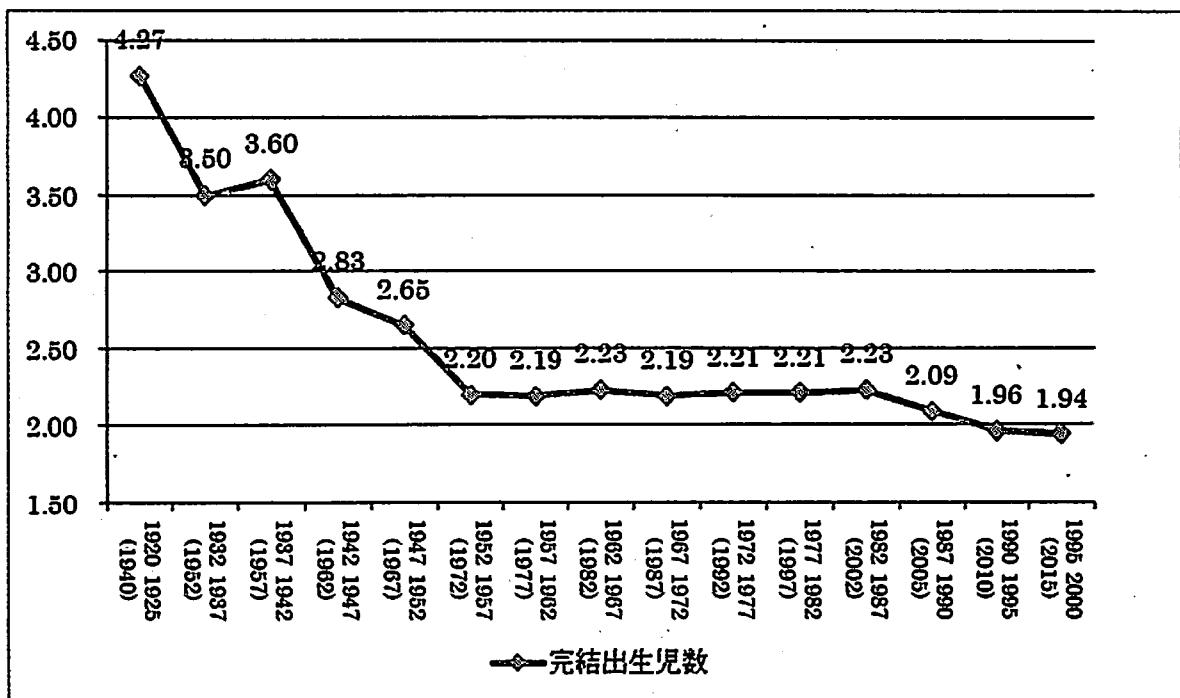
図-16 盛岡市の出産順位別出生数



出所：岩手県保健福祉年報より本市作成

全国の完結出生児数（結婚持続期間 15～19 年の夫婦の平均出生子ども数）は、長年 2.2 人程度で安定していたところ、平成 22（2010）年に初めて 2.0 人を下回り、減少傾向が続いています。

図-17 全国の完結出生児数

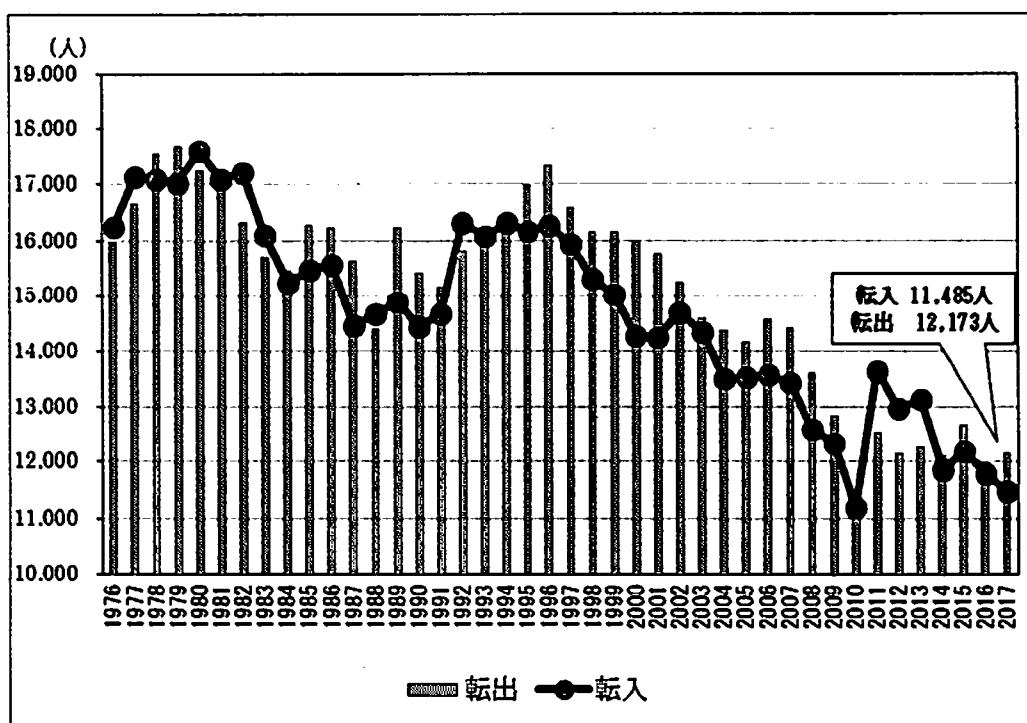


出所：国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」

## 9 社会動態

本市の社会動態は、平成 7（1995）年以降、500～1,000 人規模の転出超過が続いてきましたが、平成 23（2011）年から平成 25（2013）年にかけて転入超過に転じました。これは、東日本大震災の影響を受けて沿岸部等から避難者・移住者が流入したことや、復興需要による経済循環が生じ雇用が創出されたものと考えられます。平成 26（2014）年以降は転出超過が続いています。

図-18 盛岡市の社会増減の推移

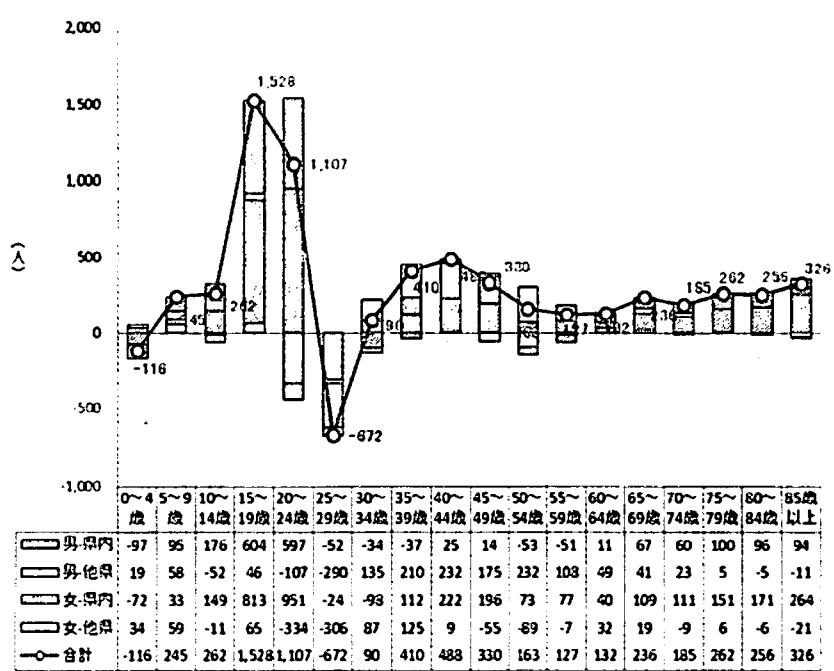


出所：「戸籍・住民基本台帳関係資料」より本市作成

年齢別及び地域別の社会増減では、15歳から24歳までの高校・大学等への進学期において県内他地域を中心とした顕著な転入超過があり、25歳から29歳までの就職期、結婚・出産期に、県外及び県内他地域へ男女のすべての区分で転出超過しています。また、移動数は少ないものの30歳以上の世代では、転入が超過している傾向が見られます。

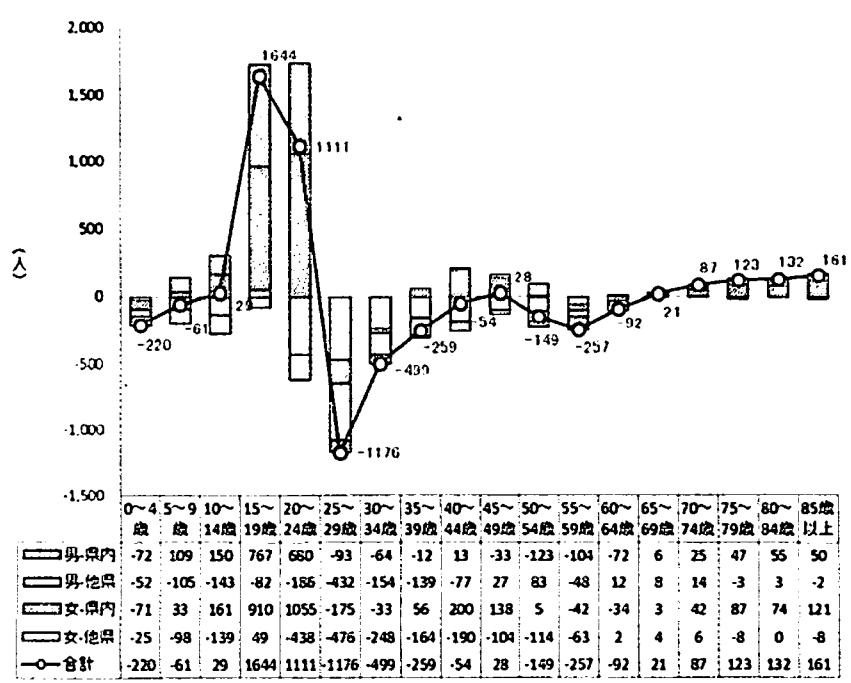
なお、図19-1においては、移動状況不詳△4,961人（転入1,615人、転出6,576人）を除いていることに留意が必要です。

図-19-1 盛岡市の年齢別地域別社会移動の状況（移動状況不詳を除く）



出所：平成27（2015）年国勢調査より本市作成

【参考】 盛岡市の年齢別地域別社会移動の状況（H22国勢調査）

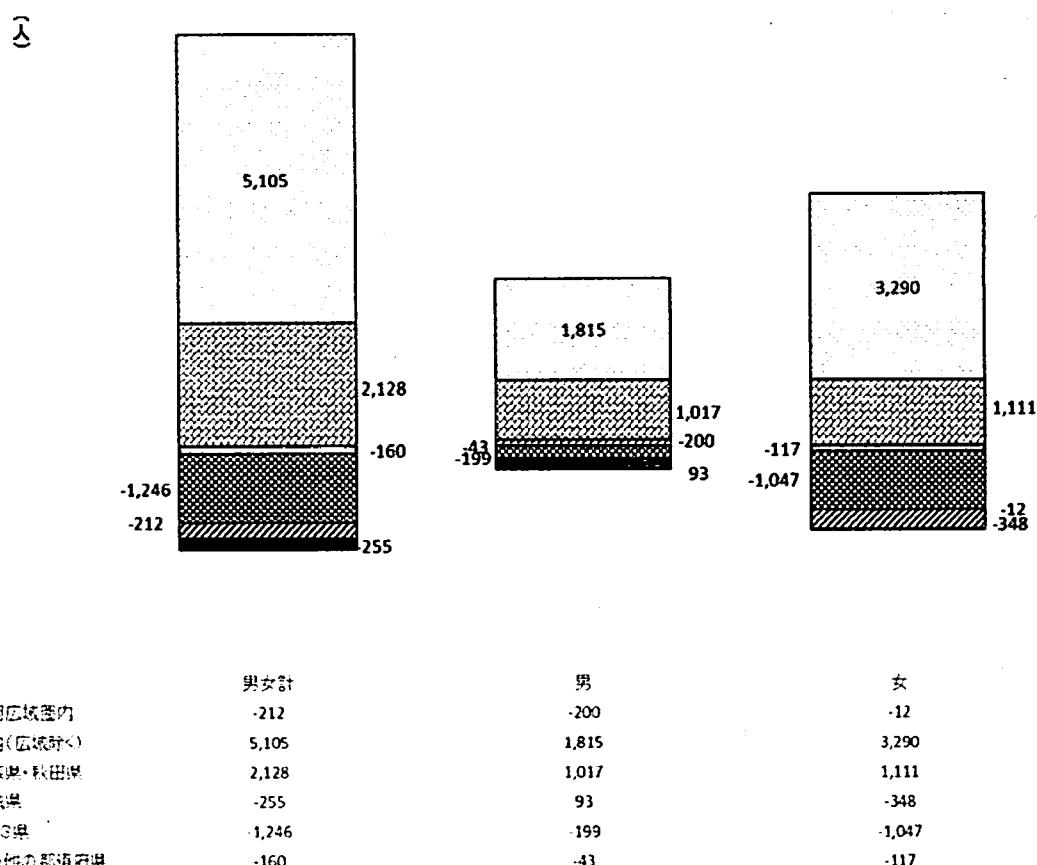


出所：平成22（2010）年国勢調査より本市作成

地域別の社会移動をさらに詳しく見ると、男女ともに県内他地域及び青森県・秋田県に対して転入が超過しており、一方で、宮城県・首都圏に対して転出が超過しています。

なお、図19-2においては、移動状況不詳△4,961人（転入1,615人、転出6,576人）を除いていることに留意が必要です。

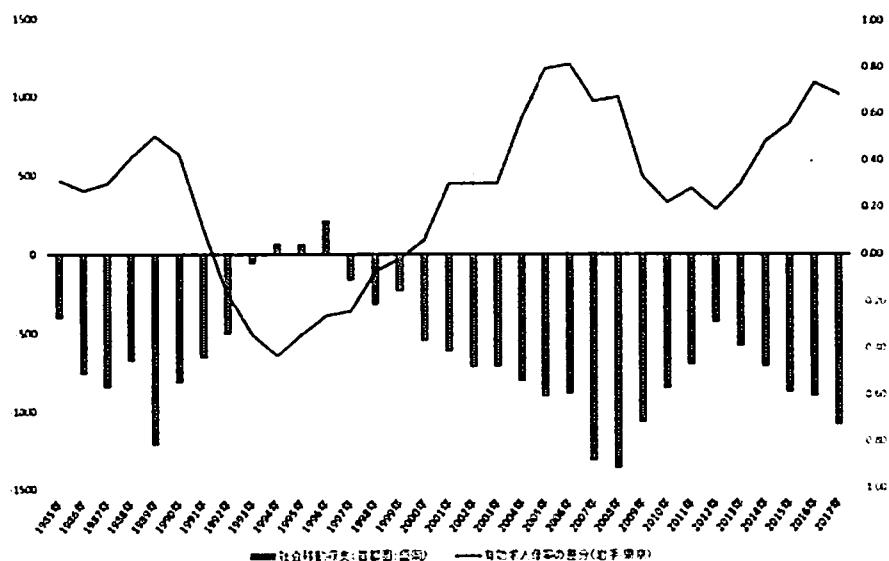
図-19-2 盛岡市の移動地域別社会移動（移動状況不詳、国外移動を除く）



出所：平成27（2015）年国勢調査より本市作成

本市と東京圏の間の社会動態は、有効求人倍率の差（岩手－東京）と逆相関の関係にあり、東京の求人倍率が岩手の求人倍率より相対的に高くなるほど転出超過が拡大する傾向が見られ、仕事の多様性が東京圏への転出超過の要因の一つになっていると考えられます。

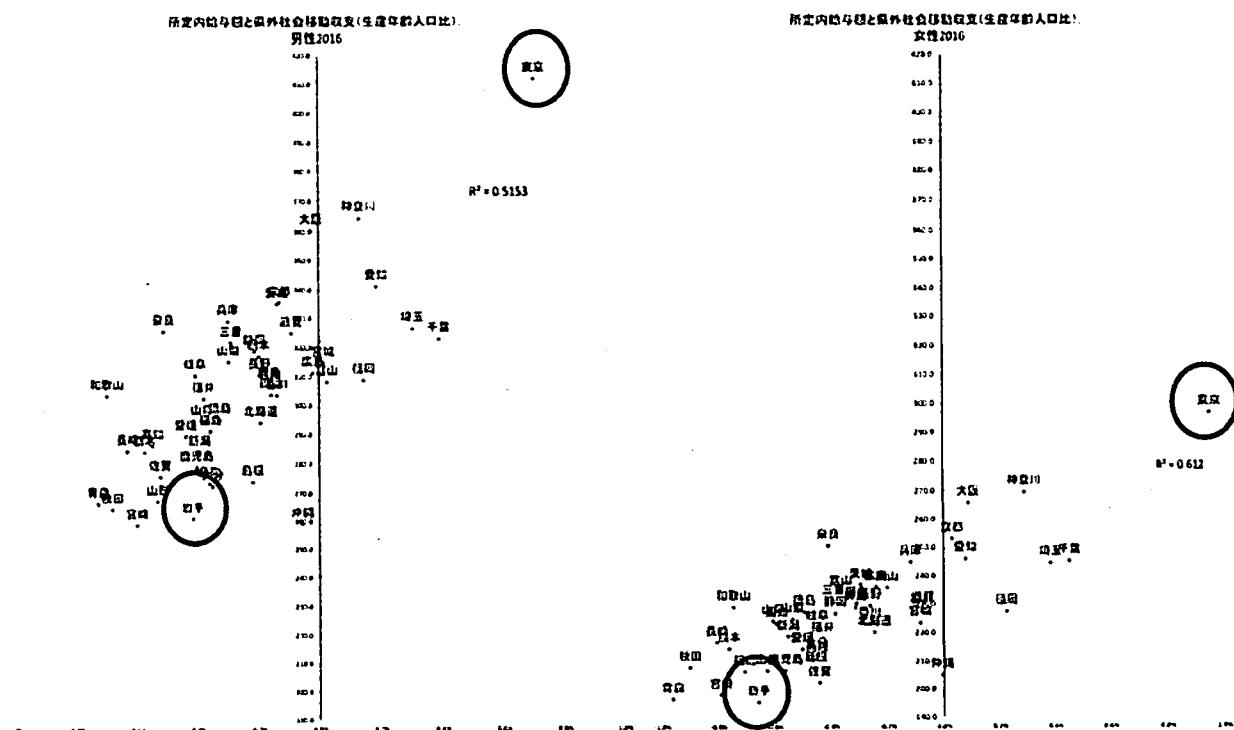
図-20-1 有効求人倍率と社会移動



出所：岩手県人口移動報告年報及び一般職業紹介状況より盛岡市まちづくり研究所作成

都道府県単位では、所定内給与額が低い地域から高い地域に人口移動する傾向がみられます。男性と女性では、女性の相関係数がより高いことから、所定内給与額の差は、女性の社会移動に対してより大きい影響を与えているものと考えられます。

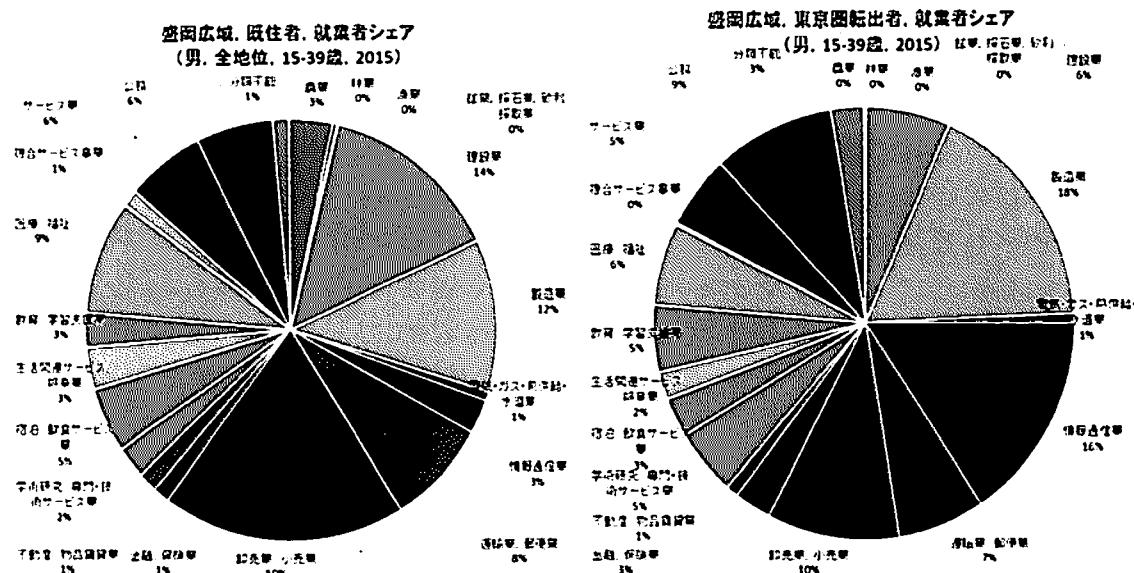
図-20-2 所定内給与額と社会移動



出所：住民基本台帳人口移動報告及び賃金構造基本統計調査によりまちづくり研究所作成

盛岡広域の若者男性が就業している産業は、卸売・小売、建設業、医療・福祉の比率が高い傾向が見られます。一方で、東京圏に転出した若者男性の就業では、製造業や情報通信業の比率が高い傾向が見られ、希望する業種を求めて転出しているものと考えられます。

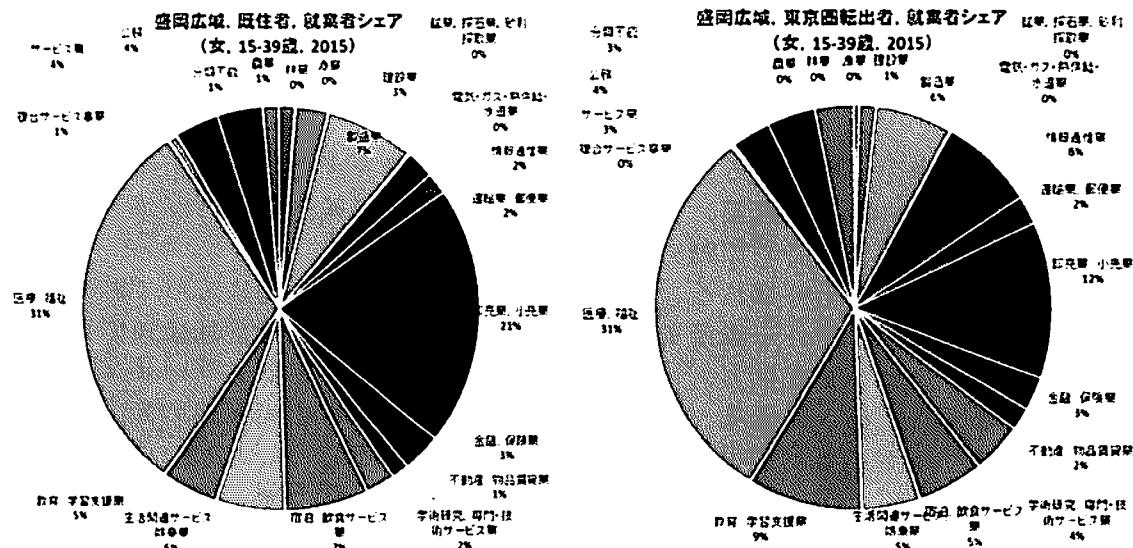
図-20-3 広域居住者と転出者が就業している産業の違い（15-39歳、男性）



出所：国勢調査により盛岡市まちづくり研究所作成

盛岡広域の若者女性が就業している産業は、卸売・小売、医療・福祉の比率が高い傾向が見られます。一方で、東京圏に転出した若者女性の就業では、情報通信業や教育学習支援業の比率が高い傾向が見られますが、男性ほど大きなばらつきがなく、同じ業種の中でより魅力的な待遇を求めて転出しているものと考えられます。

図-20-4 広域居住者と転出者が就業している産業の違い（15-39歳、女性）



出所：国勢調査により盛岡市まちづくり研究所作成

地域の産業を「域外市場産業<sup>注1</sup>（基盤産業）」と「域内市場産業<sup>注2</sup>（非基盤産業）」の二つに分類した場合、平成 21（2009）年「経済センサス」（総務省）における全国の市（特別区を含む。）における従業者の存在比率は 1 : 5.5 ですが、平成 26（2014）年「経済センサス」に基づく盛岡市における同存在比率は 1 : 13.41<sup>注3</sup> と域内市場産業の構成比が極めて高くなっています。また、盛岡広域における同存在比率は 1 : 6.34 となっています。<sup>注3</sup>

盛岡広域における同存在比率が、盛岡市における同存在比率よりも全国の値に近似していることは、盛岡市以外の広域市町では域外市場産業により域外から外貨を獲得し、その獲得された外貨が盛岡市の域内市場産業に循環しているということを示しており、実態として盛岡広域における経済は一体になっていることを示しています。また、盛岡広域における同存在比率が日本全国の同存在比率を上回っていることは、広域を超えて岩手県内で獲得された外貨が盛岡市に循環していることを示しています。これらのことから、盛岡市の産業は、岩手県内と広域市町の域外市場産業に大きく依存していると言えます。

#### 盛岡市の基盤・非基盤産業比率

区分	産業の例	従業者数(人)
基盤産業(Lb)	農林漁業、鉱業・採石業・砂利採取業、製造業、水運業、航空輸送業、倉庫業、運輸に付帯するサービス業、宿泊業、国家公務	10,882
非基盤産業(Ln)	その他の産業	156,849
	$a = (Ln/Lb) - 1 = \text{基盤・非基盤比率}$	13.41

#### 盛岡広域の基盤・非基盤産業比率

区分	産業の例	従業者数(人)
基盤産業(Lb)	農林漁業、鉱業・採石業・砂利採取業、製造業、水運業、航空輸送業、倉庫業、運輸に付帯するサービス業、宿泊業、国家公務	28,509
非基盤産業(Ln)	その他の産業	209,232
	$a = (Ln/Lb) - 1 = \text{基盤・非基盤比率}$	6.34

出所：経済センサスにより盛岡市まちづくり研究所作成

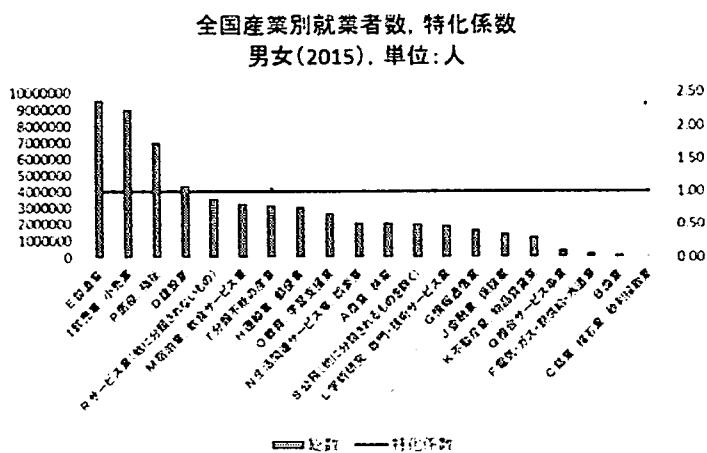
注1 基盤産業とも呼ばれる。地域の外にいる需要者を主たる販売市場とした産業で、一般的には農林漁業、鉱業、製造業、宿泊業、広域の輸送業などが該当する。域外市場産業は地域経済成長の原動力で所得の源泉となる

注2 非基盤産業とも呼ばれる。地域内で発生する様々な需要に応じて財やサービスを生産する産業で、域外市場産業の生産活動からの派生需要や地域住民の日常生活に必要な財・サービスを提供し、一般には建設業、小売業、対個人サービス、公共的サービス、公務、金融・保険業、不動産業などを指す。域外市場産業の派生需要で生まれる産業で、一般に域内市場産業は人口に比例的である。

注3 基盤産業は、中分類の中から、農林漁業、鉱業・採石業・砂利採取業、製造業、水運業、航空輸送業、倉庫業、運輸に付帯するサービス業、宿泊業、国家公務を抽出した。

全国の総就業者数では、製造業（16.2%）の構成比がもっとも大きくなっています。卸売業、小売業（15.3%）、医療、福祉（11.9%）、建設業（7.4%）が続き、この4産業で全体の約半数を構成しています。さらにサービス業（6.0%）、宿泊、飲食サービス業（5.5%）、分類不能の産業（5.3%）が続き、全体の約2/3を構成しています。域外市場産業（基盤産業）の構成比が最も大きく、派生需要により域内市場産業（非基盤産業）が発展している傾向が読み取れます。

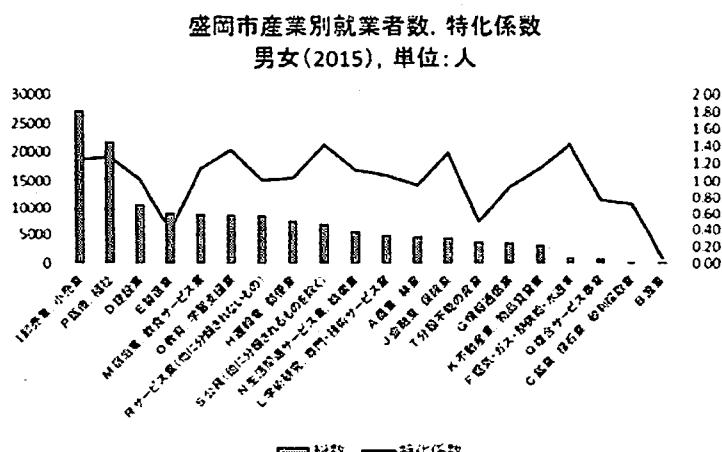
図-20-5 全国の産業別就業者



出所：国勢調査により盛岡市まちづくり研究所作成

盛岡市の総就業者数では、卸売業、小売業（19.1%）の構成比がもっとも大きく、医療、福祉（15.3%）、建設業（7.5%）、製造業（6.3%）が続き、この4産業で全体の約半数を構成しています。さらに宿泊業、飲食サービス業（6.3%）、教育、学習支援業（6.1%）、サービス業（6.1%）が続き、全体の2/3を構成しています。全国平均を1とした特化係数で見ると、卸売業、小売業（1.25）、医療、福祉（1.28）、建設業（1.02）、宿泊業、飲食サービス業（1.14）、教育、学習支援業（1.35）、サービス業（1.01）、運輸業、郵便業（1.04）、公務（1.42）、生活関連サービス、娯楽業（1.12）、学術研究、専門・技術サービス業（1.07）、金融業、保険業（1.33）、不動産業、物品賃貸業（1.15）、電気・ガス・熱供給・水道業（1.43）が1を超過している一方で、全国でもっとも多い構成比を占める製造業（0.39）の特化係数は低くなっています。

図-20-5 盛岡市の産業別就業者

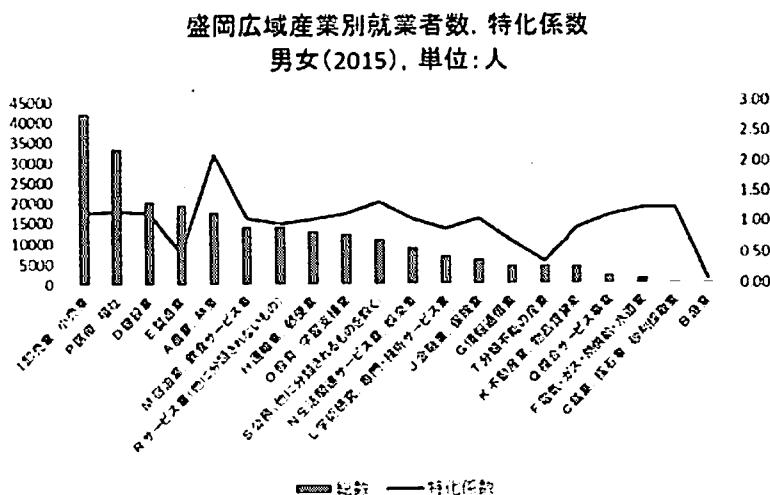


出所：国勢調査により盛岡市まちづくり研究所作成25

盛岡広域の総就業者数では、卸売業、小売業（17.8%）の構成比がもっとも大きく、医療、福祉（14.1%）、建設業（8.6%）、製造業（8.2%）の4産業で全体の約半数を構成しています。農業、林業（7.5%）、宿泊業、飲食サービス業（5.9%）、サービス業（5.9%）まで全体の2/3を構成しています。盛岡と比較すると、農業、林業など域外市場産業（基盤産業）の比率が高まっています。

特化係数で見ると、卸売業、小売業（1.17）、医療、福祉（1.18）、建設業（1.17）、農業、林業（2.12）、宿泊業、飲食サービス業（1.08）、運輸業、郵便業（1.06）、教育、学習支援業（1.14）、公務（1.34）、金融業、保険業（1.05）、複合サービス事業（1.12）、電気・ガス・熱供給・水道業（1.23）、鉱業、採石業、砂利採取業（1.23）が全国平均である1を超過しています。特化係数が盛岡市より高くなっている産業は、建設業、製造業、農業、林業、複合サービス事業、鉱業、採石業、砂利採取業、漁業で、域外市場産業（基盤産業）の構成が高くなっています。ただし、全国的に最も高い構成比を持つ製造業（0.51）は、漁業（0.07）及び分類不能の産業（0.37）を除き、最も低い特化係数となっています。

図-20-6 盛岡広域の産業別就業者



出所：国勢調査により盛岡市まちづくり研究所作成

本市への転入者の主な理由を年代別に見ると、20代から50代では「転勤」で移動する割合が最も高く、仕事上の理由で移動する割合が高くなっています。

仕事の関係以外の理由を見ると、10代では「進学・卒業等」の割合が最も高く、20代、30代では「結婚・離婚」の割合が高く、40代から60代では「住宅事情」の割合が高くなっています。

表-5 年代別の異動の主な理由（盛岡市に転入）

区分	総数	異動の主な理由								
		仕事の関係				進学・卒業等	結婚・離婚	家族と同居	住宅事情	
		転勤	転業・転職	就職	家業後継					
10代	65 (100.0)	2 (3.1)	3 (4.6)	8 (12.3)	0 (0.0)	42 (64.6)	0 (0.0)	2 (3.1)	3 (4.6)	5 (7.7)
20代	624 (100.0)	165 (26.4)	129 (20.7)	119 (19.1)	2 (0.3)	35 (5.6)	73 (11.7)	28 (4.5)	34 (5.4)	39 (6.3)
30代	464 (100.0)	247 (53.2)	58 (12.5)	7 (1.5)	3 (0.6)	5 (1.1)	56 (12.1)	20 (4.3)	39 (8.4)	29 (6.3)
40代	245 (100.0)	161 (65.7)	18 (7.3)	4 (1.6)	0 (0.0)	4 (1.6)	8 (3.3)	8 (3.3)	22 (9.0)	20 (8.2)
50代	131 (100.0)	73 (55.7)	10 (7.6)	2 (1.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (3.1)	7 (5.3)	19 (14.5)	16 (12.2)
60代	24 (100.0)	1 (4.2)	3 (12.5)	2 (8.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (8.3)	4 (16.7)	7 (29.2)	5 (20.8)
70歳以上	8 (100.0)	1 (12.5)	1 (12.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (12.5)	1 (12.5)	4 (50.0)
合計	1,561 (100.0)	650 (41.6)	222 (14.2)	142 (9.1)	5 (0.3)	86 (5.5)	143 (9.2)	70 (4.5)	125 (8.0)	118 (7.6)

出所：平成21（2009）年盛岡市人口移動理由実態調査報告書

本市からの転出者の主な理由を年代別に見ると、20代では「就職」で移動する割合が最も高く、30代から50代では「転勤」で移動する割合が最も高く、仕事上の理由で移動する割合が高くなっています。

仕事の関係以外の理由を見ると、10代では「進学・卒業等」の割合が最も高く、20代、30代では「結婚・離婚」の割合が高く、40代から50代では「住宅事情」の割合が高く、60代以上で「家族と同居」の割合が高くなっています。

表-6 年代別の異動の主な理由（盛岡市から転出）

区分	総数	異動の主な理由								
		仕事の関係				進学・卒業等	結婚・離婚	家族と同居	住宅事情	
		転勤	転業・転職	就職	家業後継					
10代	133 (100.0)	2 (1.5)	2 (1.5)	39 (29.3)	0 (0.0)	78 (58.6)	4 (3.0)	7 (5.3)	0 (0.0)	1 (0.8)
20代	723 (100.0)	168 (23.2)	102 (14.1)	197 (27.2)	5 (0.7)	33 (4.6)	87 (12.0)	51 (7.1)	40 (5.5)	40 (5.5)
30代	472 (100.0)	241 (51.1)	61 (12.9)	8 (1.7)	3 (0.6)	2 (0.4)	54 (11.4)	39 (8.3)	47 (10.0)	17 (3.6)
40代	237 (100.0)	143 (60.3)	28 (11.8)	1 (0.4)	1 (0.4)	4 (1.7)	11 (4.6)	19 (8.0)	20 (8.4)	10 (4.2)
50代	153 (100.0)	84 (54.9)	17 (11.1)	0 (0.0)	3 (2.0)	1 (0.7)	5 (3.3)	7 (4.6)	23 (15.0)	13 (8.5)
60代	50 (100.0)	4 (8.0)	3 (6.0)	0 (0.0)	3 (6.0)	0 (0.0)	1 (2.0)	17 (34.0)	10 (20.0)	12 (24.0)
70歳以上	21 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	14 (66.7)	1 (4.8)	6 (28.6)
合計	1,789 (100.0)	642 (35.9)	213 (11.9)	245 (13.7)	15 (0.8)	118 (6.6)	162 (9.1)	154 (8.6)	141 (7.9)	99 (5.5)

出所：平成21（2009）年盛岡市人口移動理由実態調査報告書

## 第2章 人口の変化が地域の将来に与える影響

### 1 経済・産業への影響

人口減少・少子高齢化による生産年齢人口の減少は、産業の担い手の減少や消費の縮小などを招き、経済成長にブレーキをかける大きな要因となります。

内閣府の県民経済計算によれば、平成 12（2000）年から平成 27（2015）年にかけて、宮城県を除く東北各県の県内総生産は減少しています。

表-7-1 東北 6 県の県内総生産

単位:100 万円

	2000 年	2015 年	差分	人口増減率
青森県	4,679,475	4,460,354	△219,121 (△4.68%)	△11.4%
岩手県	5,007,946	4,547,322	△460,624 (△9.20%)	△9.6%
宮城県	8,866,878	9,264,192	397,314 (+4.48%)	△1.3%
秋田県	3,991,373	3,264,796	△726,577 (△18.2%)	△14.0%
山形県	4,350,795	3,870,403	△480,392 (△11.0%)	△9.6%
福島県	8,242,261	7,498,311	△743,950 (△9.0%)	△10.0%

注) 県民経済計算は、生産側、実質。

出所：内閣府「国民経済計算」

経済産業省の地域経済研究会報告書（平成 17 年）によれば、本市を中心とする経済圏域の令和 12（2030）年の域内総生産は、平成 12（2000）年との比較で、4.9% 減少するものと試算されています。

特に、県内や経済圏域内の住民や法人の需要に応える第 3 次産業中心の本市経済は、人口の増加に支えられて発展してきた側面がありますが、地域経済研究会報告書においても、域内市場の産業生産額はマイナスが見込まれています。

表-7-2 東北 6 都市の地域経済の将来推計

（単位：億円、%）

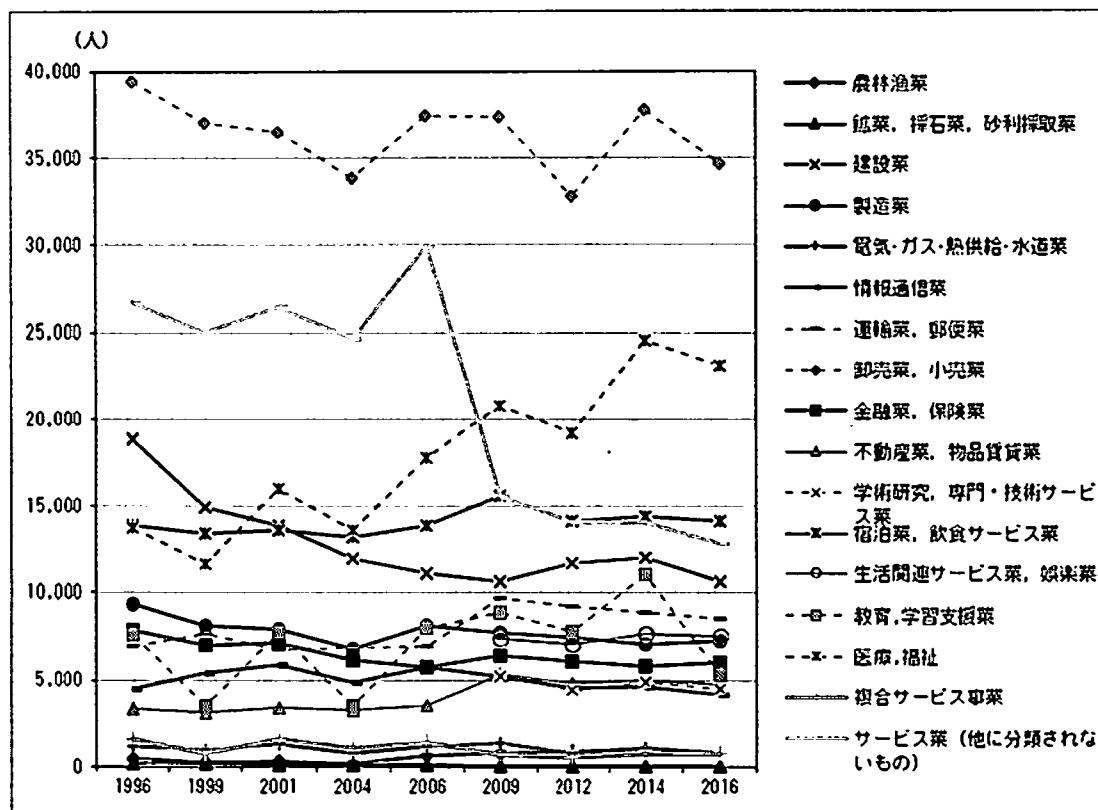
都市圏名	域内総生産			域外市場産業生産額変化率	域内市場産業生産額変化率	人口変化率
	2000 年	2030 年	変化率			
青森市	12,702	10,708	-15.7	-16.0	-15.6	-24.4
秋田市	17,764	15,211	-14.4	-15.8	-14.0	-23.0
盛岡市	19,515	18,568	-4.9	3.0	-6.8	-16.0
仙台市	64,149	66,905	4.3	11.0	2.2	-8.8
山形市	18,769	17,137	-8.7	-7.7	-9.0	-16.9
福島市	15,893	15,484	-2.6	-2.3	-2.7	-13.8

出所：平成 17 年経済産業省「地方経済研究会報告書」

本市の産業別従事者数を見ると、卸売業、小売業が突出して高い水準にあるものの、近年医療・福祉関係の従事者が増加傾向にあり、全体の構成比も高まっています。

今後、高齢化の進行に伴い、医療・介護などのサービスの需要が高まることが予想されると同時に、これらを担う人材が不足していくことが懸念されます。

図-21 盛岡市の産業別従業者数の推移



出所：総務省「事業所・企業統計調査報告」、総務省・経済産業省「経済センサスー基礎調査」「経済センサスー活動調査」より本市作成

盛岡地区の求人件数のうち正社員の求人割合は、他地区と比較して低い水準にあります。これは、非正規雇用の比率が高い第3次産業中心の産業構造を反映しているものと考えられます。

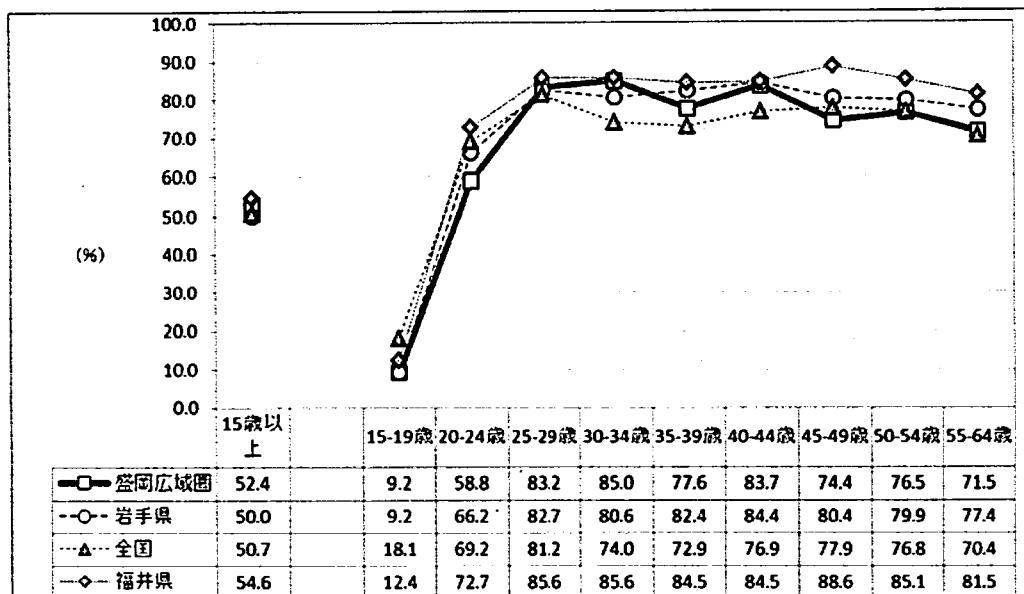
表－8 公共職業安定所管内ごとの有効求人倍率

項目 所別	有効求人倍率(倍)			正社員構成比(%)			
	全体	うち正社員		新規求人件数に 占める割合	就職件数に 占める割合		前年 同月差
		前年 同月差	前年 同月差		前年 同月差	前年 同月差	
盛岡	1.26	0.76	▲ 0.01	35.8	2.2	35.4	▲ 3.6
釜石	1.06	0.75	▲ 0.16	43.6	5.0	30.3	6.4
宮古	1.13	0.86	▲ 0.14	47.3	▲ 4.9	38.7	1.9
花巻	1.43	0.87	▲ 0.08	34.3	▲ 6.8	37.0	▲ 4.5
一関	1.17	0.82	▲ 0.01	39.2	0.8	27.1	▲ 10.7
水沢	1.45	1.17	0.04	55.7	3.7	38.9	▲ 8.7
北上	1.74	1.04	▲ 0.08	36.6	▲ 7.6	37.8	0.4
大船渡	1.54	1.15	0.19	50.5	9.4	38.7	9.1
二戸	1.17	0.80	▲ 0.03	44.4	1.1	31.8	7.6
久慈	1.12	0.82	▲ 0.06	47.0	3.0	41.2	1.8

出所：岩手労働局資料（平成30（2018）年6月）より本市作成

盛岡広域圏の女性の有業率は、30歳から44歳区分までは全国平均を大きく上回っていますが、45歳以上では大きな差はありません。比較の対象とした福井県では、25～54歳区分で85%前後の有業率となっています。岩手県では、同区分で80%前後の有業率となっています。本市では子育て世代の35～39歳区分で80%を切りますが、25歳～34歳、40～44歳区分で80%を超えてます。

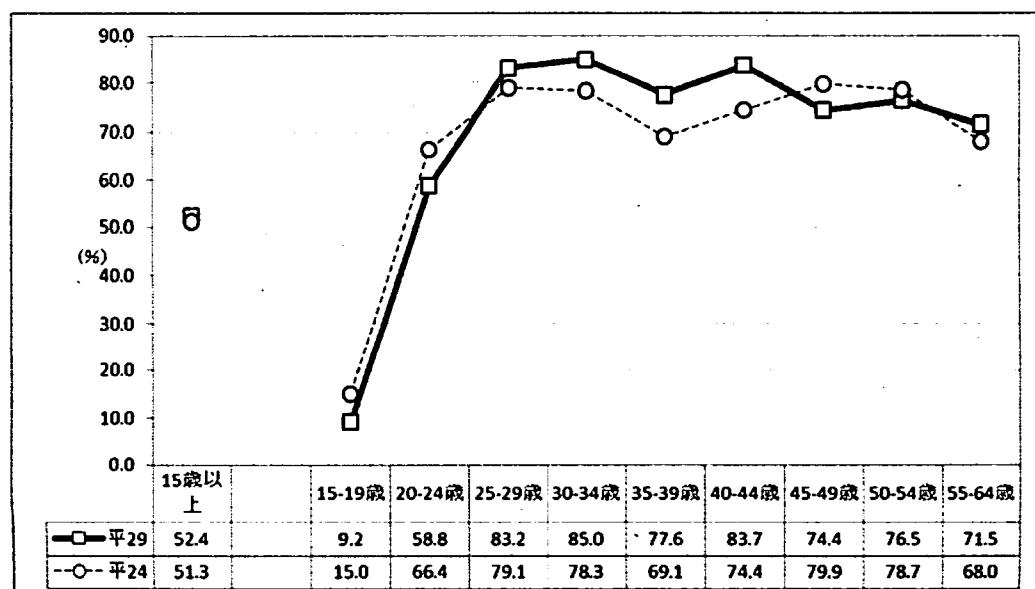
図22-1 盛岡広域圏、岩手県、全国、福井県の女性の有業率



出所：「平成 29（2017）年就業構造基本調査」より、本市作成

盛岡広域圏の女性の有業率の変化を平成 24（2012）年と平成 29（2017）年で比較すると、25歳～44歳区分で有業率が上昇するとともに、M字カーブの谷が浅くなっている傾向が読み取れます。

図22-2 盛岡広域圏の女性の有業率の変化



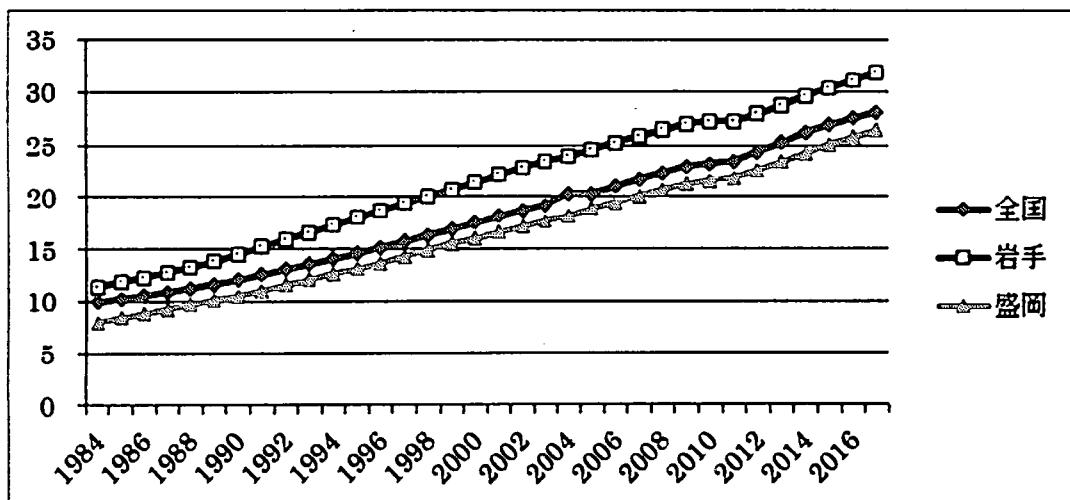
出所：「平成 24（2012）年就業構造基本調査」及び「平成 29（2017）年就業構造基本調査」  
より本市作成

## 2 医療・介護・福祉への影響

本市の高齢化率は、全国、岩手県と比較して低い水準にはあるものの、上昇傾向にあります。また、総人口が減少傾向にある中で、老人人口は増加しています。

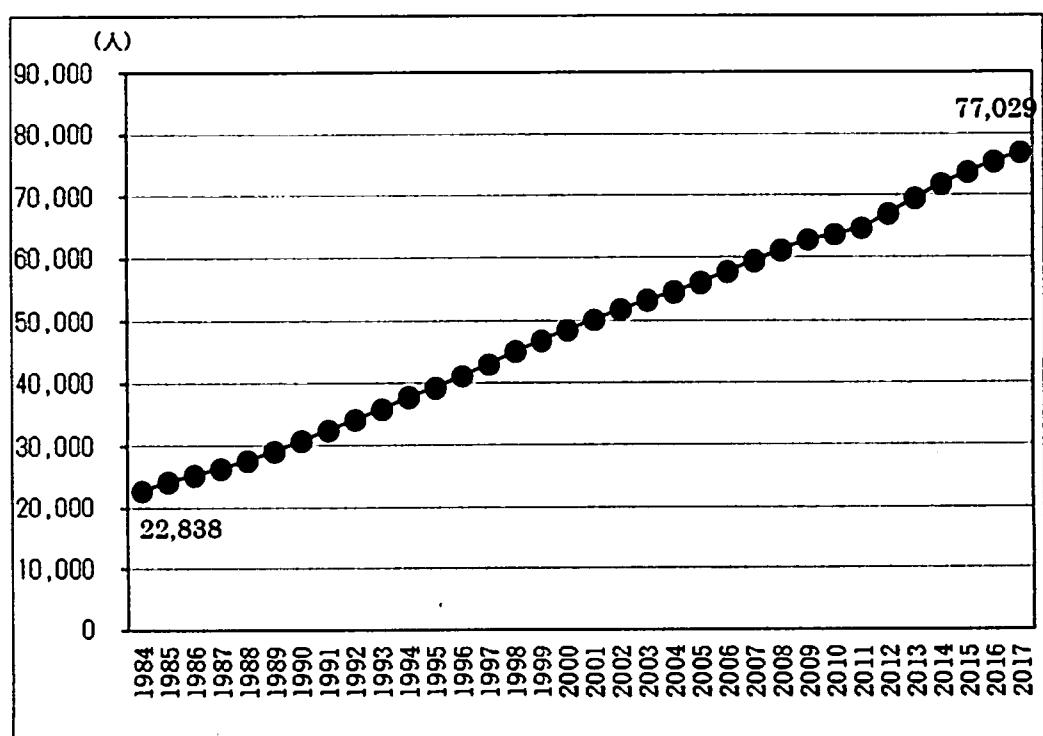
これに伴い、今後、医療・介護などの公共サービスの需要は、さらに高まっていくものと考えられます。

図-23 高齢化率の推移（%）



出所：岩手県人口動態統計より本市作成

図-24 盛岡市の老人人口の推移



出所：岩手県人口動態統計より本市作成

### 3 都市機能への影響

高等教育機関、救急病院、百貨店などの都市機能が維持されるためには、一定の商圏規模、マーケットと、それらを支える人口が必要となります。

都市機能の縮小に伴ってまちの魅力が減退すると、若年層を中心とした人口の流出を招くおそれがあります。

また、人口の減少は、購買力の低下、サービスを受ける者の減少等につながり、本市の雇用の8割以上を占める小売・サービス業等の第3次産業による雇用の減少をもたらし、本市経済の衰退を加速してしまうおそれがあります。

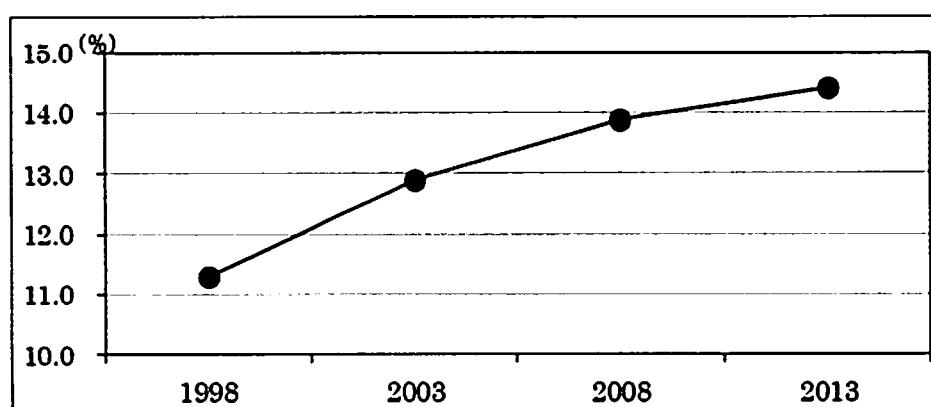
### 4 地域コミュニティへの影響

人口減少及び人口構造の変化が一因となって地域コミュニティは、都市部においては、単身世帯の増加や住環境・生活様式の変化、農村部においては、人口流出による影響など、それぞれの事情により、活動の担い手の減少などを招き、活力が低下することが懸念されます。

### 5 空き家問題

本市の空き家率は上昇傾向にあり、今後、人口の減少が進むことにより空き家の増加が懸念されます。空き家の長期的な放置は、景観の悪化のみならず放火や不法投棄の危険性が増すことにもなり、地域の住民にとって深く深刻な問題です。

図-25 盛岡市の空き家率の推移



出所：総務省統計局「住宅・土地統計調査報告」より本市作成

## 6 教育・地域文化への影響

児童・生徒が減少することにより、学級数や部活動の種類の減少が進行するなどの教育環境への影響が更に強まることが懸念されます。

また、少子化の影響などにより、伝統芸能・伝統行事などを継承する担い手の不足が懸念されます。

表－9 盛岡市の学校児童生徒数推移

	2012		2013		2014		2015		2016		2017		2018	
	児童数 生徒数	学級数												
小学校計	15,632	528	15,550	541	15,269	541	15,025	526	14,749	521	14,714	523	14,651	525
増減(対前年)	-	-	-82	13	-281	0	-244	-15	-276	-5	-35	2	-63	2
増減(対H24)	-	-	-82	13	-363	13	-607	-2	-883	-7	-918	-5	-981	-3
中学校計	8,264	254	8,255	255	8,178	255	8,184	251	8,046	251	7,882	251	7,574	251
増減(対前年)	-	-	-9	1	-77	0	6	-4	-138	0	-164	0	-308	0
増減(対H24)	-	-	-9	1	-86	1	-80	-3	-218	-3	-382	-3	-690	-3

出所：学校基本調査。児童数、生徒数及び学級数には複式学級、特別支援学級を含まない。

## 7 財政への影響

### (1) 財政の硬直化

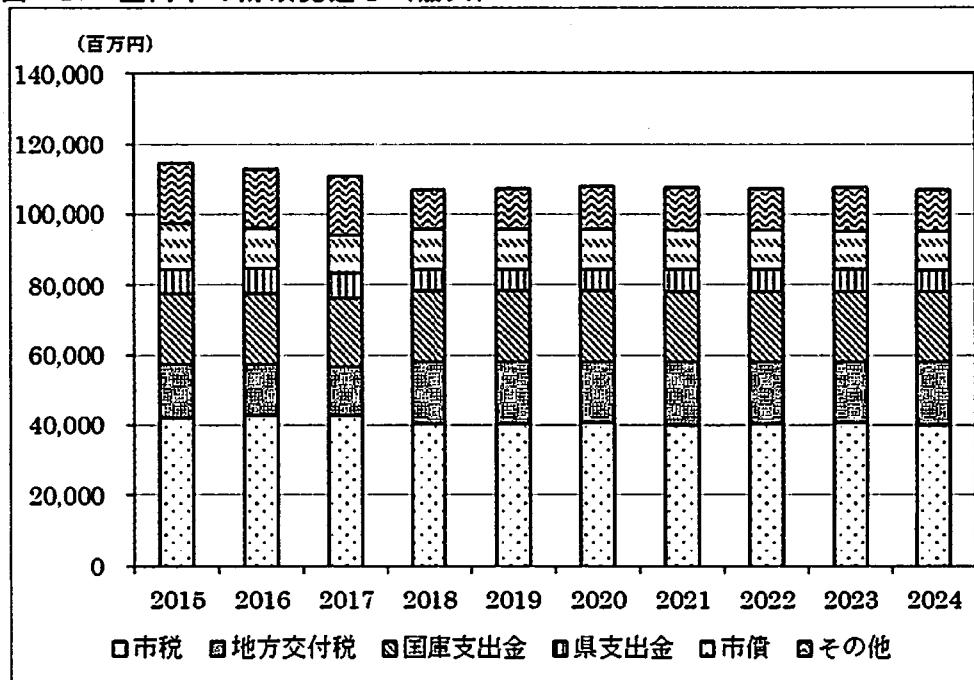
人口減少・少子高齢化の進行は、就業人口の減少に伴い税収が減少する一方で、介護・福祉などの需要の増加などが見込まれ、財政の硬直化が進むおそれがあります。

表-10 盛岡市の財政見通し（歳入） (単位：百万円)

年 度	市 税	地方交付税	国庫支出金	県支出金	市 債	そ の 他	合 計
2015	40,962	17,760	19,997	6,271	11,320	10,872	107,182
2016	40,662	17,758	20,198	6,305	11,167	10,965	107,055
2017	40,723	17,706	20,056	6,347	11,411	11,276	107,519
2018	40,315	17,918	20,088	6,372	11,287	10,868	106,848
2019	40,492	17,726	20,127	6,397	11,165	11,352	107,259
2020	40,667	17,489	20,171	6,424	11,043	12,085	107,879
2021	40,126	17,837	20,114	6,434	10,926	12,179	107,616
2022	40,326	17,741	20,062	6,446	10,810	12,031	107,416
2023	40,510	17,568	20,015	6,459	10,698	12,472	107,722
2024	40,009	17,945	19,970	6,473	10,586	11,950	106,933

出所：盛岡市議会全員協議会資料（平成 26（2014）年 9 月）

図-26 盛岡市の財政見通し（歳入）



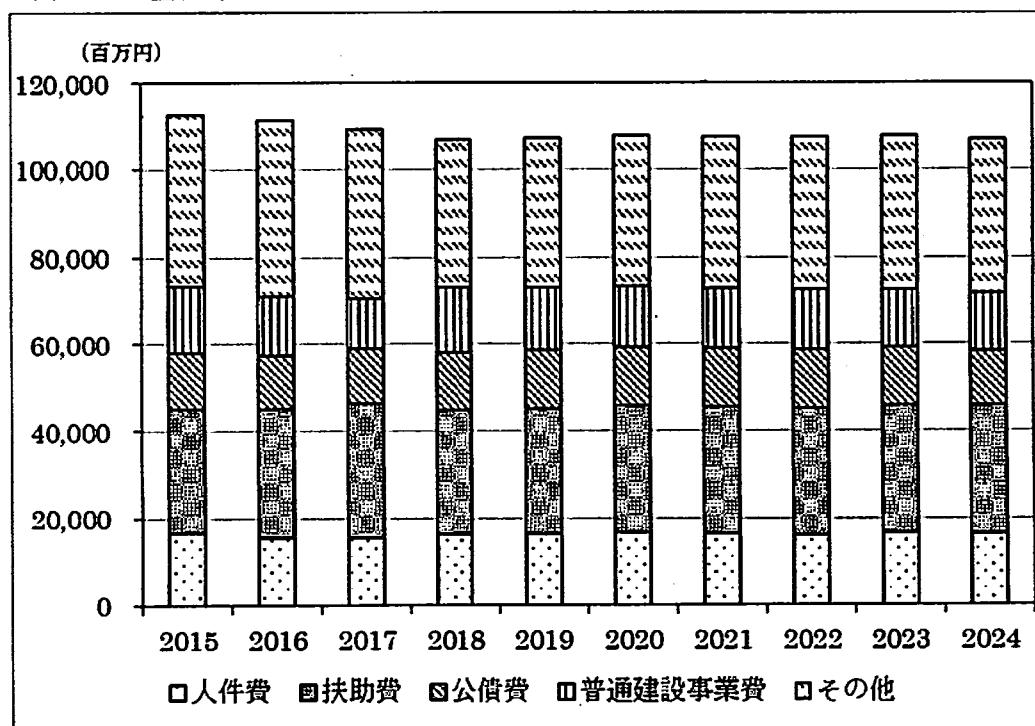
出所：盛岡市議会全員協議会資料（平成 26（2014）年 9 月）

表-11 盛岡市の財政見通し（歳出） (単位：百万円)

年度	人件費	扶助費	公債費	普通建設事業費	その他	合計
2015	16,972	27,855	13,126	15,118	34,111	107,182
2016	16,546	28,086	13,003	15,118	34,302	107,055
2017	16,741	28,323	13,415	15,118	33,922	107,519
2018	16,257	28,567	13,247	14,816	33,961	106,848
2019	16,356	28,817	13,330	14,520	34,236	107,259
2020	16,694	29,073	13,387	14,230	34,495	107,879
2021	16,383	29,121	13,399	13,945	34,768	107,616
2022	16,100	29,171	13,517	13,666	34,962	107,416
2023	16,560	29,226	13,375	13,393	35,168	107,722
2024	16,431	29,284	12,711	13,125	35,382	106,933

出所：盛岡市議会全員協議会資料（平成26（2014）年9月）

図-27 盛岡市の財政見通し（歳出）



注) 財政見通しを推計するに当たっての人口は、総合計画策定時の推計値を用いている。

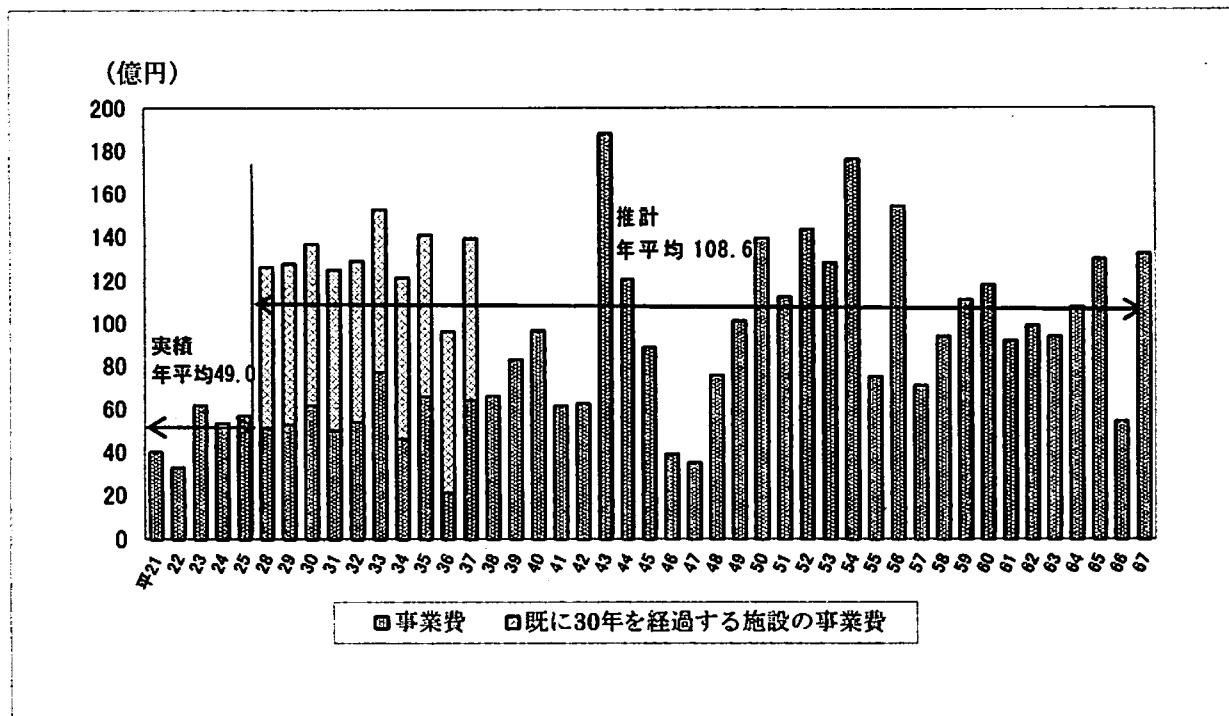
出所：盛岡市議会全員協議会資料（平成26（2014）年9月）

## (2) 公共施設の維持管理・更新等

本市の施設は、高度経済成長とともに昭和35（1960）年頃から建設が増え、現在まで多くの建設を行っています。今後、築50年を超える施設が年々増加していくこととなり、施設の更新需要が増嵩することが見込まれますが、全ての施設を大規模な工事により、更新していくことは極めて困難な状況にあります。

また、小・中学校など、対象人口が減少している施設では、施設余剰が発生している一方、高齢者の増加により、新たな需要の増加が予想されます。少子高齢・人口減少社会の進行に伴い、将来にわたって税収の減少と利用者の減少が予想される中、公共施設の維持管理と施設サービスの需要の変化に適切に応えていく必要があります。

図-28 建築物等施設に係る維持更新費用の実績と推計



出所：盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化長期計画

### 1 本市の人口動態の特徴

平成20（2008）年度に盛岡市まちづくり研究所が行った調査結果によると、本市の「人口減少が進む大きな要因は社会動態による減少より自然動態による減少が大きい」と報告されています。

また、過去約10年間の地区別の人団増減を見ると、新たに開発が進められた地域への集積が進んだ一方で、市域全体としては、減少している地域が多く、市域内部での人口移動があります。

#### (1) 自然動態の特徴

本市の人口の自然減は、高齢化に伴う死亡者数の増加と出生者数の減少があいまって生じており、出生数減少の背景要因としては、若年層の女性人口の減少、未婚化、晩婚化などが挙げられます。

本市が実施した結婚・出産等に関する市民意識調査の結果からは以下の点が確認されました。

- ① 市民の希望出生率は、1.75であり、実際の合計特殊出生率1.33とは差があります。
- ② 理想の子どもの数を持てない理由は、経済的理由と年齢的理由が上位2位を占めています。
- ③ 結婚の望みをかなえられない理由は、「出会いの場がない」、「結婚したいと思える人とめぐり会えない」が上位2位を占めています。

#### (2) 社会動態の特徴

本市の人口の社会増減は、おおむね均衡していますが、15歳から19歳までの世代で県内の他地域を中心に大幅な転入があるものの、25歳から39歳までの世代が首都圏・宮城県などにほぼ同じ規模で転出しています。

本市が実施したU I Jターンに関する意識調査の結果からは、以下の点が確認されました。

- ① 卒業年次の高校生・大学生等のうち、36.5%が、本市に希望する進学先・就職先がないために他県等への進学・就職を決めています。
- ② 他県等への進学・就職を決めた生徒・学生のうち、25.6%が、Uターンの意思があり、Uターンをしやすくするために必要な支援としては、仕事に関するここと及び住居に関することが上位2位を占めています。
- ③ 過去1年に本市から転出した人のうち、60.6%が、仕事（就職を含む）の理由を挙げています。また、Uターンの意向については、「戻りたい」が18.9%、「できれば戻りたい」が24.6%となっています。

## 2 人口対策の基本的視点

これまでの調査・分析結果を踏まえ、次の3つを基本的な視点としながら、本市の人口対策を検討することとします。

- (1) 結婚・出産・子育て等に係る市民の願いに応え、出生数を維持・増加させる必要があります。

本市では、今後、出生数の減少が見込まれますが、現状では、結婚・出産・子育て等への市民の願いが十分にかなえられていないことから、結婚・出産・子育て等に係る支援を重点化し、出生数の維持・増加を図る必要があります。

総合計画策定時に本市が実施したアンケート調査では、少子化対策に必要なこととして、「妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費などへの経済的支援」を選んだ人が最も多く、次いで「保育環境の充実（待機児童の解消、保育園・児童センターなどの整備）」、「延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実」との結果が得られています（資料編66ページ参照）。

- (2) 盛岡広域圏等への就職の願いに応え、若年・成年（20～39歳）の首都圏等への転出者の減少を図る必要があります。

本市の人口の社会減は、高校・大学等卒業後の就職・結婚期に顕著ですが、現状では、若年・成年層の市民の、地元定着やUターンの願いが十分にかなえられてないことから、雇用創出や創業支援に係る取組を重点化し、首都圏等への転出者の減少を図る必要があります。

- (3) 本市に「住みたい」「住み続けたい」と思う者の願いに応え、移住・定住者の増加を図る必要があります。

現在、首都圏等に在住中で、本市へのU I Jターンの意向がある者が一定数いますが、諸条件が整わずにその願いが実現できていないことから、雇用創出などの取組と併せ、情報提供など移住・定住に係る取組を重点化し、移住・定住者の増加を図る必要があります。

### 3 人口の展望

本市の人口は、市民の結婚・出産・子育てや就労の願いに応えると仮定した場合、2040年に26～27万人程度となります。

なお、平成27（2015）年国勢調査を基準として推計した盛岡市の人団は、第1期盛岡市人口ビジョン策定時に盛岡市が推計した将来推計人口値を上回っており、大きな乖離がないことから、本ビジョンにおいても第1期の将来推計人口を継続して採用するものとします。

### 4 将来人口の推計

#### （1）総合計画策定時の人口推計

本市では、平成26（2014）年度に、総合計画（平成27（2015）～令和6（2024）年度）の策定に当たり、独自で人口の推計を行いました。その際、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計は、東日本大震災の影響による社会移動の状況を十分に反映させたものでないと認められたことから、部分的に本市の人口移動の趨勢を加味して推計を行いました。

その結果、本市の人口は、令和22（2040）年には、247,898人となり、平成22年から比べると約16.5%の減少となります。

また、年齢3区分別人口では、15歳未満及び15～64歳で減少するものの、65歳以上は増加し、高齢化率は36.6%まで上昇します。

表-12 人口推計（総合計画策定時）(単位：人)

区分	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総数	297,047	290,455	281,820	271,739	260,458	247,898
男	140,381	136,755	132,236	127,083	121,377	115,157
女	156,666	153,700	149,584	144,656	139,081	132,741
15歳未満	37,182	33,532	29,944	27,113	25,120	23,339
15～64歳	185,613	176,092	167,437	157,827	147,173	133,874
65歳以上	74,252	80,831	84,439	86,799	88,165	90,685
(再掲)75歳以上	36,900	41,316	47,928	51,774	53,447	54,144

女性人口の推移では、結婚・妊娠・出産の中心的な層となる 20~39 歳の世代で減少が見込まれ、それにつづく 0~19 歳の世代も減少します。

図-29 女性人口の推移

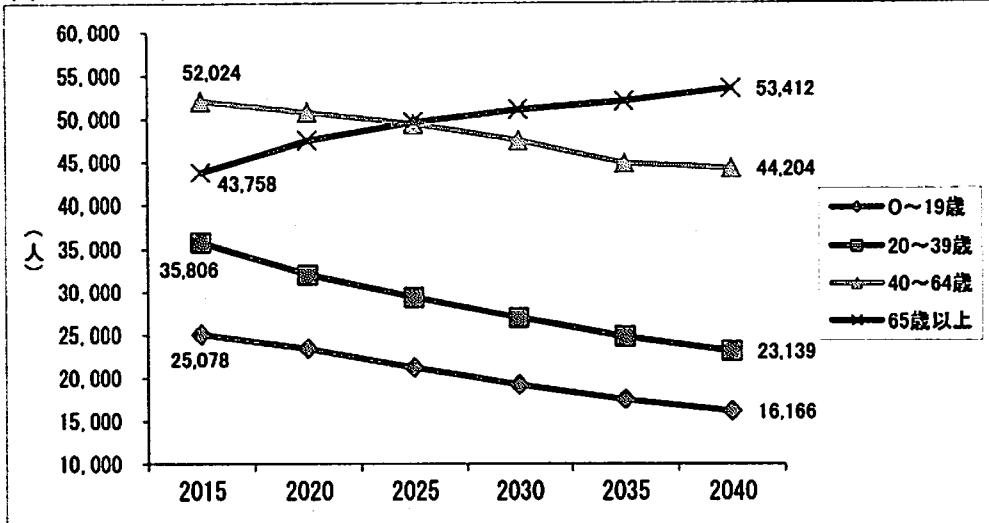


図-30 2015 年の人口ピラミッド

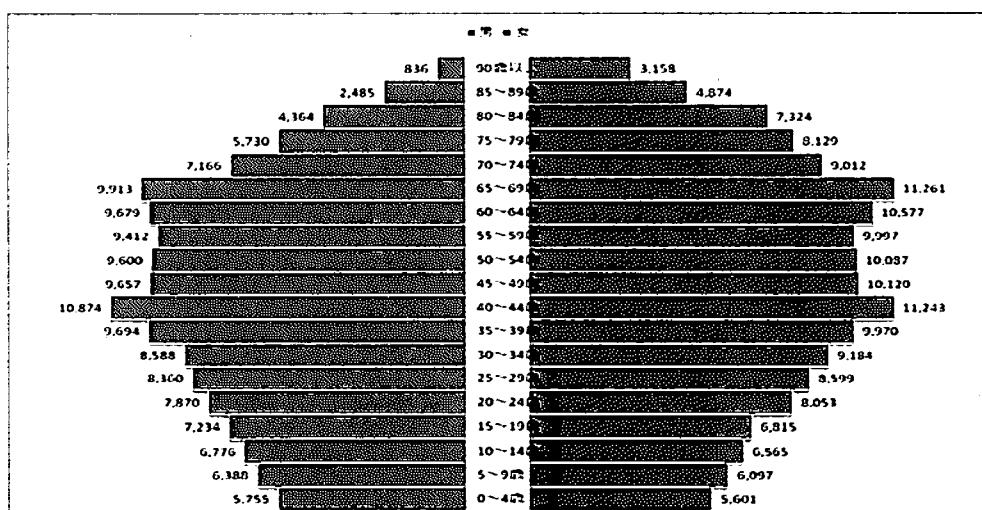
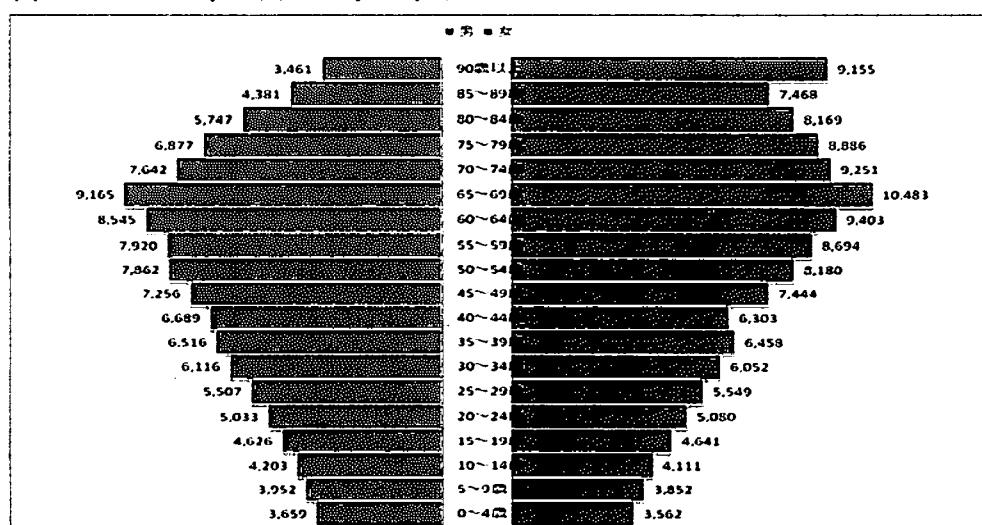


図-31 2040 年の人口ピラミッド



## (2) 本市の将来展望を反映した人口推計

### ア 推計1

合計特殊出生率が、アンケート調査結果から得られた希望出生率 1.75 を 2030 年に実現して以後継続するものとし、社会増減については、20 歳から 39 歳までの若者の社会減の割合を、2020 年以降、国立社会保障・人口問題研究所推計の 36.5% 減となるものと仮定します。これは、U I J ターンに関する意識調査から得られた地元定着の意向に基づいた数値です。

この場合、本市の人口は、2040 年に 263,672 人、2060 年に 224,726 人と推計されます。

### イ 推計2

合計特殊出生率については、岩手県の推計と同様の伸び率で上昇したと仮定すると、岩手県推計では、2013 年の 1.43 から 2030 年に 1.8 と 1.26 倍の伸び率となっており、本市の 1.33 をもとに計算すると、1.68 となります。

社会増減については、上記「ア」同様の考え方により仮定します。

この場合、本市の人口は、2040 年に 261,231 人、2060 年に 219,768 人と推計されます。

## (3) 参考

### ア 国立社会保障・人口問題研究所の推計

国立社会保障・人口問題研究所が行った人口推計（2013 年 3 月推計）によると、本市の人口は、2040 年には、243,930 人となり、2010 年から比べると約 18.2% の減少となります。

### イ 岩手県人口ビジョン（案）に準拠した推計

岩手県の「岩手県人口ビジョン（案）」においては、出生率の向上と社会増減ゼロを実現し、超長期的な人口の可能性も視野に入れた人口の定常状態を目指し、2040 年に 100 万人程度の人口を確保するとされています。

具体的には、岩手県全体で合計特殊出生率が、2030 年に 1.8、2040 年に 2.07 となり、かつ、2020 年に社会増減がゼロとなる仮定です。

この場合、本市の人口は、2040 年に、270,361 人、2060 年には、240,380 人と推計されます。

また、超長期の展望として、2080 年に合計特殊出生率が 2.3 まで回復すると、2100 年頃から、本市の人口は上昇局面を迎えます。

表-13 各推計値の比較

(単位：人)

区分	2010	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
庄岡市総合計面推計	298,348	297,047	(295,729)	(294,410)	(293,092)	(291,773)	290,455	281,820	271,739	260,458	247,898				
人口ビジョン独自推計1	298,348	296,251	(295,295)	(294,339)	(293,382)	(292,426)	291,470	285,610	279,358	272,094	263,672	254,282	244,583	234,595	224,726
人口ビジョン独自推計2	298,348	296,098	(295,087)	(294,076)	(293,066)	(292,055)	291,044	284,803	278,052	270,267	261,231	251,271	240,969	230,333	219,768
岩手県準拠推計	298,348	296,361	(295,518)	(294,676)	(293,833)	(292,991)	292,148	287,038	281,779	276,371	270,361	263,122	255,538	247,814	240,350
社人研推計(H22基準)	293,348	294,992	(293,520)	(292,041)	(290,563)	(289,084)	287,506	278,399	268,023	256,599	243,930				
庄岡市推計人口(H27基準)	298,348	297,631	296,670	295,534	293,773										

※本市独自推計1：合計特殊出生率→2030年に1.75

+2020年以降20歳から39歳までの社会減の割合を社人研推計の36.5%減

※本市独自推計2：合計特殊出生率→2030年に1.68

+2020年以降20歳から39歳までの社会減の割合を社人研推計の36.5%減

※岩手県準拠推計：合計特殊出生率→2030年に1.8／2040年に2.07／2080年に2.3

+2020年以降社会減ゼロ

図-32 各推計値の比較

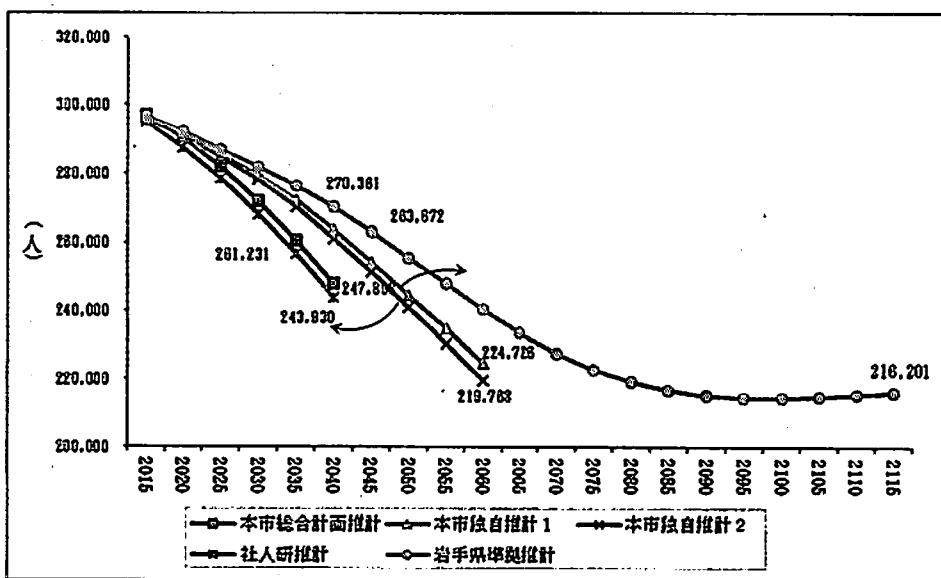


図-33 将来人口推計と推計人口の比較

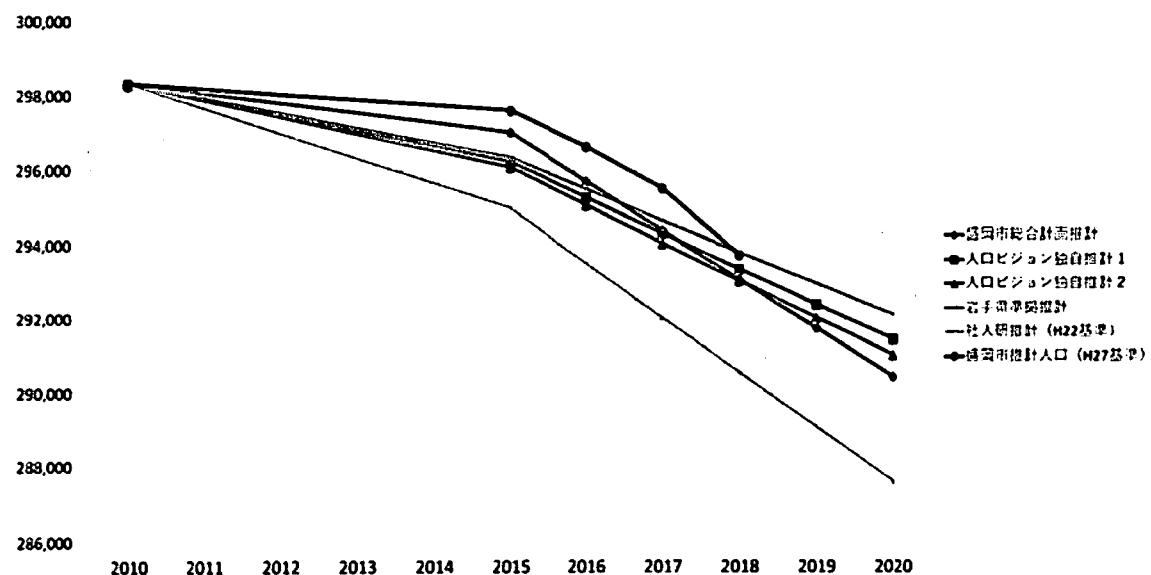
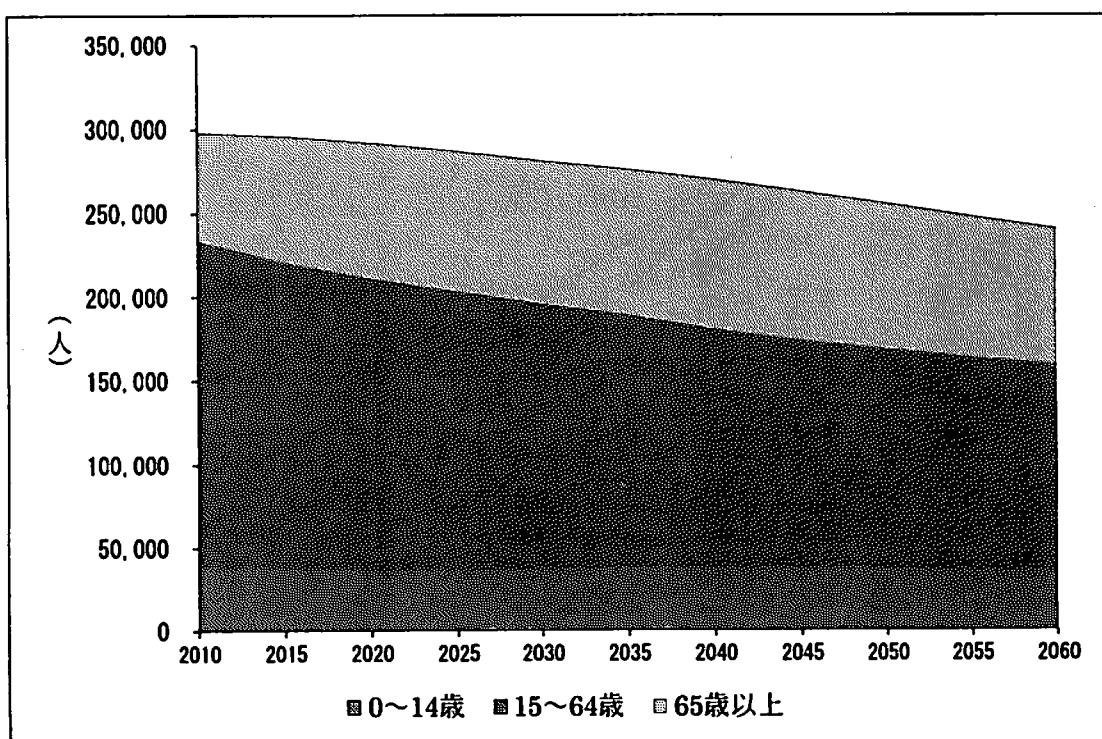


図-34 岩手県準拠推計に基づく年齢3区分別人口の推移



# 資 料 編

## 1 U I Jターンに係る意識調査結果

### 【調査の概要 I : 卒業後の進学・就職・居住に関する意識調査】

□調査対象者：本市および周辺市町村の高等学校、専修学校、短期大学、大学に通う学生

□調査期間：平成27年6月10日～6月30日

□回収数：1,489票

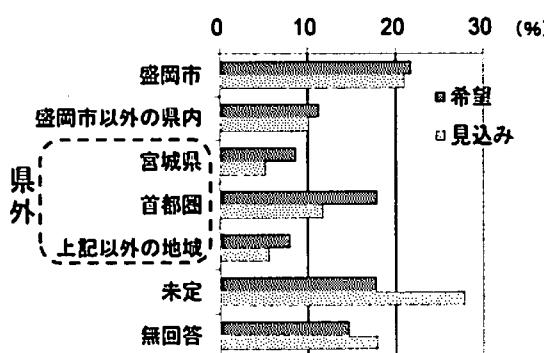
### 【調査結果のポイント】

#### 進学や就職により盛岡市以外の地域へ転出する学生が多い

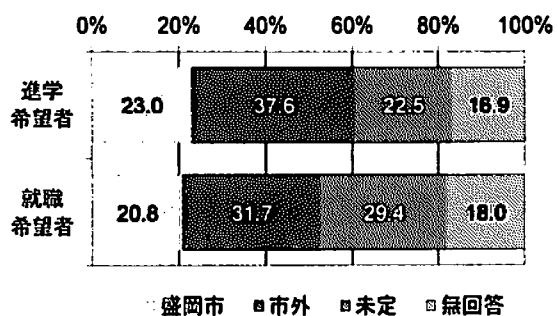
○卒業後に見込まれる居住地は、「盛岡市」が21.1%、「盛岡市以外の県内」が10.2%、「県外」が22.8%。

○進学希望者と就職希望者別でみると、居住地に大きな差は見られない。

図一資1. 卒業後の居住地



図一資2. 進路×見込み居住地

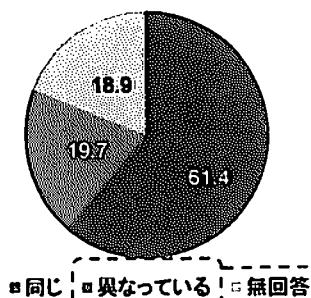


#### 進学や就職による今後の居住地については、約2割が「希望」と「見込み」で異なっている

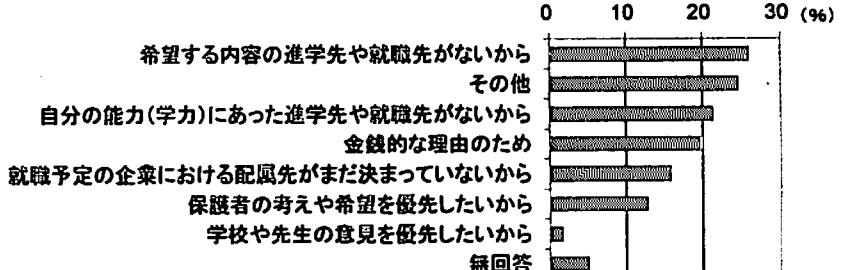
○居住地の“希望”と“見込み”が「同じ」は61.4%、「異なっている」は19.7%となっている。

○“異なっている”理由を見ると、「希望する内容の進学先や就職先がないから」(26.1%)が最も多く、次いで「その他」(24.7%)、「自分の能力(学力)にあった進学先や就職先がないから」(21.4%)となっている。

図一資3. 居住地の「希望」と「見込み」



→ 図一資4. 居住地の「希望」と「見込み」が異なる理由



県内の居住地を希望した場合は実現の可能性は高まるが、

県外を希望した場合は親等との意向とは異なるケースが見られる

- 居住地の“希望”と“見込み”を見ると、盛岡市を希望している78.3%は「盛岡市」の見込みとなっており、その次に多いのが「未定」(11.5%)、「盛岡市以外の岩手県内」(4.6%)となっている。
- 親等の意向を見ると、子どもが“県外”を希望している場合でも、親は子どもの希望通りの地域を望んでいる傾向は低い。

表一資1. 希望居住地×見込み居住地

見込み(有力居住地)

	盛岡市	盛岡市以外の岩手県内	宮城県	首都圏	上記以外の地域	未定	無回答
希望	78.3	4.6	0.6	1.5	0.6	11.5	2.8
	7.8	73.1	1.2	0.6	1.2	10.2	6.0
	14.7	3.9	47.3	3.1	0.8	26.4	3.9
	6.8	1.5	4.2	60.0	1.5	21.5	4.5
	1.7	1.7	1.7	1.7	61.9	21.2	10.2
	3.4	1.1	0.0	1.1	0.4	92.0	1.9

表一資2. 希望居住地×親等の意向居住地

親等の意向

	盛岡市	盛岡市以外の岩手県内	宮城県	首都圏	上記以外の地域	未定	無回答
希望	70.6	5.3	0.6	0.3	1.9	14.1	7.2
	4.2	57.1	0.0	0.0	0.6	16.8	11.4
	14.7	11.6	37.2	0.0	2.3	27.1	7.0
	13.6	5.3	3.8	38.9	6.8	26.0	5.7
	5.9	3.4	0.8	0.8	52.5	17.8	18.6
	8.0	2.7	0.4	0.4	2.3	84.4	1.9

盛岡市以外に転出する理由は、進学希望者は「希望する進学先がない」が1位

就職希望者は「日常生活が便利そだから」が1位

- 転出理由をみると、「盛岡市には希望する進学先・就職先がないから」(36.5%)が最も多く、次いで「自分のスキルアップができるから」(25.7%),「日常生活が便利そだから」(25.3%)となっている。
- 進学希望者の転出理由をみると、「盛岡市には希望する進学先がないから」(62.3%)が最も多く、次いで「自分のスキルアップができるから」(25.9%)となっている。
- 就職希望者の転出理由をみると、「日常生活が便利そだから」(28.3%)が最も多く、次いで「自分に合った生活スタイルを送りたいから」(27.3%)となっている。

※卒業後の居住地の見込み  
で盛岡市以外を選択した  
者を対象

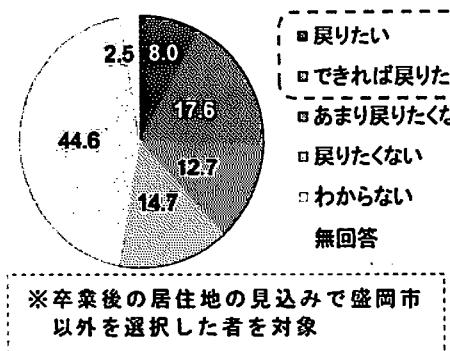
表一資3. 盛岡市以外に転出する理由

	先盛岡市就職に先はが希望するからする進学	よ職盛岡市にわか情報にある進か相談先ら窓口・が就	ら日常生活が便利そだか	ら地元や親元を離れたいか	きるからスキルアップがで	自分のスキルアッ	と件の良い仕事などから就き労働い条件	ら趣味をより楽し	場所が充実してな	から田舎暮らしに憧れがある	ル自分に合った生活	就震災復興から聞する仕事に	その他	無回答
進学	62.3	3.1	19.8	23.5	25.9	12.3	9.3	5.6	0.0	9.3	0.6	12.3	4.3	
就職	23.2	6.0	28.3	17.1	26.3	17.5	12.4	8.6	1.6	27.3	3.5	25.7	3.2	
全体	36.5	5.5	25.3	19.4	25.7	15.7	11.2	7.3	1.0	21.0	2.4	21.2	3.7	

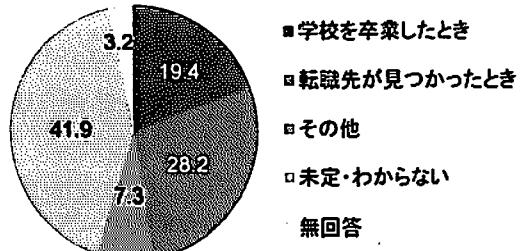
## 転出後に約2割半が盛岡市へのUターンを希望

- 盛岡市以外への進学・就職後のUターン意向を見ると、「戻りたい」が8.0%、「できれば戻りたい」が17.6%となっており、「わからない」を含めると約7割。
- Uターンのタイミングでは、「未定・わからない」(41.9%)が最も多く、次いで「転職先が見つかったとき」(28.2%)、「学校を卒業したとき」(19.4%)となっている。

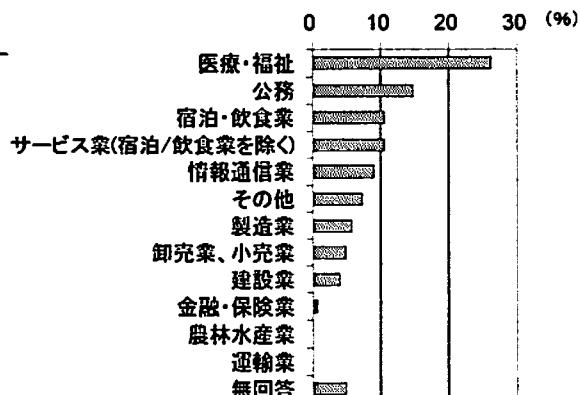
図一資5. Uターン意向



図一資6. Uターンのタイミング



図一資7. 盛岡市に移住した場合の志望する業種



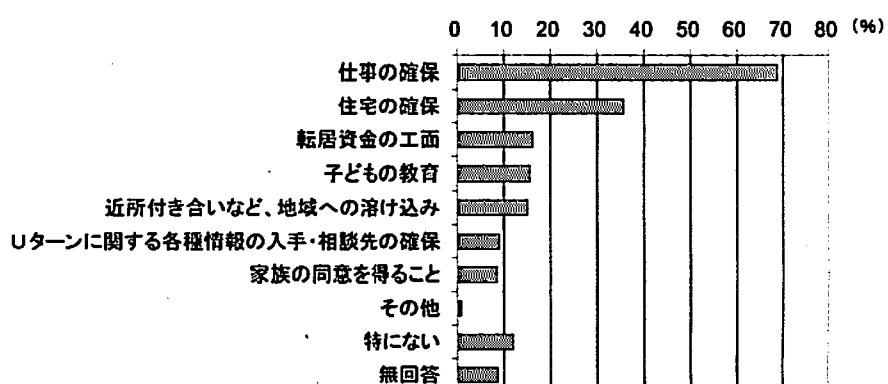
## Uターン後に就きたい業種は「医療・福祉」

- 盛岡市にUターンで移住した場合、志望する業種は「医療・福祉」が26.4%、「公務」が14.9%、「宿泊・飲食業」と「サービス業」が10.7%となっている。

## Uターンの課題は「仕事の確保」が突出して多い

- Uターンで戻ることを考えた場合に課題となることは、「仕事の確保」(68.9%)が最も多く、次いで「住宅の確保」(35.8%),「転居資金の工面」(16.4%)となっている。

図一資8. Uターンで課題となること

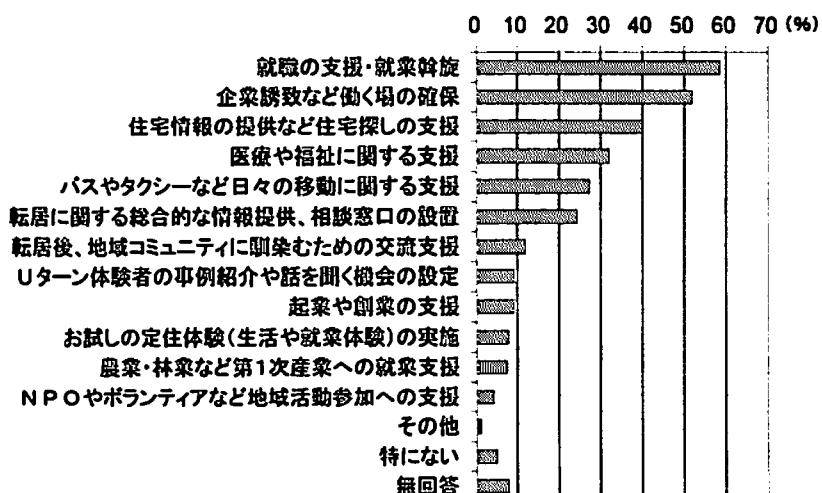


## Uターンをしやすくするためには「仕事」「住宅」「医療や福祉」の充実が求められている

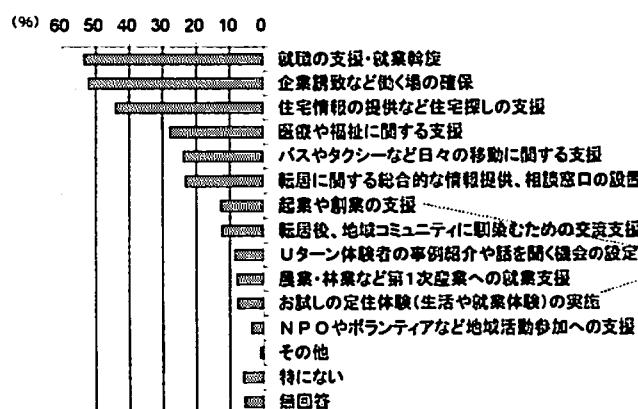
○ Uターンをしやすくするために必要な行政の支援は、「就職の支援・就業斡旋」(58.8%)が最も多く、次いで「企業誘致など働く場の確保」(52.1%),「住宅情報の提供など住宅探しの支援」(39.8%),「医療や福祉に関する支援」(32.2%)となっている。

○ 性別でみると、性別により順位は大きく変わらないが、女性は男性よりも「就職支援・就業斡旋」や「医療や福祉に関する支援」「バスやタクシーなど日々の移動に関する支援」で比較的多く、男性は女性よりも「住宅情報の提供など住宅探しの支援」や「起業や創業の支援」で比較的多い。

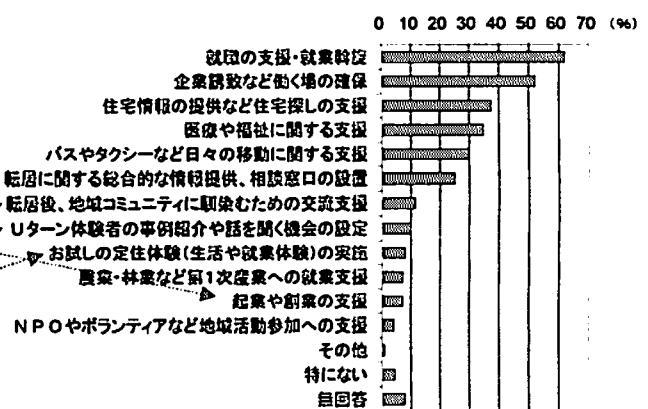
図一資9. Uターンを可能にするために必要な施策



図一資10. 男性



図一資11. 女性



住み続ける、戻ってくるための条件は、定住予定者と市外移住者との間でニーズが異なる

○住み続ける、戻ってくるための条件は、「住居の確保をしやすい」(49.2%)が最も多く、次いで「就労先が充実している」(43.6%), 「友人・知人が近くにいる」(41.4%)となっている。

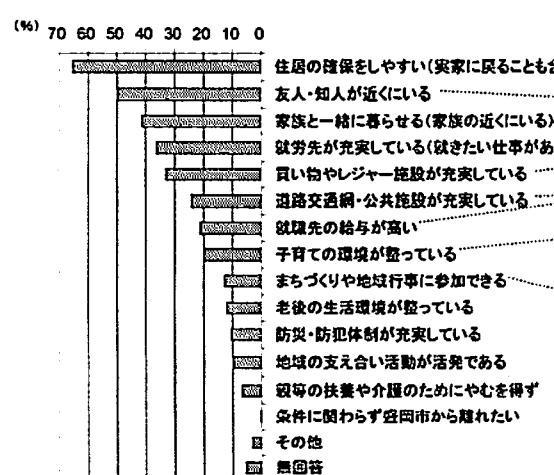
○盛岡市への居住予定者は、「住居の確保をしやすい（実家に戻ることも含む）」(65.6%)が最も多く、次いで「友人・知人が近くにいる」(50.3%), 「家族と一緒に暮らせる（家族の近くにいる）」(41.7%)となっている。

○市外への居住予定者は、「就労先が充実している（就きたい仕事がある）」(47.9%)が最も多く、次いで「住居の確保をしやすい（実家に戻ることも含む）」(39.9%), 「友人・知人が近くにいる」(38.0%)となっている。

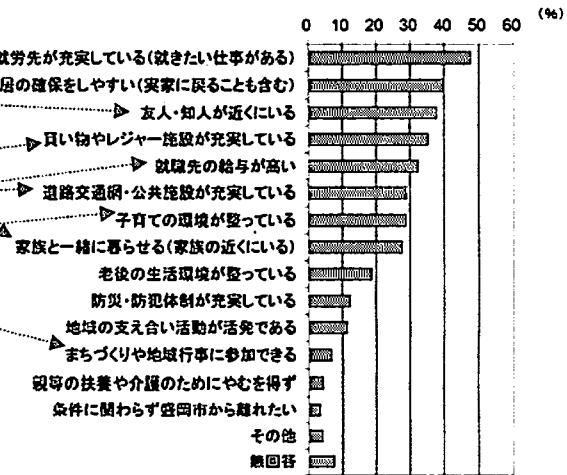
表一資 4. 住み続ける、戻ってくるための条件

	戻る居の確保をしやすい（実家に）	い就労事務所が充実している（就きた）	就職先の給与が高い	子育ての環境が整っている	老後の生活環境が整っている	る地域の支え合い活動が活発である	て買いい物やレジャー施設が充実し	て道道路交通網・公共施設が充実し	防災・防犯体制が充実している	近くと一緒に暮らせる（家族の）	友人・知人が近くにいる	まちづくりや地域行事に参加できる	に住み続けなければならない理由	た条件に聞わらず盛岡市から離れ	その他	無回答
盛岡市	65.6	36.6	21.7	20.4	12.4	9.9	33.4	24.5	10.5	41.7	50.3	13.1	7.0	0.6	3.5	5.7
市外	39.9	47.9	32.7	29.0	19.0	11.7	35.6	29.2	12.7	27.8	38.0	7.0	4.5	3.5	4.3	7.8
未定	47.1	49.5	34.3	25.8	16.2	12.1	38.4	32.1	14.0	28.5	39.4	7.7	3.9	2.9	4.3	8.0
計	49.2	43.6	29.3	24.2	15.7	10.8	34.5	27.6	11.8	31.1	41.4	8.6	4.8	2.8	3.8	8.5

図一資 12. 住み続ける、戻ってくるための条件（盛岡市に居住予定）



図一資 13. 住み続ける、戻ってくるための条件（市外に居住予定）



## 【調査の概要 II：転出者のリターンに関する意識調査】

□調査対象者：平成26年4月1日から平成27年3月31日の間に、本市から首都圏及び宮城県へ転出された18歳以上40歳未満（平成27年3月31日現在）の方およそ2000人

□調査期間：平成27年7月8日～7月27日

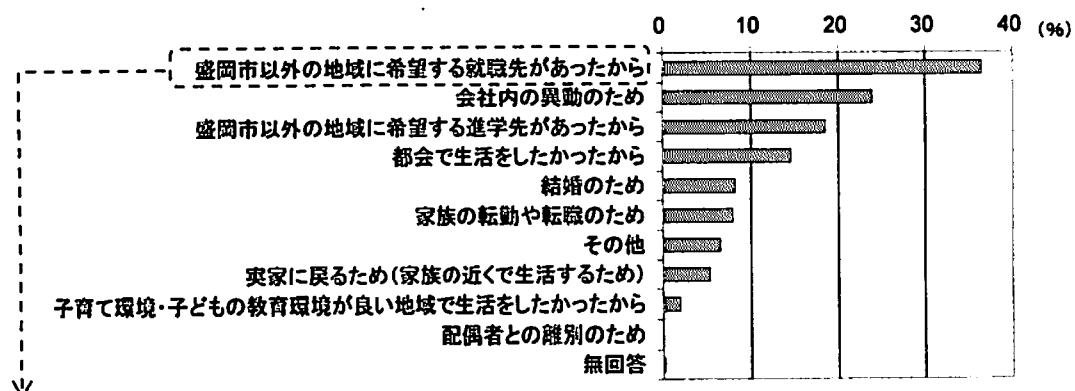
□回収数：350票（回収率18.2% ※宛所不明除き）

## 【調査結果のポイント】

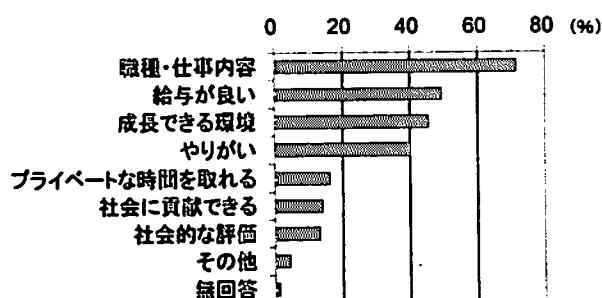
### 「仕事」や「進学」を理由に盛岡市以外の地域に転出した人が多い

○盛岡市から転出した理由は、「盛岡市以外の地域に希望する就職先があったから」(36.6%)が最も多く、次いで「会社内の異動のため」(24.0%), 「盛岡市以外の地域に希望する進学先があったから」(18.6%)となっている。

図一資14. 盛岡市からの転出理由



図一資15. 就職先に希望したこと



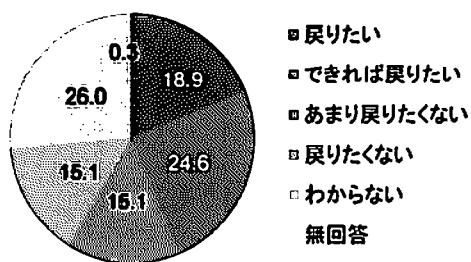
○就職先に希望したものは、「職種・仕事内容」「給与が良い」「成長できる環境」「やりがい」が多い。

※転出理由で「盛岡市以外の地域に希望する就職先があったから」を選択した者を対象

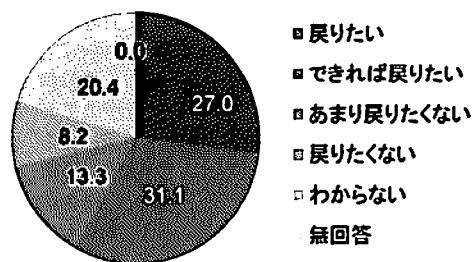
#### 4割強が盛岡市へのUターンを希望（実家が盛岡にある場合は約6割がUターンを希望）

- 今後のUターン意向を見ると、「戻りたい」が18.9%、「できれば戻りたい」が24.6%となっている。
- 盛岡市に実家がある人のみで見ると、「戻りたい」が27.0%、「できれば戻りたい」が31.1%となっており、約6割がUターン意向を持っている。

図一資16. Uターン意向



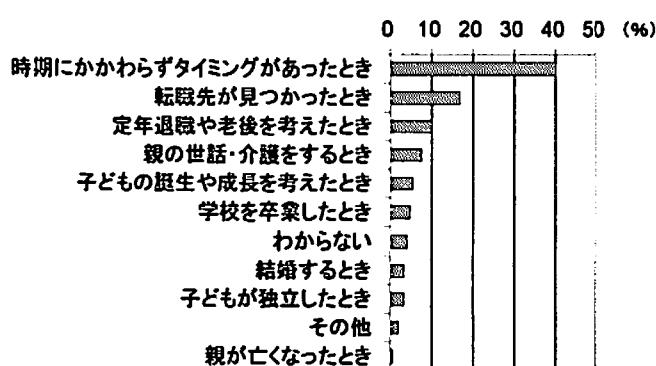
図一資17. Uターン意向  
(盛岡市に実家がある人)



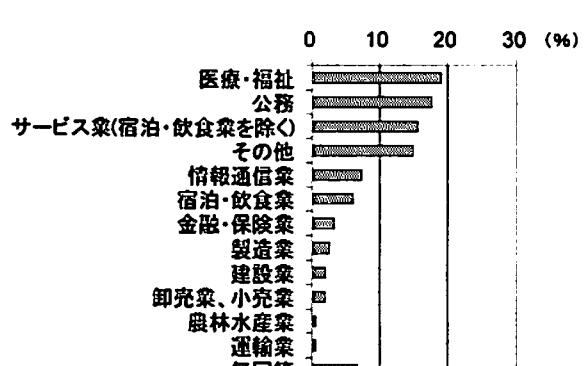
#### Uターン意向がある人は、Uターンにあたり「転職先」を重視している

- Uターンのタイミングとしては、「時期にかかわらずタイミングがあったとき」(39.7%)が最も多く、次いで「転職先が見つかったとき」(17.0%),「定年退職や老後を考えたとき」(9.9%)となっている。
- 盛岡市に移住する場合に志望する業種は、「医療・福祉」「公務」「サービス業（宿泊・飲食業を除く）」が多い。

図一資18. Uターンのタイミング



図一資19. 盛岡市に移住する場合の志望業種



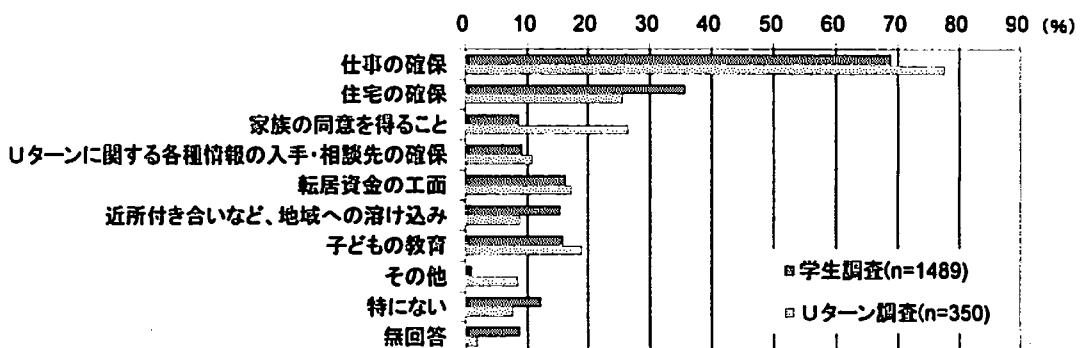
※Uターン意向で「戻りたい」「できれば戻りたい」を選択した者を対象

Uターンの課題は、「仕事の確保」が突出して多いが、  
学生調査と比較すると「家族の同意を得ること」が多い

○Uターンでの課題は、「仕事の確保」(77.7%)が最も多く、次いで「家族・パートナーの同意を得ること」(26.6%)、「住宅の確保」(25.7%)となっている。

○学生調査と比較すると、おおよそ同じ傾向となっているが、「家族・パートナーの同意を得ること」において差が見られる。

図一資20. Uターンでの課題



すべてのカテゴリで「仕事の確保」が最も大きな課題であり、  
年齢が上がるとともに「住宅の確保」「家族・パートナーの同意を得ること」が増加  
年齢が下がるとともに「Uターンに関する各種情報の入手・相談先の確保」が増加  
結婚している人は「住宅の確保」「家族・パートナーの同意を得ること」「子どもの教育」が相対的に多い

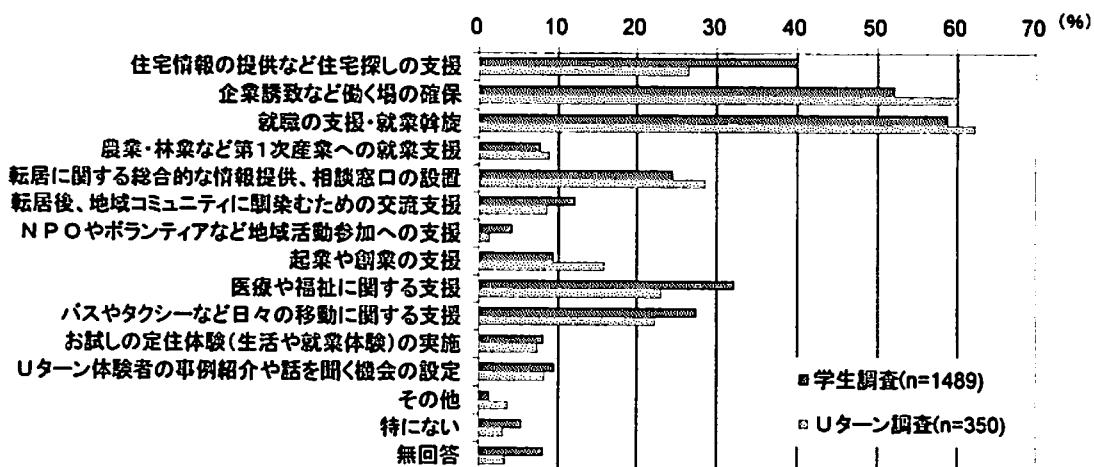
表一資5. Uターンでの課題（年齢別・婚姻別）

		仕事の確保	住宅の確保	を家族得ることとパートナーの同意	報の入手・Uターンに関する各種情報の相談する先の確保	転居資金の工面	への近所付き合いなど、地域	子どもの教育	その他	特がない	無回答
年齢	18~19歳	75.8	6.1	12.1	18.2	6.1	3.0	12.1	0.0	15.2	0.0
	20~24歳	84.5	23.6	15.5	11.8	21.8	6.4	10.9	3.6	8.2	0.9
	25~29歳	74.3	24.3	32.4	13.5	23.0	12.2	16.2	14.9	9.5	0.0
	30~34歳	72.3	24.6	30.8	9.2	9.2	9.2	21.5	12.3	7.7	4.6
	35~39歳	78.3	41.7	41.7	5.0	20.0	10.0	38.3	11.7	1.7	1.7
	40~45歳	71.4	42.9	42.9	0.0	0.0	28.6	28.6	0.0	0.0	14.3
婚姻	結婚している	72.3	34.5	41.2	5.0	18.5	11.8	37.0	13.4	4.2	2.5
	結婚していない	80.6	21.6	18.9	13.7	17.2	7.0	9.7	6.2	9.7	1.3

## Uターンをしやすくするために必要な支援は、「仕事」「情報・相談」「住宅」が多い

- Uターンをしやすくするために必要な行政の支援は、「就職の支援・就業斡旋」(62.3%)が最も多く、次いで「企業誘致など働く場の確保」(60.0%),「転居に関する総合的な情報提供、相談窓口の設置」(28.6),「住宅情報の提供など住宅探しの支援」(26.6%)となっている。
- 学生調査と比較すると、おおよそ同じ傾向となっているが、「住宅情報の提供など住宅探しの支援」において差が見られる。

図一資 21. Uターンを可能にするために必要な支援



Uターンをしやすくするために必要な支援は、「年齢」や「婚姻状況」によって異なる

- 年齢が上がるとともに「就職の支援・就業斡旋」は減少し、一方で「起業や創業の支援」が増加している。
- 年齢が上がるとともに「転居に関する総合的な情報提供、相談窓口の設置」が増加している。
- 年齢が下がるとともに「バスやタクシーなどの日々の移動に関する支援」が増加している。
- 結婚している者は「医療や福祉に関する支援」が相対的に多くなっている。

表一資6. Uターンを可能にするために必要な支援

		し住宅情報 の支援	企業誘致など 働く場の確保	就職の 支援・就業斡旋	農業 への就業・林業 支援など第1次産業	提供 転居 に相談する 窓口の總 的設置	に転居後 に聞か れる地 域の交 流支援	NPOやボラ ン参加 への支 援	地域活動 参加 への支 援	起業や 創業の 支援	医療や 福祉に に関する 支援	移動に 関する支 援	バスやタクシ ーなどの日 々の支 援	お試しの定住 体験の実施	やUターン体験者 の話を聞く機 会の事例紹介	その他	特 にない	無回答
年 齢	18~19歳	18.2	57.6	69.7	6.1	18.2	9.1	3.0	12.1	18.2	27.3	3.0	3.0	0.0	6.1	3.0		
	20~24歳	24.5	84.5	66.4	7.3	23.6	4.5	1.8	14.5	15.5	25.5	5.5	4.5	2.7	3.6	5.5		
	25~29歳	28.4	70.3	84.9	6.8	27.0	10.8	0.0	16.2	27.0	24.3	12.2	10.8	4.1	4.1	0.0		
	30~34歳	33.8	80.8	61.5	13.8	35.4	10.8	1.5	18.5	23.1	20.0	9.2	13.8	3.1	3.1	4.6		
	35~39歳	25.0	70.0	51.7	11.7	36.7	10.0	1.7	20.0	35.0	15.0	6.7	10.0	8.3	0.0	0.0		
	40~45歳	28.6	57.1	42.9	0.0	42.9	14.3	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3		
婚 姻	結婚している	31.1	60.5	52.9	12.6	34.5	12.6	0.8	14.3	32.8	18.5	7.6	11.8	5	2.5	1.7		
	結婚していない	24.7	59.5	67.8	7	25.6	6.2	1.8	17.2	18.1	24.7	7.5	6.6	3.1	3.5	4		

■盛岡市に戻りたい理由（自由回答）

No	理由
1	地元だから。
2	実家で暮らしたい。
3	不便はあるが、落ち着く環境が良いから。周辺に自然が多く魅力的。釣りやスノーボードが好きだから。
4	住みやすい地域だと思うから。
5	慣れ親しんだ土地だから。
6	町、人が自分に合っている。すべてゆっくりしていて落ち着ける。
7	食べ物がおいしく、自然が豊かで人間が暮らすのには本当に良い環境と思うから。
8	たまに思い出してそう思うことがあるから。
9	盛岡が好きだから。
10	地域に特産物がたくさんあって、子どもの医療費助成があり、気候も適度。適度に都会、適度に田舎、遊ぶ所もある。海もある。言うことなし。
11	小さいころから盛岡で育って、盛岡が大好きだから。
12	家族、友人が近くにいるから。
13	実家もあり、落ち着くから。
14	住みよい。好き。
15	盛岡が好きなので。
16	実家が近い。

No	理由
17	自分を育んでくれた場所にいて、盛岡のために仕事や、地元の仲間たちといたい。
18	実家に戻りたい。落ち着く環境のため。
19	いずれは、実家に帰りたいと思っているから。
20	親や親友がいるのと、住みやすいから。
21	今まで住んできた場所で、親などもいるから。
22	・住み慣れた場所であるため。
22	・最終的には岩手県に貢献したいと思っているため。
23	環境がとてもいい。人が優しい。子育てに対するケアが厚い。
24	結婚して将来子供が生まれたときに、身近に親がいた方が何かと安心だから。
25	4年間住んで住みやすかったため。
26	人が見な優しく住みやすい。
27	住みやすいため。田舎と栄えている場所のバランスがちょうどよく、自分が親になったときに住むのに適している。
28	親の介護。
29	街が好き。
30	東京でノウハウを身に付け、岩手で活かしたい。盛岡ほど素敵な街はないです。
31	岩手が好きだから、空気がきれい、家族が岩手に居るから。
32	盛岡市が好きだから。
33	人口等、それほど多くないが、病院等の数が多い。（仙台市に住んでいますが、人口が多すぎて渋滞等がひどい）
34	自分が生まれ育った街で暮らしやすいし、夫婦とも家族が盛岡にいるので。
35	空気がきれいだから。時間がゆっくりと感じられるから。家族がいるから。
36	東京ほど人が多いわけでもなく、全くいないわけでもないから。冬は厳しいが、生活環境、人が優しいから。
37	友人、知人が多いから。
38	冬の生活は厳しいが、自然にあふれ、食べ物もおいしく、街も落ち着いている。心が休まるのは盛岡だと今も感じるため。
39	地産地消を心がけており、野菜や肉、海産物が新鮮でおいしいので。自然豊かで、子育て環境も良さそう。
40	実家があるから。友人がいるから。親戚がいるから。住み慣れた土地で過ごしたいから。岩手が好きだから。盛岡は住みやすいから。
41	住みやすい街だとわかったし、家族、友人が多くいるから。
42	家族が居るし、友達もたくさんいるから。子育てしやすそう。
43	実家があるから。
44	家族が住んでいるため。
45	両親が盛岡におり、自然も豊かで子育てに適するため。
46	四季の変化が豊か（特に冬は埼玉に比べ雪が多い）、比較的近くに豊かな自然や魅力的な観光地があるなど。
47	自然が豊か。人が優しい。家族や友人が盛岡にいる。安心感がある。
48	ふるさとがいいからです。
49	親の面倒を見る人が盛岡市にいないため。
50	実家の近くで子育てしたい。盛岡が好きだから。
51	おちつく。人が優しい。
52	親がいるため。
53	街がコンパクトで住みやすい。
54	両親が側にいる方が安心する。なによりも住みやすい。
55	盛岡の会社から実家が近く、盛岡が過ごしやすいから。
56	転勤で8年住んでみて、人柄や県民性が好きな事や友人がたくさんできた事、買い物等の便利さも魅力的なので。
57	育った街なので、友人がたくさんいるからです。こちら（宮城県）は、旦那の地元で私は知り合いがないから。
58	ひとり暮らしだとお金が貯まらない。

NO	理由
59	家族の近くで暮らしたいから。
60	親がいるので、やはり側にいたいとは思う。子供を産むなら親の側がいいかと思う。
61	地元の友達に会いたいから。家族と日々過ごしたいから。
62	住みやすい。（店、病院、学校など車を使わなくても行けていた）街並みがすてき、ゆったりしている。地元でもないので、盛岡に住む可能性は少ないですが、いつも戻りたいと思っているほど良い町だと思います。
63	子どもが暮らしやすいまちづくり。具体的には、大通りの飲食店の禁煙化等。
64	両親が生活している場所、自分自身も生まれ育った町だから。
65	夫も私も岩手出身なので、いずれは地元に戻りたい。
66	盛岡に貢献したい。また生まれ育った盛岡に愛着をもっているから。
67	実家が盛岡市にあり、親の世話の事を考えるため。また、十数年間盛岡に在住していた為、盛岡の方が居心地が良い。
68	盛岡のあたたかさが好きだという事と、自分の母校で教師をやりたいという夢があるから。
69	適度にのどかで何とも言えず、暮らすには私にとっては最適な場所。
70	なじんだ人が多い、本当に良い人が多いと思います。
71	街、人、リズム。
72	住みやすい、実家に帰省しやすい。
73	私の故郷である岩手県内で一番発展している街なので暮らしが便利だと思うから。
74	生活環境が良かった。
75	ゆくゆくは、育った盛岡市に貢献できるような仕事をしたいと考えている為。また、安全な街であると感じているので、出産を機にリターンを考えると思う。
76	生まれ育った街だから。
77	都会での子育てはイヤだから。
78	盛岡が大好きだから。
79	地元で就職したいから。
80	旦那も私も盛岡出身で、親もいるので。やっぱり、自分が育った盛岡が好きだから。
81	実家があるから。
82	地元が好きで、地元になにか貢献したい。
83	幼少期を過ごした思い出の地（出身は他県ですが）であること。また、東京と比較して、自然と調和した素晴らしい環境があること。
84	周りの環境が良いから。安心するため。
85	身内がいるため。
86	地元が好きだから。盛岡がとても住みやすい所だと思うので。
87	自然が豊かで過ごしやすく、人も温かいから。
88	・2年半、盛岡市に住んだことがあり、住みやすかったため。 ・友人がいるため。
89	盛岡が好きだから。
90	生まれ育った土地だから。生活・子育てに良い環境だと思うから。
91	親しみがある、慣れ親しんだ場所だから。落ち着ける。親がいるから。
92	やっぱり岩手の人の方がいい。自然や静かさが恋しいです。できれば早く戻りたいですが、戻る資金を貯めないとけないので、頑張るしかないです。
93	家族が心配だから。
94	住み慣れているため。
95	環境が良い。空気がきれい。「何もないが、なぜか落ち着く」町であるから。
96	生まれ育った所だから。
97	住みやすい環境が整っている。
98	長く住んだ所であること。長く付き合いがある友人がいる事。先祖の墓があること。
99	ふるさとだから。
100	住みよい。
101	とても住みやすい環境であり、将来家族や子どもと暮らすことを考えれば、親も盛岡にいることもあり、いい環境だと思うから。

NO	理由
102	盛岡が好きだから。
103	実家になるべく近くなりたいから。人も多すぎず、適度に発展してて過ごしやすいから。
104	盛岡市に住む両親が介護等が必要になった時、そばにいたいから。
105	やっぱりお母さんと一緒に住みたい。
106	親の面倒を見なければならなくなったら、両親が愛着をもって暮らす盛岡で世話をしたいと思うから。
107	都会よりも地方の方が住みやすいため。
108	のんびりとしていて暮らしやすいから。
109	都会に出てきてなお、実家や地元の良さを感じたから。こちらで経験を積んで、地元の人たちに貢献したいと思うから。
110	住み慣れた町がいいから。
111	岩手の生活に慣れてしまい都會では暮らしにくいから。
112	生活環境が便利なので。あとあまり人でごちゃごちゃしていない所。
113	岩手を離れて、岩手の良さがすごく分かった。景色も人も岩手が1番。全部1番。
114	盛岡が暮らしやすいから。
115	実家がある。世話をすべき人（親・祖父母）がいる。
116	親の世話、介護関係。
117	県外に出て、改めて盛岡の住みやすさ、居心地を実感したから。
118	単純に盛岡が好きだから。
119	生活しやすい環境だから。（地形など。）自然が多く残っているから。
120	生活のしやすさ、地理的に判る。
121	自分が育った土地だから。
122	盛岡市を愛しているし、将来は盛岡市のために働きたいから。
123	自分が生まれ育った街に対して少しでも役に立ちたいと考えているため。また、自分の子供を育てるために、盛岡の風土がとても良いと考えているため。
124	ほどよい田舎で暮らしやすい。育った場所なので愛着がある。知り合いがたくさんいる。
125	家族が居るから。
126	住みやすい環境だから。
127	実家があるから。
128	やっぱり盛岡が好き。自然もあるのに店もある。住みやすいと思う。
129	自分の親もいるため、子育ての手助けをしてもらえるので。後々親の介護を考えると近くにいたいから。
130	本当に人の心が温かくていい町だと思うから。また、住み心地が良いから。
131	町の風景が好きだからです。中津川、岩手山。
132	地元が好きだから。友達がたくさんいる。子供は岩手で育てたいから。
133	盛岡市内で飲食店を開業しようと思い、その勉強のために東京で数年間働いてみようと思った。
134	親がいる。
135	大学時代お世話になった土地もあるし、何よりすごく住みやすかつたため。
136	盛岡の文化、環境が大好きだから。
137	地元が一番落ち着くから。
138	家庭を持ったらのんびり暮らししたいから。

### 【調査の概要 III：盛岡市へのU・Jターンに関するワークショップ】

開催場所	調査対象	実施日時	参加者数
東京（第1回）	岩手県内出身者	8月26日 19:00~21:30	20人
東京（第2回）	岩手県外出身者中心	9月5日 15:00~17:30	15人
仙台	岩手県内出身者	8月31日 19:00~21:30	8人

### 【調査結果のポイント】

#### Uターンを考えたきっかけ

- 後々の不安（親のこと、親の介護）
- 都会に疲れた（東京は人が多い、都会生活に疲れた）
- 田舎暮らしをしたい（自然の中で暮らしたい、地域が面白そう、知人が多い）
- 都会と地方の差の減少（ネット、宅配、距離を感じなくなった）
- 大学卒業（卒業時に良い仕事があったならば戻っていた）
- 定年（「きっかけにはならなかった」との声も）
- 今後の備え（将来を考えて（いざ「帰りたい」となった時に備えておく））
- 仕事・働き方（就職活動、現在の働き方への不満〔転勤が多い、子どもや家族への負担〕）
- 地域への想い（地域をなんとかしたい、盛岡・岩手がアツイと思った）
- 地元出身者との交流（岩手出身の人と会った時、岩手出身の人と岩手以外で話した時）
- 震災（地元を盛り上げたい、祖父母が沿岸にいるため身近に感じる）
- 帰省した時（盛岡の空気感が良かった）
- ライフステージ（結婚、子育て）
- 盛岡に行ってみて（さんさ踊りに参加して）

#### U・Jターンの課題

- 仕事（業種・職種が少ない〔やりたい仕事・現在のスキルを活かせる仕事がない〕、職探しが難しい〔情報が少ない〕、定年後〔仕事が無い、再雇用の場合の雇用条件〕、転職リスク）
- 給与（給与が少ない・減る）
- 経済性（家賃が高い〔収入に比べて高い〕、地域性〔車の購入が必要、暖房費〕、見通し〔収支のイメージがわかない〕）
- 移動（車が必要、車の運転が不安〔雪道〕、車通勤だと帰りに飲めない、終電が早い、電車バスの本数が少ない）
- 自然環境（寒い、雪が降る、冬が長い）
- 人付き合い（不安〔友人が少ない・離れる、人間関係を作れるか〕、地域性〔地域

- のしがらみ、濃すぎる人間関係])
- 生活スタイル（単調な毎日、地方に行って楽しめるのか）
  - 立地（海外旅行に行きにくい、首都圏に出にくい、観光地が郊外に多い）
  - ライフステージ（結婚のタイミング、親の問題、お墓の問題）
  - 住居（住居の選択【親と同居 or アパート or 一戸建て】）
  - 情報（情報が少ない【車や住宅など生活に関する情報、移住の成功例があるのか分からぬ】）
  - 相談（相談先がわからない、相談窓口が機能していない）
  - 教育（子どもの教育が不安）
  - 家族（家族を連れて行けるか不安、配偶者が馴染めるか不安、親との関係性）
  - 移住支援（移住支援が少ない、メリットを感じられない）

### 課題の解決策

- 仕事（情報提供【U I ターンに特化した求人サービス、求人情報の見せ方の工夫（面白さ・やりがいを感じられる見せ方）、成功事例の提供、集約した情報提供（理念、具体的な仕事内容、働いている人の声】】、就活機会の提供【関東にいながら就活できる環境整備、東京での説明会】、起業支援、企業誘致、在宅ワークの活性化）
- 移動（交通費援助、バスの本数増加、移住者向けペーパードライバー講習、カーシェアリング、相乗りタクシー）
- 自然環境（除雪、ロードヒーティング、課外授業の実施）
- 人付き合い（地元の人とU I J ターン者との交流、職場以外で関わることができる友人をつくる）
- 経済性（月々の収支の見える化、収支のビフォーアフター見える化）
- 住まい・宿泊（下見の時に泊まるホテルやシェアハウス、ゲストハウス）
- 補助（ものでU I J ターンを引っ張ってはいけない、研修費、引越費用、就職活動費【交通費】）
- 情報（方法【S N S、発信力がある媒体増、プッシュ型情報発信】、内容【U I J ターン経験・体験の共有（本音を聞きたい、帰って良かったこと、悪かったこと、改善してほしいこと）、教育・医療・生活情報、任意団体の情報、魅力の発信、ライフスタイル（タイムスケジュール】】、対象【高校生への情報発信】）
- 移住支援（期間限定で暮らしてみることができる制度、受け入れ体制の整備、モデルツアーカー）
- 交流（ワークショップの継続、関東で情報交換ができる場、若者交流の場、気軽に集まり、県外移住者のコミュニティ）
- 相談（相談できる場の設置（移住検討者向け、既移住者向け）、先輩移住者に相談できる場の設置）
- 趣味嗜好（既にある地元チームを盛り上げる）
- 人材（優秀な人材の育成・活用）
- 資源活用（長所の活用、県人会など組織を活用【組織を通じて商品のPR】）

- 家族（奥さんを説得できる材料が必要、奥さんが楽しめるまちづくり）
- ターゲットを絞る（子育て世代）

### 移住したい人を支援する方法（Iターン）

- 出会い・交流（盛岡女子との出会い、コミュニティ支援【移住先の知り合いが欲しい、Iターン者同士の交流会】）
- 仕事（起業支援、就職支援【採用情報の口コミ紹介、都内での説明会（ニコニコ動画など）、中小企業の情報提供】、岩手の会社とフリーで仕事したい【小口の仕事案件の紹介】、リモートワークしやすいTV会議システムなどの普及）
- 情報（生活費のシミュレーション、情報コミュニティ）
- 移動（新幹線代補助、車が無くても移動できる取組）
- 自然（寒さ対策、雪対策）
- 家族（東京に残す親への心配に関する対応）
- コンシェルジュ設置（おせっかいをしてほしい、仕事さがし、保育所さがし、家さがし）
- 多地域居住できる環境づくり（シェアハウス、数%住人【月に1回とか】になれる環境づくり、半岩手半東京支援）

### 移住者を呼び込むための方法

- 大きなストーリーを提示できること（南部鉄器を救え、さんさ太鼓をすぐえ）
- 地方都市がマニアックな分野に特化する
- 子どもの疎開・代わりに育てる（数年とか）
- Iターンの目的づくり（このためにIターンしましょう！という情報発信）
- ナイナイのお見合い大作戦の逆バージョン！（男性が都会に来て、女の子をさらっていく）

### 盛岡市的好きなところ

- 食事（食事・水がおいしい、おいしい店が多い、お勧めの食べ物【お酒・福田パン・よせ豆腐・焼肉・わんこ蕎麦・じやじや麺・冷麺・魚・米・南部せんべい】）
- 食材（新鮮【野菜・魚】、安い、山菜が取れる）
- 気候（四季のメリハリ、季節の中で見せる表情、暑すぎない、雪が降る）
- 自然（大自然がある、ワインタースポーツができる、温泉が多い、良い空気と広い空、星空）
- 自然景観（景色がいい【川が魅力的・岩手山・岩山・高松の池】、町中なのに鮭がのぼる）
- 街並み（市街地と自然の両立、住み分けができている、街のバランスが良い、レトロな街、城下町、歴史的建造物が多い、カフェが多い、オシャレ雑貨屋がある、岩手公園）

- 利便性（程良い地方都市〔都會すぎず田舎すぎず〕、適度な大きさ・コンパクトティ〔自転車移動が便利〕、新幹線が停まる）
- 立地（東京から近い〔2時間10分〕、岩手県内へのアクセスが良い、高速ＩＣに近い）
- 生活環境（夜が静か、人混みが少ない）
- ふるさとである（実家〔家〕・出身校・身内・友人がいる、居場所がある、故郷の良さを再確認〔実はつながっていた、近所付き合いは良い〕）
- 人柄（温かい、穏やか、優しい、誠実、安心、譲る人が多い、ガードが固い、ガンコ）
- 経済性（物価が安い、あまりお金を使わなくてすむ）
- 雰囲気（のんびりしている、せかせかしていない、静かな時間がある、時間の流れが緩やか）
- 歴史・文化（伝統・文化・歴史がある、文化的土壤が身近に点在している〔こじんまりした映画館、演劇、ライブ・ロックフェス、楽器人口が多い〕、偉人が多い、お祭りが良い〔さんさ踊り・チャグチャグ馬っ子・秋まつり（盛岡山車）〕、南部鉄器）
- 子育てのしやすさ（子育て環境に最適、まわりが助けてくれる）
- 仕事（ニアショア展開する上で穴場、ちょっと地元で活動するだけで名士になれる）
- 行政（身近、意見が反映されやすい）
- 防災・災害（被害が大きくなりにくい）

#### 長所の活用

- まずは来盛（一度來ることで良さを実感できる、都會とのスピード感が違うことを言葉で伝えるのは難しい）
- 地道に口コミ（友人になって良さを伝えていくのが確実、口コミによってポスターなどの効果が出るので）

## 2 結婚・出産等に係る意識調査結果

### 【アンケート調査】

- 対象者 盛岡市に住民登録のある満20歳以上50歳未満の市民 2,004人  
□方法 無記名方式の質問紙調査。郵送による配布・回収  
□期間 平成27年7月1日から7月31日まで  
□回収状況 有効回答率32.3%  
□回答者の基本属性  
・〔性別〕 男性39.1% 女性60.9%  
・〔既婚・未婚の別〕 未婚29.3% 既婚66.8% 離別死別3.9%  
・〔年齢〕 20-24歳 12.7% 25-29歳 16.6% 30-34歳 13.4% 35-39歳 20.0%  
40-44歳 17.9% 45-49歳 19.4%  
・〔居住形態〕 持ち家（戸建）29.0% 持ち家（集合住宅）4.2% 賃貸（戸建）6.5%  
賃貸（集合住宅）31.8% 社宅・官舎5.7%  
親の持家あるいは賃貸住宅に同居 22.2% その他0.5%  
・〔勤務形態〕 正規採用48.9% 派遣・契約等8.9% パート・アルバイト14.9%  
会社役員1.9% 自営業主・家族従業員5.4% 家事10.2%  
無職4.3% 学生5.4%  
・〔年収〕 なし17.4% 100万円未満12.6% 100万円以上200万円未満16.5%  
200万円以上300万円未満16.3% 300万円以上400万円未満13.5%  
400万円以上500万円未満8.4% 500万円以上600万円未満5.6%  
600万円以上700万円未満3.7% 700万円以上800万円未満3.3%  
800万円以上900万円未満0.8% 900万円以上1000万円未満0.6%  
1000万円以上1.2% 不詳0.2%

### 【ヒアリング調査】

- 対象者 盛岡市に本拠を置く団体及びその構成員 6団体  
少子化対策に関する専門家 1人  
□方法 訪問による聞き取り

### 【グループインタビュー】

- 対象者 アンケート調査で参加を希望した市民 13人  
□方法 グループインタビュー方式による聞き取り

## 【調査結果の概要】

### (1) 結婚

#### ①結婚の予定と願望

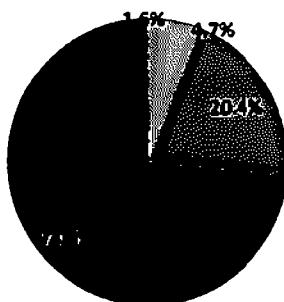
##### 7割以上が交際相手なし

未婚者に結婚の予定の有無等を尋ねたところ、26.7%の人が交際中で、結婚の予定があると答えている。

一方、回答者の73.3%が「現在交際している人がいない」と答えている。

図一資 22 結婚の予定の有無

- 結婚が決まっている
- 結婚の予定はあるが時期は未定
- 交際している人はいるが結婚するかどうかは未定
- 現在交際している人がいない

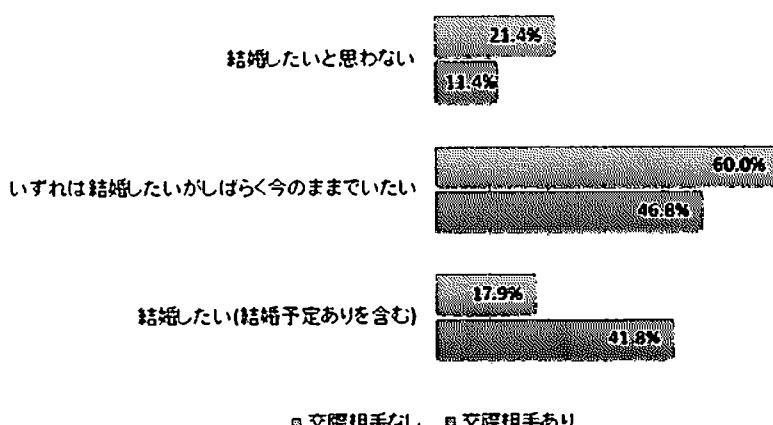


##### 交際相手「なし」より「あり」の方が結婚願望が強い

交際相手がいる人といない人の結婚願望を比較したところ、「結婚したい」と答えた人の割合が、交際相手なしのが17.9%だったのに対し、交際相手ありが41.8%と、結婚願望が高い傾向がある。

一方、交際相手なしの人は、「結婚したいと思わない」「いずれは結婚したいがしばらくは今のままでいたい」と答える人の割合が、交際相手ありの人より高い傾向がある。

図一資 23 交際相手の有無による結婚願望の比較

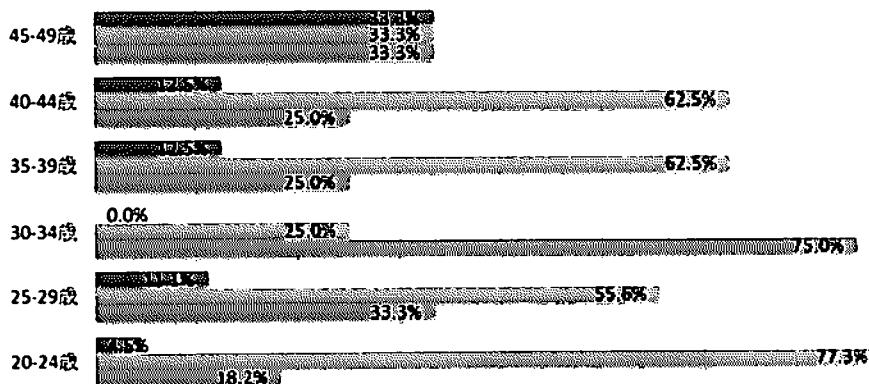


### 交際相手ありの結婚願望は30代前半がピーク

結婚したいと思うかどうかを、交際相手ありと交際相手なしの年代別に比較したのが、以下の表である。

交際相手ありの年代別結婚願望度は、30歳から34歳の30代前半に突出して高まっている。

図一資24 交際相手ありの年代別結婚願望の状況

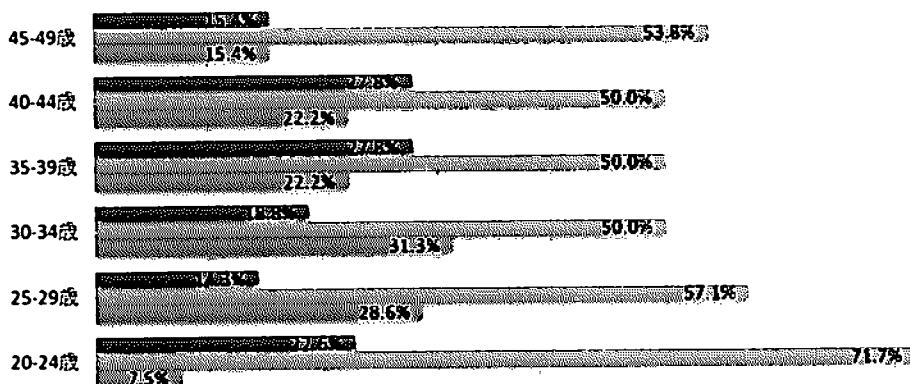


□結婚したいと思わない □いすれは結婚したいかしばらく今のままでいたい □できるだけ早く結婚したい

### 交際相手なしは総じて「今の中」を選択

交際相手なしの年代別結婚願望度をみると、各年代で「いすれは結婚したいがしばらく今のままでいたい」が高い割合を示している。

図一資25 交際相手なしの年代別結婚願望の状況



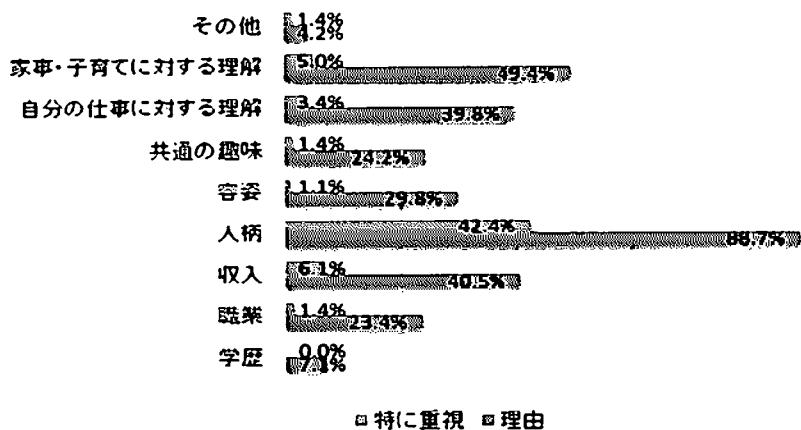
□結婚したいと思わない □いすれは結婚したいかしばらく今のままでいたい □できるだけ早く結婚したい

## ②結婚相手の望むこと

### 結婚相手に望むことのトップは「人柄」

結婚相手に望むことを尋ねたところ、「人柄」「家事・子育てに対する理解」「収入」「自分の仕事に対する理解」の順となった。そのうち、特に重視することは「人柄」で、4割以上の人人が重視している。

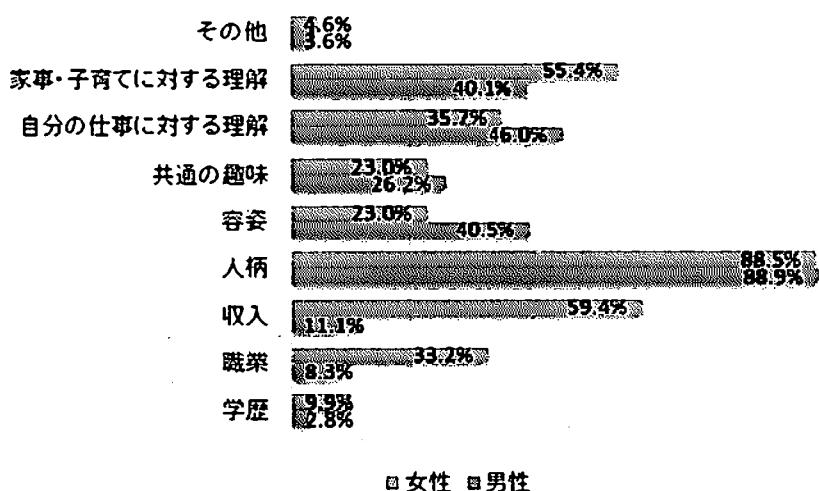
図一資 26 結婚相手に望むこと



### 女性が2番目に重視するのは「収入」、男性は「自分の仕事に対する理解」

男女とも「人柄」が最も多かったが、次が男性は「自分の仕事に対する理解」「容姿」だったのに対し、女性は「収入」「家事・子育てに対する理解」が続いた。特に、未婚女性の場合、「収入」を望む人が7割を超えていた。

図一資 27 結婚相手に望むことの男女比較

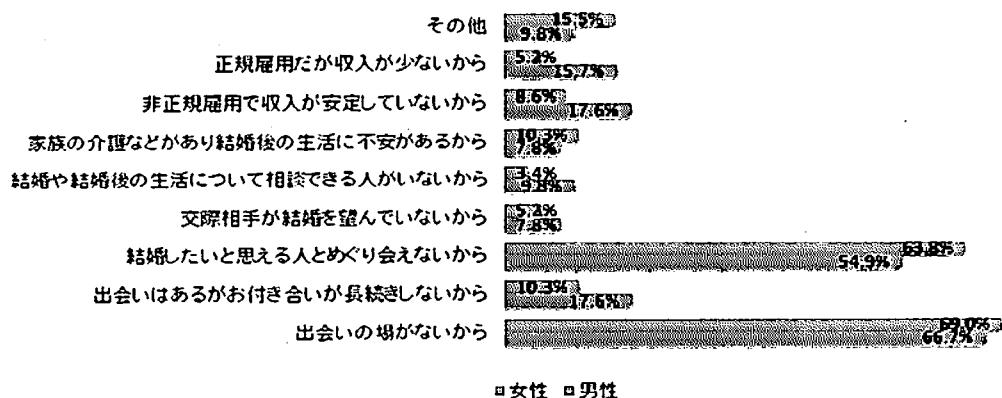


### ③結婚できなかった理由・しない理由

#### 結婚できなかった理由は出会いがなかったこと

結婚を望みながら、これまで結婚できなかった理由を尋ねたところ、男女ともに「出会いの場がないから」と「結婚したいと思える人とめぐり会えないから」が多くかった。

図一資 28 結婚を望みながら結婚できなかった理由



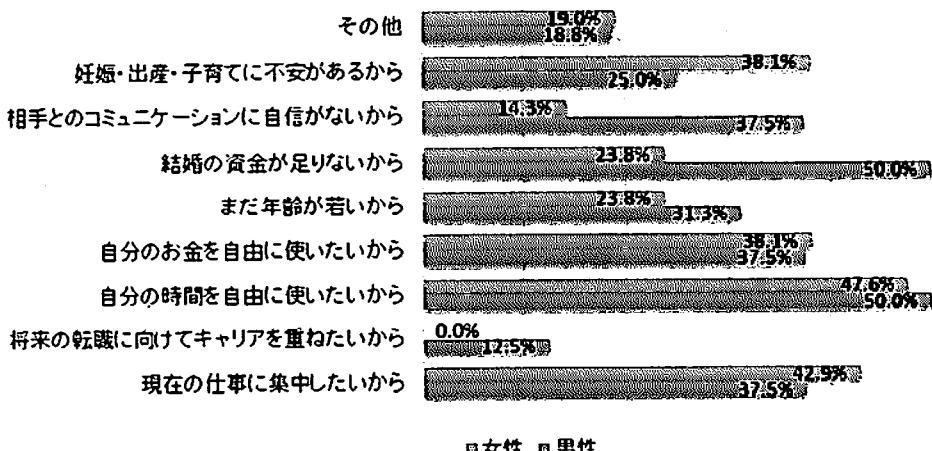
#### しばらく今までいたい理由は自分の時間を自由に使いたいから

いずれは結婚したいがしばらく今までいたい理由を尋ねたところ、男性では「自分の時間を自由に使いたい」「結婚の資金が足りない」が最も多く、次いで「現在の仕事に集中したい」「自分のお金を自由に使いたい」「相手とのコミュニケーションに自信がない」が多かった。

一方、女性では「自分の時間を自由に使いたい」「現在の仕事に集中したい」が4割を超え、次いで「自分のお金を自由に使いたい」「妊娠・出産・子育てに不安がある」が多かった。

男女別の特徴として、男性は「相手とのコミュニケーションに自信がない」が多く、女性では「妊娠・出産・子育てに不安がある」が多かったことがあげられる。

図一資 29 今は結婚しない理由

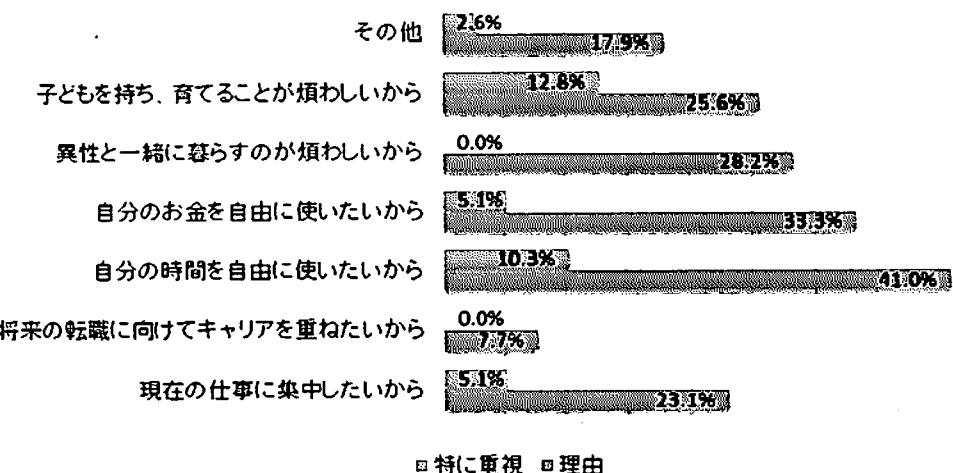


□女性 □男性

### 結婚したくない理由は自分の時間・お金を自由に使いたいから

結婚したいと思わないと答えた人に理由を尋ねたところ、「自分の時間を自由に使いたい」が最も多く、次いで「自分のお金を自由に使いたい」「異性と一緒に暮らすのが煩わしい」「子どもを持ち、育てることが煩わしい」の順であった。

図一資 30 結婚したくない理由

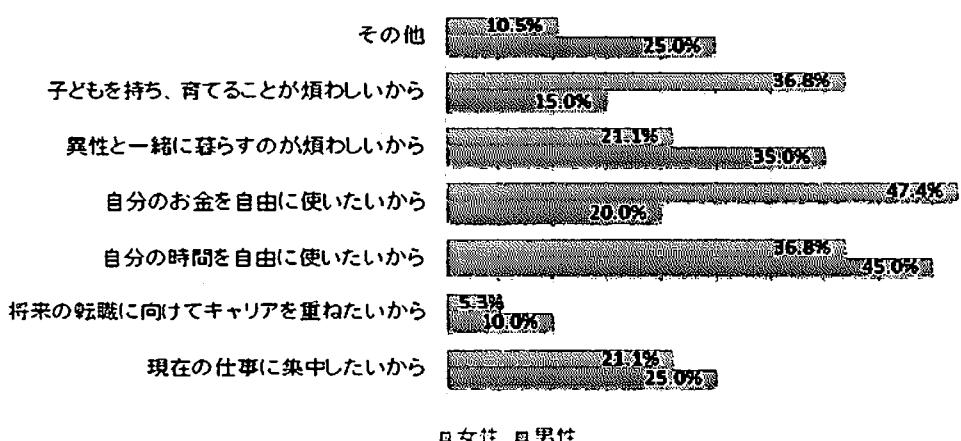


□ 特に重視 □ 理由

### 男性は異性と暮らすこと、女性は子どもを持ち・育てるなどを煩わしいと考えている

結婚したくない理由を男女別にみると、男性は「自分の時間を自由に使いたい」に次いで「異性と一緒に暮らすのが煩わしい」と答え、女性は「自分のお金を自由に使いたい」に次いで「自分の時間を自由に使いたい」と「子どもを持ち、育てるのが煩わしい」と答えている。

図一資 31 結婚したくない理由の男女比較



□ 女性 □ 男性

## (2) 妊娠・出産

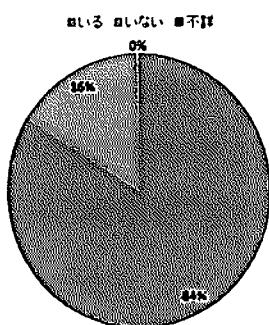
### ①子どもの数

#### 子どものいる既婚者 8割超、平均子ども数 1.9 人

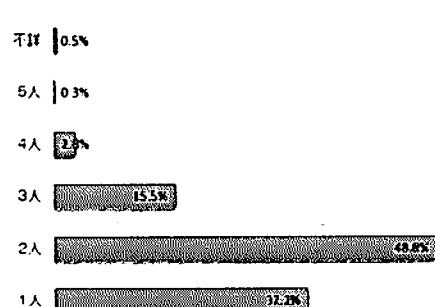
既婚者で子どものいる人は 84%，最も多い子ども数は 2 人であった。

子どものいる既婚者の平均子ども数は 1.9 人、子どものいない既婚者も含めると平均 1.6 人であった。

図一資 32-1 既婚者の子どもの有無



図一資 32-2 既婚者の子ども数の分布

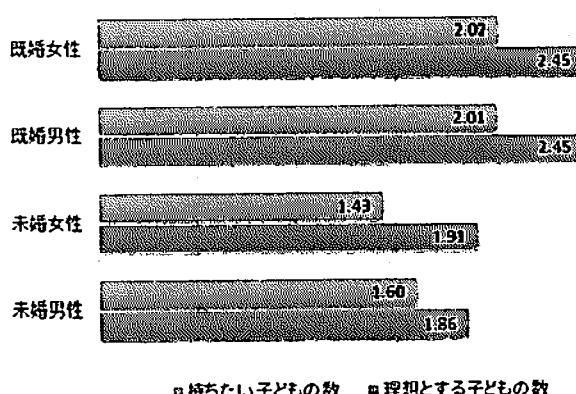


#### 理想の子ども数と予定の子ども数の平均値の差は 0.4 人

理想的な子ども数と現実に持ちたい数の平均（子どもはいらないと答えた回答者を含む）は、理想的な子ども数が 2.3 人、現実に持ちたい子ども数が 1.9 人であった（子どもを持ちたい人だけの平均はそれぞれ 2.4 人と 2.1 人）。

未婚・既婚別では既婚者の方が、男女別では男性の方が、理想的な子ども数・現実に持ちたい数ともに多いことがわかる。

図一資 33 理想とする子どもの数と現実に持ちたい子どもの数

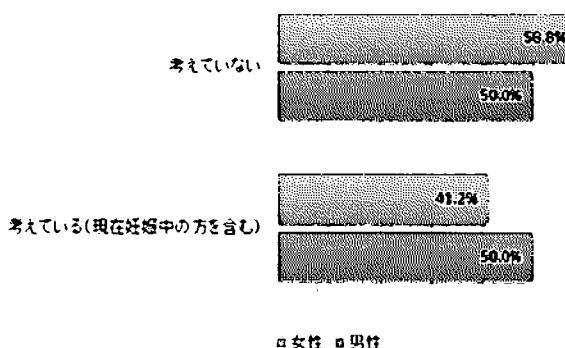


## さらに子どもを持ちたいという願望は男性が強い

現在の子ども数が理想的な子ども数より少ない人に今後の妊娠・出産の希望を子どもを尋ねたところ、「考えている」が 44.2%、「考えていない」が 55.8%であった。

男女別にみると、女性の方が「考えていない」率が高い。

図一資 34 今後の妊娠・出産の願望



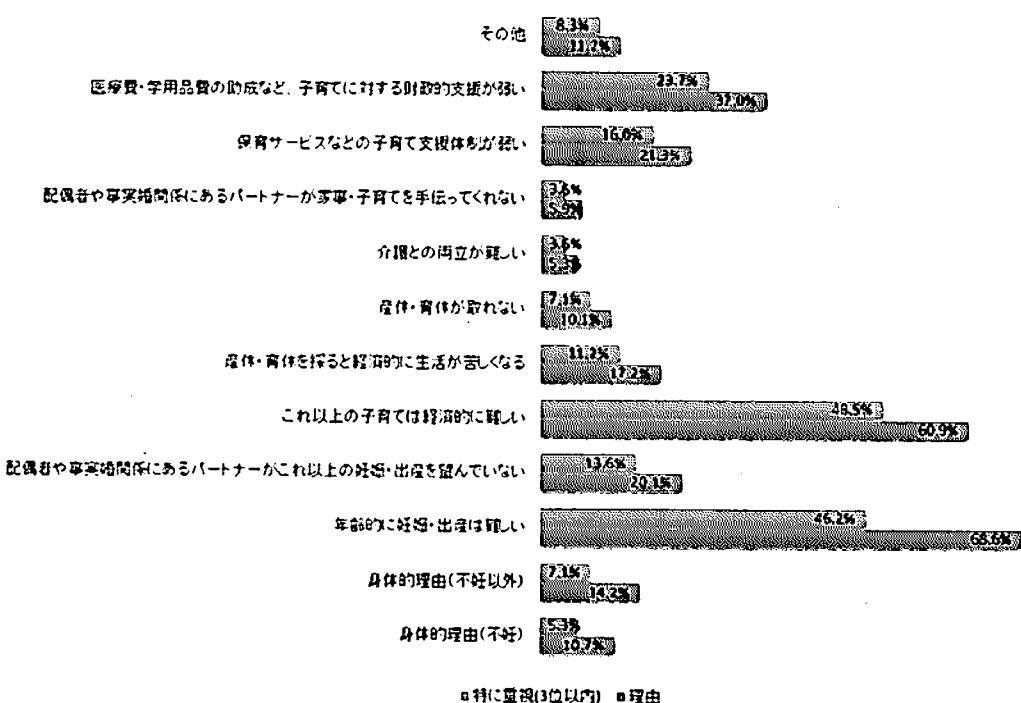
## ②子どもを持たない理由・持ちたくない理由

### 子どもを持たない理由は年齢と経済的理由が高い

今後の妊娠・出産を考えていない理由を尋ねたところ、「年齢的に妊娠・出産は難しい」「これ以上の子育ては経済的に難しい」が 6 割以上を超えていた。

そのうち、最も大きな要因は経済的な理由であった。

図一資 35 今後の妊娠・出産を考えていない理由

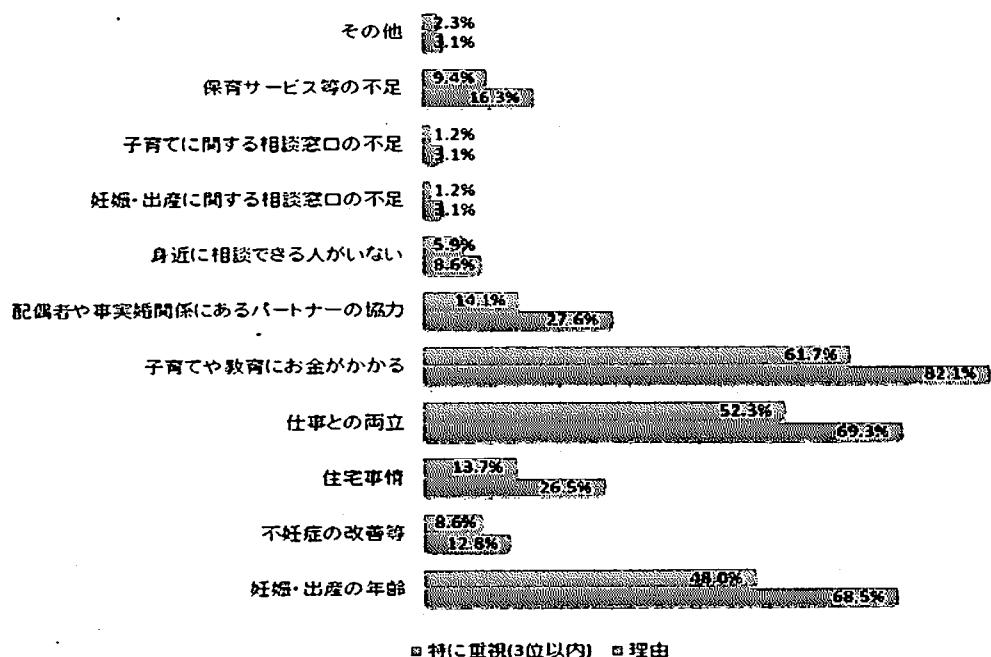


### 妊娠・出産を考える上での不安は子育て費用や教育費

現在子どものいない人に妊娠・出産を考える上での不安について尋ねたところ、子育てや教育にかかる経済的負担や、年齢的な不安、仕事との両立が上位を占めた。

そのうち、最も重視された要因は、子育てや教育にかかるお金への不安、仕事との両立て回答者の5割を超えていた。

図一資 36 妊娠・出産を考える上での不安要因

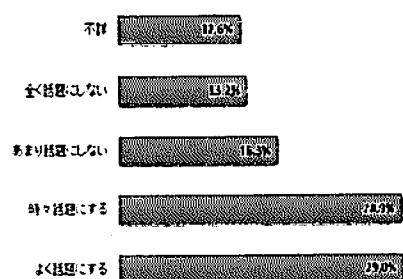


### 妊娠・出産・子育てについて話題にする人は5割以上、8割以上が関心を示す

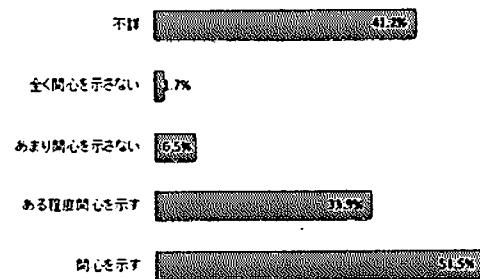
交際相手や配偶者と妊娠・出産や子育てについて話題にするか尋ねたところ、「よく話題にする」「時々話題にする」が半数を超えた。

話題にした時の相手の反応は、8割以上が「関心を示す」あるいは「ある程度関心を示す」結果となった。

図一資 37-1 話題の有無



図一資 37-2 関心の有無



(参考)

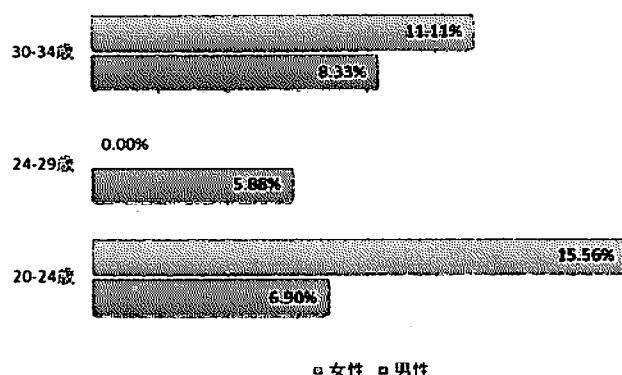
理想とする子どもの数について、明治安田生活福祉研究所が平成26年8月に発表した「第8回結婚・出産に関する調査」では、震災後に増加傾向にあり、調査時点での平均数は2.35人という結果が出ている。

平成26年3月に報告された内閣府の「家庭と地域における子育てに関する調査」では、希望する子どもの数は男性が2.1人、女性が2.3人という結果が示されている。

20代前半女性の子どもを持ちたくない割合が高い

理想とする子どもの数を尋ねた設問への回答で、20歳から24歳の女性で「子どもはいらない」と答えた人が15%を超えている。現実に持ちたい子どもの数でも同様に15%を超えている。

図一資38 理想的な子どもの数で「いらない」と答えて20代から30代前半の割合



③希望出生率

本アンケート調査結果から得られる盛岡市の希望出生率は1.75

民間団体の日本創成会議が「ストップ少子化・地方元気戦略」で示している計算式に基づき、本アンケート調査結果から得られた数値により、盛岡市の希望出生率を計算すると次のとおりとなる。

$$<\text{希望出生率計算式}> = (\text{既婚者割合} \times \text{夫婦の予定子ども数} + \text{未婚者割合} \times \text{未婚結婚希望割合} \times \text{理想子ども数}) \times \text{離別等効果} (0.938)$$

$$<\text{盛岡市の希望出生率}> = (66.8\% \times 1.88 + 33.2\% \times 81.1\% \times 2.26) \times 0.938 \\ = 1.75$$

### (3) 子育て

#### ①利用した子育て支援制度等

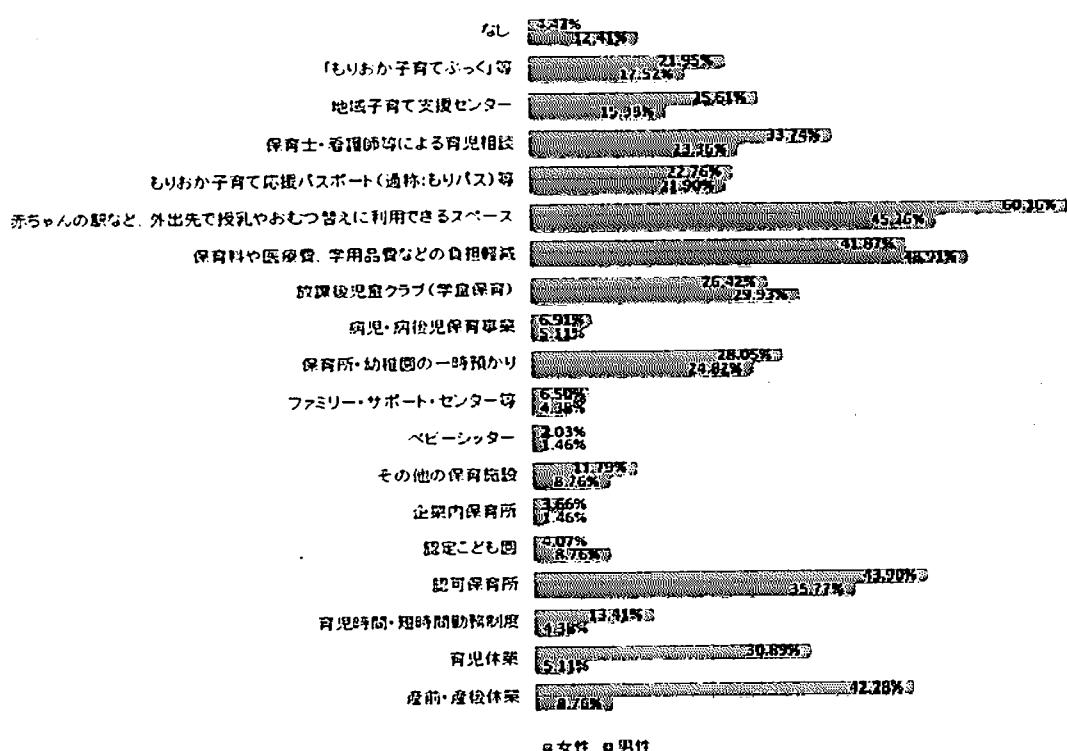
##### 男性の産休・育休は実績少なく

これまで利用した子育て支援制度やサービスは、女性では外出先でのおむつ替えスペースが最も多く、男性では保育料等負担軽減が最も多かった。

保育施設では認可保育所の利用が最も多く、一時預かりや学童保育施設の利用も3割近くある。

産前産後休業や育児休業、育児時間・短時間勤務制度の利用は女性が多く、男性の利用は進んでいない。

図一資 39 これまで利用した子育て支援制度・サービス



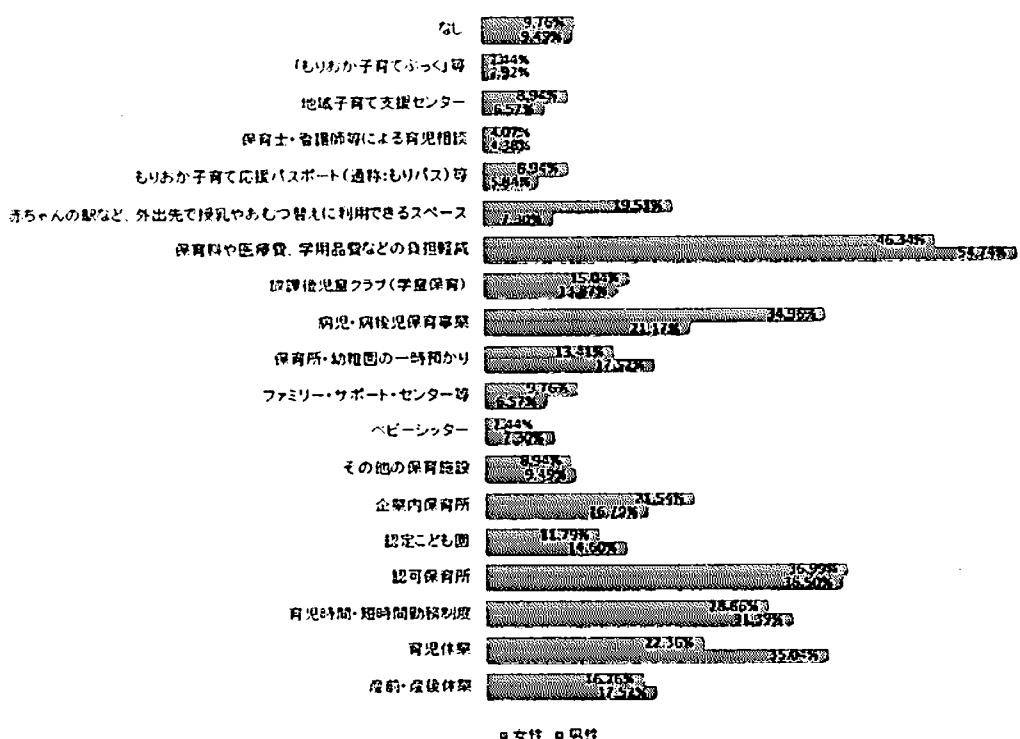
## ②不足している子育て支援制度等

### 負担軽減策と病児・病後保育、認可保育所が不足

不足していると感じている子育て支援制度・サービスでは、保育料や医療費、学用品費などの負担軽減策が最も多く、次いで認可保育所や、育休や短時間勤務といった職場での支援環境が続く。

病児・病後児保育が、前項の利用実績に比べ男女ともに高くなっている。

図-資 40 不足している子育て支援制度・サービス



### （参考）

病児・病後児保育の充実を求める声は、ヒアリング調査やグループインタビューでも出されている。

また、明治安田生活福祉研究所が平成26年8月に発表した「第8回結婚・出産に関する調査」でも、「充実させてほしい保育サービス」として報告されている。

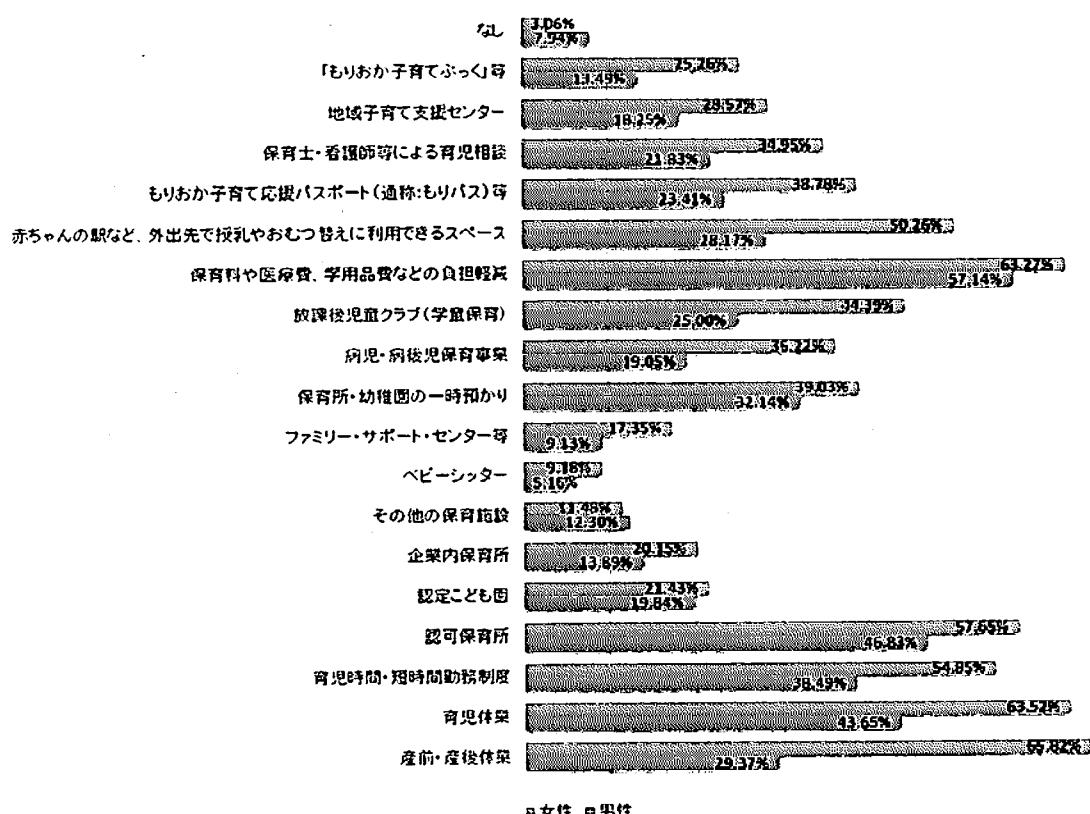
### ③今後利用したい子育て支援制度等

#### 女性は支援制度・サービス全般に関心、男性も産休・育休に関心

今後妊娠・出産や子育てを考える場合の、利用したいと思う子育て支援制度・サービスは、女性では産休・育休が最も多く、男性では保育料や医療費、学用品費などの負担軽減策が最も多い。

特徴的なのは、女性が支援制度・サービス全般に関心を示していることと、男性が産休・育休など企業内の支援環境に関心を寄せていることである。

図一資 41 今後利用したい子育て支援制度・サービス



□女性 □男性

### 3 新しい総合計画策定に向けたアンケート調査（抜粋）

□調査対象者 盛岡市に住民登録のある満20歳以上の市民 3,000人  
(平成25年7月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出)

□調査方法 無記名式の質問紙調査。郵送による配布・回収

□調査時期 平成25年8月30日から9月20日まで

□調査結果（抜粋）

少子化対策として何が必要だと思いますか。次の中から2つ以内をお選びください。

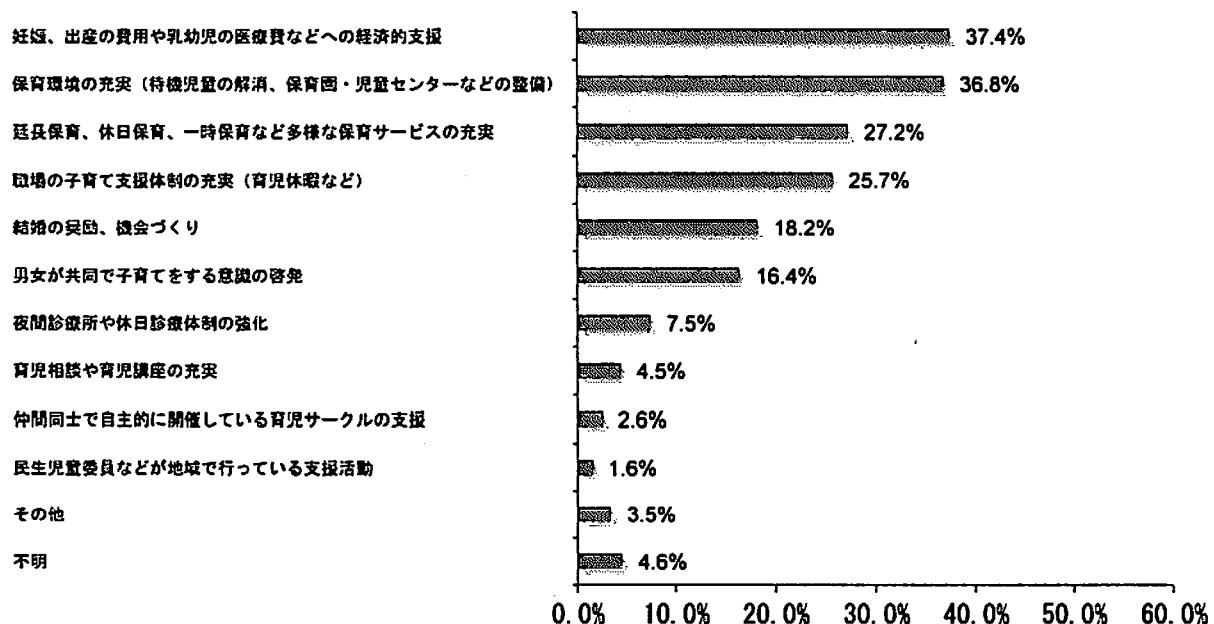
#### ●「妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費などへの経済的支援」が最も多い(37.4%)

「妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費などへの経済的支援」を選んだ人が最も多く、次いで「保育環境の充実（待機児童の解消、保育園・児童センターなどの整備）」、「延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実」となっています。

前回調査と比較すると、「妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費などへの経済的支援」、「延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実」は、今回の調査でも多くの人が選んでいます。

「保育環境の充実（待機児童の解消、保育園・児童センターなどの整備）」が、8.7%上昇し36.8%と、高い割合で選ばれています。

図-資42 少子化への対応（回答者数 1,223人）

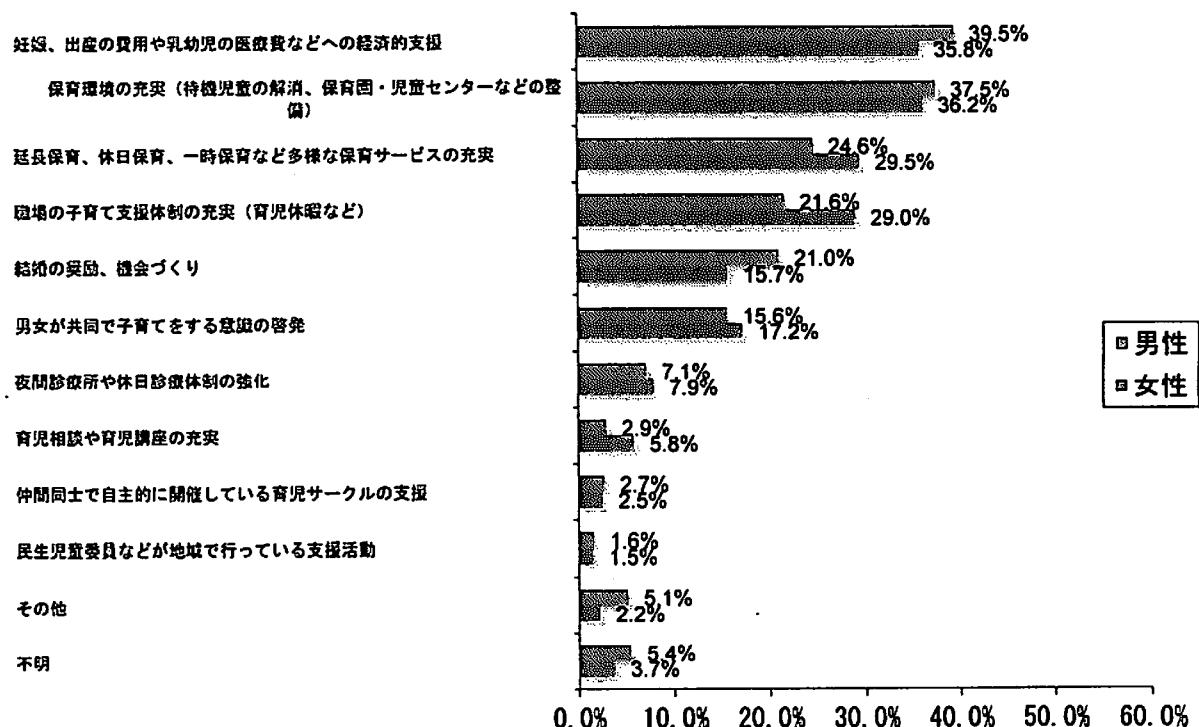


## ◆性別

男性は、女性と比べて「結婚の奨励、機会づくり」を選んだ割合が高くなっています。

女性は、男性と比べて「延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実」や「職場の子育て支援体制の充実（育児休暇など）」を選んだ割合が高くなっています。

図一資 43 少子化への対応・性別（回答者数 男性 552 人 女性 668 人）



◆ 年代別

各年代でほぼ同様の傾向となっていますが、20歳代では、他の年代と比べて「延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実」よりも「職場の子育て支援体制の充実（育児休暇など）」を選んだ割合が高くなっています。

表一資 44. 少子化への対応（年代別）

回答者数（人）	単位（%）												
	妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費などへの経済的支援（の盛側）	職場の子育て支援体制の充実（育児休暇など）	延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実	職場の子育て支援体制の充実（育児休暇など）	結婚の奨励、機会づくり	男女が共同で子育てをする意欲の啓発	強化	夜間診療所や休日診療体制の充実	育児相談や育児講座の充実	仲間同士で自主的に開催している育児サークルの支援	民生児童委員などが地域で行っている支援活動	その他	不明
全体	1,223	37.4	36.8	27.2	25.7	18.2	16.4	7.5	4.5	2.6	1.6	3.5	4.6
20歳代	97	51.5	28.9	17.5	35.1	16.5	16.5	3.1	7.2	2.1	1.0	3.1	4.1
30歳代	188	45.7	37.8	32.4	27.7	9.6	19.1	4.3	3.2	0.5	0.5	5.3	3.2
40歳代	218	33.5	39.4	31.2	25.7	18.3	15.6	8.3	4.1	2.3	0.5	5.5	1.4
50歳代	206	35.4	39.8	25.7	24.8	17.0	12.6	6.3	5.3	3.9	1.0	3.4	7.8
60歳代	268	34.0	38.8	28.0	24.6	20.1	17.2	8.6	5.6	2.6	1.1	3.4	4.1
70歳以上	242	34.3	31.8	24.4	22.3	24.0	17.8	11.2	2.9	3.7	4.5	0.8	6.2

※1 全体数は年齢不明分も含んでいます。

※2 各年代の上位3項目のセルに色づけをしています。

## ◆ 居住地区別

上位 4 項目は、各地区で多くの人が選んでいますが、「職場の子育て支援体制の充実（育児休暇など）」を選んだ割合が 8.1% と低くなっています。代わりに「結婚の奨励、機会づくり」を選んだ割合が高くなっています。

表一資 45 少子化への対応（居住地区別）

回答者数（人）	単位（%）												
	妊娠、出産の費用や乳幼児の医療費などへの経済的支援	の整備	保育環境の充実（待機児童の解消、保育園・児童センターなど）	延長保育、休日保育、一時保育など多様な保育サービスの充実	職場の子育て支援体制の充実（育児休暇など）	結婚の奨励、機会づくり	男女が共同で子育てをする意図の啓発	強化	夜間診療所や休日診療体制の充実	育児相談や育児講座の充実	仲間同士で自主的に開催している育児サークルの支援	民生児童委員などが地域で行っている支援活動	その他
全体	1,223	37.4	36.8	27.2	25.7	18.2	16.4	7.5	4.5	2.6	1.6	3.5	4.6
河北	377	36.6	38.5	30.0	25.7	18.3	15.1	5.8	4.8	2.1	2.1	3.2	4.2
河南	174	35.6	33.9	29.3	27.0	16.7	16.7	8.0	2.9	2.3	1.7	4.0	5.2
盛南	193	35.2	41.5	25.4	27.5	13.0	20.2	10.4	5.7	2.1	2.1	2.6	3.1
厨川	222	45.0	39.6	23.0	28.4	19.4	17.1	6.8	3.2	3.2	0.5	3.6	1.4
都南	183	32.8	35.5	29.0	26.8	21.3	14.2	9.3	7.1	4.9	1.1	4.4	2.7
玉山	37	45.9	24.3	27.0	8.1	35.1	18.9	2.7	2.7	0.0	0.0	2.7	10.8

※1 全体数は居住地区不明分も含んでいます。

※2 各居住地区的上位 3 項目のセルに色づけをしています。

#### 4 町丁字別の人団増減の変化（変化率の高い順）

町丁字名	2006年	2015年	増減数	変化率
長橋町	828	2,353	1,525	284.2%
上ノ橋町	341	550	209	161.3%
盛岡駅前通	627	939	312	149.8%
本宮1～7丁目、向中野1～7丁目、北飯岡1～4丁目、本宮字、向中野字、飯岡新田	13,787	20,306	6,519	147.3%
津恵田西1～2丁目	1,228	1,769	541	144.1%
志家町	669	950	281	142.0%
東安庭1～3丁目	2,017	2,716	699	134.7%
盛岡駅西通1～丁目	1,320	1,744	424	132.1%
門1～2丁目	1,420	1,724	304	121.4%
浅岸1～3丁目・浅岸字・加賀野字	2,727	3,286	559	120.5%
肴町	1,190	1,404	214	118.0%
津志田中央1～3丁目	2,324	2,725	401	117.3%
缺が丘1～4丁目	4,614	5,287	673	114.6%
天神町	680	775	95	114.0%
玉山区渡民字	1,591	1,794	203	112.8%
中ノ橋通1～2丁目	770	867	97	112.6%
下太田	2,704	3,020	316	111.7%
前潟1～4丁目、上野川字	1,442	1,596	154	110.7%
津志田町1～3丁目	1,187	1,309	122	110.3%
南仙北1～3丁目	4,559	4,994	435	109.5%
津志田南1～3丁目	1,820	1,958	138	107.6%
東見前	2,521	2,694	173	106.9%
神明町	518	551	33	106.4%
南青山町	1,423	1,510	87	106.1%
平賀新田字	265	281	16	106.0%
開運橋通	628	665	37	105.9%
中央通1～3丁目	1,853	1,949	96	105.2%
名須川町	1,192	1,251	59	104.9%
西見前	4,903	5,144	241	104.9%
大館町	1,972	2,067	95	104.8%
津志田	2,554	2,645	91	103.6%
永井	7,973	8,231	258	103.2%
大沢川原1～3丁目	1,128	1,151	23	102.0%
大通1～3丁目	848	864	16	101.9%
門字	265	268	3	101.1%
城西町	1,237	1,251	14	101.1%
加賀野1～4丁目	3,546	3,580	34	101.0%
本町通1～3丁目	4,597	4,634	37	100.8%
中堤町	2,504	2,519	15	100.6%
西仙北1～2丁目	3,055	3,073	18	100.6%
夕顔瀬町	1,370	1,375	5	100.4%
みたけ1～6丁目	7,792	7,818	26	100.3%
南大通1～3丁目	2,283	2,290	7	100.3%
三本柳	6,807	6,825	18	100.3%
材木町	926	925	-1	99.9%
上堂1～4丁目	4,028	4,023	-5	99.9%
前九年1～3丁目	3,685	3,675	-10	99.7%
黒石野1～3丁目	3,756	3,730	-26	99.3%
黒川	2,968	2,946	-22	99.3%
東仙北1～2丁目	2,502	2,481	-21	99.2%
三ツ割1～5丁目	2,196	2,169	-27	98.8%
山王町	990	974	-16	98.4%
仙北1～3丁目	3,988	3,919	-69	98.3%
菜園1～2丁目	399	392	-7	98.2%
北天昌寺町	1,727	1,691	-36	97.9%
西下台町	1,382	1,338	-44	96.8%
安倍館町	1,157	1,117	-40	96.5%
下米内1～2丁目	1,437	1,387	-50	96.5%
繁字	902	865	-37	95.9%
笛清水1～2丁目	1,813	1,738	-75	95.9%
若園町	489	468	-21	95.7%
玉山区草田字	457	437	-20	95.6%
高松1～4丁目	6,021	5,756	-265	95.6%
小杉山	464	443	-21	95.5%
三ツ割字	800	763	-37	95.4%
上田字	769	733	-36	95.3%
山岸1～6丁目	6,917	6,584	-333	95.2%
長田町	1,133	1,072	-61	94.6%
天昌寺町	863	815	-48	94.4%
清水町	1,680	1,582	-98	94.2%
猪去	675	635	-40	94.1%
茶畠1～2丁目	2,131	2,003	-128	94.0%
西青山1～3丁目	7,235	6,772	-463	93.6%
境田町	1,702	1,584	-118	93.1%
中屋敷町	1,104	1,027	-77	93.0%
東中野字	1,982	1,842	-140	92.9%
中太田	1,914	1,774	-140	92.7%
玉山区好摩字	3,859	3,574	-285	92.6%
住吉町	1,052	972	-80	92.4%
上太田	2,123	1,960	-163	92.3%
北夕顔瀬町	1,174	1,080	-94	92.0%

町丁字名	2006年	2015年	増減数	変化率
上飯岡	989	909	-80	91. 9%
東黒石野1～3丁目	1, 428	1, 310	-118	91. 7%
上田堤1～2丁目	1, 800	1, 651	-149	91. 7%
湯沢西1～3丁目	792	725	-67	91. 5%
新田町	1, 341	1, 225	-116	91. 3%
小鳥沢1～2丁目	2, 957	2, 701	-256	91. 3%
館向町	1, 951	1, 775	-176	91. 0%
愛宕町	1, 163	1, 058	-105	91. 0%
盛岡駅前北通	1, 513	1, 376	-137	90. 9%
大新町	1, 518	1, 379	-139	90. 8%
玉山区下田字	3, 568	3, 241	-327	90. 8%
東山一丁目	2, 930	2, 661	-269	90. 8%
松園1～3丁目	3, 332	3, 024	-308	90. 8%
下飯岡	1, 222	1, 108	-114	90. 7%
下ノ橋町	675	612	-63	90. 7%
内丸	266	241	-25	90. 6%
東緑が丘	1, 761	1, 591	-170	90. 3%
月が丘1～3丁目	6, 279	5, 654	-625	90. 0%
仲子田町	1, 346	1, 211	-135	90. 0%
青山1～4丁目	5, 565	5, 000	-565	89. 8%
玉山区巻堀	284	255	-29	89. 8%
上田1～4丁目	4, 966	4, 451	-515	89. 6%
上鹿妻	825	738	-87	89. 5%
乙部	2, 699	2, 403	-296	89. 0%
岩清水	473	421	-52	89. 0%
北松園1～4丁目	4, 451	3, 959	-492	88. 9%
八幡町	901	804	-100	88. 9%
上米内字	1, 480	1, 316	-164	88. 9%
湯沢	929	824	-105	88. 7%
北山1～2丁目	1, 811	1, 603	-208	88. 5%
高崩	42	37	-5	88. 1%
手代森	2, 657	2, 339	-318	88. 0%
東新庄1～2丁目	1, 465	1, 289	-176	88. 0%
羽場	966	849	-117	87. 9%
恨田茂	66	58	-8	87. 9%
桜台1～3丁目	3, 147	2, 762	-385	87. 8%
湯沢南1～2丁目	1, 405	1, 232	-173	87. 7%
新庄町	567	497	-70	87. 7%
川目	1, 314	1, 149	-165	87. 4%
糸屋町	632	463	-69	87. 0%
下鹿妻字	500	435	-65	87. 0%
中野1～2丁目	1, 863	1, 610	-253	86. 4%
馬場町	868	750	-118	86. 4%
東中野町	935	807	-128	86. 3%
西松園1～4丁目	3, 275	2, 823	-452	86. 2%
東松園1～4丁目	4, 092	3, 527	-565	86. 2%
東安庭字	420	361	-59	86. 0%
つつじが丘	1, 516	1, 291	-225	85. 2%
玉山区門前寺字	239	203	-36	84. 9%
厨川1～5丁目	6, 249	5, 300	-949	84. 8%
鉢屋町	790	670	-120	84. 8%
東桜山	509	431	-78	84. 7%
玉山区川崎字	188	159	-29	84. 6%
玉山区寺林字	291	246	-45	84. 5%
山岸字	369	310	-59	84. 0%
紅葉が丘	907	757	-150	83. 5%
松尾町	706	589	-117	83. 4%
川日町	693	577	-116	83. 3%
土淵字	433	360	-73	83. 1%
下米内字	330	274	-56	83. 0%
稻荷町	732	607	-125	82. 9%
玉山区松内字	306	251	-55	82. 0%
大慈寺町	160	130	-30	81. 3%
玉山区日戸字	489	397	-92	81. 2%
玉山区水井字	340	274	-66	80. 6%
大ヶ生	413	331	-82	80. 1%
梨木町	835	667	-168	79. 9%
玉山区馬場字	514	409	-105	79. 6%
玉山区川又字	513	407	-106	79. 3%
湯沢東1～3丁目	1, 228	972	-256	79. 2%
玉山区玉山字	679	537	-142	79. 1%
篠川	100	78	-22	78. 0%
玉山区上田字	40	31	-9	77. 5%
玉山区戸川字	346	257	-89	74. 3%
岩脇町	988	720	-268	72. 9%
砂子沢	151	100	-51	66. 2%
新庄字	291	188	-103	64. 6%
流通センター北一丁目	235	133	-102	56. 6%
下厨川字	527	254	-273	48. 2%
合計	294, 918	294, 072	-846	99. 7%

出所：住民基本台帳（2006年1月末及び2015年3月末）より本市作成

# 第2期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略

(案)



令和2年 月  
盛 岡 市

# 目 次

第1章 はじめに	1
1 この戦略の位置付け	
2 計画期間	
3 国及び岩手県の総合戦略との関係	
4 盛岡市総合計画との関係	
5 連携中枢都市圏ビジョンとの関係	
第2章 第2期総合戦略で重視する視点	
1 第1期総合戦略の取組の成果と課題を踏まえた取組の方向性	6
2 社会環境の変化から見た取組の方向性	16
第3章 基本方針等	
1 基本方針	19
2 基本目標	20
3 基本姿勢	20
第4章 基本目標1 若者・女性をひきつけるしごと創造	23
戦略1 多様な仕事の創出	25
戦略2 仕事の魅力の向上	27
戦略3 ワーク・ライフ・バランスの推進	31
戦略4 地域経済を担う人材の育成・確保	32
第5章 基本目標2 切れ目のない結婚・出産・子育て支援	36
戦略5 結婚の希望に応える支援	38
戦略6 安心して子どもを産み育てられる環境整備	39
第6章 基本目標3 躍動する中核都市としての魅力・求心力の向上	44
戦略7 関係人口・交流人口の増加	46
戦略8 地元への愛着の形成、移住・定住の促進	50
戦略9 都市機能の強化	52
第7章 推進体制	55

### 1 この戦略の位置付け

平成 26（2014）年 11 月、急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことをねらいとして「まち・ひと・しごと創生法」（平成 26 年法律第 136 号）が制定されました。

「まち・ひと・しごと創生法」では、市町村においてまち・ひと・しごと創生に関する目標や施策に関する基本的方向を総合戦略として定めることが努力義務とされたことを受け、本市では、平成 27（2015）年から令和元（2019）年を計画期間とした第 1 期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、人口対策に取り組むことで、待機児童ゼロを達成するなど多くの成果が上がっています。

一方で、自然動態、社会動態とも減少傾向が継続していることから、第 2 期盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略においては、本市の人口の現状分析と将来展望を示すため別に定める「盛岡市人口ビジョン」を踏まえながら、この 5 年間で進められてきた施策の検証を行うとともに、本市の今後 5 年間の人口対策に係る戦略や具体的な取組を取りまとめたものです。

### 2 計画期間

令和 2（2020）年度から令和 6（2024）年度までの 5 年間とします。

### 3 国及び岩手県の総合戦略との関係

「まち・ひと・しごと創生法」では、国は、まち・ひと・しごと創生に関する目標や施策に関する基本的方向を総合戦略として定めることとされており、また、都道府県においては国が定める総合戦略を、市町村においては国及び都道府県が定める総合戦略を勘案しながら、まち・ひと・しごと創生に関する目標や施策に関する基本的方向を総合戦略として定めることが努力義務とされています。

#### （1）国のまち・ひと・しごと創生総合戦略

第 1 期まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 27（2015）年度～令和元（2019）年度）では、4 つの基本目標を設定して、人口対策に取り組みました。

## 【4つの基本目標】

- ① 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする
- ② 地方への新しいひとの流れをつくる
- ③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④ 時代にあった地域をつくり、安全なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する。

国では、第1期総合戦略の成果と課題について、地方の若者の就業率、訪日外国人旅行者数、農林水産物・食品の輸出額は一貫して増加傾向にあるなど、しごとの創生に関しては一定の成果が見られたと述べています。一方、東京圏への転入超過は、令和2（2020）年の均衡目標に対し、平成30（2018）年は13.6万人となっており、景気回復が続く中、バブル景気崩壊後のピークの15.5万人より下回っているものの、地方創生がスタートした平成26（2014）年からは一貫して増加しており、更なる取組が必要であると述べています。

これを受け、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2（2020）年度～令和6（2024）年度）では、『将来にわたって「活力ある地域社会」の実現』と『「東京圏への一極集中」の是正』を目指すため、第1期総合戦略の政策体系を見直し、次の4つの基本目標と2つの横断的な目標の下に取り組むこととしています。

## 【4つの基本目標と横断的な目標】

- ① 稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする
- ② 地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる
- ③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④ ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

### 横断的な目標

① 進の多  
す活様  
る躍な  
を人  
推材  
② に的新  
す流し  
るれい  
を時  
力代

## (2) 県のふるさと振興総合戦略

第1期ふるさと振興総合戦略（平成27（2015）年度～令和元（2019）年度）では、3つの柱と10のプロジェクトを設定して人口対策に取り組みました。

1 岩手で働く	(1) 商工業・観光産業振興、仕事創出プロジェクト
	(2) 農林水産業振興プロジェクト

	(3) ふるさと移住・定住促進プロジェクト
2 岩手で育てる	(1) 岩手の就労、出会い、結婚、妊娠・出産まるごと支援プロジェクト
	(2) 子育て支援プロジェクト
3 岩手で暮らす	(1) 魅力あるふるさとづくりプロジェクト
	(2) 文化芸術・スポーツ振興プロジェクト
	(3) 若者・女性の活躍支援プロジェクト
	(4) 保健・医療・福祉充実プロジェクト
	(5) ふるさとの未来を担う人づくりプロジェクト

第2期ふるさと振興総合戦略（令和2（2020）年度～令和6（2024）年度）（案）においては、現行の3本の柱に加え、新たに4本目の柱として「岩手とつながる」を追加して取り組みを進めるほか、岩手の地域性や優位性を生かした4つの分野横断の戦略を展開することとしています。

分野横断戦略	
①国際研究・交流拠点	②北上川流域産業・生活高度化戦略
③新しい三陸創造戦略	④北いわて産業・社会革新戦略
1 岩手で働く	(1) 商工業・観光産業振興、仕事創出プロジェクト  (2) 農林水産業振興プロジェクト  (3) ふるさと移住・定住促進プロジェクト
2 岩手で育てる	(1) 岩手の就労、出会い、結婚、妊娠・出産まるごと支援プロジェクト  (2) 子育て支援プロジェクト
3 岩手で暮らす	(1) 魅力あるふるさとづくりプロジェクト  (2) 文化芸術・スポーツ振興プロジェクト  (3) 若者・女性の活躍支援プロジェクト  (4) 保健・医療・福祉充実プロジェクト  (5) ふるさとの未来を担う人づくりプロジェクト
4 岩手とつながる	(1) 関係人口拡大戦略  (2) いわてまるごと交流促進戦略

#### 4 盛岡市総合計画との関係

本市では、平成27（2015）年度から、目指す将来像を「ひと・まち・未来が輝き 世界につながるまち盛岡」とする総合計画（目標年次：令和6（2024）年）に取組んでいます。

総合計画を策定するに当たっては、人口減少・少子高齢社会の進行を見据えながらまちづくりの目標を設定するとともに、施策を体系化しており、総

合計画は、既に本市の人口対策を含んだものとなっています。

一方、まち・ひと・しごと創生総合戦略については、人口の長期展望を提示する人口ビジョンを踏まえながら、今後5か年の目標や具体的な施策をまとめたものであるとの考えが、国から示されています。

このことから、盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、本市の総合計画に掲げられた各般の取組のうち、人口対策として、国・岩手県の取組との相乗効果を図りながら、今後5か年の間に特に重点的に取り組む必要があるものを政策パッケージとして取りまとめるものとします。

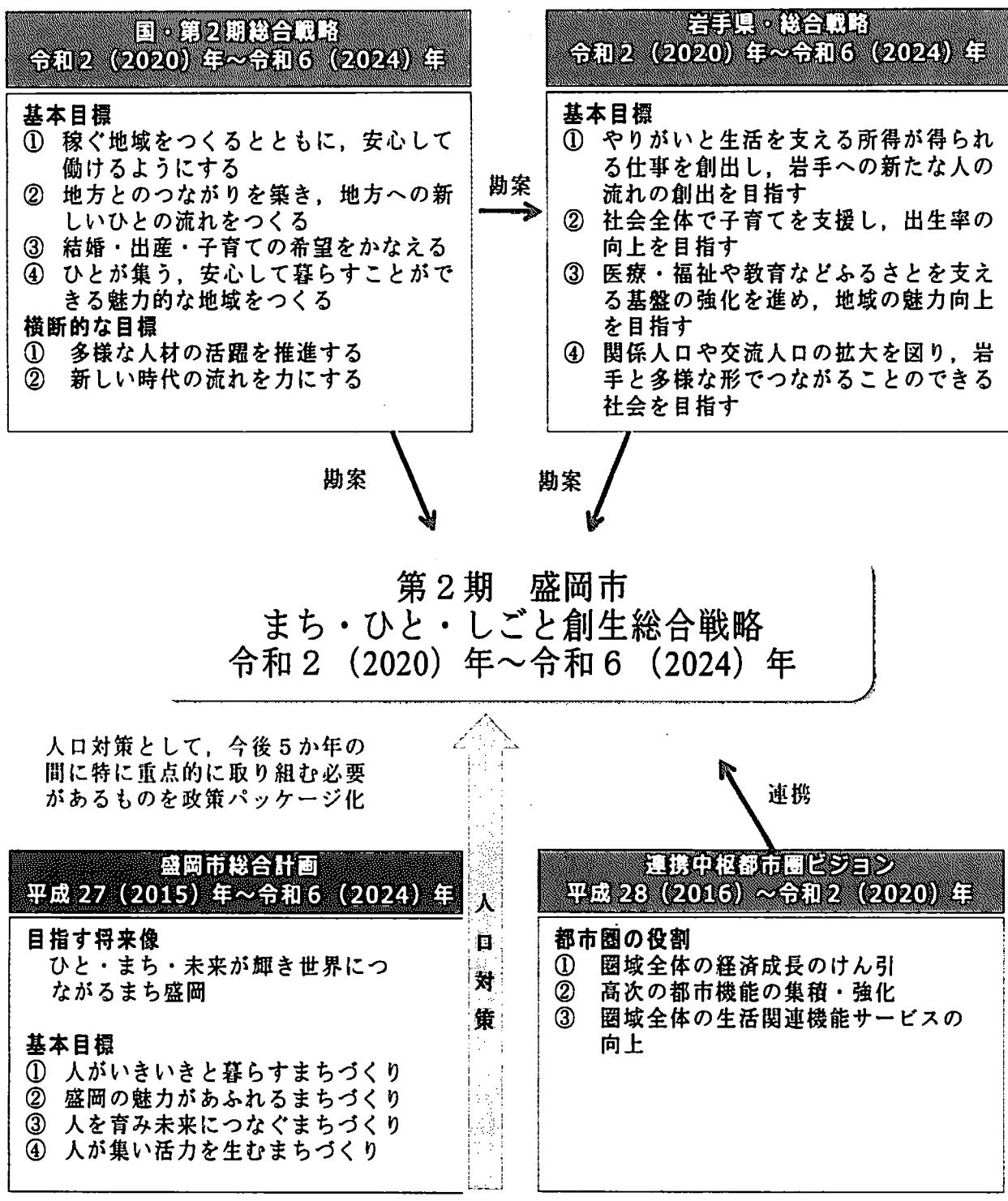
## 5 連携中枢都市圏ビジョンとの関係

本市は、盛岡広域圏を構成する八幡平市、滝沢市、零石町、葛巻町、岩手町、紫波町及び矢巾町と、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し、活力ある社会経済を維持することをねらいとして「連携中枢都市圏」の形成に向けた取組を進めています。

「連携中枢都市圏」を形成するに当たっては、都市圏の将来像や具体的な連携事業を「連携中枢都市圏ビジョン」として取りまとめています。

このことから、盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、連携中枢都市圏における中心市としての本市の役割を踏まえながら、「連携中枢都市圏ビジョン」と連携を図り、取りまとめるものとします。

## 国・県の総合戦略及び盛岡市総合計画との関係



## 1 第1期総合戦略の取組の成果と課題を踏まえた今後の取り組みの方向性

平成27（2015）年10月に策定した盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略においては、3つの基本目標ごとに数値目標を掲げるとともに、それぞれの基本目標に基づく8の戦略に複数のKPI（重要業績評価指標）を設定し、進捗管理を行うことにより、人口減少対策を総合的に進めてきました。

### 基本目標1 切れ目のない結婚・出産・子育て支援

戦略1 結婚の希望に応える支援

戦略2 安心して子どもを産み育てられる環境整備

戦略3 ワーク・ライフ・バランスの推進

### 基本目標2 若者・女性がやりがいと魅力を感じられる仕事の創出

戦略4 地域経済の好循環の促進

戦略5 地域経済を担う人材・企業の育成

戦略6 地元企業への就職の促進

### 基本目標3 東北の中核都市としての魅力・求心力の向上

戦略7 盛岡ファン・交流人口の増加

戦略8 地元への愛着の形成、移住・定住の促進、都市機能の強化

第1期総合戦略の取組の成果と課題を踏まえた今後の取組の方向性は次の通りです。

#### (1) 基本目標1 切れ目のない結婚・出産・子育て支援

##### ア 数値目標の達成状況

###### ■出生数（各年1月1日現在）

【目標値】令和元年度：2,476人

【実績値】単位：人

H26	H27	H28	H29	H30
2,476	2,401	2,379	2,289	2,245

###### ■婚姻件数（各年1月1日現在）

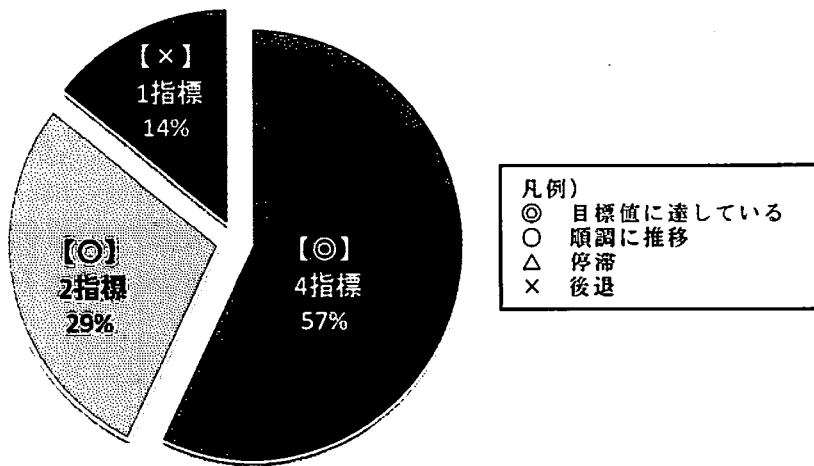
【目標値】令和元年度：1,527人

【実績値】単位：人

H26	H27	H28	H29	H30
1,527	1,588	1,506	1,358	1,382

#### イ KPI の達成状況

「◎達成」「○順調に推移」の割合は 86% となっています（P13 参照）。



#### ウ 主な取組内容と成果

- 安心して子どもを産み育てられる環境整備のため、待機児童解消強化事業や私立児童福祉施設等整備助成事業、医療費給付事業、新生児聴覚検査事業、保育士確保対策事業等のほか、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組みました。
- 結婚の希望に応える支援のため、いきいき岩手結婚サポートセンターの運営への参画に取り組みました。
- これらの取組によって保育所待機児童数（翌年度当初数値）は 0 を達成したほか、市民アンケートで「盛岡市の子育て支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合の向上、子育て支援サービス利用者数、ワーク・ライフ・バランス推進事業参加企業数が増加しました。

#### エ 評価結果と今後に向けた課題

- KPI は、「達成」「順調に推移」が 86% となっており、一定の成果を上げているものの、数値目標の値を押し上げるには至っていないため、適切な数値目標や KPI の設定を検討する必要があります。
- 数値目標である「出生数」は、平成 26（2014）年時点の出生数の維持を目標していましたが、平成 26（2014）年から平成 30（2018）年までの 4 年間で 231 人（△9.33%）減少しており、より詳細な分析を行い、取組を進める必要があります。

- ・数値目標である「婚姻件数」は、平成26（2014）年時点の婚姻件数の維持を目標としていましたが、平成26（2014）年から平成30（2018）年までの4年間で145件（△9.50%）減少しており、より詳細な分析を行い、取組を進める必要があります。
- ・初婚の平均年齢は、同期間で夫は0.1歳（30.2歳→30.3歳）上昇し、妻は0.2歳（28.8歳→29.0歳）上昇しています。
- ・同期間ににおいて、市の人口は4,962人（△1.65%，300,592人→295,630人）減少しています。うち、15-49歳の男性は3,235人（△5.13%，63,039人→59,804人）減少し、15-49歳の女性は3,846人（△5.90%，65,220人→61,374人）減少しており、人口減少より速いペースで出生数の減少が進んでいます。
- ・岩手県人口動態統計によれば、取組期間内の盛岡市の合計特殊出生率は横ばい傾向にあることから、出生数の減少は母体となる女性人口の減少の影響が大きいと考えられます。

H26	H27	H28	H29
1.32	1.38	1.36	1.35

- ・出生数（率）を維持・上昇させるため、有配偶率の向上に取り組むとともに、安心して子どもを産み育てられる環境整備及びワーク・ライフ・バランスの推進に継続して取り組む必要があります。

#### オ 今後の取組の方向性

- ・出生数、婚姻件数ともに減少していることから、結婚、出産の希望を実現するための支援を継続します。
- ・結婚・出産・子育てのライフステージにおいて、仕事と生活の調和を図ること（ワーク・ライフ・バランスの推進）や子育ての不安を軽減するなどニーズに応じた支援を引き続き推進します。

### (2) 基本目標2 若者・女性がやりがいと魅力を感じられる仕事の創出

#### ア 数値目標の達成状況

■就職を希望する高校3年生のうち県内就職を希望する者の割合

【目標値】令和元年度：70.0%

【実績値】単位：%

H26	H27	H28	H29	H30
66.3	67.3	65.0	63.9	67.6

■大学生の地元就職率

【目標値】令1：55%

【実績値】単位：%

H26	H27	H28	H29	H30
45	45	45	43	44

■新規学卒者を除く管内就職率

【目標値】令和元年度：40.0%

【実績値】単位：%

H26	H27	H28	H29	H30
38	37.6	38.1	39.1	38.3

■管内雇用保険適用事業所数

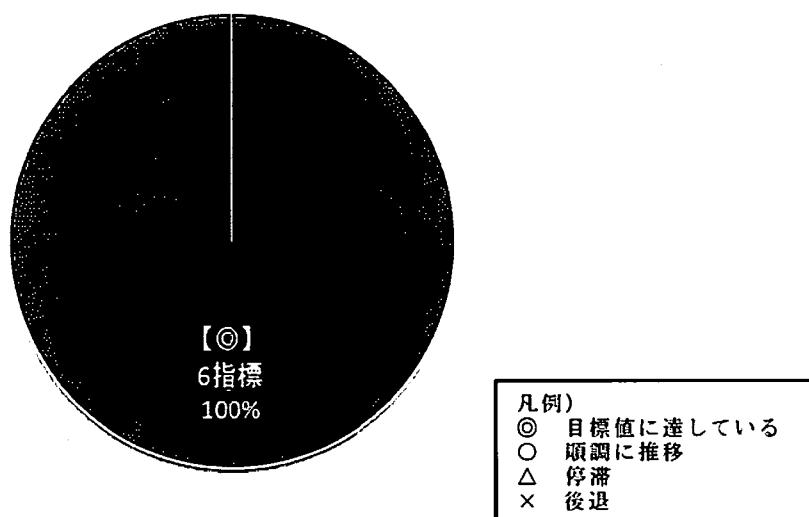
【目標値】令和元年度：8,700 社

【実績値】単位：社

H26	H27	H28	H29	H30
8,356	8,369	8,365	8,370	8,426

イ KPI の達成状況

「◎達成」「○順調に推移」の割合は 100% となっています（P13 参照）。



ウ 主な取組内容と成果

- ・地域経済の好循環の促進のため、木材需要拡大推進事業や盛岡の食材プロモーション事業、新産業用地整備事業、道の駅設置事業等に取り組みました。
- ・地域経済を担う人材・企業の育成のため、中小企業事業承継支援事業や中小企業生産性向上支援事業、中小企業支援に係る金融機関との協定の締結、成長分野拠点形成支援事業等に取り組んだほか、地元企業への就職の促進のため、若者等地元定着強化支援事業やものづくり人材育成支援事業、盛岡テクノミュージアム設置事業、移住・就労マッチング支援事業等に取り組みました。

- ・これらの取組によって、卸・小売の年間販売額や1企業当たりの商業サービス業の企業売上高、製造品出荷額等、農畜産物加工品販売額の増加が図られたほか、市インキュベーション施設の稼働率が上昇、ジョブカフェいわての利用者数が増加しました。

## エ 評価結果と今後に向けた課題

- ・KPIは、「達成」「順調に推移」が100%となっており、一定の成果を上げているものの、数値目標の値を押し上げるには至っていません。
- ・数値目標である「就職を希望する盛岡公共職業安定所管内の高校3年生のうち県内就職を希望する者の割合」は、人手不足が深刻化する県内企業の旺盛な採用意欲等により改善傾向にあります。
- ・県内の高校生のうち就職者は、平成26年から平成30年までの4年間で393人減少した(△10.9%, 3,595人→3,202人)。同期間に、県外就職者は187人減少し(△14.7%, 1,268人→1,081人)、県内就職者の比率は高まっています。県外就職の比率が増加傾向にある産業は、建設業(+8.6%, 36.5%→45.1%), 情報通信業(+18%, 50%→68%), 宿泊業、飲食サービス業(+6.7%, 38%→44.7%), サービス業(+10.7%, 47.0%→57.7%)が上げられます。
- ・数値目標である「大学生の地元就職率」は、45%前後で横ばいを続けています。
- ・数値目標である「新規学卒者を除く管内就職率」は、35%前後で横ばいを続けています。
- ・管内の雇用保険適用事業所は、微増傾向にあります。
- ・アンケート調査によれば、東京圏や宮城県に転出した18歳以上40歳未満の者の36.6%が、盛岡市以外の地域に希望する就職先があったために県外に転出しています。また、国勢調査によれば、若年男性では製造業や情報通信業に従事する者を中心に、若年女性では医療・福祉に従事する者を中心に東京圏への転出が見られます。
- ・大都市における仕事の多様性や良好な待遇(給与、福利厚生、勤務時間、休暇等)がもたらす巨大な雇用吸収力や、多種多様に展開される採用活動により若者の県外流出は依然として続いていると考えられることから、若者や女性がやりがいと魅力を感じられる仕事の創出に継続して取り組む必要があります。

## オ 今後の取組の方向性

- ・若者が職種や待遇などにおいて希望する就職先がないため若者の地元定着が進まないことが課題であることから、若者や女性にやりがいと魅力がある仕事の創出を推進します。
- ・起業支援や企業誘致、新事業拡大などにより多様な仕事を創出します。

- ・付加価値の高い産業の推進や労働生産性の向上を図り、働きがいのある仕事を創出します。
- ・ワーク・ライフ・バランスや働き方改革を推進します。
- ・地域経済を担う人材の確保や育成の支援を引き続き推進します。

### (3) 基本目標3 東北の中核都市としての魅力・求心力の向上

#### ア 数値目標の達成状況

##### ■20歳から39歳までの人口移動数

【目標値】令和元年度：0人

【実績値】単位：人

H26	H27	H28	H29	H30
△107	△315	△521	△427	△395

##### ■観光客入込数

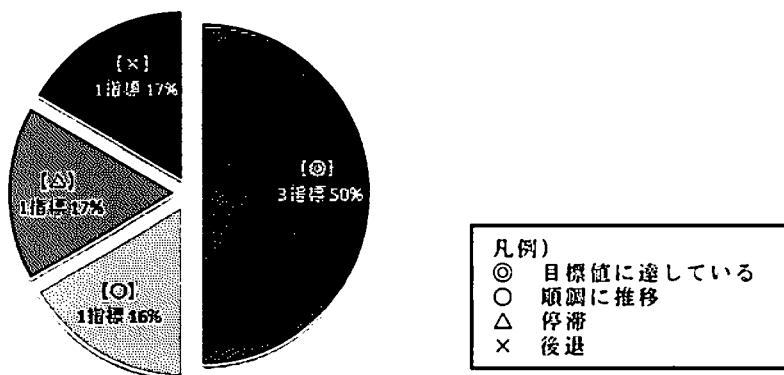
【目標値】令和元年度：500万人回

【実績値】単位：万人回

H26	H27	H28	H29	H30
497	509	500	500	508

#### イ KPIの達成状況

「◎達成」「○順調に推移」の割合は66%となっています（P13参照）。



#### ウ 主な取組内容と成果

- ・盛岡ファン・交流人口の増加のため、スポーツ・ツーリズムの推進や外国人客誘致推進事業、盛岡ファン・コミュニティの活動支援等に取り組みました。

- ・地元への愛着の形成、移住・定住の促進、都市機能の強化のため、関係人口を機軸とする移住・定住の促進に係るプロモーションや東京圏におけるU I ターン相談、高校生等を中心とした地域課題解決プログラム等に取り組みました。
- ・これらの取組によって、外国人観光客入込数、ふるさと納税件数、U I ターン相談件数、高校生による地域福祉課題解決プログラム構築事業・地域福祉人材育成事業参加者数が増加しました。

## エ 評価結果と今後に向けた課題

- ・KPI は、「達成」「順調に推移」が 66% となっており、おおむね順調に推移しています。
- ・数値目標である「20 歳から 39 歳までの社会移動」は、0 を目標としていましたが、300 人程度の転出超過が続いています。
- ・岩手長期時系列データによれば、県内については転入が超過しており、県外については転出が超過していることから、東京圏や宮城県への転出超過が継続しているものと考えられます。

	H26	H27	H28	H29	H30
県内移動収支	856	768	904	929	818
県外移動収支	△891	△1,302	△1,368	△1,150	△1,491

- ・「観光客入込数」は、概ね目標値の 500 万人回前後で推移しており、中でも外国人観光客入込数は、台湾やタイにおけるプロモーション活動の成果などにより増加しています。
- ・若者の社会移動について、転出超過が継続していることから、転入者の増加を図るため、若者の主たる転出先である東京圏においてU I ターン者向けイベントに出展するほか、相談員を設置するなど移住・定住施策に取り組むほか、関係人口の取組を継続して行う必要があります。
- ・交流人口増加の観点から、観光客の誘致に努めるほか、各種イベント、教育旅行、M I C E、スポーツ・ツーリズム等を通じて継続して盛岡の魅力を発信する必要があります。

## オ 今後の取組の方向性

- ・人口減少が進む中で、交流人口を増加させることが課題であることから、引き続きスポーツ・ツーリズムの推進や外国人観光客などの誘致などを推進します。
- ・盛岡ファン・コミュニティの活動を支援するなど、関係人口の増加を基軸としながら、交流人口が移住・定住につながる仕組みづくりを推進します。
- ・U I ターンの希望を叶えるため、その支援に取り組みます。
- ・盛岡への愛着の形成や魅力の発信により、関係人口の増加や移住・定住を促進します。

## 【数値目標とKPIの達成状況】

基 本 目 標	指標名		単位	H26	H27	H28	H29	H30	H31 目標値	達成度
1 切 れ 三 の な い 結 婚 出 産 ・ 子 育 て 支 援	数値 目標	出生数(各年1月1日現在)	人	2,476	2,401	2,379	2,289	2,245	2,476	△
		婚姻件数(各年1月1日現在)	件	1,527	1,588	1,506	1,358	1,382	1,527	△
	KPI (戦略 1)	いきいき岩手結婚サポートセンターの成婚実績数(県内実績)	組	—	0	10	35	58	50	◎
		保育所待機児童数(翌年度当初数値)	人	9 (H27.4.1)	0 (H28.4.1)	0 (H29.4.1)	0 (H30.4.1)	0 (H31.4.1)	0	◎
	KPI (戦略 2)	保育所待機児童数(各年度1月1日現在)	人	259 (H27.1.1)	285 (H28.1.1)	218 (H29.1.1)	180 (H30.1.1)	84 (H31.1.1)	0	○
		市民アンケートで「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合	%	15.5	13.3	15.2	16.0	19.9	40.0	○
	KPI (戦略 2)	市民アンケートで「子育てをつらいと感じている」と答えた子どものいる親の割合	%	19.3	22.0	24.0	30.0	24.8	14.5	×
		「楽しい」と「つらい」が同じくらい	%	17.4	18.1	17.0	20.7	19.5		
		どちらかといえば「つらい」と感じることが多い	%	1.9	2.9	5.0	7.4	4.2		
		「つらい」と感じることが多い	%	0.0	1.0	2.0	2.0	1.1		
	KPI (戦略 3)	子育て支援サービス利用者数	人	69,276	76,691	80,233	79,779	81,586	74,000	◎

基 本 目 標3	指標名		単位	H26	H27	H28	H29	H30	H31 目標値	達成度
2 若者 就業 状況 がより いいと 感 じら れる ことの 目 標	数値 目標	盛岡公共職業安定所管内の就職を希望する高校3年生のうち県内就職を希望する者の割合	%	66.3	67.3	65.0	63.9	67.6	70.0	○
		大学卒業生の地元就職率	%	45	45	45	43	44	55	△
		盛岡公共職業安定所管内の就職率(新規学卒者を除く。)	%	38.0	37.6	38.1	39.1	38.3	40.0	△
		盛岡公共職業安定所管内の雇用保険適用事業所数	社	8,356	8,369	8,365	8,370	8,426	8,700	○
3 就業 機会 創出 率を 高め ること の目 標	KPI (戦略 4)	卸・小売の年間販売額	億円	10,724	-	12,664	-	-	11,300	◎
		1企業あたりの商業サービス業の企業売上高	千円	185,175	-	199,022	-	-	185,175	◎
		製造品出荷額等	千万円	9,848	10,107	15,018	11,929	11,962	10,511	◎
		農畜産物加工品販売額	百万円	16	18	22	21	39	27	◎
	KPI (戦略 5)	市インキュベーション施設の稼働率	%	75.9	77.2	77.7	88.8	85.2	75.9	◎
	KPI (戦略 6)	ジョブカフェいわての利用者数	人	30,080	32,310	31,938	42,851	51,501	31,000	◎

基 本 目 標	指標名		単位	H26	H27	H28	H29	H30	H31 目標値	達成度
③ 東北の中核都市としての魅力・安心力の向上	数値目標	20歳から39歳までの人口移動数	人	△ 107	△315	△521	△427	△395	0	×
		転入	人	6,439	6,464	6,099	6,029	6,086		
		転出	人	6,546	6,779	6,620	6,456	6,481		
		観光客入込数	万人回	497	509	500	500	508	500	◎
	KPI(戦略7)	宿泊観光客数	万人回	98	97	98	93	99	110	△
		外国人観光客入込数	万人回	1.0	1.4	2.4	3.4	5.0	4.5	◎
		ふるさと納税件数	件	36	42	2,585	2,061	1,797	2,700	○
	KPI(戦略8)	UIターン相談件数	件	4	8	8	65	164	120	◎
		官民連携による移住・交流促進拠点利用者数(宿泊者数)	人	-	-	-	-	-	1,000	×
		高校生による地域福祉課題解決プログラム構築事業・地域福祉中核人材育成事業参加者数	人	0	152	702	944	1,048	800	◎

数値目標 : 行政活動により住民にもたらされた便益に関する数値目標

KPI : 施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標 「-」は当該年度の数値なし  
達成度 : 目標値に達している⇒◎, 順調に推移…○, 停滞…△, 後退…×

## 2 社会環境の変化から見た取組の方向性

### (1) 大都市への人口集中

今日、大幅な転入超過が続いているのは東京圏だけとなっています。東日本大震災後に一都三県への転入超過数はいったん減少しましたが、平成30(2018)年には13.6万人まで増加しています。この転入超過数の年齢構成を見ると、15~19歳(2.7万人)、20~24歳(7.5万人)の若い世代が大半を占めており、大学進学時ないし大学卒業後就職時の転入が、その主たるきっかけとなっていると考えられます。かつては、東京圏の大学に進学しても、就職時に地元に帰る動きも見られましたが、近年そうしたUターンが減少する一方、地方大学の卒業生が東京圏へ移動する傾向が強まっている状況が指摘されています。また、これまで、東京圏への転入超過数が増加傾向にあるときは男性の転入超過数が女性を上回る傾向にありました。近年は男性よりも女性が多い傾向にあります。

のことから、大都市圏への転出超過を抑制する施策に取り組む一方で、大都市圏から地方へのひと・資金の流れを強化するため、将来的な地方移住にもつながる関係人口の創出・拡大に取り組むほか、企業や個人による地方への寄付・投資等を用いた資金の流れの強化に取り組む必要があります。

### (2) 全国的な人口減少、労働力人口の減少

国が定めた「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」(令和元(2019)年)によれば、我が国の合計特殊出生率は、1970年代半ばに人口規模が長期的に維持される水準(人口置換水準)を下回り、その状態が、今まで約40年以上続いています。また、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計による人口減少は、2020年代初めは毎年50万人程度ですが、2040年代頃には毎年90万人程度まで加速すると推計されています。総人口の減少と高齢化によって「働き手」の減少が生じると、日本全体の経済規模を縮小させるとともに、一人当たりの所得も低下させるおそれがあります。

のことから、進行する人手不足の緩和や、新しいアイディアやイノベーションの創出による地域の活性化のため、多様な人材の労働参加に取り組む必要があります。

### (3) ICT\*社会の高度化

近年の情報通信ネットワークやIoT\*、AI\*、ビッグデータ\*、5G\*、ロボットなど新技術の発展等により、大きなイノベーションの波が生まれており、こうした第4次産業革命のイノベーションを、あらゆる産業や日々の生活に取り入れることにより、様々な社会課題を解決するSociety 5.0\*が進行しています。

フレックス勤務やテレワークなど時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方が進展するほか、車の自動運転など新たな財・サービスの創出による

需要の拡大や、IoT、AI、5G、ロボット等の生産現場やオフィスへの導入による生産性の向上等の効果が期待されることから、Society5.0の推進や、ICT産業の振興に取り組む必要があります。

#### (4) 経済のグローバル化、インバウンドの増加

今日では、貿易を通じた商品・サービスの取引や、海外への投資が増大することによって世界における経済的な結びつきが深まっています。また、平成29(2017)年の訪日外国人旅行者数は、過去最高であった平成28年の2,404万人を更に上回る2,869万人（対前年比19.3%増）となり、5年連続で過去最高を更新し、令和2（2020）年に4,000万人にするとの目標に向け堅調に推移しています。

海外からの外貨の獲得の観点から、グローバル・ニッチ・トップ企業※などの育成や、インバウンド観光客の増加などに取り組む必要があります。

#### (5) 環境問題等の深刻化

経済発展、技術開発によって、生活は豊かで便利になりましたが、人類が豊かに生存し続けるための基盤となる地球環境が悪化していることが指摘されています。

のことから、国連が2015年に定めた、すべての関係者の役割を重視し、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指すSDGs（持続可能な開発目標）の推進について取り組むことで、持続可能なまちづくりを推進する必要があります。

※ ICT…情報通信技術。information and communication technologyの略。

※ IoT…自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出す。これにより、製品の販売に留まらず、製品を使ってサービスを提供するいわゆるモノのサービス化の進展にも寄与する。Internet of Thingsの略。

※ AI…知的な機械、特に、知的なコンピュータプログラムを作る科学と技術。身近なところでは、インターネットの検索エンジンやスマートフォンの音声応答アプリケーションでの音声検索や音声入力機能、掃除ロボットなど様々な場面で活用されている。artificial intelligenceの略。

※ 5G…より高速化された通信規格。速度のみならず、「多数同時接続」、「超低遅延」といった特徴を持っている。現行の通信規格4Gまで基本的に人と人とのコミュニケーションを行うためのツールとして発展してきたのに対し、5Gはあらゆるモノ・人などが繋がるIoT時代の新たなコミュニケーションツールとしての役割を果たすことが期待されている。第5世代移動通信システムの略（GとはGeneration（世代）の略で、「第〇世代移動通信システム」のことを〇Gという）。

※ ビッグデータ…電子的に処理可能な多量かつ多様なデータ。ビッグデータの地活用により生産性向上や新たな需要の掘り起こしに繋がり、経済成長やイノベーションの促進に資することが期待される。

- ※ Society5.0……サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）。
- ※ グローバル・ニッチ・トップ企業……ニッチ分野において高い世界シェアを有し、優れた経営を行っている中堅・中小企業。
- ※ SDGs（エスディージーズ）……平成27（2015）年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っており、発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本でも積極的に取り組みを進めている。Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略。

## 1 基本方針

### 若者をひきつけ躍動するまち盛岡

第1期総合戦略では、長期的に人口を安定させるため、出生数の維持・増加に向けた取組を行い、子育て負担の軽減については、待機児童数ゼロを達成するなど成果を上げることができましたが、依然として自然動態では出生数の減少が続いています。その大きな要因は出生数の母体となる女性など若者の減少にあります。

また、社会動態においても、若者の東京圏等への転出超過が続いています。

のことから、自然動態・社会動態においても若者の地元定着が大きな課題であり、その背景には若者が望む職種や賃金等を求めて、東京圏等に転出している現状があります。

第2期総合戦略では、若者や女性の仕事に関する願いに応えるとともに、都市の魅力を創出することにより、若者の地元定着や東京圏等からの移住・定住を促進することで、出生数の減少と転出超過を抑制する好循環を目指します

## 2 基本目標

### (1) 若者・女性をひきつけるしごと創造

本市の人口の社会減は、25歳から34歳までの若年世代に顕著に生じております。また、転出理由は、就職や転勤など、仕事上のものが中心となっています。

25歳から34歳までの若年世代が本市に残ることは、社会増に寄与するばかりでなく、この地で働きながら、結婚・出産をすることで、自然増減にプラスの効果をもたらすことも期待できます。

のことから、多様な仕事の創出や仕事の魅力の向上などを通じて、若者・女性をひきつけるしごとの創出を推進します。

### (2) 切れ目のない結婚・出産・子育て支援

本市の人口の自然減は、未婚化、晩婚化など、複合的な要因によって生じており、若年世代が、将来のライフデザインを描けるよう、情報提供や支援を行うとともに、安心して子どもを産み、育てられる見通しを持ち、願いをかなえられる環境を整えることが必要です。

のことから、結婚・出産・子育てのライフステージにおいて、仕事と生活の調和を図ることや子育ての負担や不安を軽減するなど、各段階のニーズに応じた切れ目のない支援を推進します。

### (3) 躍動する中核都市としての魅力・求心力の向上

東京圏等に在住する者の中には、地方へのU I ターンやC C R C \*、2地域居住\*などに関心を持つ者や、本市の出身者、本市居住の経験者などで本市にゆかり（「縁」）のある者がいます。

本市への移住や定住を促進するためには、盛岡市に継続的に多様な形で関わる関係人口の創出・拡大を図るほか、地域資源を生かした観光振興・コンベンション\*誘致などにより交流人口を増加させ、子どもたちの盛岡への愛着の形成を促進し、本市へのU I ターンの掘り起こしを行うなどして、盛岡への人の流れを創出していく必要があります。また、人口減少の中でも経済活動の活力を維持し、人を惹きつける魅力と求心力を創出する都市機能の強化を図る必要があります。

のことから、躍動する中核都市として魅力ある・求心力のあるまちづくりを推進します。

## 3 基本姿勢

上記3つの基本目標の達成を図るに当たっては、次の5つの基本姿勢で取り組むものとします。

### (1) 強みを生かした優れたプロジェクトの推進と情報発信

本市には、既に全国に誇れる魅力ある特産品や場所、イベント等の強みがあります。これらを、人口対策を念頭におきながら磨き上げるとともに、シティプロモーション※など、情報発信の強化に努め、更なる成果向上を図るものとします。

また、新たな取組を進めるに当たっても、本市の強みや地域資源を生かしつつ、社会動向及び市民ニーズに対応した企画立案に努めるものとします。

### (2) 広域連携の推進による活力ある社会経済の維持

本市は、盛岡広域圏を構成する八幡平市、滝沢市、零石町、葛巻町、岩手町、紫波町及び矢巾町と、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し、活力ある社会経済を維持することをねらいとして「連携中枢都市圏」の形成に向けた取組を進めています。

人口の減少は、各地域における様々な需要の減少をもたらし、地域経済をはじめ、地域の社会システムに様々な影響を与えることが指摘されており、従来の方法や取り組みを継続していくだけでは、地域の経済活動や社会生活を維持していくのは困難になると想定されています。こうしたことから、地域内経済循環や地域交通網など、地域全体を見渡して、地域の実情を踏まえながら、地域全体で効果が最大化するよう取り組んでいく地域マネジメントの視点の重要性が指摘されています。

これらを踏まえ、まち・ひと・しごとの創生に当たっては、「連携中枢都市圏」の中心市としての役割を念頭におきながら、盛岡広域圏の取組と本市独自の取組を連動させながら進めるものとします。

### (3) 市民協働による、まち・ひと・しごとの創生

まち・ひと・しごとの創生には、観光振興や雇用創出などの面で、民間事業者の活力に期待が寄せられるほか、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス※）の推進、女性の活躍促進などの面でも、民間事業者の理解が重要となります。

加えて、地域の支え合い活動や高齢者の知識・経験は、若い世代の子育ての負担軽減に寄与するものと期待され、また、個性的で斬新な若者文化は、地域の魅力発信の原動力の一つになるなど、市民やNPO法人、民間事業者が担う役割は大きいものと言えます。

市は、自らが担うべき役割を果たすとともに、こうした市民やNPO法人、民間事業者など多様な主体の活動が円滑に進められるよう環境整備などに努め、市民協働により、まち・ひと・しごと創生を進めます。

### (4) Society5.0、SDGs等の取組の推進

IoTやAI、ビッグデータ、5G等の科学技術を活用した超スマート社

会 Society5.0 の実現に向けた技術は、生産性や生活の利便性を飛躍的に高めることが期待されており、少子高齢化・人口減少がより進んでいる地方においてこそ、課題解決の有効な手段になることから、本戦略においては、このような先端技術を様々な取組に積極的に活用し地方創生を進めていくこととします。

また、経済・社会・環境の様々な課題を総合的に解決し、持続可能な社会を目指すSDGs（持続可能な開発目標）の推進につながる取組が世界的に始まっています。SDGsの考え方や取り組みは、地方創生と軌を一にするものであり、本戦略では、SDGsの理念や17の持続可能な開発目標を踏まえ、SDGsの推進につなげていきます（P58「計画事業等とSDGsの関連性」参照）。

加えて、地方創生の取組は、これを担う人材の活躍によってはじめて実現されることから、多様化、複雑化する地域の課題の解決に向けて、地方公共団体だけでなく、企業、NPO、住民など、地域にかかわる一人ひとりが地域の担い手として自ら積極的に参画できる環境づくりを積極的に進めていくこととします。

さらに、女性、高齢者、障がい者、外国人など誰もが活躍し、多様性に富む豊かな地域社会をつくることは、新しい発想やビジネスを生み出す力となりえることから、共助、互助の考え方も踏まえ、様々な人々と交流しながらつながりを持って支えあう体制づくりを進めていくこととします。

## (5) PDCAのマネジメントサイクルによる進行管理

この総合戦略を進めるに当たっては、取組の実効性を確保する観点から、短期・中期の目標を設定し、効果を検証の上、改善を図るPDCAサイクル（PLAN（計画）－DO（実施）－CHECK（評価）－ACTION（改善））により、進行を管理するものとします。

※CCRCC……高齢者が移り住み、健康時から介護・医療が必要となる時期まで継続的なケアや生活支援、サービス等を受けながら生涯学習や社会活動等に参加するような共同体のこと。Continuing Care Retirement Communityの略

※2地域居住……都市住民が農山漁村などの地域にも同時に生活拠点を持つこと。

※コンベンション……人、情報、知識、物などの交流の場、集まりを指す。本来は「会議」を意味するが、ある地域に、人、情報、知識、物を呼び込むシステムの総称として用いられる。

※シティプロモーション……資源・歴史・文化伝統などを生かした様々な「都市の魅力」や「都市ブランド」を効果的に市内外に発信する方策のこと。

※ワーク・ライフ・バランス……働く全ての人が、「仕事」と育児や介護、趣味や学習、地域活動などの「仕事以外の活動」との調和を図り、その両方を実現させる働き方・生き方のこと。

## チャレンジと連携によるしごとづくり

### ■現状と課題■

- 1 若者や女性が職種や待遇などにおいて希望する就職先がないため地元定着が進んでいないことから、若者や女性にやりがいと魅力がある仕事の創出を推進する必要があります。そのために、起業支援や企業誘致、新事業拡大などにより多様な仕事を創出するとともに、付加価値の高い産業の推進や労働生産性の向上を図り、仕事の魅力の向上を図る必要があります。また、労働生産性を向上させることで業績の向上及び利益増をもたらしながら、若者や女性の仕事と生活の調和を図り、個々の事情に応じて多様な働き方を選択できる社会を実現するため、ワーク・ライフ・バランスや働き方改革を推進する必要があります。加えて、地域経済の持続可能性を確保するため、地域経済を担う人材の確保や育成の支援を引き続き推進することが必要です。
- 2 中心市街地をはじめ、各商店街、市全体の卸・小売の年間販売額や従業員数などが減少傾向にあることから、大型店や量販店にはないサービスや地域の特性を生かした魅力ある商店街や個店づくりにより、商店街の集客力を維持向上させる必要があります。
- 3 地場企業や伝統産業は、人口減少による市場の縮小、グローバル競争の激化、人材不足、後継者問題など、経営上の課題を抱えていることから、将来にわたり事業を継続し、拡大していくため、付加価値を高めた新商品・新技術の開発のほか、海外展開を視野に入れた新市場の開拓及び販路の拡大、ものづくり人材や後継者育成などの支援をする必要があります。
- 4 新規高卒者、新規大学・短大等の就職内定率は改善されてきてますが、就職できないまま、卒業する若者もいることから、地元雇用の確保や既卒若年者が就職できる環境とすることが必要です。
- 5 食品製造業など盛岡広域圏の主要な製造業においては、ICT技術の導入などにより、生産性と品質をより向上させる必要があります。また、多様な業種、業態の企業を育成し、若者や女性が働く場を選択できる環境を整えることも必要です。
- 6 農畜産物や工業製品等のマーケット縮小や新規就農者をはじめとする農業の担い手の不足が懸念される中、食と農に関わる事業者やものづくり産業に属する事業者が事業活動の展開を図り、雇用を維持・創出することが重要課題となっています。
- 7 市内の森林の多くが利用期を迎えていていることから、「植える→育てる→使う」という森林資源の循環を官民一体で進めるとともに、産業に活かす必要があります。

■ 数値目標 ■

指標名	現状値	R6目標値
盛岡公共職業安定所管内の就職を希望する高校3年生のうち県内就職を希望する者の割合 [%]	67.6 (H30)	70.0
大学卒業生の地元就職率 [%]	44 (H30)	55
盛岡公共職業安定所管内の就職率（新規学卒者を除く）[%] <sup>※1</sup>	38.3 (H30)	42.5
盛岡公共職業安定所管内の雇用保険適用事業所数 [社]	8,426 (H30)	8,700

※1・・・総合計画実施計画目標値

(参考)

指標名	H26	H27	H28	H29	H30	H31 目標値
盛岡公共職業安定所管内の就職を希望する高校3年生のうち県内就職を希望する者の割合 [%]	66.3	67.3	65.0	63.9	67.6	70.0
大学卒業生の地元就職率 [%]	45	45	45	43	44	55
盛岡公共職業安定所管内の就職率（新規学卒者を除く。）[%]	38.0	37.6	38.1	39.1	38.3	40.0
盛岡公共職業安定所管内の雇用保険適用事業所数 [社]	8,356	8,369	8,365	8,370	8,426	8,700

## 戦略1 多様な仕事の創出

- ⌚ 国、県、関係機関等と連携しながら、今後成長が期待される分野・市場への企業の展開を支援します。
- ⌚ 企業が創業しやすい環境を整備するとともに、新たな工業用地を確保し、企業誘致を推進します。
- ⌚ 北東北の拠点都市であり、治安がよく災害が少ない安全安心な環境を有する強みを活かし、中心市街地をはじめとする商業集積を維持・強化するため、新規創業者を市内に呼び込む支援をします。
- ⌚ 市内の企業が市域に集積する教育機関・研究機関と連携し、グローバル化等による商圈の拡大を踏まえた、新たな商品・サービス開発を促す支援をします。
- ⌚ 國際リニアコライダー（ILC）※誘致を推進します。
- ⌚ 産学官連携研究センター及び新事業創出支援センターなどのインキュベーション施設※が充実している強みを生かし、起業、新技術又は新製品の研究開発を積極的に支援します。
- ⌚ 研究開発型企業の誘致や創業促進、高度人材の雇用の場の創出のため、盛岡発の医療福祉機器製造企業の成長を促し、これらの企業によるクラスターを形成します。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	現状値	H26目標値
市インキュベーション施設の稼働率 [%]	85.2 (H30)	88.8

（参考）

指標名	H26	H27	H28	H29	H30	H31 目標値
市インキュベーション施設の稼働率 [%]	75.9	77.2	77.7	88.8	85.2	75.9

### 【計画事業】

事業名	事業概要
創業支援事業 【①】	起業や創業を志す方を対象に、事業の立上げまでの手順、事業成功のための具体策などを学ぶ「起業家塾@もりおか」等を開催するとともに、起業の促進、雇用創出の発展を目的とし事業者に対する投資を行うため組織する「もりおか起業投資事業有限責任組合」に出资する。

盛岡市産学共同研究事業補助金【◎】	市内中小企業者が新技術の導入及び高度化を図るために大学等と実施する産学共同研究及び委託研究に要する経費に対し助成する。
市インキュベーション施設の管理運営事業【◎】	起業、新技術又は新製品の研究開発等を支援するため産業支援センター、産学官連携研究センター及び新事業創出支援センターの管理運営を行なう。
女性の起業・就労支援事業	起業など多様な働き方を支援するための講座や情報提供を実施する。また、子育てや介護などで一旦離職した方の再就職も含め、就職を目指す女性向けの講座や情報提供を実施する。
成長分野拠点形成支援事業	先進的な技術をもとに新事業を実施する盛岡発の医療福祉機器製造企業の成長を促す施策を実施し、これらの企業によるクラスターを盛岡市内に形成することで、研究開発型企業の誘致・創業促進、高度人材の雇用の場の創出、工業製品出荷額の増加による産業振興、地元人材定着、住民の健康増進を同時に実現することを目指す。
新産業等用地整備事業	盛岡市新産業等用地整備計画に基づき、成長が見込まれる医療分野を中心とした先端技術を有する企業の集積を図るとともに、产学官連携や企業間連携等による新技術・新製品等開発を行い、企業の高付加価値化を実現するための「ものづくり拠点」として産業等用地を整備する。これまでに整備に向けての埋蔵文化財調査や開発協議等を終え、インフラをはじめとする用地造成を本格的に進める。
道の駅設置事業	地域経済の振興や次代を担う人材育成など、将来にわたり持続可能な地域を創るためのステージとして、国道4号渋民バイパスに「道の駅」の早期整備を目指す。整備に当たっては、管理運営候補者の公募により民間の創意工夫を取り入れるほか、専門家の指導・助言による特産品の開発等を行うなど、地域の特色を生かし、さまざまな人が活躍できる道の駅を整備する。
工場新設拡充等事業	工場等新設拡充促進事業補助金等により、市の区域内における工場・事業所等の新設・拡充を奨励し、産業の振興と雇用の促進を図るとともに、企業誘致の推進を図る。
盛岡広域企業誘致推進事業【◎】	盛岡広域8市町の共同により、東京圏での企業立地セミナー、企業誘致先進自治体の首長等を招いての首長・担当者企業誘致研修会などを開催する。
国際リニアコライダー誘致推進事業	岩手県国際リニアコライダー推進協議会の加盟団体や、東北各市とも連携し、国際リニアコライダーの本県誘致に取り組むとともに、誘致決定後には工業を含めた地域振興への効果を研究するなど、各分野の施策の方向性を定める。また、誘致実現を見据えた国際化の推進に取り組む。

【◎】……「連携中枢都市圏ビジョン」に位置付けている事業

※国際リニアコライダー（ILC）……全長20kmを超える直線の地下トンネルの中に設置される直線形衝突型加速器で、トンネルの中央で電子と陽電子を衝突させる実験装置のこと。ILCの建設地として、「北上高地」が候補地の一つとして挙がっており、建設が実現すれば、国際的な都市機能の充実、施設建設に伴う関連産業の定着、研究成果を活用した産業の創設など、地域経済への多大な波及効果が期待できる。

※インキュベーション施設……新規事業の起業支援や、起業家やベンチャー等を自立の目途がつくまで支援する施設のこと。インキュベーションとは孵化（ふか）という本来の意味から転じた経済用語

## 戦略2 仕事の魅力の向上

- ⌚ 産学官連携、農商工連携等により、地域イノベーションの創出を支援し、産業の高付加価値化を図ります。
- ⌚ 地域を支える地場の企業が、その力を思う存分に發揮できるよう、抱える経営課題の解決を支援し、グローバル化した経済を生き抜くための経営力の強化を図ります。
- ⌚ 地域イノベーションを創出する地元企業の育成と経営力強化への支援を行います。
- ⌚ IT技術の活用、インバウンドやeコマースなどの企業の生産性を向上させる新たな成長分野への取組を支援します。
- ⌚ 事業承継に課題を抱える事業者に対し、商工会議所や商店街と連携を図りながら事業承継に向けた支援をします。
- ⌚ 食と農の連携をベースに農商工連携を図り、付加価値の高い新商品・サービス開発を促す支援をします。
- ⌚ 商業、農業、製造業、クリエイティブ産業、研究機関等と連携することにより、商品・サービスを市域外へ効果的に情報発信する取組を支援します。
- ⌚ 商店街やエリアの魅力向上を図るために、商店街が実施する事業への補助やエリアごとの情報交換や研修の実施に係る支援を行います。
- ⌚ 商店街組織が、商店街全体の公共性を高めながら魅力向上を図るため、地域コミュニティとの連携への取組を支援します。
- ⌚ 地域カードの活用により商店街やエリアの魅力向上に繋がる取組を支援します。
- ⌚ 南部鉄器、南部古代型染、紫根染めなどの伝統工芸品の販路開拓、後継者育成などの支援を行います。
- ⌚ 魅力ある盛岡産農畜産物の高付加価値化を図るとともに、食品加工産業やものづくり産業への支援、企業の誘致や異業種交流の促進などにより、1次産業や2次産業の成長を後押しできる環境を整備します。
- ⌚ 豊富な森林資源の活用を図ります。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	現状値	R6目標値
卸・小売の年間販売額〔億円〕	12,664 (H28)	11,800 <sup>*1</sup>
1企業あたりの商業サービス業の企業売上高〔千円〕	199,022 (H28)	185,175 <sup>*2</sup>
製造品出荷額等〔千万円〕	11,962 (H30)	11,017 <sup>*1</sup>

新規就農者数 [人] (累計)	150 (H30)	171※1
農業総生産額 [百万円]	9,439 (H30)	9,053※1

※ 1 … 総合計画実施計画目標値（総合計画策定時（平成 26（2014）年度）の当初値から人口動向や景況などの変動要素を考慮して 10 年間の長期予測を基に定めた目標値）

※ 2 … 商業ビジョン目標値（商業ビジョン策定時（平成 29（2017）年度）の当初値から人口動向や景況などの変動要素を考慮して 10 年間の長期予測を基に定めた目標値）

### （参考）

指標名	H26	H27	H28	H29	H30	H31 目標値
卸・小売の年間販売額 [億円]	10,724	—	12,664	—	—	11,300
1 企業あたりの商業サービス業の企業売上高 [千円]	185,175	—	199,022	—	—	185,175
製造品出荷額等 [千万円]	9,848	10,107	15,018	11,929	11,962	10,511
新規就農者数 [人] (累計)	89	97	111	126	150	—
農業総生産額 [百万円]	8,211	7,700	7,643	8,830	9,439	—

### 【計画事業】

事業名	事業概要
新規就農支援事業	新たな農業の担い手を確保するため、一定の要件を満たす新規就農者に対して農業次世代人材投資資金や親元就農給付金を交付する。
木材需要拡大推進事業	市産材を利用した住宅の新築・増改築や商業店舗の改装に対する支援、造林・製材・設計・建築関連の事業者間の連携の促進等により、市産材の利用拡大及び森林資源の循環利用を図る。
ものづくり産業魅力向上事業 【◎】	盛岡広域 8 市町と連携して、手仕事による工芸品の魅力向上を図るために、商品力の向上を図り、東京圏等の工芸品展示施設に出展する。出展に当たっては、専門知識を有する講師の招聘等により、効果的な出展方法等の事前研修を行う。また、盛岡地域で活動する工芸品事業者のネットワークを構築し、情報を盛岡手づくり村に集約する。

食と農のバリューアップ推進事業 (拡充)	「美食王国もりおか」の実現に向け、本市の食や農に対する関心・愛着の醸成と魅力発信、異業種による連携が促進される場作り、「盛岡産」が認知される流通体制の改善、6次産業化等を通じた特色ある商品等の開発などに取り組み、生産者の所得向上と食関連産業の活性化を図る。
盛岡の食材プロモーション事業	「盛岡の美味しいもんアンバサダー」の認定や、生産者と事業者との交流を促進する商談会、生産現場の視察ツアーの実施により、盛岡の特色ある農畜産物の魅力を発信し、地産地消の推進と地域経済の活性化を図る。
商店街等魅力強化支援事業	商店街等やエリアごとに開催される研修会に対して講師を派遣し、商店街等の魅力強化を図るほか、研修会で参加する企業に国・県が実施する各種支援策の活用を促し経営力の強化に繋げる。
森林経営管理事業	林業経営体との連携により、適正な経営管理が行われていない森林を経済ベースで活用するとともに、森林の有する公益的機能の高度発揮を図るために、手入れの遅れている森林の整備を行う。
森林適正管理推進事業	森林の適正な管理を推進するため、私有林における間伐等の保育作業、再造林及び間伐材の搬出に要する経費並びに間伐等に利用する作業道の開設・改良に対して補助を行う。
中小企業事業承継支援事業	企業訪問を通じて企業の実態を把握し、事業承継に関する各種制度の周知や岩手県事業引継ぎセンターを紹介するとともに、必要な助言を行うほか、事業者の事業承継に向けた取組みを推進するための働きかけを商店街や同業者組合、商工会議所などを通じて実施することにより、事業者自身が事業承継の必要性に気付き、早期に取り組む意識の醸成に繋げ、円滑な事業承継の促進を図る。
中小企業生産性向上支援事業	中小企業の生産性向上を図るIT導入等（ITによる効率化、eコマース対応など）に係る国の制度や相談窓口を分かりやすく紹介し、活用を促すセミナー等を開催する。また、生産性向上特別措置法施行後、市として「先端設備等の導入の促進に関する基本的な計画」を策定し、設備投資に係る課税標準の軽減を行う。
中小企業支援に係る金融機関との協定の締結	金融機関等と協定を締結することにより、中小企業のイノベーションや新事業の展開等を促し、企業の経営力の強化に結びつける包括的な支援を金融機関等と連携して実施する。
伝統産業振興事業	市内で製造されている国指定の伝統的工芸品である南部鉄器、秀衡塗、淨法寺塗及び岩谷堂筆筒をはじめとする市内の地場・伝統工芸の振興に向け、生産環境の改善、新製品の開発並びに伝統技術の継承及び後継者確保等を推進する。

#### 【計画期間内に実施を検討する事業】

まちなかリノベーション推進事業 (新規)	中心市街地エリアの価値創造、活性化を促すため、リノベーションまちづくりに関するセミナーなどを開催することにより、民間におけるリノベーションまちづくりに対する意識醸成を図るなどのほか、民間実施主体の事業実施や事業具体化の支援を行う。
-------------------------	---

地域経済活性化 推進事業 (新規)	中心市街地を始めとした市内の商業・サービス業の経営基盤を強化するため、個別の中小企業への直接的でワンストップな伴走型支援を行うほか、異業種交流の場を提供し、企業間の交流促進支援を行うことで、中小企業が自ら成長していく地域経済の環境を整備し、地域経済の持続的発展と中心市街地の活性化を図る。
IoT・ICT 導入支 援事業 (新規)	生産性向上を目的とした IoT・ICT の導入を希望する市内中小企業に対し、導入に向けてのアドバイザーを派遣し、導入を行った企業に対し費用の一部を補助する。

【◎】……「連携中枢都市圏ビジョン」に位置付けている事業

### 戦略③ ワーク・ライフ・バランスの推進

- ⌚ 仕事と子育ての両立を図るため、企業、国、県、関係団体と連携しながら、男女が共に「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の取れた生活を送ることができるよう取り組みます。
- ⌚ 男性の家事・育児への理解と参加を促進します。
- ⌚ ワーク・ライフ・バランスの人材養成講座の実施や、優良な取組に対する表彰制度等の導入など、民間企業等の意識づけや自主的な取組を促進します。
- ⌚ 職場環境の改善などにより、若者や女性が個々の事情に応じ多様な働き方を選択できる社会を実現するため、「働き方改革」の推進に取り組みます。

#### 【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	現状値	R6目標値
ワーク・ライフ・バランス推進事業参加企業数〔社〕	89 (H30)	197

（参考）

指標名	H26	H27	H28	H29	H30	H31 目標値
ワーク・ライフ・バランス推進事業参加企業数〔社〕	-	35	44	104	89	-

#### 【計画事業】

事業名	事業概要
ワーク・ライフ・バランス推進事業	民間企業の自主的な取組を推進するため、リーディング企業を育成するとともに、人材養成に係る講座等を開催するなど、ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業間のネットワーク作りを支援する。

#### 戦略4 地域経済を担う人材の育成・確保

- ⌚ 企業の継続的な成長を支え、高付加価値を生み出す人材の育成・確保を支援します。
- ⌚ 地元企業が人材を獲得するための採用力強化に向けた支援を行います。
- ⌚ 若者の地元定着のため、盛岡市域の商業・サービス業の事業所も含めた地元企業に関する理解を深める取組を実施することにより、地元企業の人材確保を支援します。
- ⌚ 新規学卒者を対象とした企業と就職希望者との面談会を開催するなど、企業情報の提供やカウンセリングなどを行い、地元企業への就職を促進します。
- ⌚ 地元の大学等との連携の下、学卒者の地元就職率の向上に向けた取組を強化します。
- ⌚ 企業が必要とする専門人材の確保、事業後継者の確保、起業者への支援など、地域経済を担う人材の確保及び育成を支援します。
- ⌚ 女性の就業・再就職や起業の支援のほか、就業継続支援を行うとともに、リーダー的地位を担う人材の育成を支援するなど、女性活躍の推進を促進します。
- ⌚ 女性、高齢者、障がい者、外国人など誰もが居場所と役割を持ち、能力を発揮して活躍できる環境の整備を推進し、地方創生を支える人材を育成します。

#### 【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	現状値	R6目標値
ジョブカフェいわての利用者数〔人〕	51,501 (H30)	55,000*1

\*1…総合計画実施計画目標値

#### （参考）

指標名	H26	H27	H28	H29	H30	H31 目標値
ジョブカフェいわての利用者数〔人〕	30,080	32,310	31,938	42,851	51,501	31,000

【計画事業】

事業名	事業概要
若者等地元定着強化支援事業【◎】	好調な雇用情勢を背景に、地元企業の人才確保が困難となっていることから、地元企業の採用力向上を目的とする研修を実施し、企業の人才確保を支援する。また、平成30年度まで地方創生推進交付金を活用して実施したU I ターン就職支援事業で得られた成果を盛岡広域圏内企業に波及させ、域内全体での人材確保力の向上を目指す。
高校生等地元就職フォローアップ事業【◎】	高校1～2年生の早期の時点から就業に向けた意識の醸成を図るために「モリオカシゴトカメラ」を発行・配布する。同マガジンを活用し、生徒一人ひとりが将来の就職を見据え、「何をやりたいか」「何に興味があるのか」等について考えるきっかけを与える、さらに業種・職種や地元企業を知る機会を提供する。
若年者雇用対策事業【◎】	就職を希望する市内の高校生を対象に、就業体験（インターンシップ）や研修を行い、就職活動に対する意識の啓発を促し、職業選択の幅を広げるなどの支援を行うほか、岩手県が設置する「ジョブカフェいわて」の運営業務に参画する。
ものづくり人材育成事業【◎】	盛岡広域のものづくり人材を育成し、地元定着を促進するため、盛岡広域振興局、広域市町村と連携し、学生を対象にものづくりをテーマとする出前講座や工場見学、セミナーを開催する。
盛岡テクノミュージアム設置事業	学生等を対象に企業情報を入手できる機会を増やすとともに、雇用の確保、地元定着を図るため、市内の工場等を盛岡テクノミュージアムに登録するほか、工場見学の受入体制整備や企業紹介スペースの設置に係る費用の一部を助成する。
移住・就労マッチング支援事業	東京圏への一極集中の是正及び地域の担い手不足に対応するため、東京圏から移住し移住支援金支給対象企業等へ就職した者や起業した者へ移住支援金を支給し、東京圏からの移住を後押しする。
中小企業人材育成支援事業	地域イノベーションの創出を促し、事業者の経営力を強化するため、盛岡市内の中小企業の役員・社員が受講する中小企業大学校等において開催する研修の受講料の一部を補助する。
誰もが活躍できる職場づくりの推進に向けた事業者への啓発と支援事業	誰もが活躍できる職場づくり（ダイバーシティ経営推進）のための意義の啓発や先進事例紹介、推進事業所の認定制度（くるみん・えるぼし等）に関する情報提供等を通じ、事業所の具体的な取組の後押しを行う。
経営者・管理職向けの多様な人材を活かすマネジメント支援事業（新規）	イクボスなど多様な人材を活かすマネジメントの実践を普及するため、経営者や管理職向けの講座や情報提供を行う。
林業労働対策事業	林業の担い手確保に繋げるために、事業所見学会の実施により、学生等に仕事としての林業の魅力を発信する。

働く女性向けの 人材育成事業 (新規)	働く女性向けの人材育成セミナーや、ロールモデルなどの情報提供、両立不安を解消するための事例紹介や育児休暇中に参加できる講座などを実施し、キャリアアップ支援や両立支援を行う。
女性活躍推進団 体間におけるネ ットワークの形 成 (新規)	女性活躍推進に関連した事業を展開する地域の教育機関、地域経済団体、NPO等が連携し、女性活躍推進のためのネットワークを形成し、働く女性向けのスキルアップ講座の共同開催や情報提供支援などを行い、地域全体で機運醸成を図る。

### 【計画期間内に実施を検討する事業】

事業名	事業概要
もりおかジョブ パーク事業 (新規)	市内の児童・生徒を対象に、市内に存在する職業を体験することにより、職業に関する知識を広げ、将来の職業選択の幅を広げようとするもの。また、地元企業人と児童・生徒との交流が図られることから、地元企業の魅力発信の場となり、将来の若者の地元定着に繋げる。
大学生インター ンシップ事業 (新規)	県外の大学生を対象に、市内の民間企業でのインターンシップを行つるために必要な経費（交通費、宿泊料）の一部を補助する。 市内企業でインターンシップを経験することにより、市内の企業の魅力に気付いてもらうほか、市内での暮らしを経験することにより、将来のU Iターンに繋げようとするもの。
上下水道工事業 者人材育成支援 事業	上下水道工事業者における技術者等の専門人材を育成し、工事業者的人材確保と受注力強化による経営持続を図るため、専門的な技能資格取得の講習会や研修の受講について支援する。
多様な主体の活 躍の推進に關す る調査研究 (新規)	女性、高齢者、障がい者、外国人など誰もが居場所と役割を持ち、その知識や経験を活かしながら能力を發揮して活躍するため、新しい働き方など環境の整備を推進するための調査研究を行う。

【◎】……「連携中枢都市圏ビジョン」に位置付けている事業

### ■関連する岩手県の主な取組■

- ・国際競争力が高く、地域の産業・雇用に好循環をもたらすものづくり産業の振興
- ・地域資源を生かした魅力ある産業の振興
- ・地域経済を支える中小企業の振興
- ・ライフスタイルに応じた新しい働き方を通じた一人ひとりの能力を發揮できる環境づくり
- ・生産性・市場性の高い産地づくり
- ・経営体の育成、新規就業者の確保・育成
- ・革新的な技術の開発と導入促進
- ・安定的な生産基盤づくり
- ・農林水産物の付加価値向上と販路の拡大

- ・農林漁村の振興
- ・科学・情報技術を活用できる基盤の強化
- ・多様な生き方が認められる男女共同参画社会の実現に向けた環境の整備
- ・女性の活躍支援
- ・地域に貢献する人材の育成
- ・高等教育機関と連携した地域づくり、人づくり
- ・国際研究・交流拠点地域形成戦略
- ・北上川流域産業・生活高度化戦略

みんなの手で未来をつくる結婚・子育て

## ■現状と課題■

- 1 平成26（2014）年から平成30（2018）年までの4年間で出生数、婚姻件数ともに減少していることから、結婚、出産の希望を実現するための支援を継続する必要があります。また、結婚・出産・子育てのライフステージにおいて、仕事と生活の調和を図ること（ワーク・ライフ・バランスの推進）や子育ての不安を軽減することなどニーズに応じた支援を引き続き推進する必要があります。
- 2 若者の結婚に対する願いが十分にかなえられていない状況にあり、出会いや結婚の支援が必要です。
- 3 待機児童や多様化する保育ニーズに対応するため、保育定員の拡大と多様な教育・保育サービスの提供体制を整備する必要があります。
- 4 安心して子育てをするために、子どもを連れていても気軽に外出できる安全で快適な生活環境を整備する必要があります。
- 5 子育てに不安を持つ保護者の相談や児童虐待に関する相談等が増加傾向にあることから、子育て支援サービスの一層の充実が求められています。
- 6 子どもたちが地域社会の中で、心豊かに健やかに育まれる環境づくりを推進するため、子どもたちの安心で安全な活動拠点づくりが求められています。
- 7 子育て家庭における子育て費用の経済的負担の軽減が求められています。
- 8 妊娠、出産、子育てが安心してできるよう、健康診査の充実が求められています。
- 9 夫の帰宅時間や育児参加の度合いは、妊娠・出産の意向に影響があると認められ、また、育児については、女性に多くの負担がかかっていることから、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進する必要があります。

## ■数値目標■

指標名	現状値	R6目標値
合計特殊出生率※（岩手県人口動態統計）	1.35 (H29)	1.45
出生数〔人〕	2,245 (H30)	2,184※ <sup>1</sup>
婚姻率※〔千人対〕（岩手県人口動態統計）	4.7 (H29)	4.7

※1…出生数が減少するなか、令和6（2024）年までに合計特殊出生率が1.45に改善し、加えて20-39歳までの社会増減がゼロになると仮定して算出した出生数の推計値

(参考)

指標名	H26	H27	H28	H29	H30	H31 目標値
合計特殊出生率（岩手県人口動態統計）	1.32	1.38	1.36	1.35	—	—
出生数〔人〕	2,476	2,401	2,379	2,289	2,245	2,476
婚姻率〔千人対〕（岩手県人口動態統計）	5.3	5.1	4.6	4.7	—	—

※合計特殊出生率……合計特殊出生率は15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、次の2つの種類があり、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。人口が少ない自治体等では、出生数の多少の変動でも合計特殊出生率が大きく変化することがあり、5年平均して把握する手法がとられることがある。

※婚姻率……人口千人あたりの婚姻件数。

## 戦略5 結婚の希望に応える支援

- ⌚ 結婚に向けたマッチングのための効果的な情報システムを県及び県内市町村と協力して運用します。
- ⌚ 男女の出会いの場を創出するため、結婚を取り持つ役割を担う人材を養成するとともに、ネットワークづくりやノウハウ、経験の共有に向けた支援を行います。また、結婚後の相談を担う人材の養成に取り組みます。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	現状値	R6目標値
いきいき岩手結婚サポートセンター※の成婚実績数〔組〕(各年)	23 (H30)	25

(参考)

指標名	H26	H27	H28	H29	H30	H31 目標値
いきいき岩手結婚サポートセンター※の成婚実績数〔組〕(各年)	-	0	10	25	23	-

### 【計画事業】

事業名	事業概要
いきいき岩手結婚サポートセンターの運営への参画	岩手県が設置する「いきいき岩手結婚サポートセンター」の運営に参画する。

※いきいき岩手結婚サポートセンター……結婚を希望する方々を支援するため、岩手県や県内市町村などが連携して設置。出会いの機会を提供することで、パートナー探しを支援する。通称『i-サポ』

## 戦略6 安心して子どもを産み育てられる環境整備

- ⌚ 本市の子ども・子育て支援の質・量の充実を図るため、第2期盛岡市子ども・子育て支援事業計画を着実に実施します。
- ⌚ 子育て世代が安心して働くことができるよう、延長保育や休日保育、病児・病後児保育など、多様な保育ニーズに対応した支援を行います。
- ⌚ 児童館や児童センター、放課後児童クラブなど、地域の拠点となる子どもの居場所づくりと環境整備を進めます。
- ⌚ 妊娠、出産、乳幼児期における切れ目のない健診を提供するなど、子どもが健やかに育つ環境の整備を進めます。
- ⌚ 育児不安や育児ストレスなどを抱えている家庭への適切な支援につなげるため、乳児家庭全戸訪問事業を充実します。
- ⌚ 子育て世代のワンストップの相談拠点である「子ども未来ステーション（子ども家庭総合支援センター、子育て世代包括支援センター）」、子育て応援拠点である「子育て応援プラザ」を運営します。
- ⌚ 保育料の軽減や医療費の助成など子育てに係る経済的負担を緩和することにより、子育てしやすい環境づくりに努めます。
- ⌚ 地域の子育てサロン活動など、地域における子ども・子育て支援を促進します。
- ⌚ 複式学級の解消などによる望ましい教育環境の確保や、いじめの未然防止など、子どもに安心して教育を受けさせるための環境の整備を進めます。
- ⌚ 子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、子どもの貧困対策を計画的・総合的に推進します。
- ⌚ 児童虐待の発生予防と早期発見、早期対応などを目的とし、子どもや保護者に寄り添い、訪問等による継続的な相談・支援を行う拠点を運営します。
- ⌚ 仕事と子育ての両立を図るため、企業、国、県、関係団体と連携しながら、男女が共に「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の取れた生活を送ることができるように取り組みます（再掲）。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	現状値	R6目標値
保育所待機児童数〔人〕 (各年度1月1日現在)	84 (H30)	0
市民アンケートで「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合〔%〕	19.9 (H30)	50.0 <sup>※1</sup>
市民アンケートで「子育てを楽しいと感じている」と答えた子どものいる親の割合〔%〕	74.2 (H30)	80.0 <sup>※1</sup>

子育て支援サービス利用者数〔人〕	81,586 (H30)	86,868 <sup>※1</sup>
------------------	-----------------	----------------------

※1・・・総合計画実施計画目標値

(参考)

指標名	H26	H27	H28	H29	H30	H31 目標値
保育所待機児童数〔人〕 (各年度1月1日現在)	259	285	218	180	84	0
市民アンケートで「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合〔%〕	15.5	13.3	15.2	16.0	19.9	40.0
市民アンケートで「子育てを楽しいと感じている」と答えた子どものいる親の割合〔%〕	78.8	71.9	74.0	70.0	74.2	75.0
子育て支援サービス利用者数〔人〕	69,276	76,691	80,233	79,779	81,586	74,000

【計画事業】

事業名	事業概要
待機児童解消強化事業	定員の弾力化に積極的に取り組む保育所へ補助を実施することなどにより待機児童解消に取り組む。
私立児童福祉施設等整備助成事業	保育所や認定こども園、地域型保育事業施設の新設や改修等に対する補助を行い、待機児童の解消に向けて入所定員の拡大・維持を図る。
企業主導型保育事業の推進	企業、商店街等に企業主導型保育事業の導入を働きかけ、女性が働き続けることができる環境づくりを推進する。
私立児童福祉施設等運営事業	認可された私立の保育所、母子生活支援施設及び助産施設に、保育・保護に要する運営費を委託料として支出する。
保育所管理運営事業	子どもが良好に保育され、保護者の負担感などの緩和を図りながら子育てができるように、公立保育所を適正に管理運営する。
特別保育事業	保護者の就労環境の多様化などに対応した保育サービスとして、延長保育、一時預かり、休日保育、発達支援児保育を行う。

地域児童クラブ運営事業	保護者が、労働等により昼間家庭にいない小学生に対して、授業の終了後に適切な遊び及び生活の場を与える地域児童クラブの運営を委託する。 また、令和2年度から、低所得世帯等を対象に、保育料の補助を行う。
放課後児童健全育成事業実施施設整備補助事業	「盛岡市放課後児童健全育成事業の設備及び運営の基準を定める条例」に基づき、条例の基準を満たすための施設整備に係る補助を行う。
児童館管理運営事業	子どもに健全な遊びを提供して、その心身の健康を増進し情操を豊かにすることを目的として、児童館の管理運営を行う。
児童館整備事業	「児童の放課後の居場所づくりに関する方針」に基づき、児童館の整備を進めるとともに、児童が安全かつ快適に活動できるように、施設の修繕や工事を実施する。
医療費給付事業 (妊産婦、乳幼児、小学生、中学生) (拡充)	妊産婦や乳幼児等に対して、安心して医療が受けられるように、医療費を助成する。 令和元年8月から、乳幼児医療費給付事業の無償化及び小学生医療費給付事業の現物給付化を開始した。 令和2年8月から、中学生医療費給付事業の現物給付化を開始する。
母子保健事業	母体の健康管理と安全・安心な出産に向けて、妊婦健康診査と母親教室を実施する。
産婦健康診査事業	産後2週間、産後1か月などの出産間もない時期の産婦健康診査を実施し、産婦の母体の回復を診るだけでなく、授乳状況及びうつ傾向等精神状態を把握することにより、早期に産後ケア等の支援に繋げ、産後うつ及び新生児虐待の予防を図る。
産後ケア事業	家族等から十分な家事及び育児等の援助を受けられない産婦や、心身の不調や育児不安が強い産婦に対して、助産師等が家庭訪問等により、保健指導、授乳指導、心理的ケアや育児に関する指導、療養上の世話等きめ細やかな支援を行う。
乳幼児健康診査事業	病気や心身の発育・発達状態、育児環境などの問題点を早期に発見して、適切な子育ての支援・指導を図るために、乳幼児の健康診査を行う。
小児救急輪番制病院事業【◎】	休日、夜間などにおける入院治療を必要とする小児の重症救急患者の医療を確保するために、輪番制で診療にあたる4病院を支援し、うち3病院に対して運営費を補助する。
新生児聴覚検査事業	新生児期において、先天性の聴覚障害の発見を目的として実施する新生児聴覚検査の費用を、5,000円を上限に助成することにより、保護者の経済的な負担を軽減する。
地域における子育てサロン支援事業	民生児童委員が地域において実施する子育てサロンに対し、新生児世帯に対する「子育てサロン意識等調査」を実施することを通じて、民生児童委員の活動を支援し、社会的なつながりの薄い0~2歳の乳幼児が属する世帯と、地域とのつながりを作り出す。

地域子育て支援センター事業	子育てに対する保護者の身体的、精神的負担を解消するため、育児のノウハウを有する保育園をはじめ関係機関が連携して、電話・来所による子育て相談などの子育て支援事業を総合的に実施する。(8団で実施)
つどいの広場管理運営事業	子育て中の親子を対象に、商店街等に、気軽に訪れてもらい交流できる場を開設する。また、子育てや育児についての相談や、子育て情報の提供、講習を行うなど、子育てに対する不安や負担の解消を図る。
赤ちゃんの駅設置事業	授乳及びオムツ替えができる店舗や市の施設等を「赤ちゃんの駅DAKKO(だっこ)」として指定し、赤ちゃん連れでも気軽に安心して外出できる場所の情報提供を行う。
乳児家庭全戸訪問等事業	生後4か月までの乳児のいるすべての家庭を訪問し、子育て支援に関する情報提供及び養育環境等の把握を行う。乳児家庭と地域社会が接する機会となり当該家庭の孤立化を防ぐ。
公民館による子育て関連講座	乳幼児を持つ保護者を対象とした親子で楽しめる遊びや食育に関する講座などを開催するとともに、育児サークルの立ち上げを支援する。
空き家バンク制度の普及	空き家等の有効活用を通して、子育て世代の住み替えによる住環境の改善を図る。
子どもに安心して教育を受けさせるための取組	複式学級の解消を図るための盛岡市小中学校適正配置基本計画の取組や、「盛岡市いじめ問題対策連絡協議会」の開催など保護者、学校関係者、関係機関等と連携した「いじめ未然防止」の取組を図る。
子育て世代包括支援センター事業	保健師等の専門職が、妊娠・出産・子育てに関する相談・支援を行う「子育て世代包括支援センター」を運営する。
子どもの貧困対策推進事業	「第2期盛岡市子どもの未来応援プラン」に基づき、子どもの貧困対策を計画的・総合的に推進する。
子ども家庭総合支援センター事業	子どもや保護者に寄り添い、訪問等による継続的な相談・支援を行う拠点を設置し、児童虐待の発生予防と早期発見、早期対応を行う。
養育支援訪問(家事援助)事業	要保護、要支援家庭のうち、食事や衛生状態に課題を抱える世帯に、家事援助サービスを提供することにより、家庭環境の改善を図るとともに、家事援助を実施するヘルパーの見守りにより、児童虐待の発生予防と早期発見の一助とする。
子育て支援員等研修事業	小規模保育、家庭的保育等の事業に従事する人材を確保するため、必要な知識や技能等を修得するための家庭的保育者等研修又は子育て支援員研修を実施する。

認定こども園等運営費給付事業	認定こども園や小規模保育事業施設等に対し、保育に要する運営費の一部を負担金として支出する。
子育て応援プラザ運営事業	室内遊び場やイベントスペース、託児機能付きオフィスを備えた子育て応援施設を公民連携により運営する。
子ども未来基金事業	子ども未来基金を活用して、市民・企業等が行う子ども・子育て支援の取組に要する経費を補助する。
保育士確保対策事業	市内の私立保育所等で働く保育士の確保を図るため、保育士奨学金返還支援補助事業、保育士宿舎借上げ支援事業及び若手保育士待遇改善支援事業を実施する。
子育て世帯支援型賃貸住宅改修事業	既存住宅等を改修し子育て世帯専用の賃貸住宅とする民間事業者等に対して、改修に要する費用の一部を補助する。
不妊に悩む方への特定治療支援事業	医療保険が適用されない特定不妊治療（体外受精、顕微授精）及び男性不妊治療を受けた夫婦を対象に治療費の一部を助成する。 市の独自事業として治療を継続して受ける夫婦に対し、治療費の一部を上乗せ助成する。
予防接種事業	集団生活を送る子どものインフルエンザの重症化及び感染拡大の防止、子育て世代の負担軽減を図るため、0歳から中学生を対象として予防接種料金の一部を助成する。
就学援助事業	経済的理由等により就学が困難な児童生徒の保護者に、義務教育に必要な費用の一部（学校給食費等）を援助しているが、そのうち、新入学予定者に対する学用品・通学用品に係る費用の入学前支給及び中学校クラブ活動費の支給を、令和2年度も引き続き実施する。
保育所等副食費助成事業（新規）	幼児教育・保育の無償化に伴い実費徴収となった3歳から5歳児の副食費について、年収550万円未満相当世帯まで上限の範囲で助成する。
第2子以降の保育料の無償化事業（拡充）	年収550万円未満相当世帯の0歳から2歳児の保育料を、第2子以降無償化し、経済的負担を軽減する。

【◎】…「連携中枢都市圏ビジョン」に位置付けている事業

#### ■関連する岩手県の主な取組■

- ・結婚・家庭・子育てに希望を持てる環境づくり
- ・仕事と生活を両立できる環境づくり
- ・安心して子どもを育てられる環境づくり
- ・学校と家庭、住民の協働による子供の育ちと学びの支援

## 情報と交流で増やす盛岡ファン

## ■現状と課題■

- 1 人口減少が進む中で、交流人口を増加させることが課題であることから、引き続きスポーツ・ツーリズムの推進や外国人観光客などの誘致などを推進するほか、盛岡ファン・コミュニティの活動を支援するなど、関係人口の増加を基軸としながら、交流人口が移住・定住につながる仕組みづくりを推進する必要があります。また、U I ターンの希望を叶えるため、その支援に取り組むほか、盛岡への愛着の形成や魅力の発信により、関係人口の増加や移住・定住を促進する必要があります。
- 2 特產品や観光イベントなど個々のブランドの全国的な知名度は向上していますが、市外、特に東京圏に対する情報発信を十分に行う必要があります。
- 3 旅行ニーズや旅行情報の取得手段が多様化する中で、多くの観光客に選ばれるよう、ターゲットを意識した効果的な情報発信や祭り・イベントの充実などの取組が必要です。また、教育旅行などで盛岡を訪れた方に再訪していただけるような仕組みづくりが必要です。
- 4 東日本大震災で落ち込んだ外国人観光客入込数は回復し、今後更なる増加が期待されることから、積極的な海外プロモーション活動を行うとともに、外国人観光客の受入環境の整備や日本文化などを体験できる仕組みづくりが必要です。
- 5 東京圏等在住者の中には、地方への移住・定住の意向がある者がいるものの情報不足等が指摘されていることから、本市の魅力や特性を生かした移住・定住施策の推進や情報発信が求められています。
- 6 市域内において、新たに開発が進められた地域への人口集積が進んだ一方で、減少している地域も多く、空き家が増加していることから、移住・定住促進の観点も含めて、空き家の利活用を図る必要があります。

## ■数値目標■

指標名	現状値	R6目標値
20歳から39歳までの人口移動数〔人〕	△395 (H30)	0
観光客入込数〔万人回〕	508 (H30)	530 <sup>※1</sup>

※1 …総合計画実施計画目標値

(参考)

指標名	H26	H27	H28	H29	H30	H31 目標値
20歳から39歳までの人口移動数〔人〕	△107	△315	△521	△427	△395	0
観光客入込数〔万人回〕	497	509	500	500	508	500

## 戦略7 関係人口・交流人口の増加

- ⌚ 盛岡の魅力を多くの人に知ってもらえるよう、ホームページやSNS※など、多様な手段による発信を強化するとともに、より多くの人に盛岡を訪れてもらえるよう、祭り・イベントの充実や誘客宣伝・特産品PRなどを積極的に展開します。
- ⌚ 若者文化活動への支援や、スポーツのあるまちづくりなどを通じて、若者が活躍し、若者をひきつけるまちづくりを推進します。
- ⌚ 盛岡の歴史、文化、まち並みなど地域資源を活用した観光地域づくりやMICE（マイス）※誘致、広域連携による滞在型・周遊型観光を推進します。
- ⌚ 観光案内版の多言語表記やWi-Fi※スポットの整備など、受入環境の整備を図るとともに、海外に向けたプロモーションや外国人が伝統芸能などを気軽に体験できる仕組みづくりを推進します。
- ⌚ 盛岡ファン・コミュニティの活動を支援するなど、関係人口※の増加を機軸としながら、交流人口が移住・定住につながる仕組みづくりを推進します。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	現状値	R6目標値
宿泊観光客数〔万人回〕	99 (H30)	115※ <sup>1</sup>
外国人観光客入込数〔万人回〕	5.0 (H30)	15.0※ <sup>1</sup>
ふるさと納税寄付人数〔人〕	1,797 (H30)	4,500

※1…盛岡市観光推進計画目標値

### （参考）

指標名	H26	H27	H28	H29	H30	H31 目標値
宿泊観光客数〔万人回〕	98	97	98	93	99	110
外国人観光客入込数〔万人回〕	1.0	1.4	2.4	3.4	5.0	4.5
ふるさと納税寄付人数〔人〕	36	42	2,585	2,061	1,797	-

**【計画事業】**

事業名	事業概要
シティプロモーションの推進 (アウタープロモーション)	盛岡の認知度や関心度、愛着の向上を目的として、盛岡市の魅力を市外へ発信するアウタープロモーションについて、訴求力が高い情報発信を専門人材を活用しながら推進する。
スポーツ・ツーリズム※の推進（スポーツツーリズム）【◎】 (拡充)	東京 2020 オリンピック・パラリンピックのホストタウンとしてラグビーカナダ、水球カナダの事前キャンプを受入れが決定しており、クライミングカナダや柔道マリ共和国代表の受入れも準備しているほか、フルマラソンの「いわて盛岡シティマラソン」の開催を通じて交流人口の増加を図る。 また、地域おこし協力隊を配置しながら、県や広域市町と連携して取り組む。
盛岡芸妓育成事業	盛岡の伝統芸能を継承する盛岡芸妓を育成して観光資源として活用し、観光客向けの芸能披露機会の創出や体験メニュー事業と連携することにより、観光客の旅行満足度を高め、盛岡観光のリピーターやファンづくりを推進し、観光の振興を図る。
外国人観光客誘致推進事業【◎】	ターゲットエリアとする台湾及びタイを含む外国人の誘客を図るために、観光施設等に Wi-Fi 設備の導入を進め、SSID を統一して ONE 認証化を図る無料 Wi-Fi スポット整備や、現地観光プロモーション活動の展開、デジタルマーケティングによる情報発信の強化を行う。
教育旅行誘致推進事業【◎】	教育旅行向けの自主研修做策用マップを作成し、更なる誘致を推進するとともに、民間団体による歓迎イベントの活性化を図る。
開運橋魅力向上事業	観光ハイシーズンや中心市街地で開催される各種イベントに合わせて、盛岡駅と中心市街地を結ぶ盛岡のランドマーク・開運橋をライトアップすることにより、夕方から夜にかけての市内観光の魅力を高めるとともに、ライトアップに合わせた賑わいの創出など PR イベント等を実施する。
観光プロモーション事業	盛岡の観光・物産・祭り・文化などの魅力を総合的に発信し、知名度アップを図るとともに、より多くの人に盛岡を訪れてもらえるよう、東京圏などで PR イベントを開催する。
祭り・イベント振興事業	伝統的な祭り行事や観光イベントなどの更なる充実と魅力向上を図るとともに、観光客の誘致と観光交流の促進に向けて、祭り・イベントの開催や PR 活動の支援を行う。
M I C E 誘致推進事業【◎】	観光や経済への波及効果が大きい全国規模の会議や学会、国際会議や大規模見本市・商談会などの M I C E (マイス) の開催助成や支援により、M I C E の誘致活動を促進する。
広域観光推進事業【◎】	エリアの観光推進に向けて、市町の枠を越えた広域的な取組とともに、盛岡市をはじめとする 12 市町の枠組みによる盛岡・八幡平広域観光圏の整備を推進する。

いしがきミュージックフェスティバル実行委員会への参画	いしがきミュージックフェスティバル実行委員会が実施する同事業に、負担金等により参画する。
ふるさと納税制度の普及	自分が生まれ育った「ふるさと」を応援したい、「ふるさと」に貢献したいという想いを形にする仕組みである「ふるさと納税」制度の普及を図る。
大型観光キャンペーン事業	「いわて観光キャンペーン」や「東北ディスティネーションキャンペーン（令和3年4～9月）」などの誘客宣伝活動に参加し、観光客の誘致促進を図る。また、令和2年度に山形市で開催される「東北絆まつり」に盛岡さんさ踊りを派遣し、交流人口の増加と東北の活性化を図る
総合交流ターミナル機能拡充事業	交流人口の拡大と地域資源の活用を目的に、総合交流ターミナル施設を再整備するほか、地域おこし協力隊の配置や、地域資源を活用した施策等と連動させることで、若者をターゲットとした都市との交流の拠点化や地場産品による6次産業化など地域経済循環促進の拠点化を推進する。
盛岡ファン・コミュニティの活動支援	主として本市外において、本市の特産品や祭りなどの普及・愛好等の活動を行っているファン・コミュニティの活動に対する補助を行うなどの支援をする。 また、東京圏などで盛岡に関連するお店や場所のリスト作成など、盛岡との関係性を築きやすい環境整備を進め、盛岡ファン・コミュニティの裾野を広げながら、関係人口の増加を図るとともに、関係人口をつなぐ新たな仕組みづくりについて調査研究を行う。
サクラパーク姫神を拠点とした桜の名所づくり	企業版ふるさと納税を活用して、1万本のオオヤマザクラを植樹した日戸地区の桜の新名所・サクラパーク姫神について、道路案内標識の整備やリーフレットの作成を行うほか、イベントを開催するなど、市民への周知や観光客の誘致を図る。
盛岡地区かわまちづくり事業	川を中心とした観光振興や地域活性化を図るため、国や市民団体と連携し、かつて盛んだった北上川の舟運を復活させ、歴史ある街並を活用した観光ルートづくりと合わせ、街に賑わいを創出する。
小学生農村体験交流事業	東京都文京区との友好都市提携を契機として、市民レベルの交流促進と関係人口の増加に寄与することを目的に、文京区の小学生を招き、本市の特色を生かした農村体験交流事業を実施する。

### 【計画期間内に実施を検討する事業】

事業名	事業概要
若者をひきつける都市の調査・研究 (新規)	若者文化活動への支援や、スポーツのあるまちづくりなどを通じた、若者が活躍し、若者をひきつける都市の姿について調査・研究を行います。

【◎】……「連携中枢都市圏ビジョン」に位置付けている事業

※SNS……インターネット上の交流を通して社会的ネットワーク（ソーシャル・ネットワーク）を構築するサービスのこと。Social Networking Serviceの略

※M I C E (マイス) ……：企業の会議・研修や報奨旅行、国際会議や学会・大会、展示会・イベントの総称のこと。

Meeting, Incentive tour, Convention/Conference, Exhibition/Event の略。

※Wi-Fi ……無線ネットワーク規格のこと。外国人観光客の間では、無料の公衆 Wi-Fi スポットのニーズが高いとされる。

※関係人口……その地域に居住していないものの、出身者や勤務経験者であるなど、その地域との継続的な関わりがある人を捉えるもので、定住人口と交流人口の間となる概念。

※スポーツ・ツーリズム……スポーツを通じた交流人口の拡大のほか賑わいの創出や地域振興に結びつく取組全般。例えば、プロスポーツなどの観戦やスポーツイベントへの参加、スポーツ合宿などを主目的に、開催地周辺の観光を組み合せた旅行形態。

## 戦略8 地元への愛着の形成、移住・定住の促進

- ⌚ 本市へのU I ターンの掘り起こしを行うため、関係人口という考え方を機軸に、東京圏における移住・定住を促進するためのプロモーション活動や相談活動を強化します。
- ⌚ 本市へのU I ターンの意向を持つ人などを対象とした情報発信及び相談体制を強化するとともに、本市におけるU I ターンの受け皿を整備します。
- ⌚ 「地域おこし協力隊」\*を積極的に活用し、多様な視点による地域の活性化に取り組みます。
- ⌚ 将来、本市の社会経済活動を担い、地方創生を推進する若者の愛郷心を醸成する機会を増やします。

### 【重要業績評価指標（K P I）】

指標名	現状値	R6目標値
U I ターン相談件数〔件〕	164 (H30)	300
移住支援金を活用して移住した件数〔件〕 (各年)	0 (H30)	11

(参考)

指標名	H26	H27	H28	H29	H30	H31 目標値
U I ターン相談件数〔件〕	4	8	8	65	164	120

### 【計画事業】

事業名	事業概要
地域おこし協力隊活用事業【⑥】	地域振興に資するため、地域のニーズや求められるテーマについて、「地域おこし協力隊」を積極的に活用し、多様な視点を生かした地域の活性化に取り組む。また、隊員の円滑な活動を支援するため、情報・ノウハウ共有と、隊員のフォローアップやスキルアップの仕組みを構築する。
官民連携による移住・交流を促進するための拠点の整備	移住・交流を促進するため、民間団体等と連携して、既存の施設等のネットワークにより形成される交流拠点の形成を支援する。

お試し居住事業	本市への移住・定住の意向がある者などを対象に交流拠点などを活用し、ボランティア活動やワーキングホリディを組み合わせながら、盛岡の日常の暮らしや仕事を体験する機会を創出する。 また、インターンシップ、起業支援、事業承継など就労や起業の機会と結びつけることや、テレワークやCCRCを視野に入れたアプローチなどを検討しながら、移住を意識した居住体験を支援する取組を行う。
移住・定住の促進に係るプロモーション	移住・定住を促進するための特設のホームページを運営するとともに、SNSを活用した情報発信を行うほか、デジタルマーケティングの実施により関連事業の効果的な実施を図る。 また、上記と連動したPR冊子などのプロモーションツールを作成するとともに、大手雑誌などの広告媒体を活用したプロモーションのほか、民間団体等と連携し、東京圏等でのイベント開催や大型移住イベントへの出展や東京事務所を活用した移住相談の強化などを行う。
盛岡広域移住・定住促進事業【◎】	東京圏等からの盛岡広域圏へのU Iターンを促進するため、盛岡広域の暮らしに関する情報などについてインターネットや紙媒体で発信する。
定住化対策空き家利用促進事業	市外からの転入者が空き家を活用する場合、空き家のリフォーム費用を補助することにより、空き家の減少と人口増加を図る。
シティプロモーションの推進 (インナープロモーション)	盛岡の認知度や関心度、愛着の向上を目的として、盛岡市民が盛岡市の魅力を発掘して能動的に情報拡散を行うインナープロモーションなど、訴求力が高い情報発信を専門人材を活用しながら推進する。
移住・就労マッチング支援事業(再掲)	東京圏への一極集中の是正及び地域の担い手不足に対応するため、東京圏から移住し移住支援金支給対象企業等へ就職した者や起業した者へ移住支援金を支給し、東京圏からの移住を後押しする。
高校生等を中心とした地域課題解決・愛郷心の形成 (新規)	地域への若者の参画が求められる中で、高校生等が自分の住む地域課題の発見や解決、地域企業を知ることなどを通じて地域との関わりを持つことで、若者の愛郷心の醸成を図る。

### 【計画期間内に実施を検討する事業】

事業名	事業概要
2 地域居住等促進事業	本市と東京圏等において、2地域居住を行っている人や東京圏等から一定回数以上本市を訪問している人に対して、移動に掛かる経費の一部を補助する。

【◎】……「連携中枢都市圏ビジョン」に位置付けている事業

※地域おこし協力隊……都市地域から過疎地域等の条件不利地域に生活の拠点を移した者を、地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱。隊員は、一定期間、地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組のこと。

## 戦略⑨ 都市機能の強化

- ⌚ 都市再生、Society5.0など未来技術の社会実装、地域中核企業等の成長促進などに係る調査研究を行うことで、中枢中核都市としての機能強化の推進を図ります。
- ⌚ 国連の持続可能な開発目標であるSDGsについて、地方創生に資する取組に関する調査研究を行うことで、地方創生とSDGsの推進を図ります。
- ⌚ 連携中枢都市圏の市町の結節点となる中心市として、地域全体を俯瞰した地域交通網や交流拠点の整備を推進します。
- ⌚ 人口が減少する中で、コンパクト・プラス・ネットワーク※により、様々な機能やサービスを維持するとともに、にぎわいと活力を生み出し、交流人口や関係人口、移住者を増加させるため、都市機能の充実を促進します。

### 【重要業績評価指標（KPI）】

指標名	現状値	R6目標値
1日あたりのバス・鉄道利用者数〔人〕	75,827 (H30)	74,600※ <sup>1</sup>
宿泊観光客数〔万人回〕(再掲)	99 (H30)	115

※1・・・総合計画実施計画目標値（総合計画策定期（平成26年度）の当初値71,962人から人口動向や景況などの変動要素を考慮して10年間の長期予測を基に定めた目標値）

### (参考)

指標名	H26	H27	H28	H29	H30	H31 目標値
1日あたりのバス・鉄道利用者数〔人〕	71,785	75,829	75,191	75,309	75,827	—
宿泊観光客数〔万人回〕(再掲)	98	97	98	93	99	110

### 【計画事業】

事業名	事業概要
中枢中核都市機能の強化に係る調査研究	中枢中核都市としての機能強化に向けて、本市における地域特性を活かした国際競争力の図るために都市再生、Society5.0など未来技術の社会実装、対日直接投資促進のための国際ビジネス環境の整備、地域中核企業等の成長促進、住宅団地の再生などに係る調査研究を行う。

地方創生 S D G s 推進に係る調査研究	本市における地域特性を活かした地方創生 S D G s の推進を図るために、地方創生プラットフォームに参画しながら情報収集を行うとともに、取組方針を定めるための調査研究を行う。
動物公園再生事業 (新規)	動物展示の更新及び新たなサービスを創出することで、魅力ある動物公園を目指し、観光客の誘致を図るとともに、自立した運営と行財政負担の軽減を実現する。
スポーツ・ツーリズム※の推進(施設整備)【◎】 (拡充)	盛岡南公園内の球技場にJリーグのスタジアム基準を満たす照明設備の整備によるプロスポーツ観戦、同公園内に新たに整備する野球場、多目的に利用できる屋内練習場の整備を通じてスポーツ大会や国内合宿の誘致に取り組むとともに、交流人口の増加を図る。

### 【計画期間内に実施を検討する事業】

事業名	事業概要
地域公共交通サービス向上支援事業	I Cカードの導入やバスロケーションシステムの更新に要する経費への補助、新技術の導入などを検討し、利用しやすい公共交通サービスの提供を支援する。
都市機能の強化に関する調査研究 (新規)	働く場としての都市空間の魅力を高めるため、都心におけるウォーカブルなまちづくり※に向けて取り組む。

### 【◎】……「連携中枢都市圏ビジョン」に位置付けている事業

※コンパクト・プラス・ネットワーク……人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市において、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めること。

※ウォーカブルなまちづくり……内外の多様な人材・関係人口の出会い・交流を通じたイノベーションの創出や人間中心の豊かな生活を実現する都市を構築するため、官民のパブリック空間をウォーカブルな人を中心の空間へ転換し、民間投資と共鳴しながら「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を形成すること。

### ■関連する岩手県の主な取組■

- ・ 地域経済に好循環をもたらす観光産業の振興
- ・ 岩手で暮らす魅力の発信と移住・定住の促進
- ・ 安心して移住し活躍できる環境の整備
- ・ 快適で豊かな暮らしを支える生活環境づくり
- ・ 地域の暮らしを支える公共交通の確保
- ・ つながりや活力を感じられる地域コミュニティの維持・確保
- ・ 地球温暖化防止に向けた低炭素社会の形成の推進
- ・ 文化芸術の振興と、生涯を通じたスポーツを楽しむ機会の充実

- ・若者の活躍支援
- ・いつでも、どこでも岩手につながることができる環境の整備
- ・観光振興による交流人口の拡大
- ・文化芸術・スポーツを生かした地域づくり
- ・多文化共生の地域づくり

総合戦略の進行管理及び総合調整は、市の内部組織として設置している「盛岡市人口対策本部」（本部長：市長）において行う。

また、重要業績評価指標（KPI）の検証及び検証結果を踏まえた総合戦略の見直しを行うため、住民・産学金労言等の有識者からなる盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を設置する。

## 基本方針 若者をひきつけ躍動するまち盛岡

### 基本目標 01 若者・女性をひきつけるしごと創造

KPI  
の検証  
進行管理  
総合調整

#### チャレンジと連携によるしごとづくり

- 就職を希望する高校3年生のうち県内就職を希望する者の割合 [%]  
67.6 → 70.0
- 大学卒業生の地元就職率 [%] 44 → 55
- 盛岡公共職業安定所管内の就職率（新規学卒者を除く）[%]  
38.3 → 42.5
- 雇用保険適用事業所数〔社〕 8,426 → 8,700

- 戦略1 多様な仕事の創出
- 戦略2 仕事の魅力の向上
- 戦略3 ワーク・ライフ・バランスの推進
- 戦略4 地域経済を担う人材の育成・確保

盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

### 基本目標 02 切れ目のない結婚・出産・子育て支援

盛岡市人口対策本部

#### チャレンジと連携によるしごとづくり

- 合計特殊出生率 1.35 → 1.45
- 出生数〔人〕 2,245 → 2,184
- 婚姻率〔千人対〕 4.7 → 4.7

- 戦略5 結婚の希望に応える支援
- 戦略6 安心して子どもを産み育てられる環境整備

### 基本目標 03 跳動する中核都市としての魅力・求心力の向上

#### 情報と交流で増やす盛岡ファン

- 20歳から39歳までの人口移動数〔人〕 △395 → 0
- 観光客入込数〔万人回〕 508 → 530

- 戦略7 関係人口・交流人口の増加
- 戦略8 地元への愛着の形成、移住・定住の促進
- 戦略9 都市機能の強化

外部有識者 内部組織

#### 基本姿勢

- 強みを生かした優れたプロジェクトの推進と情報発信
- 広域連携の推進による活力ある社会経済の維持
- 市民協働による、まち・ひと・しごとの創生
- Society5.0、SDGs等の取組の推進
- PDCAのマネジメントサイクルによる進行管理

## 【数値目標及びKPI一覧】

基本目標	指標名	単位	現状値	R06目標値
若者・女性をひきつけるしごと創造	数値目標	盛岡公共就業安定所管内の就職を希望する高校3年生のうち県内就職を希望する者の割合	%	67.6 (H30)
		大学卒業生の地元就職率	%	44 (H30)
		盛岡公共就業安定所管内の就職率(新規学卒者を除く)	%	38.3 (H30)
		盛岡公共就業安定所管内の雇用保険適用事業所数	社	8,426 (H30)
	KPI(戦略1)	市インキュベーション施設の稼働率	%	85.2 (H30)
	KPI(戦略2)	卸・小売の年間販売額	億円	12,664 (H28)
		1企業あたりの商業サービス業の企業売上高	千円	199,022 (H28)
		製造品出荷額等	千万円	11,962 (H30)
		新規就農者数	人	150 (H30)
		農業総生産額	百万円	9,439 (H30)
	KPI(戦略3)	ワーク・ライフ・バランス推進事業参加者企業数	社	89 (H30)
	KPI(戦略4)	ジョブカフェいわての利用者数	人	51,501 (H30)
切れ目のない子育て支援・出産・出産・子育て支援	数値目標	合計特殊出生率		1.35 (H29)
		出生数	人	2,245 (H30)
		婚姻率	千人対	4.7 (H29)
	KPI(戦略5)	いきいき岩手結婚サポートセンターの成婚実績数	組	23 (H30)
	KPI(戦略6)	保育所待機児童数 (各年度1月1日現在)	人	84 (H30)
		市民アンケートで「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合	%	19.9 (H30)
		市民アンケートで「子育てを楽しいと感じている」と答えた子どものいる親の割合	%	74.2 (H30)
		子育て支援サービス利用者数	人	81,586 (H30)
	数値目標	20歳から39歳までの人口移動数	人	△395 (H30)
		観光客入込数	万人回	508 (H30)
		宿泊観光客数	万人回	99 (H30)
運動する中核都市としての 魅力・求心力の向上	KPI(戦略7)	外国人観光客入込数	万人回	5.0 (H30)
		ふるさと納税寄付人数	件	1,797 (H30)
		Uターン相談件数	件	164 (H30)
	KPI(戦略8)	移住支援金を活用して移住した件数	件	0 (H30)
		1日あたりのバス・鉄道利用者数	人	75,827 (H30)
	KPI(戦略9)	宿泊観光客数	万人回	99 (H30)

## 【計画事業等とSDGsの関連性】

本戦略では、SDGsの理念や17の持続可能な開発目標を踏まえ、地方創生をSDGsの推進につなげていきます。

戦略	事業番号	事業名	17のゴール																
			1 貧困をなくそう	2 飲食を安全に	3 すべての人に健康と福祉を	4 環の扱いを改善をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 困きないも経済成長も	9 産業と技術革新の基礎をつくろう	10 人々の不平をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任	13 貧困対策に資本をつなぐ	14 地の固かさを守ろう	15 地の豊かさを守ろう	16 可能と公正をすべての人に	17 パーナーシップで目標を達成しよう
1	1	成長分野拠点形成支援事業				○ ○				○ ○ ○ ○ ○ ○									
1	2	盛岡市産学共同研究事業補助金【◎】				○ ○				○ ○ ○ ○ ○ ○									
1	3	市インキュベーション施設の管理運営事業【◎】				○				○ ○ ○ ○ ○ ○									
1	4	女性の起業・就労支援事業				○ ○				○ ○ ○ ○ ○ ○									○
1	5	成長分野拠点形成支援事業				○ ○				○ ○ ○ ○ ○ ○									
1	6	新産業等用地整備事業								○ ○ ○ ○ ○ ○									○
1	7	道の駅設置事業				○ ○ ○ ○ ○ ○				○ ○ ○ ○ ○ ○									○
1	8	工場新設拡充等事業								○ ○ ○ ○ ○ ○									
1	9	盛岡広域企業誘致推進事業【◎】								○ ○ ○ ○ ○ ○									
1	10	国際リニアコライダー誘致推進事業				○				○ ○ ○ ○ ○ ○									○
2	1	新規就農支援事業	○		○					○ ○ ○ ○ ○ ○									○
2	2	木材需要拡大推進事業					○	○			○ ○ ○ ○ ○ ○								○
2	3	ものづくり産業魅力向上事業【◎】				○ ○				○ ○ ○ ○ ○ ○									○
2	4	食と農のバリューアップ推進事業	○	○						○ ○ ○ ○ ○ ○						○ ○			○
2	5	盛岡の食材プロモーション事業									○ ○ ○ ○ ○ ○					○ ○			○
2	6	商店街等魅力強化支援事業				○ ○				○ ○ ○ ○ ○ ○									○
2	7	森林経営管理事業				○ ○ ○				○ ○ ○ ○ ○ ○					○ ○ ○ ○ ○ ○				
2	8	森林適正管理推進事業				○ ○ ○				○ ○ ○ ○ ○ ○					○ ○ ○ ○ ○ ○				
2	9	中小企業事業承継支援事業				○ ○				○ ○ ○ ○ ○ ○									○
2	10	中小企業生産性向上支援事業				○ ○				○ ○ ○ ○ ○ ○									
2	11	中小企業支援に係る金融機関との協定の締結				○ ○				○ ○ ○ ○ ○ ○									○
2	12	伝統産業振興事業				○ ○				○ ○ ○ ○ ○ ○					○ ○ ○ ○ ○ ○				○
2	13	まちなかリノベーション推進事業								○ ○ ○ ○ ○ ○					○ ○ ○ ○ ○ ○				○
2	14	地域経済活性化推進事業								○ ○ ○ ○ ○ ○									○
2	15	IoT・ICT導入支援事業								○ ○ ○ ○ ○ ○									○
3	1	ワーク・ライフ・バランス推進事業	○	○	○	○				○ ○ ○ ○ ○ ○							○ ○		

戦略	事業番号	事業名	17のゴール															
			1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等と安全な環境をつくる	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 穏やかがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基礎をつくろう	10 人や国の不平等をなくす	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任	13 気候変動に対応する	14 環の豊かさを守ろう	15 緑の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に
4	1	若者等地元定着強化支援事業【◎】				○			○ ○			○						○
4	2	高校生等地元就職フォローアップ事業【◎】			○ ○				○ ○ ○ ○ ○ ○								○	
4	3	若年者雇用対策事業			○ ○				○ ○ ○ ○ ○ ○								○	
4	4	ものづくり人材育成事業【◎】			○ ○				○ ○ ○ ○ ○ ○								○	
4	5	盛岡テクノミュージアム設置事業			○				○			○ ○						
4	6	移住・就労マッチング支援事業								○ ○		○ ○						
4	7	中小企業人材育成支援事業			○ ○				○ ○ ○ ○ ○ ○									
4	8	誰もが活躍できる職場づくりの推進に向けた事業者への啓発と支援事業			○ ○				○ ○ ○ ○ ○ ○							○ ○		
4	9	経営者・管理職向けの多様な人材を活かすマネジメント支援事業	○		○ ○ ○				○ ○ ○ ○ ○ ○							○ ○		
4	10	林業労働対策事業				○ ○ ○			○ ○ ○ ○ ○ ○				○ ○			○ ○		
4	11	働く女性向けの人材育成事業	○			○ ○			○			○ ○					○	
4	12	女性活躍推進団体間ににおけるネットワークの形成	○			○ ○			○			○ ○					○	
4	13	もりおかジョブパーク事業			○				○			○ ○					○	
4	14	大学生インターンシップ事業			○				○			○ ○						
4	15	上下水道工事業者人材育成支援事業			○ ○	○	○	○	○			○ ○						
4	16	多様な主体の活躍の推進に関する調査研究 いきいき岩手結婚サポートセンターの運営への参画			○ ○ ○				○ ○ ○ ○ ○ ○							○ ○		
5	1	待機児童解消強化事業			○ ○ ○				○			○ ○						
6	1	私立児童福祉施設等整備助成事業			○ ○ ○				○			○ ○ ○						
6	3	企業主導型保育事業の推進			○ ○ ○				○			○ ○ ○						
6	4	私立児童福祉施設等運営事業			○ ○ ○				○			○ ○ ○						
6	5	保育所管理運営事業			○ ○ ○				○			○ ○ ○						
6	6	特別保育事業			○ ○ ○				○			○ ○ ○						
6	7	地域児童クラブ運営事業			○ ○							○						

事業番号	事業名	17のゴール															
		1 住民をつなぐ 社会をつなぐ	2 人口を増やす 資源を増やす	3 すべての人に健康と福祉を つくりだす	4 はのびる教育をみんなに つくる	5 シェンター平等を実現し つくる	6 安全な水とトイレをつくる	7 ハーネリーをみんなにモニタリング	8 給水をはじめる	9 運営と評議会の協働をつくる	10 人々の不平をたんぱくする	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる住まいの開拓	13 住田おなじみの開拓	14 周囲をつなぐ	15 地の固さをやさう	16 平和と公明をめぐらせる人材
6 8	放課後児童健全育成事業実施施設整備補助事業			O O							O						
6 9	児童館管理運営事業			O O							O						
6 10	児童館整備事業			O O							O						
6 11	医療費給付事業（妊娠婦、乳幼児、小学生、中学生）	O	O								O O						O
6 12	母子保健事業	O	O	O							O O						O
6 13	産婦健診検査事業	O	O	O							O O						O
6 14	産後ケア事業	O	O	O							O O						O
6 15	乳幼児健康検査事業	O	O	O							O O						O
6 16	小児救急輸送体制事業【◎】	O	O								O						O
6 17	新生児聴覚検査事業	O	O								O O						O
6 18	地域における子育てサロン支援事業	O	O O O								O O						
6 19	地域子育て支援センター事業			O O							O						
6 20	つどいの広場管理運営事業			O O							O						
6 21	赤ちゃんの駅設置事業		O								O						O
6 22	乳児家庭全戸訪問等事業	O	O O O								O O						O
6 23	公民館による子育て関連講座	O	O O O O								O O						O
6 24	空き家バンク制度の普及	O	O O								O O O						
6 25	子どもに安心して教育を受けさせるための取組	O	O O O O O								O O						O
6 26	子育て世代包括支援センター事業	O	O O O O O								O O						O
6 27	子どもの貧困対策推進事業	O	O O O O O								O O						O
6 28	子ども家庭総合支援センター事業	O	O O O O								O						O
6 29	保育支援訪問（家事援助）事業	O	O O								O						
6 30	子育て支援員等研修事業			O O O					O		O O O						
6 31	認定こども園等運営費給付事業			O O O				O		O	O O O						
6 32	子育て応援プラザ運営事業	O	O								O						
6 33	子ども未来基金事業	O	O O O								O						O
6 34	保育土確保対策事業			O O O				O		O	O O						
6 35	子育て世帯支援型賃貸住宅改修事業	O	O O					O		O O O							O
6 36	不妊に悩む方への特定治療支援事業	O	O O	O							O O						
6 37	予防接種事業	O	O								O O						O
6 38	就学援助事業	O	O O								O O						O
6 39	保育所寄附食費助成事業			O O O				O		O	O O						
6 40	第2子以降の保育料無償化事業			O O O				O		O	O O						

事業番号	事業名	17のゴール															
		1 貧困をなくそう	2 即戻せ口座	3 すべての人に健闘と福祉を	4 国の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 経済がいち経済成長も	8 ハネルギーをみんなにそしてクリーン	9 産業と技術革新の基礎をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任	13 気候変動に対応的な政策を	14 渔の豊かさを守ろう	15 地の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に
7 1	シティプロモーションの推進（アウタープロモーション）								○		○						
7 2	スポーツ・ツーリズムの推進（スポーツ・ツーリズム）【◎】				○				○		○						
7 3	盛岡芸妓育成事業					○			○		○		○	○			
7 4	外国人観光客誘致推進事業【◎】					○			○	○	○	○	○	○		○	
7 5	教育旅行誘致推進事業【◎】			○ ○				○ ○			○ ○						
7 6	開運橋魅力向上事業			○			○									○	
7 7	観光プロモーション事業				○							○ ○				○	
7 8	祭り・イベント振興事業				○							○ ○				○	
7 9	MICE誘致推進事業【◎】				○				○		○					○	
7 10	広域観光推進事業【◎】							○ ○			○ ○					○	
7 11	いしがきミュージックフェスティバル実行委員会への参画							○									
7 12	ふるさと納税制度の普及								○ ○ ○ ○ ○							○	
7 13	大型観光キャンペーン事業							○ ○			○ ○					○	
7 14	総合交流ターミナル機能拡充事業								○		○ ○						
7 15	盛岡ファン・コミュニティの活動支援								○		○ ○					○	
7 16	サクラパーク姫神を拠点とした桜の名所づくり								○		○ ○				○		
7 17	盛岡地区かわまちづくり事業								○ ○		○ ○		○ ○	○ ○			
7 18	小学生農村体験交流事業				○							○					
8 1	地域おこし協力隊活用事業【◎】					○				○ ○		○					
8 2	官民連携による移住・交流を促進するための拠点の整備								○ ○		○						
8 3	お試し居住事業			○					○ ○		○						
8 4	移住・定住の促進に係るプロモーション								○ ○		○					○	
8 5	盛岡広域移住・定住促進事業【◎】								○ ○		○					○	

戦略	事業番号	事業名	17のゴール														
			1 貧困をなくす	2 飢餓をゼロに	3 すべての人と地球上の不平等をなくす	4 気候変動に対応する	5 水と衛生を確保する	6 安価な水とトイレをみんなに	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいのある社会をつくる	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくす	11 住み続けられる都市を開拓する	12 つくるより守る	13 気候変動に弱い生物多様性を保護する	14 海の豊かさを守りうる	15 陸の豊かさを守りうる
8	6	定住化対策空き家利用促進事業								○	○		○	○			
8	7	シティプロモーションの推進（インナープロモーション）									○		○	○			
8	8	移住・就労マッチング支援事業（再帰）								○	○		○	○			
8	9	高校生等を中心とした地域課題解決・愛郷心の形成	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○
8	10	2地域居住等促進事業								○	○		○				
9	1	中核中核都市機能の強化に係る調査研究								○	○		○	○			
9	2	地方創生SDGs推進に係る調査研究	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	3	動物公園再生事業				○				○	○		○	○		○	
9	4	スポーツ・ツーリズムの推進（施設整備）（◎）			○				○			○					
9	5	地域公共交通サービス向上支援事業	○		○	○				○	○	○	○	○			○
9	6	都市機能の強化に関する調査研究				○				○	○	○	○	○			○

---

発行日 令和2年3月 日  
発 行 盛岡市  
編 集 盛岡市市長公室企画調整課都市戦略室  
電 話 019-613-8370(直通) FAX 019-622-6211  
E-mail [toshisen@city.morioka.iwate.jp](mailto:toshisen@city.morioka.iwate.jp)

---